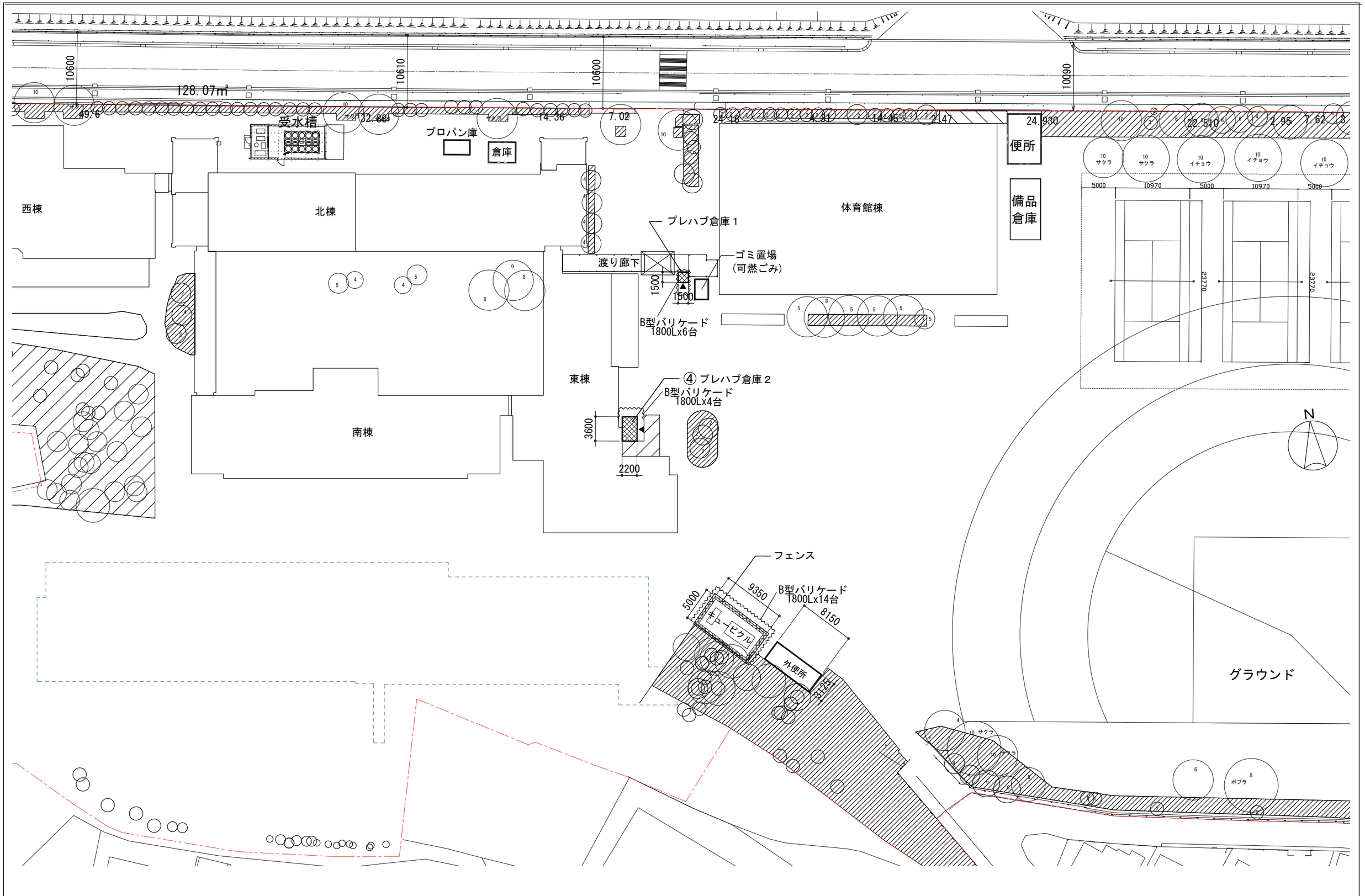
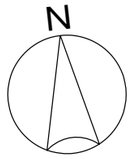
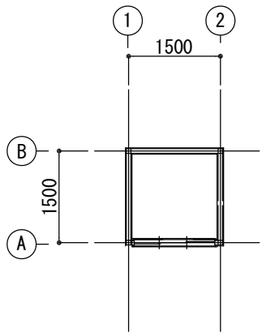


株式会社 大建設計 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和	図面名	撤去配置、部分仮設図(付属建屋)	縮尺 1/400(A1) 1/800(A3)	TA-001
	設備設計一級建築士(第 297190号) 鈴木 光春	船橋市建設局建築部建築課		令和7年度	(136/224)

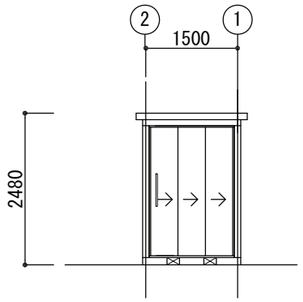
プレハブ倉庫1（撤去）



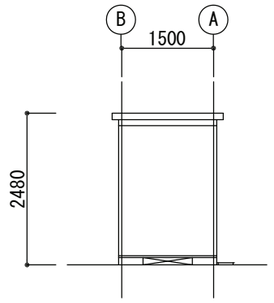
	構造・仕上・仕様
構造	軽量鉄骨造
屋根	溶融亜鉛めっき鋼板　t=0.5
外壁	溶融亜鉛めっき鋼板　t=0.7
	粉体塗装
床	溶融亜鉛めっき鋼板　t=1.0
壁	（溶融亜鉛めっき鋼板）
天井	（溶融亜鉛めっき鋼板）
	断熱材：発砲ポリエチレンｔ＝5.0
備考	ヨドコウ物置
	基礎：CB150　C種



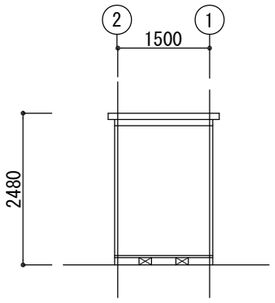
平面図



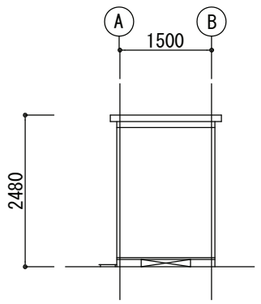
南側立面図



西側立面図

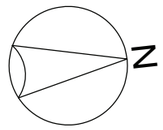


北側立面図

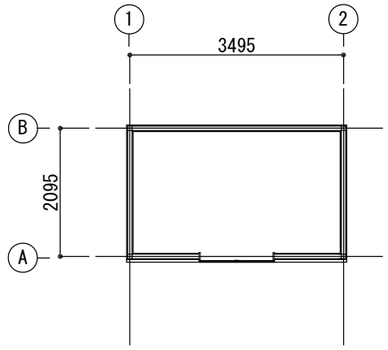


東側立面図

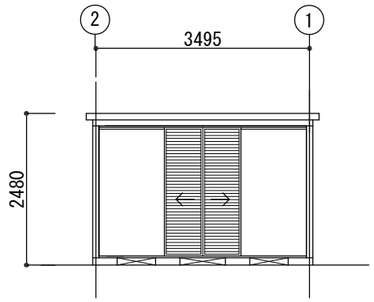
プレハブ倉庫2（撤去）



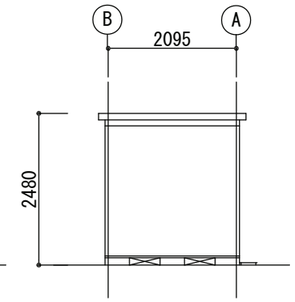
	構造・仕上・仕様
構造	軽量鉄骨造
屋根	溶融亜鉛めっき鋼板　t=0.5
外壁	溶融亜鉛めっき鋼板　t=0.7
	粉体塗装
床	溶融亜鉛めっき鋼板　t=1.0
壁	（溶融亜鉛めっき鋼板）
天井	（溶融亜鉛めっき鋼板）
	断熱材：発砲ポリエチレンｔ＝5.0
備考	ヨドコウ物置
	基礎：CB150　C種



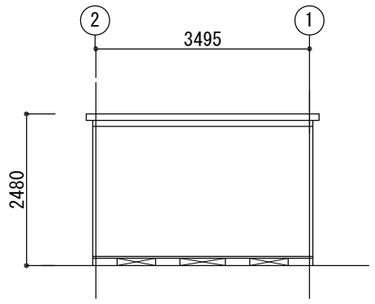
平面図



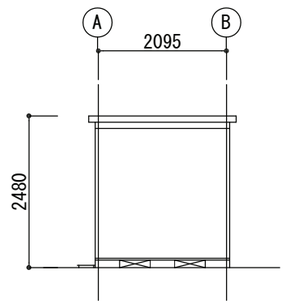
南側立面図



西側立面図



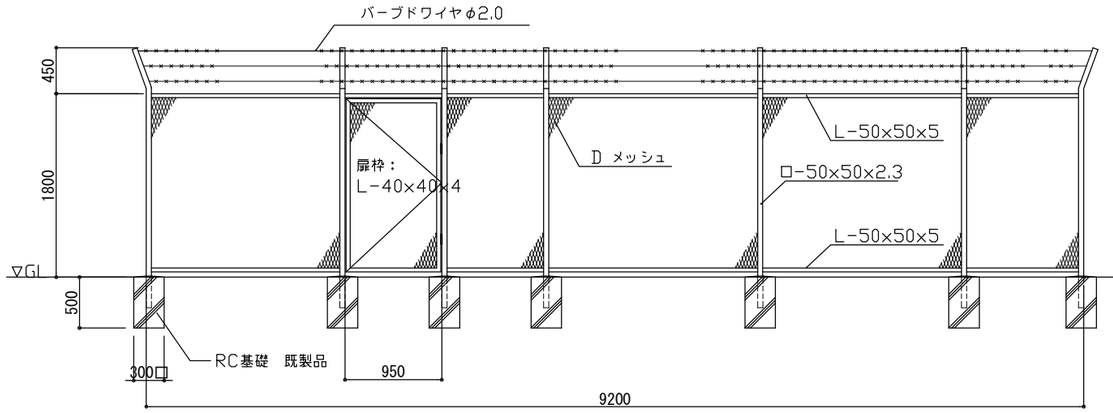
北側立面図



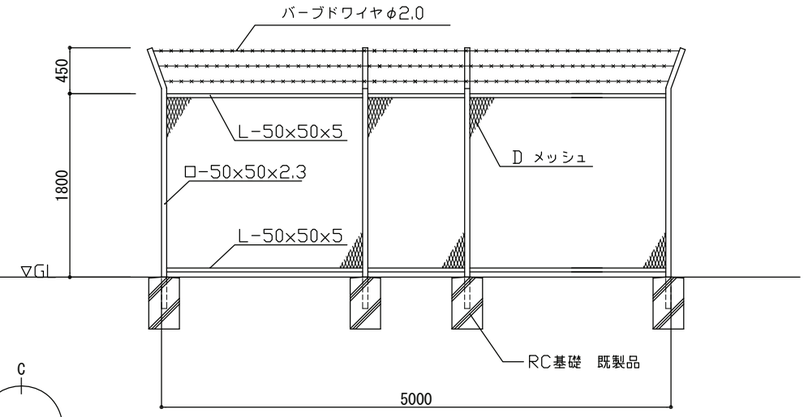
東側立面図

株式会社 大建設計 技にこころを 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘 構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和 設備設計一級建築士（第 297190号）　鈴木　光春	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
		図面名	プレハブ倉庫 撤去図	縮尺 1/50(A1) 1/100(A3)	TA-002
		船橋市建設局建築部建築課		令和7年度	(137/224)

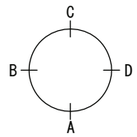
キュービクルフェンス撤去図

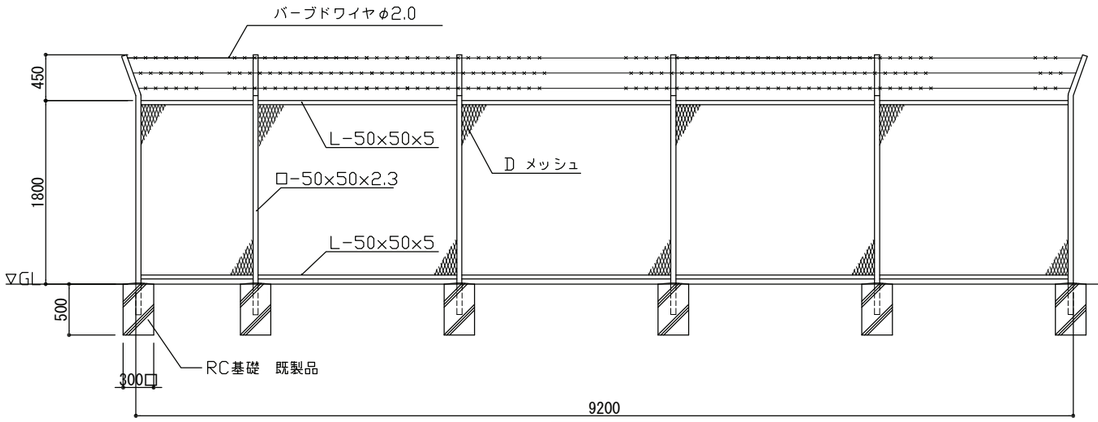


A面 立面図

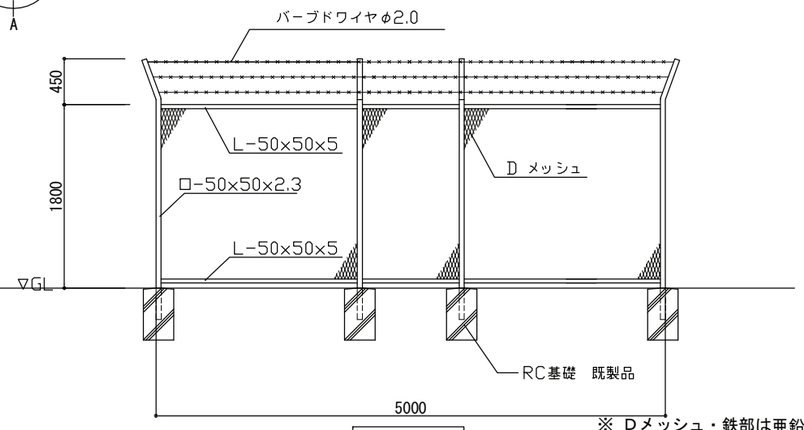


B面 立面図





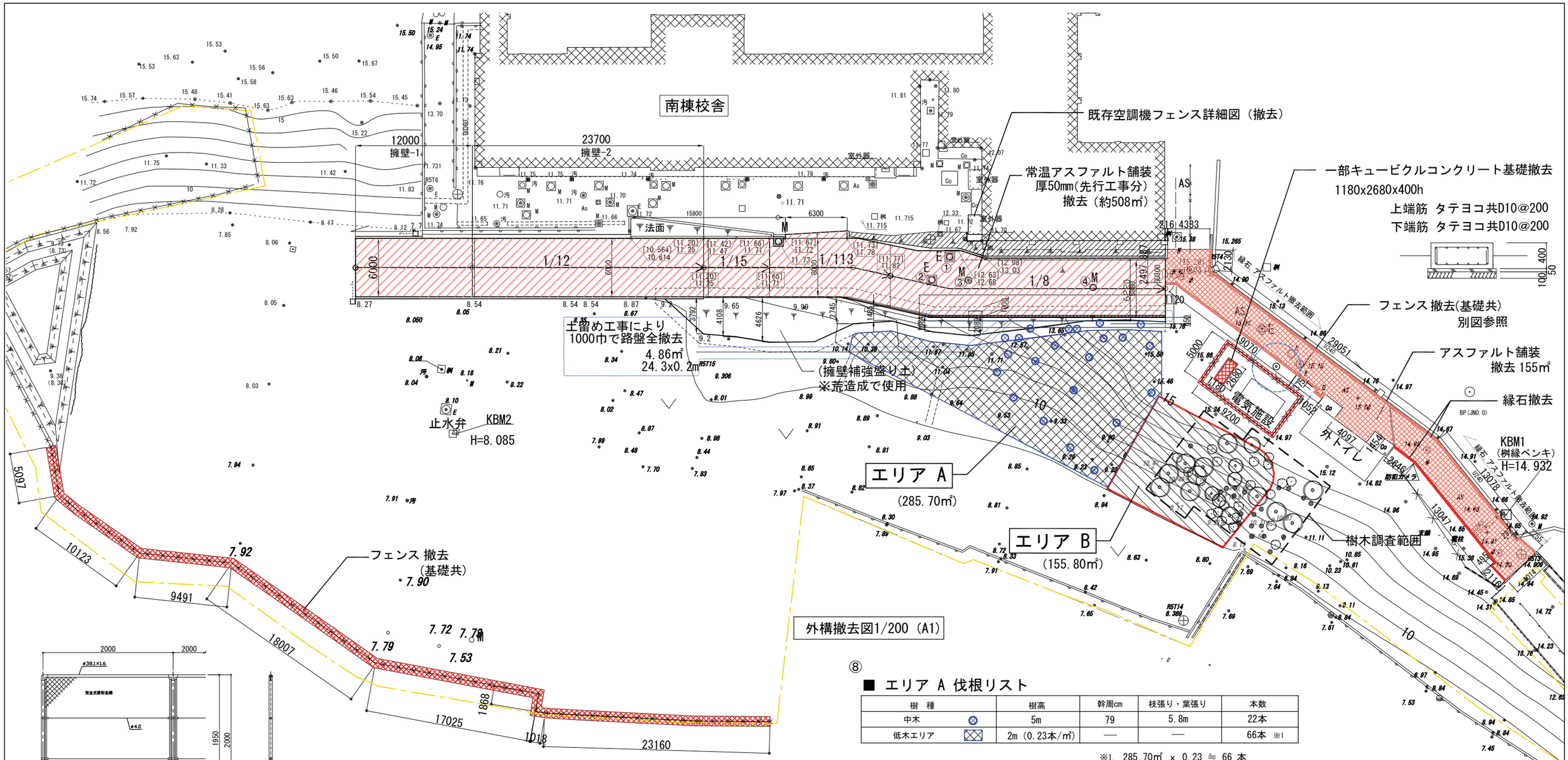
C面 立面図

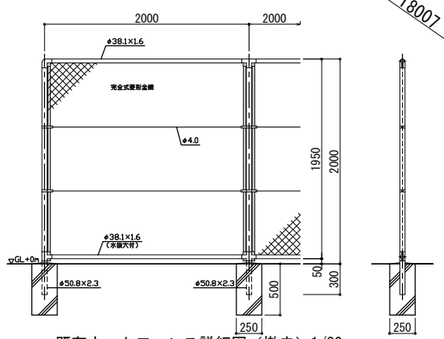


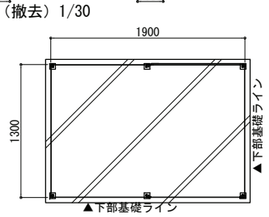
D面 立面図

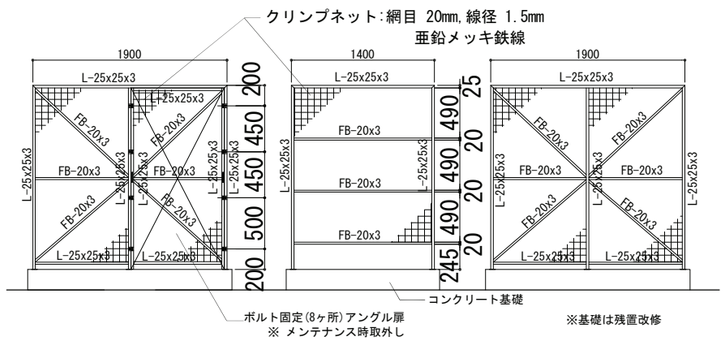
※ Dメッシュ・鉄部は亜鉛めっきの上高耐候性樹脂粉体塗装、ボルト・ナットは溶融亜鉛めっきの上防錆着色処理

技にこころを 株式会社 大建設計 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和	図面名	キュービクルフェンス撤去図	縮尺 1/50(A1) 1/100(A3)	TA-003
	設備設計一級建築士（第 297190号）　鈴木　光春		船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(138/224)









既存空調機フェンス詳細図（撤去）1/30（A1）

⑧

■ エリア A 伐根リスト

樹 種		樹高	幹周cm	枝張り・葉張り	本数
中木	⊗	5m	79	5.8m	22本
低木エリア	⊠	2m（0.23本/㎡）	—	—	66本 ※1

※1. 285.70㎡ x 0.23 ≒ 66 本

■ エリア B 伐採・伐根リスト

記 号	樹 種	大きさ	調査エリア本数（破線内範囲）		推定本数（ハッチ範囲）
⊙	景観木	高さ 7m以上かつ幹周0.4m以上	17本	⇒	18本 ※2
⊙	高木	高さ 3～5m	20本	⇒	21本 ※2
⊘	低木	高さ 1m以下	20本	⇒	21本 ※2
				×1.04	

：伐採・伐根エリア （155.80㎡）

：現地調査範囲 （150.00㎡）

上記表の樹木本数は現地調査エリア(150㎡:破線範囲)の景観木・高木・低木の数量より

ハッチ範囲(155.80㎡)内樹木本数を密度を同等と考え、面積比率から推定した。

155.80 / 150.00 = 1.03866 → 1.04（面積比率）

※2. 調査エリア本数に上記面積比率を掛けた数値を算出、端数切り上げとする。

〈 凡例 〉

：撤去範囲を示す。

株式会社 大建設計 東京事務所 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号 一級建築士登録 第274708号 山岡 信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事	図面番号
	図面名	新校舎棟建設用地外構撤去図 / 縮尺 図示	TA-004
	船橋市建築局建築部建築課	令和7年度	(139/224)

エレベーター仕様要項

分類	０１号機　　階段棟（建物番号①－１）
基本仕様	仕様項目
	設置場所：階段棟（鉄骨造、新設）
	機種形名：機械室レスエレベーター（トランクルーム付）
	用途：人荷用（人主体）
	制御方式：可変電圧可変周波数制御（回生なし）
	操作方式：乗合全自動方式
	積載量：７５０ｋｇ
	定員：１１名
	定格速度：６０ｍ／ｍｉｎ
	戸閉方式：２枚戸両引き
	出入口幅　ＪＪ：８００ｍｍ
	出入口高さ　ＨＨ：２１００ｍｍ
	かご室サイズ（内法間口　ＡＡ）：１４００ｍｍ
	かご室サイズ（内法奥行　ＢＢ）：１３５０ｍｍ
	かご室内法高さ：２３００ｍｍ
	出入口方式：一方向出入口
	正面側停止数：４停止（１－４階）
	背面側停止数：０停止（階）
	動力用電源：ＡＣ３φ－２００Ｖ－５０Ｈｚ
	照明用電源：ＡＣ１φ－１００Ｖ－５０Ｈｚ
その他基本仕様	耐震設計施工指針耐震クラス：クラスＳ１４
	引掛り防止対策：あり
	かご室トランク：トランクあり
	敷居間隔：１０ｍｍ
	車いす仕様：制御機能付
	視覚障がい者対応仕様：あり
	地震時管制運転方式：Ｐ波＋Ｓ波センサ付３段設定（普通級）
	停電時自動着床装置（ＭＥＬＤ）：あり
	かご呼び取消機能：あり
乗場仕様	乗場三方枠：大枠末広幕板なし　１３０ｍｍ～３５０ｍｍ ステンレスヘアライン（１－４階）
	乗場戸：ステンレスヘアライン（１－４階）
	乗場敷居：ステンレス製（１－４階）
	乗場インジケーター：一体セグメントＬＥＤ（橙色） ステンレスヘアライン（１－４階）
	乗場インジー体形ボタン：ステンレスクリックボタン （φ３３・凸文字・黄橙色ＬＥＤ） 抗ウイルス・抗菌コート（１－４階）
	乗場インジ運行表示灯１：休止表示
	車いす専用乗場ボタンプレート：一般用乗場ボタン一体形 ステンレスヘアライン（１－４階）
	車いす専用乗場ボタン：ステンレスクリックボタン （φ３３・凸文字・黄橙色ＬＥＤ） 抗ウイルス・抗菌コート（１－４階）
	乗場休止スイッチ：あり
	乗場休止スイッチ取付位置：乗場インジ組込

かご室仕様	天井	ＣＬ１：フラット（白色） 天井面材：鋼板塗装（メーカー標準色）
	正面壁	化粧鋼板
	側面壁	化粧鋼板
	袖壁材質	ステンレスヘアライン
	出入口上板	化粧鋼板
	かご室戸	化粧鋼板
	巾木	ステンレスヘアライン
	かご床	アルミ縞鋼板３ｍｍ　エレベーター工事
	かご室敷居	ステンレス製　２枚戸両引き用
	かご操作盤タイプ	袖壁操作盤
	かご操作盤フェースプレート材質	ステンレスヘアライン
	かごボタン	ステンレスクリックボタン （φ３３・凸文字・黄橙色ＬＥＤ） 抗ウイルス・抗菌コート
	インターホンボタン乱用防止カバー	あり
	正操作盤インジケータータイプ	かご内液晶インジケーター（１０．１インチ）
	かご操作盤液晶インジケーター表示言語	平常時（日英）、注意喚起（日英／中韓切替） 緊急時（日英中韓）
	車いす専用かご操作盤	両側面　ステンレスヘアライン
	車いす専用正かご操作盤インジケータータイプ	ドットＬＥＤ（橙色）
	車いす専用かごボタン	ステンレスクリックボタン （φ３３・凸文字・黄橙色ＬＥＤ） 抗ウイルス・抗菌コート
	車いす専用インターホンボタン乱用防止カバー	あり
	かご室換気	ヘルスエアー （空気中のウイルス・菌の抑制、脱臭、集塵機能）
	かご室手すり	丸形ステンレス　二面取付（両側面）
	かご室鏡	ステンレス鏡面枠なし３分割 （５７０ｍｍ×１４００ｍｍ）
	キックプレート	板厚２．０ステンレスヘアライン（ビスなし） 高さ：特殊　床面より１５００ｍｍ
	壁保護幕	Ｔ字カット磁石式 （保護幕高さ標準：床面より上端まで１８９５ｍｍ）
	床保護マット	あり
その他仕様	工事使用	可能（契約条件に含む：使用期間１ヶ月以内）
	気配りドアセンサ	あり
	セーフティシュー	片側（マルチビームドアセンサー付き）
	センシングドアシステム（ＴＯＦセンサ）	自動戸閉促進・乗場前検知挟まれ防止
	遮煙機能	ディフェンスドア　２枚戸両引き用（１－４階） 認定番号：ＣＡＳ－０５１９
	点字名板取付方法	接着
	インターホン呼び出しボタン応答灯 （聴覚障がい者対応仕様）	あり
	おもり非常止め	なし
	火災時管制運転方式	火報信号連動式
	冠水時管制運転	あり
	インターホン型式	２４Ｖ
	乗場インターホンボックスタイプ	ステンレスヘアライン（埋め込み形）
	無電圧Ａ接点支給	エレベーター安全回路動作時・閉込時 インターホンボタン押下時
	戸開延長ボタン	ステンレスクリックボタン（□３２・黄橙色ＬＥＤ） 抗ウイルス・抗菌コート
	かご内アナウンス	かご内４ヵ国語アナウンス （通常時：日英、緊急時：日英中韓）
	かご室スピーカー（非常放送用）	あり
	高調波対策種類	ＤＣリアクトル（Ｋ１＝１．８）及び 絶縁トランス（ノイズ・漏洩電流対応）
	フェッシャープレート	エレベーター手配（標準品）（２－４階）
	レール支持方式	１フロア１ブラケット
	煙感知器点検口スイッチ	正面側上部取付　【標準】
	揚重ビーム手配	エレベーター手配（施工後撤去あり）
	仮設動力電源	１式

外部連絡装置（インターホン親機）設置上の注意点

エレベーターかご内のインターホンは，常に外部のインターホン親機と連絡できるようにすること。
管理人室等に設置する場合は，２４時間管理人が常駐する必要がある。
（建築基準法施行令第１２９条の１０第３項第三号）
もしも管理人が常駐しない場合は，以下のいずれかの措置が必要となる。
１．インターホン親機を共用部（エレベーターホールや廊下等）に設置する。
２．管理人室内のインターホン親機の鳴動を共用部から確認できるように設置し、
　鳴動を確認した者が対応できるように、シールや名板で鳴動時の緊急連絡先等の対応方法を明示する。
３．管理人不在時にはエレベーターを使えない状況にする。
　例えば、営業時間内のみ管理人室等に管理人が常駐するならば営業時間外は建物を閉館する。

乗場遮煙ドア設置上の条件

・乗場遮煙ドアを設置するためには，自動火災報知設備
　の設置義務の無い建物であっても，同設備を設けること。
・自動火災報知設備の設置義務の無い建物の場合には，
　乗場遮煙ドア設置階のエレベーターホールに必ず煙感
　知器などの火災感知器を設置し，火災感知信号を自動
　火災警報盤を介してエレベーター制御盤に供給すること。
　（無電圧ａ接点，接点電圧ＤＣ２４Ｖ）

※インターホン親機は昇降路最下部及び新校舎棟4階の事務室監視盤に設置する。（インターホン機器・結線ともEV工事）
昇降路までの配管配線工事は電気設備工事（別途）とする。

※昇降路頂部の煙感知器設備工事（外部より点検可能な戸は鍵付きとし、戸が開いたときには昇降機を連動停止させる。
（EV工事）

エレベーター仕様要項

分類	仕様項目 ０２号機　　新校舎棟（建物番号①－1）
基本仕様	仕様項目
	設置場所：新校舎棟（鉄筋コンクリート造、新設）
	機種形名：機械室レスエレベーター（トランクルーム付）
	用途：人荷用（人主体）
	制御方式：可変電圧可変周波数制御（回生なし）
	操作方式：乗合全自動方式（１Ｃ－２ＢＣ）
	積載量：７５０ｋｇ
	定員：１１名
	定格速度：６０ｍ／ｍｉｎ
	戸閉方式：２枚戸両引き（ＣＯ）
	出入口幅　ＪＪ：８００ｍｍ
	出入口高さ　ＨＨ：２１００ｍｍ
	かご室サイズ（内法間口　ＡＡ）：１４００ｍｍ
	かご室サイズ（内法奥行　ＢＢ）：１３５０ｍｍ
	かご室内法高さ：２３００ｍｍ
	出入口方式：一方向出入口
	正面側停止数：４停止（２－５階）
	背面側停止数：０停止（階）
	動力用電源：ＡＣ３φ－２００Ｖ－５０Ｈｚ
	照明用電源：ＡＣ１φ－１００Ｖ－５０Ｈｚ
その他基本仕様	耐震設計施工指針耐震クラス：クラスＳ１４
	引掛り防止対策：あり
	かご室トランク：トランクあり
	敷居間隔：１０ｍｍ
	車いす仕様：制御機能付
	視覚障がい者対応仕様：あり
	地震時管制運転方式：Ｐ波＋Ｓ波センサ付３段設定（普通級）
	停電時自動着床装置（ＭＥＬＤ）：あり
	かご呼び取消機能：あり
乗場仕様	乗場三方枠：大枠末広幕板なし　１３０ｍｍ～３５０ｍｍ ステンレスヘアライン（２－５階）
	乗場戸：ステンレスヘアライン（２－５階）
	乗場敷居：ステンレス製（２－５階）
	乗場インジケーター：一体セグメントＬＥＤ（橙色） ステンレスヘアライン（２－５階）
	乗場インジー体形ボタン：ステンレスクリックボタン （φ３３・凸文字・黄橙色ＬＥＤ） 抗ウイルス・抗菌コート（２－５階）
	乗場インジ運行表示灯１：休止表示
	車いす専用乗場ボタンプレート：一般用乗場ボタン一体形 ステンレスヘアライン（２－５階）
	車いす専用乗場ボタン：ステンレスクリックボタン （φ３３・凸文字・黄橙色ＬＥＤ） 抗ウイルス・抗菌コート（２－５階）
	乗場休止スイッチ：あり
	乗場休止スイッチ取付位置：乗場インジ組込

かご室仕様	天井	ＣＬ１：フラット（白色） 天井面材：鋼板塗装（メーカー標準色）
	正面壁	化粧鋼板
	側面壁	化粧鋼板
	袖壁材質	ステンレスヘアライン
	出入口上板	化粧鋼板
	かご室戸	化粧鋼板
	巾木	ステンレスヘアライン
	かご床	ゴムタイル３ｍｍ　エレベーター工事
	かご室敷居	ステンレス製　２枚戸両引き用
	かご操作盤タイプ	袖壁操作盤
	かご操作盤フェースプレート材質	ステンレスヘアライン
	かごボタン	ステンレスクリックボタン （φ３３・凸文字・黄橙色ＬＥＤ） 抗ウイルス・抗菌コート
	インターホンボタン乱用防止カバー	あり
	正操作盤インジケータータイプ	かご内液晶インジケーター（１０．１インチ）
	かご操作盤液晶インジケーター表示言語	平常時（日英）、注意喚起（日英／中韓切替） 緊急時（日英中韓）
	車いす専用かご操作盤	両側面　ステンレスヘアライン
	車いす専用正かご操作盤インジケータータイプ	ドットＬＥＤ（橙色）
	車いす専用かごボタン	ステンレスクリックボタン （φ３３・凸文字・黄橙色ＬＥＤ） 抗ウイルス・抗菌コート
	車いす専用インターホンボタン乱用防止カバー	あり
	かご室換気	ヘルスエアー （空気中のウイルス・菌の抑制、脱臭、集塵機能）
	かご室手すり	丸形ステンレス　二面取付（両側面）
	かご室鏡	ステンレス鏡面枠なし３分割 （５７０ｍｍ×１４００ｍｍ）
	キックプレート	板厚２．０ステンレスヘアライン（ビスなし） 高さ：床面より３５０ｍｍ
	壁保護幕	Ｔ字カット磁石式 （保護幕高さ標準：床面より上端まで１８９５ｍｍ）
その他仕様	床保護マット	あり
	工事使用	可能（契約条件に含む：使用期間１ヶ月以内）
	気配りドアセンサ	あり
	セーフティシュー	片側（マルチビームドアセンサー付き）
	センシングドアシステム（ＴＯＦセンサ）	自動戸閉促進・乗場前検知挟まれ防止
	遮煙機能	ディフェンスドア　２枚戸両引き用（２－５階） 認定番号：ＣＡＳ－０５１９
	点字名板取付方法	接着
	インターホン呼び出しボタン応答灯 （聴覚障がい者対応仕様）	あり
	おもり非常止め	なし
	火災時管制運転方式	火報信号連動式
	冠水時管制運転	あり
	インターホン型式	２４Ｖ
	乗場インターホンボックスタイプ	ステンレスヘアライン（埋め込み形）
	無電圧Ａ接点支給	エレベーター安全回路動作時・閉込時 インターホンボタン押下時
	戸開延長ボタン	ステンレスクリックボタン（□３２・黄橙色ＬＥＤ） 抗ウイルス・抗菌コート
	かご内アナウンス	かご内４ヵ国語アナウンス （通常時：日英、緊急時：日英中韓）
	かご室スピーカー	あり
	高調波対策種類	ＤＣリアクトル（Ｋ１＝１．８）及び 絶縁トランス（ノイズ・漏洩電流対応）
	フェッシャープレート	エレベーター手配（標準品）（３－５階）
	レール支持方式	１フロア１ブラケット
	煙感知器点検口スイッチ	正面側上部取付　【標準】
	揚重ビーム手配	エレベーター手配（施工後撤去あり）
	仮設動力電源	１式

外部連絡装置（インターホン親機）設置上の注意点

エレベーターかご内のインターホンは，常に外部のインターホン親機と連絡できるようにすること。
管理人室等に設置する場合は，２４時間管理人が常駐する必要がある。
（建築基準法施行令第１２９条の１０第３項第三号）
もしも管理人が常駐しない場合は，以下のいずれかの措置が必要となる。
１．インターホン親機を共用部（エレベーターホールや廊下等）に設置する。
２．管理人室内のインターホン親機の鳴動を共用部から確認できるように設置し、
　鳴動を確認した者が対応できるように、シールや名板で鳴動時の緊急連絡先等の対応方法を明示する。
３．管理人不在時にはエレベーターを使えない状況にする。
　例えば、営業時間内のみ管理人室等に管理人が常駐するならば営業時間外は建物を閉館する。

乗場遮煙ドア設置上の条件

・乗場遮煙ドアを設置するためには，自動火災報知設備
　の設置義務の無い建物であっても，同設備を設けること。
・自動火災報知設備の設置義務の無い建物の場合には，
　乗場遮煙ドア設置階のエレベーターホールに必ず煙感
　知器などの火災感知器を設置し，火災感知信号を自動
　火災警報盤を介してエレベーター制御盤に供給すること。
　（無電圧ａ接点，接点電圧ＤＣ２４Ｖ）

※インターホン親機は昇降路最下部及び新校舎棟4階の事務室監視盤に設置する。（インターホン機器・結線ともEV工事）
配管配線工事は電気設備工事（別途）とする。

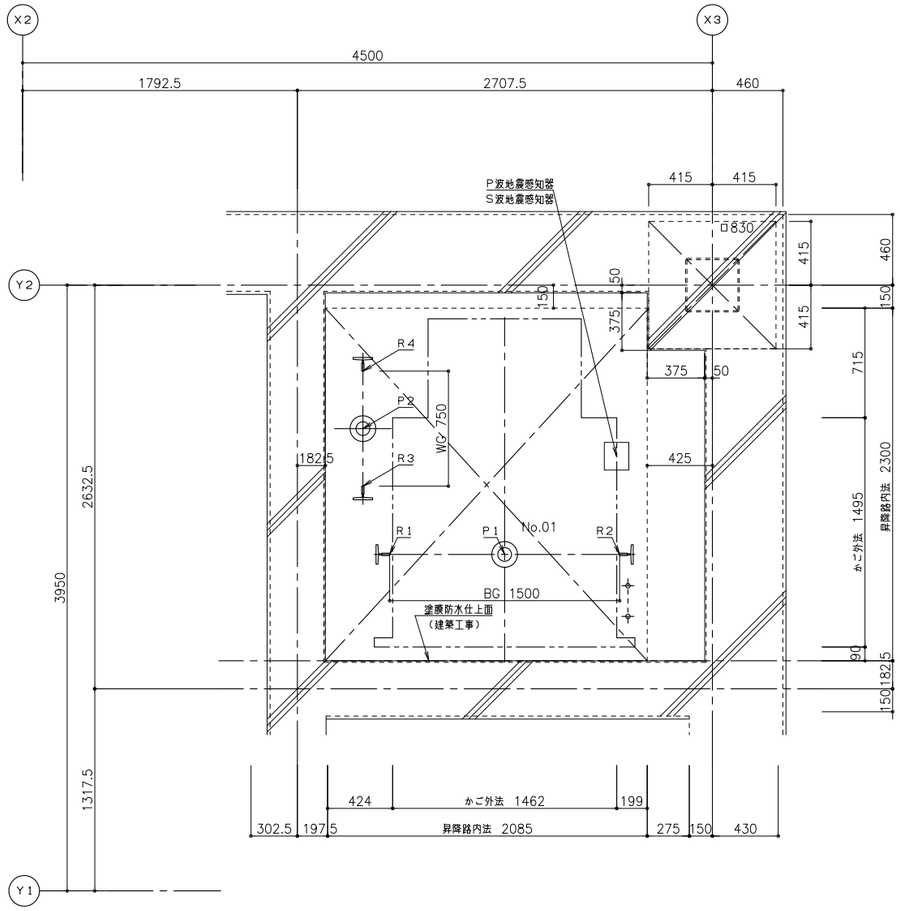
※昇降路頂部の煙感知器設備工事（外部より点検可能な戸は鍵付きとし、戸が開いたときには昇降機を連動停止させる。
（EV工事）

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

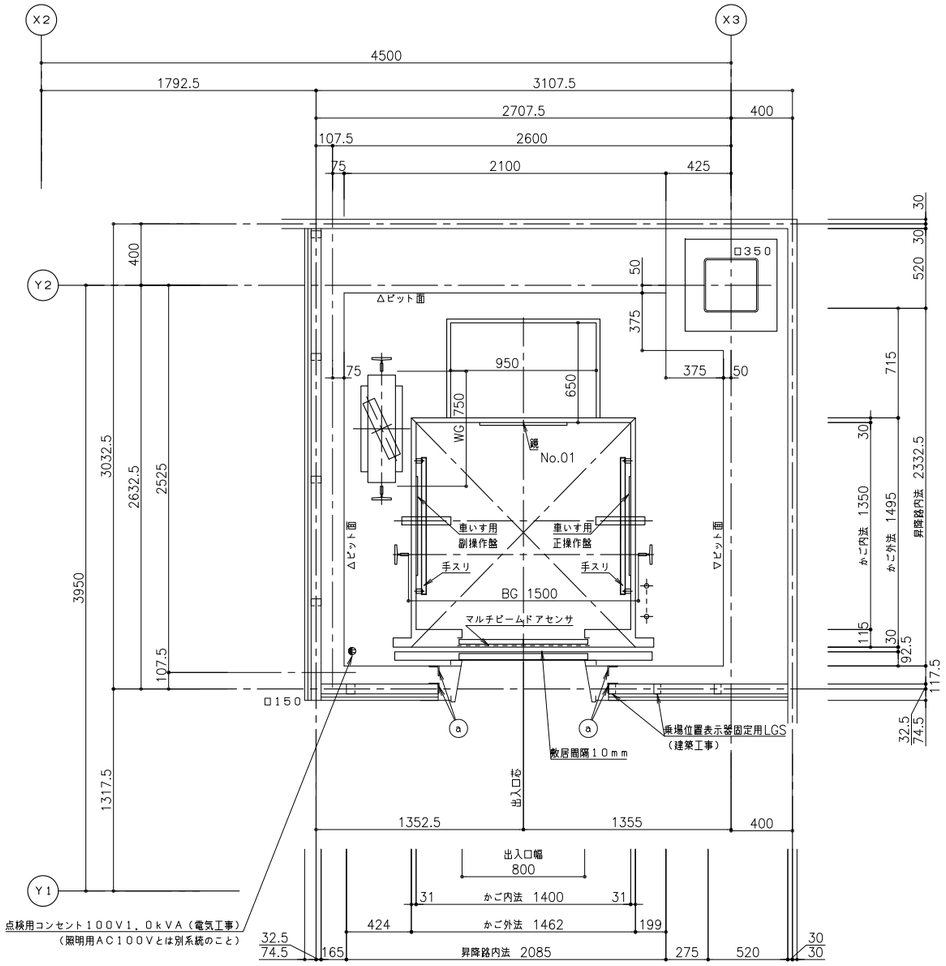
一級建築士	（第 274708号）	山岡　憲弘	
構造設計一級建築士	（第 6608号）	長坂　典和	
設備設計一級建築士	（第 753号）	鈴木　光春	

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	昇降機設備図 1	縮尺 ー	EL-001
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(140/224)

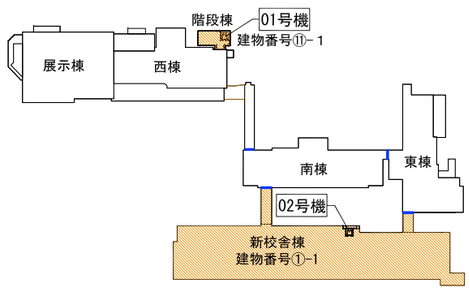
01号機　階段棟<建物番号①－1>



昇降路平面図 （1／30）
（ピット）



昇降路平面図 （1／30）
（1階）



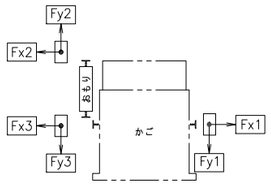
KEYPLAN

レール下端部荷重（長期荷重）			
R1（kN）	R2（kN）	R3（kN）	R4（kN）
5.9	25.9	46.1	21.4

ピット荷重（短期荷重）	
P1（kN）	P2（kN）
93.8	78.4

昇降路機器はピット底面・側面、梁・壁（コンクリートの場合）にあと施工アンカーにより取付

ＥＶレール支持用ブラケットに作用する地震時水平荷重



Fx1	Fy1	Fx2	Fy2	Fx3	Fy3
8.29	6.16	6.46	12.92	14.75	17.07

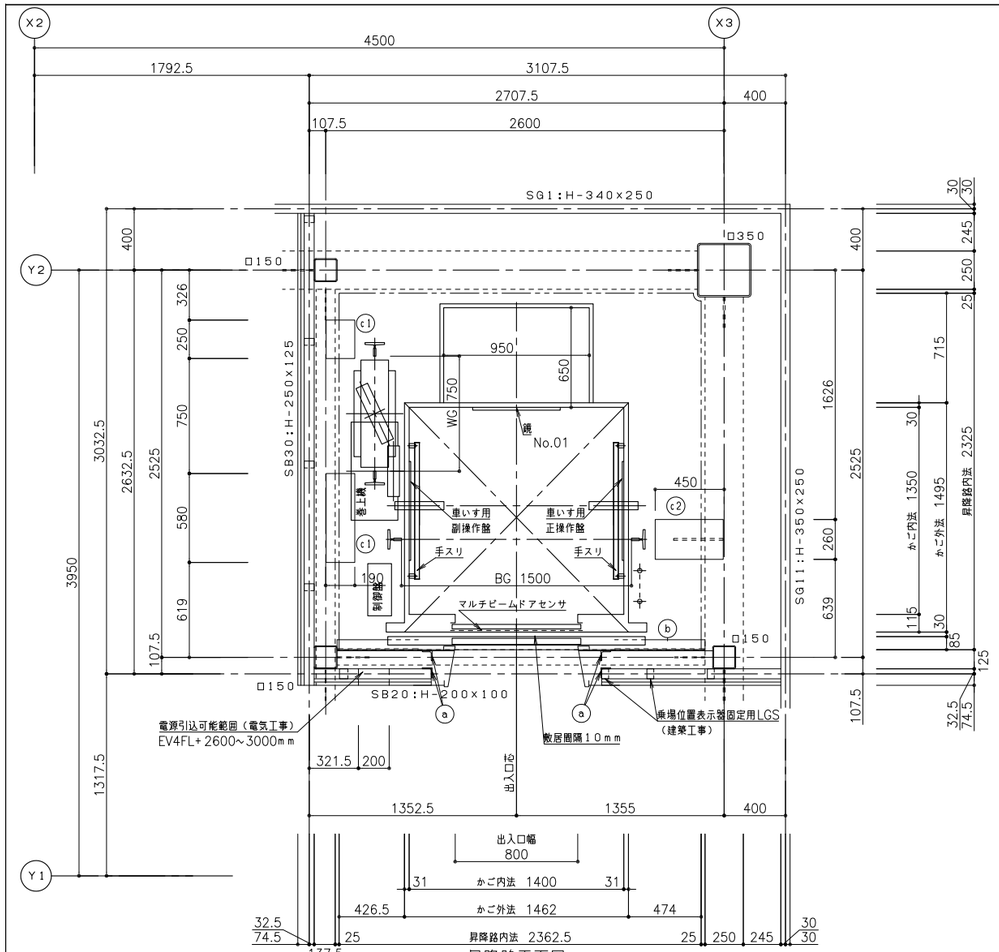
（単位：kN）

部材記号	名　称	部　材	工事区分
a	三方枠取付鋼材	L－65×65×6	建築工事

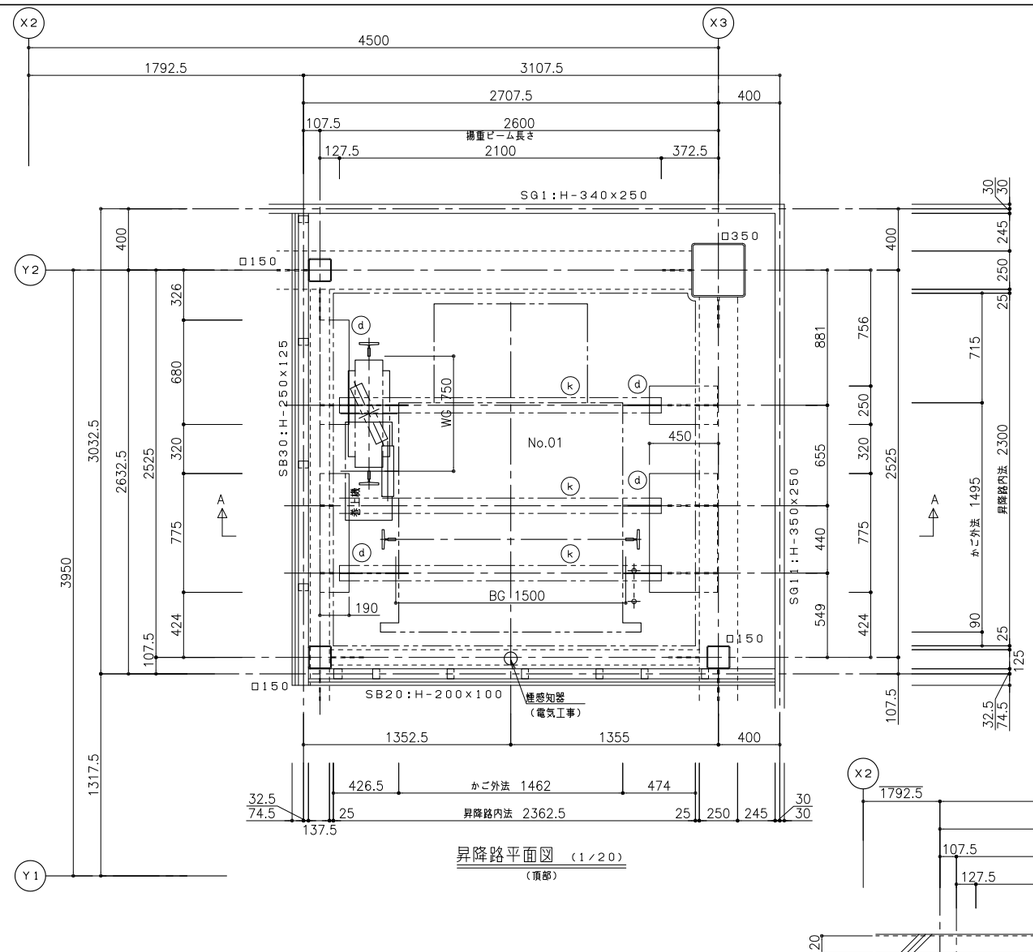
技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

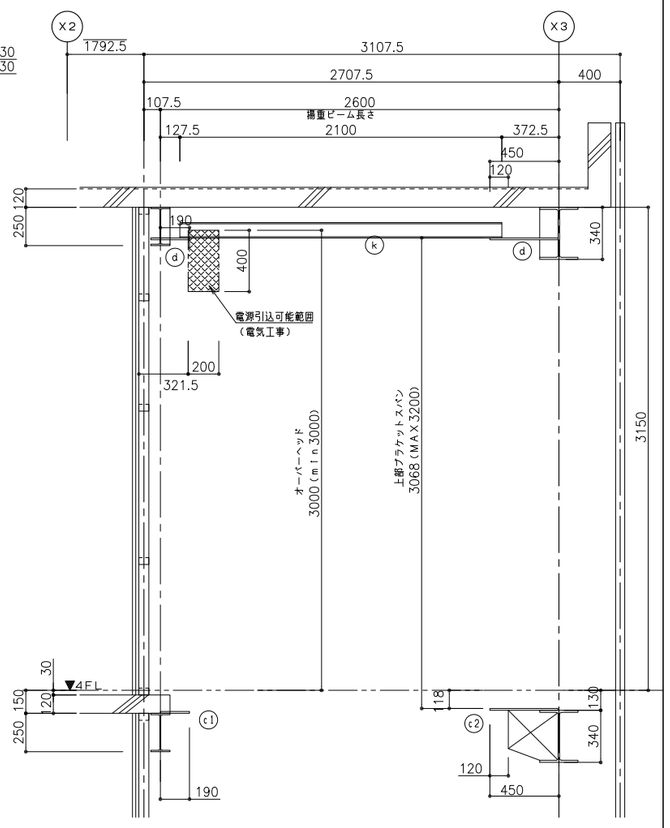
工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	昇降機設備図 2	縮尺 1/40(A3) 1/20(A1)	EL-002
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(141/224)



昇降路平面図 （1／20）



昇降路平面図 （1／20）
（頂部）



昇降路頂部断面図 （1／30）
断面A－A

動力電源設備（ＣＶＴ電線使用時）　　（2－4階）電源側に漏電遮断器を設置する場合

号機名	電源電圧 周波数	電動機容量	設備容量	電源側ＮＦ容量	感度電流値(*) 動作時間	電線サイズ	接地線サイズ
０１	ＡＣ３φ２００Ｖ ５０Ｈｚ	５．１ｋＷ	５ｋＶＡ	４０ＡＴ	１００ｍＡ以上 ０．２秒以上	６２ｍまで　８ｍｍ² １０７ｍまで　１４ｍｍ² １６４ｍまで　２２ｍｍ²	３．５ｍｍ²

照明用電源ＡＣ１φ１００Ｖ　５０Ｈｚ（設備容量１ｋＶＡ／台　電源側ＮＦ容量２０ＡＴ／台）
※かご室コンセント付きの場合（設備容量２ｋＶＡ／台　電源側ＮＦ容量４０ＡＴ／台）

高調波対策（高調波流出電流計算値）

高調波対策内容		機器名称	定格容量（kVA）	台数	合計容量Ｐｉ（kVA）	回路分類細分Ｎｏ．	6パルス換算係数（Ｋｉ）	6パルス等価容量［Ｋｉ×Ｐｉ］（kVA）	機器最大稼働率（%）
	ノイズフィルタのみ（標準）	０１号機 AXIEZ-LINKs (750kg-60m/min)	6.4	1	6.4	~~31~~	~~3.4~~	~~21.7~~	~~25~~
○	DCリアクトル追加（Ki=1.8相当）					33	1.8	11.5	25

基本電流に対する高調波電流発生率Ｉｎ（%）							
5次	7次	11次	13次	17次	19次	23次	25次
30	13	8.4	5	4.7	3.2	3	2.2

部材記号	名　称	部　材	工事区分
a	三方枠取付鋼材	L－65×65×6	建築工事
b	敷居取付材	[－125×65×6×8	建築工事
c1	レールブラケット取付用ファスナー	PL－t12	建築工事
c2	レールブラケット取付用ファスナー（リブ付）	PL－t12	建築工事

電線引込長さ（mm）	01
動力電線	7500
弱電線（必要な場合）	7500

揚重ビームに掛かる荷重　Ｎｏ．０１

Q1（kN）	Q2（kN）	Q3（kN）	Q4（kN）	Q5（kN）	Q6（kN）
8.0	3.0	8.0	11.0	16.0	11.0

Ｑ１～Ｑ６はＥＶ据付時に作用する

部材記号	名　称	部　材	工事区分
a	三方枠取付鋼材	L－65×65×6	建築工事
c1	レールブラケット取付用ファスナー	PL－t12	建築工事
c2	レールブラケット取付用ファスナー（リブ付）	PL－t12	建築工事
d	レールブラケット取付用ファスナー兼揚重ビーム取付用ファスナー（リブ付）	PL－t12	建築工事
k	揚重ビーム	H－100×100×6×8	建築工事

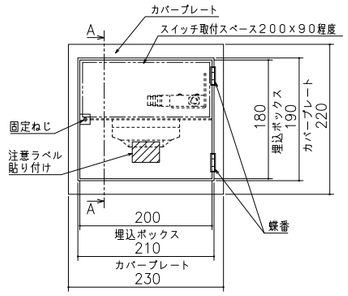
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号
一級建築士　（第 274708号）　山岡　儁弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	昇降機設備図 3	縮尺 図示	EL-003
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(142/224)

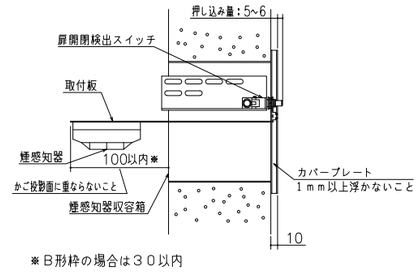
０１号機　階段棟<建物番号①－１>

煙感知器（電気工事）
・外部より点検可能な構造として下さい
・雨水浸入が無い様配慮下さい
・ＥＶ連動スイッチ付（ＥＶ工事）
・煙感知器はかご投影面にかからない位置として下さい
・点検口は下記①または②として下さい
①ＥＶ昇降路専用品（スイッチ取付台座付き）（１）～（４）のいずれか
（１）ホーチキ　　ＫＵＳ－１Ｃ
（２）能美防災　　ＦＸＳＪ００１Ａ－ＨＵ
（３）ニッタン　　ＮＩＤ－Ｔ－Ｇ
（４）パナソニック　ＢＶ９５３５１（ＢＯＸ）＋ＢＶ９５３８１Ｈ（扉）
②以下２項目を満足する点検口　～「煙感知器・点検ボックス（参考例）」参照
（１）スイッチ取付スペース２００×９０程度確保できる。
（２）錠付または工具を必要とするネジ付きの蓋で、１ｍｍ以上浮かないこと。

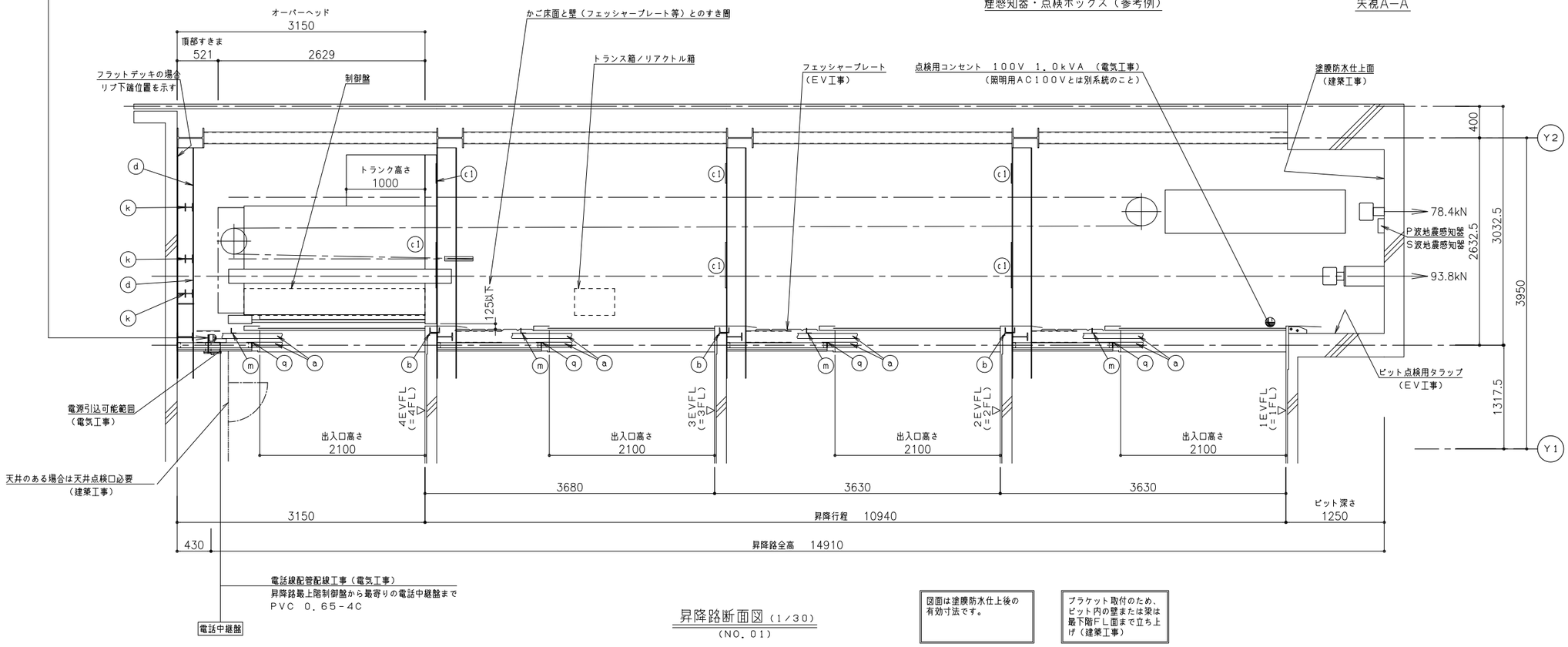
部材記号	名　称	部　材	工事区分
a	三方枠取付鋼材	L－65×65×6	建築工事
b	敷居取付材	[－125×65×6×8	建築工事
c1	レールブラケット取付用ファスナー	PL－t12	建築工事
d	レールブラケット取付用ファスナー兼揚重ビーム取付用ファスナー（リブ付）	PL－t12	建築工事
k	揚重ビーム	H－100×100×6×8	EV工事
m	ハンガーケース取付材	L－65×65×6	建築工事
q	開口補強材	L－65×65×6	建築工事



煙感知器・点検ボックス（参考例）



矢視A－A



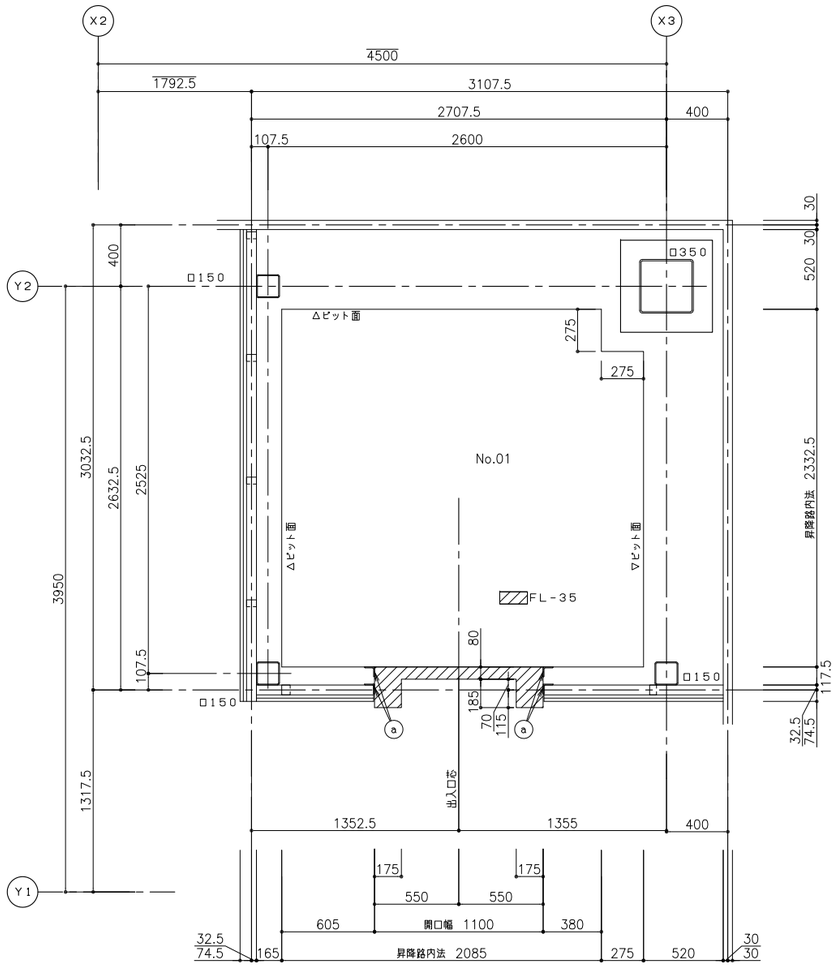
昇降路断面図（１／３０）
（ＮＯ．０１）

図面は塗膜防水仕上後の有効寸法です。

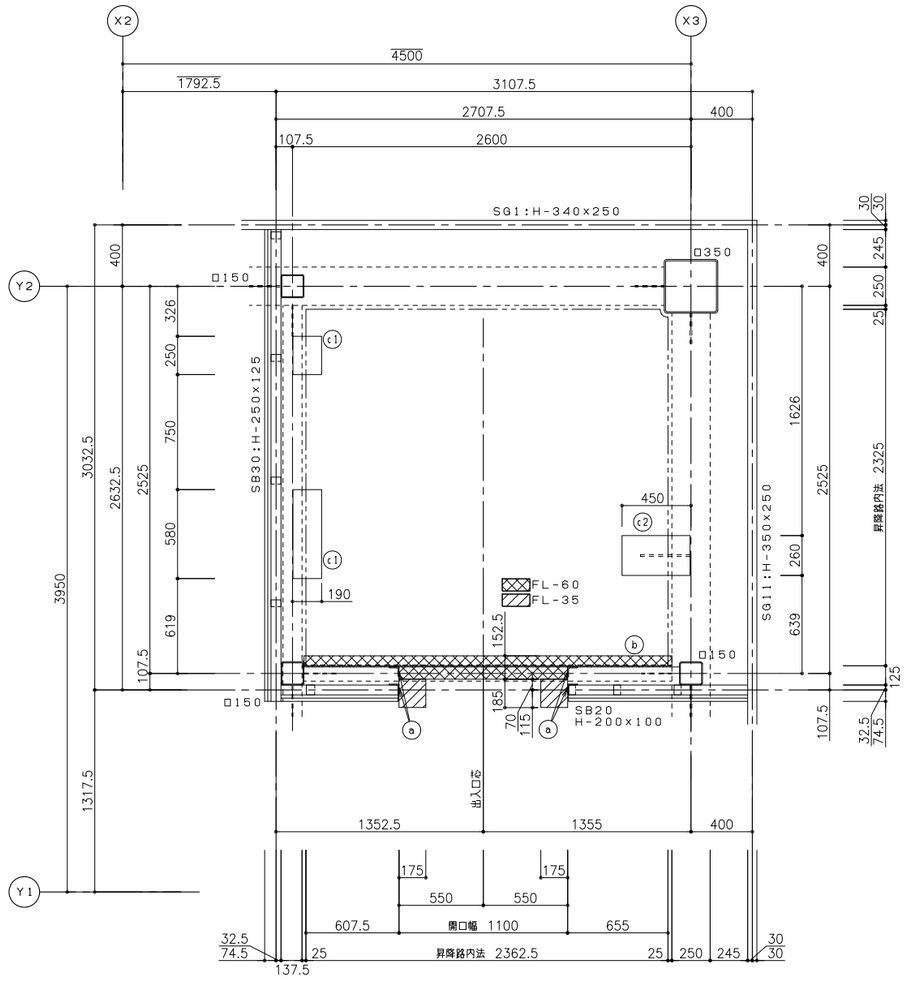
ブラケット取付のため、ピット内の壁または梁は最下階ＦＬ面まで立ち上げ（建築工事）

株式会社 大建設計　技にこころを
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号
一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	昇降機設備図　４	縮尺 1/60(A3) 1/30(A1)	EL-004
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(143/224)

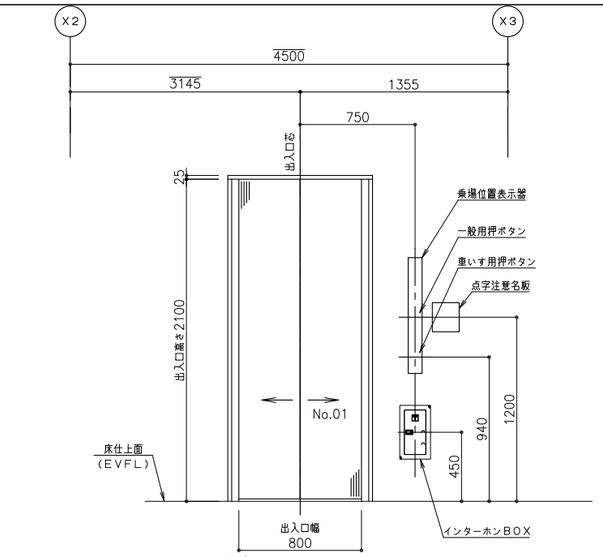


昇降路穴あけ図(1/20)
(1階)



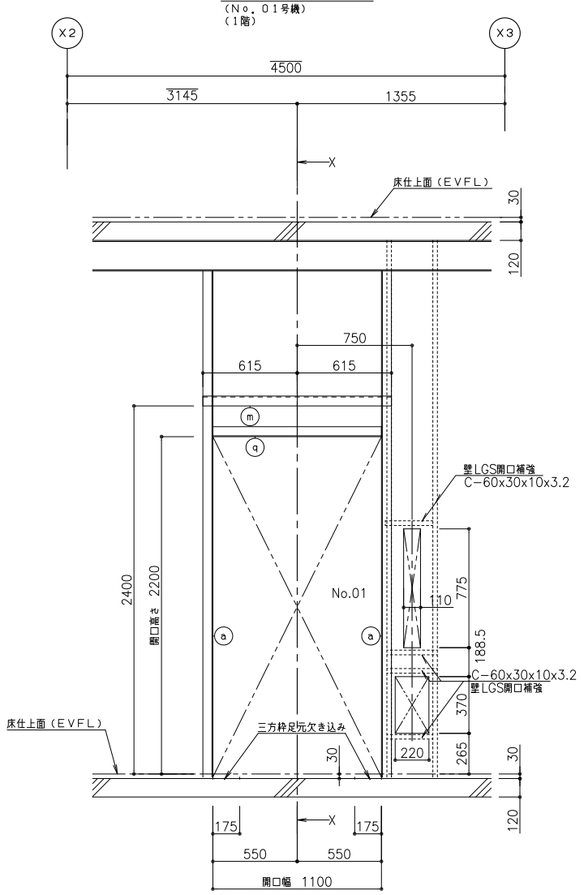
昇降路穴あけ図 (1/20)
(2−4階)

株式会社 大建設計 (技にこころを) 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事			図面番号
	構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和	図面名	昇降機設備図 5	縮尺	1/20	EL-005
	設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春		船橋市建設局建築部建築課		令和7年度	(144/224)

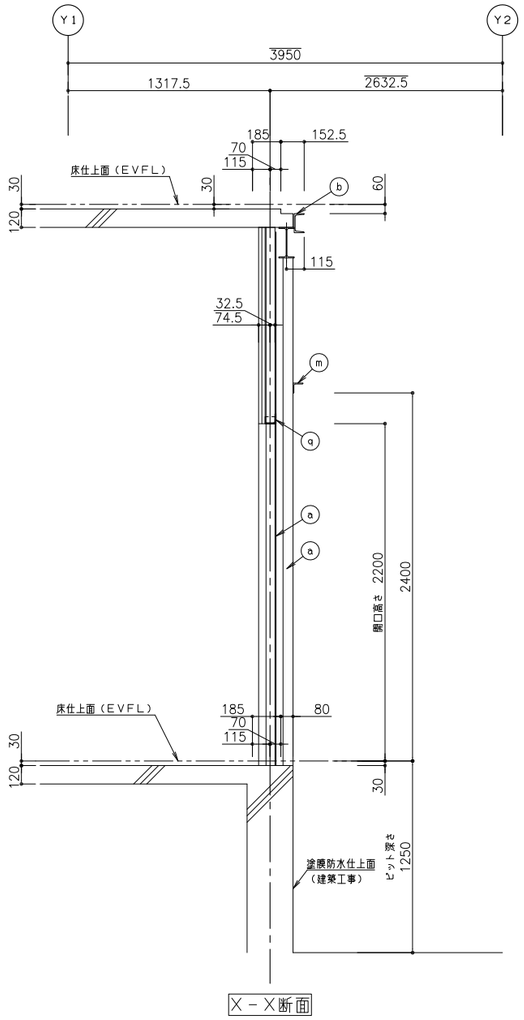


乗場正面図 (1/20)
(No.01号機)
(1階)

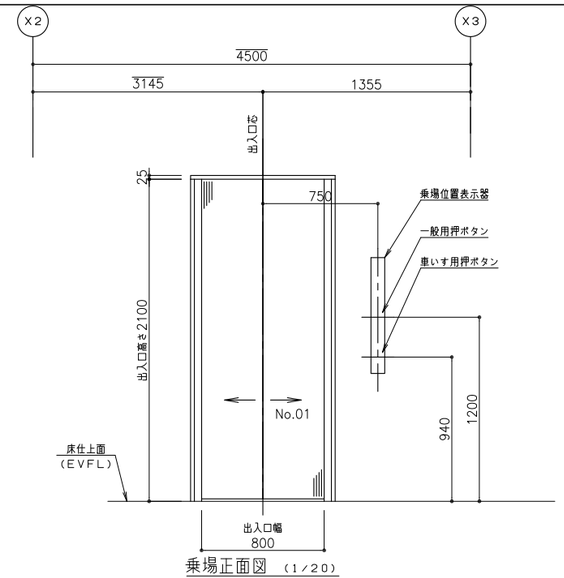
部材記号	名称	部材	工事区分
a	三方枠取付鋼材	L-65×65×6	建築工事
m	ハンガーケース取付材	L-65×65×6	建築工事
q	開口補強材	L-65×65×6	建築工事



乗場穴あけ図 (1/20)
(No.01号機)
(1階)

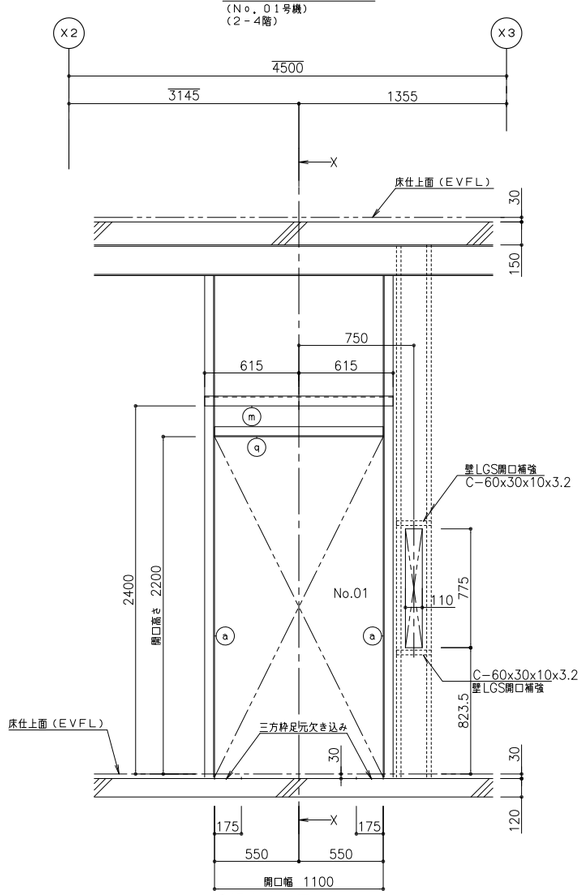


X－X断面

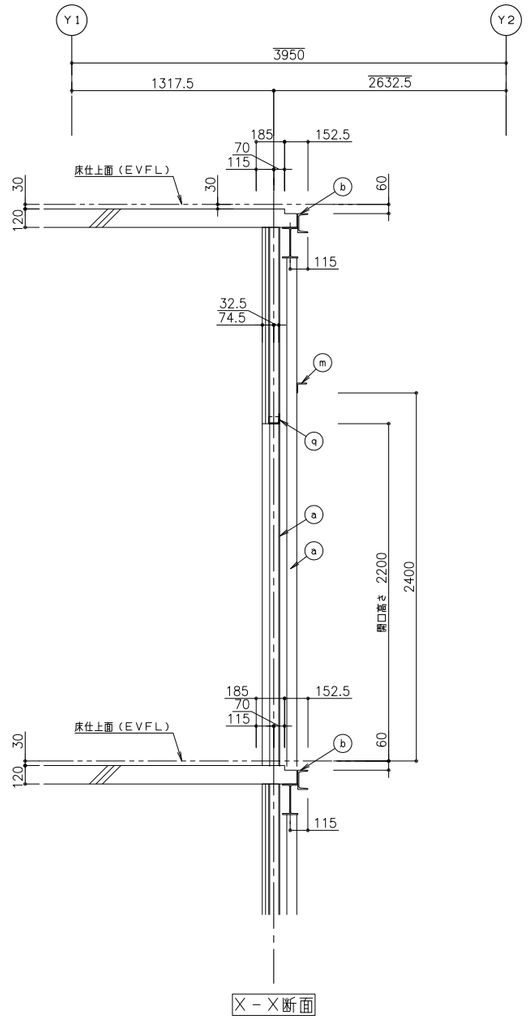


乗場正面図 (1/20)
(No.01号機)
(2-4階)

部材記号	名称	部材	工事区分
a	三方枠取付鋼材	L-65×65×6	建築工事
m	ハンガーケース取付材	L-65×65×6	建築工事
q	開口補強材	L-65×65×6	建築工事



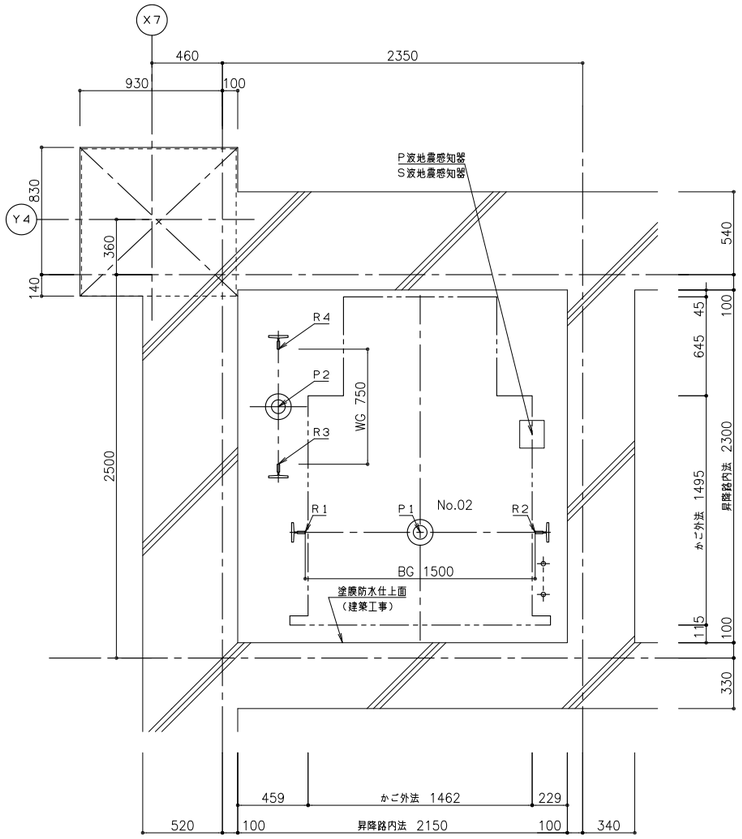
乗場穴あけ図 (1/30)
(No.01号機)
(2-4階)



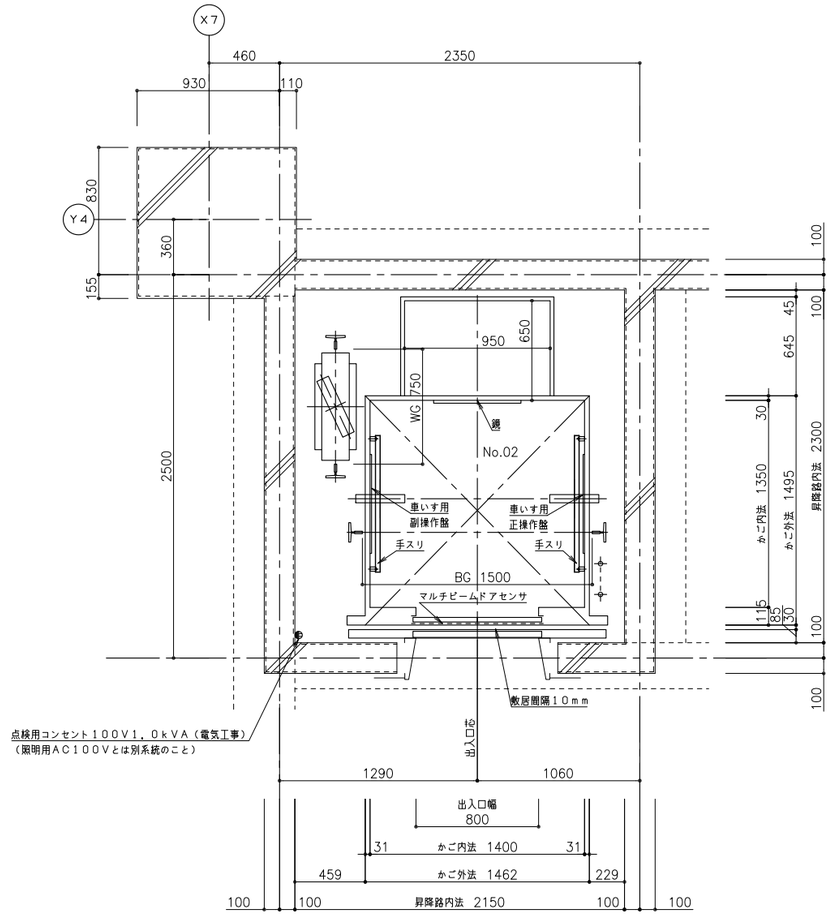
X－X断面

株式会社 大建設計 (技にこころを) 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 (第 274708号) 山岡 僖弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和	図面名	昇降機設備図 6	縮尺 図示	EL-006
	設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春		船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(145/224)

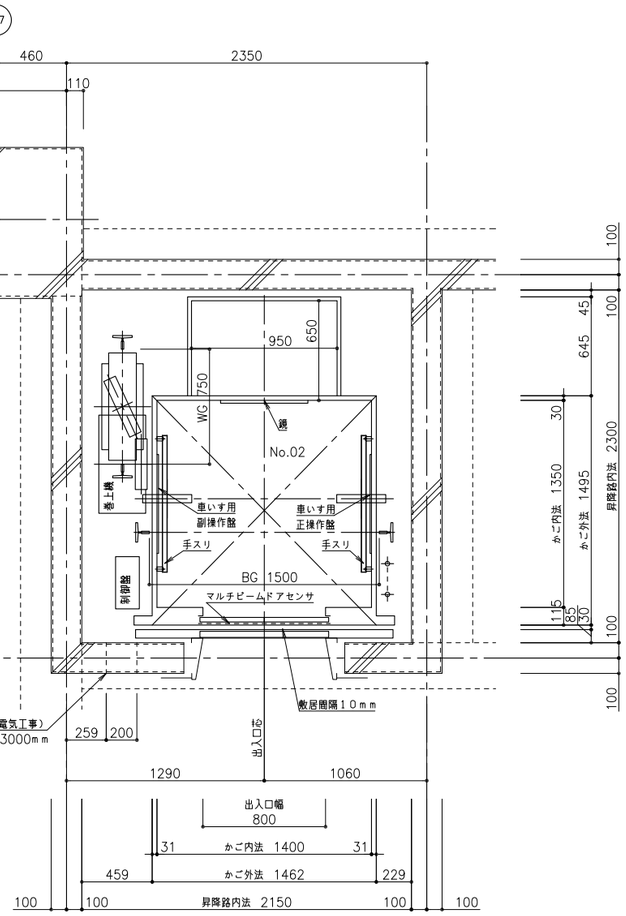
０２号機　新校舎棟＜建物番号①－１＞



昇降路平面図 （1／20）
（ピット）



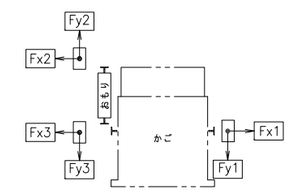
昇降路平面図 （1／20）
（２－４階）



昇降路平面図 （1／20）
（５階）

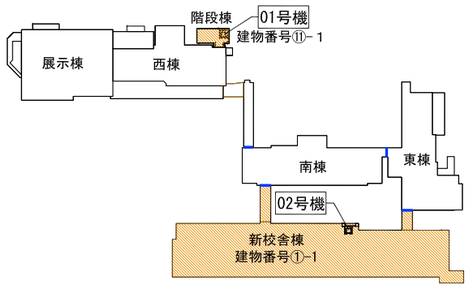
NO.02

EVレール支持用ブラケットに作用する地震時水平荷重



Ｆｘ１	Ｆｙ１	Ｆｘ２	Ｆｙ２	Ｆｘ３	Ｆｙ３
８．２９	６．１６	６．４６	１２．９２	１４．７５	１７．０７

（単位：ｋＮ）



KEYPLAN

レール下端部荷重（長期荷重）			
Ｒ１（ｋＮ）	Ｒ２（ｋＮ）	Ｒ３（ｋＮ）	Ｒ４（ｋＮ）
５．９	２５．９	４６．１	２１．４

ピット荷重（短期荷重）	
Ｐ１（ｋＮ）	Ｐ２（ｋＮ）
９３．８	７８．４

ブラケット取付のため、ピット内の壁または梁は最下階ＦＬ面まで立ち上げて下さい（建築工事）

昇降路機器はピット底面・側面、梁・壁（コンクリートの場合）にあと施工アンカーにより取付を行います

電線引込長さ（ｍｍ）	02
動力電線	7500
弱電線（必要な場合）	7500

動力電源設備（ＣＶＴ電線使用時）　　（＊）電源側に漏電遮断器を設置する場合

号機名	電源電圧 周波数	電動機容量	設備容量	電源側ＮＦ容量	感度電流値(＊) 動作時間	電線サイズ	接地線サイズ
０２	ＡＣ３φ２００Ｖ ５０Ｈｚ	５．１ｋＷ	５ｋＶＡ	４０ＡＴ	１００ｍＡ以上 ０．２ 秒以上	６２ｍまで　８ｍｍ² １０７ｍまで　１４ｍｍ² １６４ｍまで　２２ｍｍ²	３．５ｍｍ²

照明用電源ＡＣ１φ１００Ｖ　５０Ｈｚ（設備容量１ｋＶＡ／台　電源側ＮＦ容量２０ＡＴ／台）
＊かご室コンセント付きの場合（設備容量２ｋＶＡ／台　電源側ＮＦ容量４０ＡＴ／台）

高調波対策（高調波流出電流計算値）

	高調波対策内容	機器名称	定格容量（kVA）	台数	合計容量Ｐｉ（kVA）	回路分類細分Ｎｏ．	６パルス換算係数（Ｋｉ）	６パルス等価容量［Ｋｉ×Ｐｉ］（kVA）	機器最大稼働率（％）
	ノイズフィルタのみ（標準）	０２号機 AXIEZ−LINKs (750kg−60m/min)	6.4	1	6.4	~~31~~	~~3.4~~	~~21.7~~	~~25~~
○	DCリアクトル追加（Ki=1.8相当）					33	1.8	11.5	25

基本電流に対する高調波電流発生率Ｉｎ（％）							
5次	7次	11次	13次	17次	19次	23次	25次
30	13	8.4	5	4.7	3.2	3	2.2

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

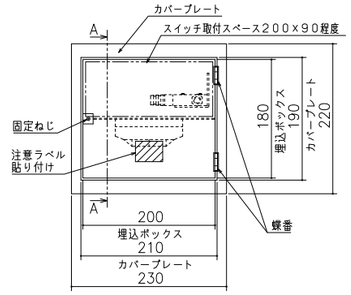
一級建築士　（第 274708号）　山岡　憲弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	昇降機設備図 7	縮尺 1/40(A3) 1/20(A1)	EL-007
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(146/224)

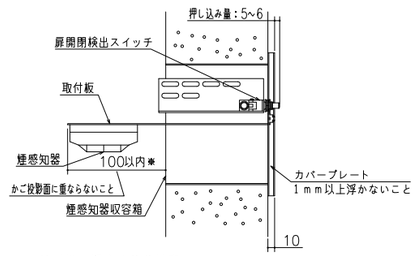
０２号機　新校舎棟<建物番号①－１>

煙感知器（電気工事）
・外部より点検可能な構造として下さい
・雨水浸入が無い様配慮下さい
・ＥＶ連動スイッチ付（ＥＶ工事）
・煙感知器はかご投影面にかからない位置として下さい
・点検口は下記①または②として下さい
①ＥＶ昇降路専用品（スイッチ取付台座付き）（１）～（４）のいずれか
（１）ホーチキ　　ＫＵＳ－１Ｃ
（２）能美防災　　ＦＸＳＪ００１Ａ－ＨＵ
（３）ニッタン　　ＮＩＤ－Ｔ－Ｇ
（４）パナソニック　ＢＶ９５３５１（ＢＯＸ）＋ＢＶ９５３８１Ｈ（扉）
②以下２項目を満足する点検口　～「煙感知器・点検ボックス（参考例）」参照
（１）スイッチ取付スペース２００×９０程度確保できる。
（２）錠付または工具を必要とするネジ付きの蓋で、１ｍｍ以上浮かないこと。

部材記号	名　称	部　材	工事区分
k	揚重ビーム（据付後撤去）	Ｈ－１００×１００×６×８	ＥＶ工事

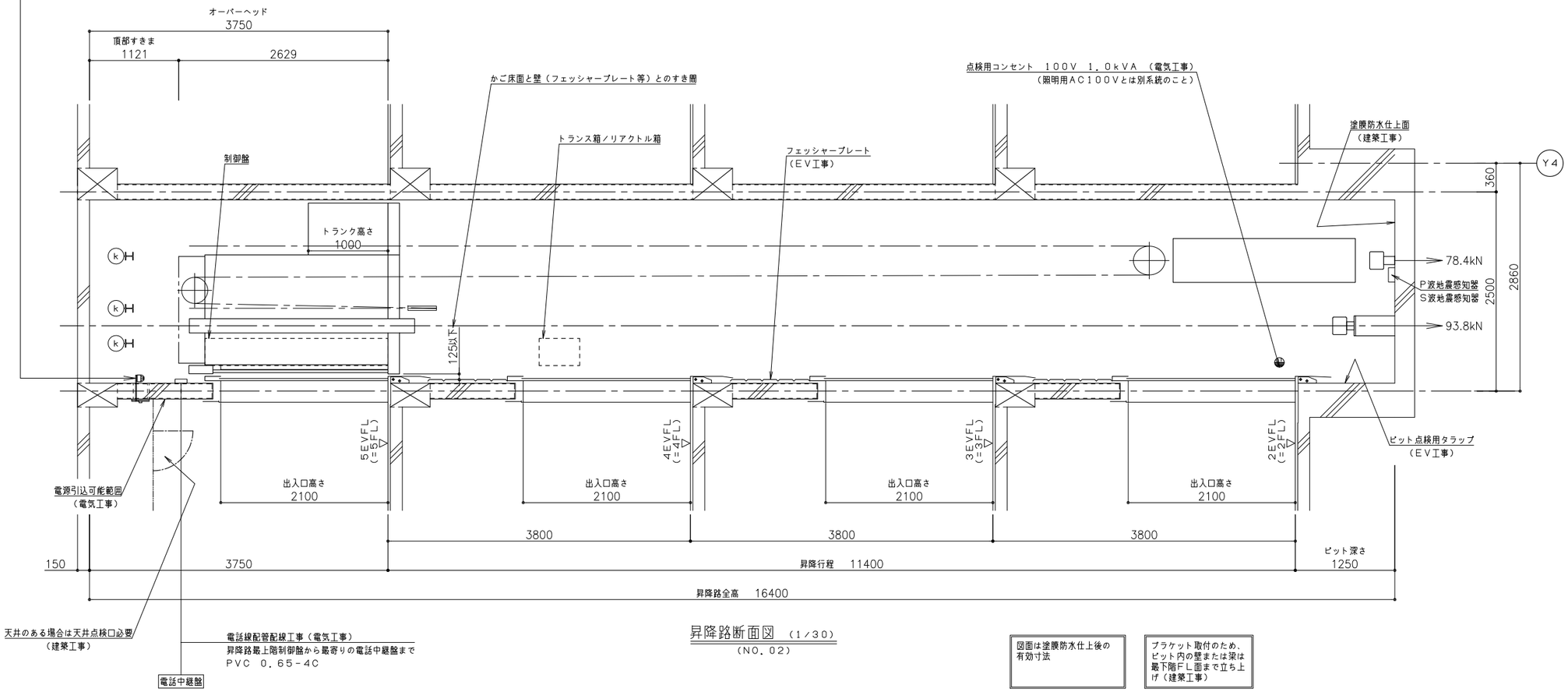


煙感知器・点検ボックス（参考例）



※Ｂ形枠の場合は３０以内

矢視A－A



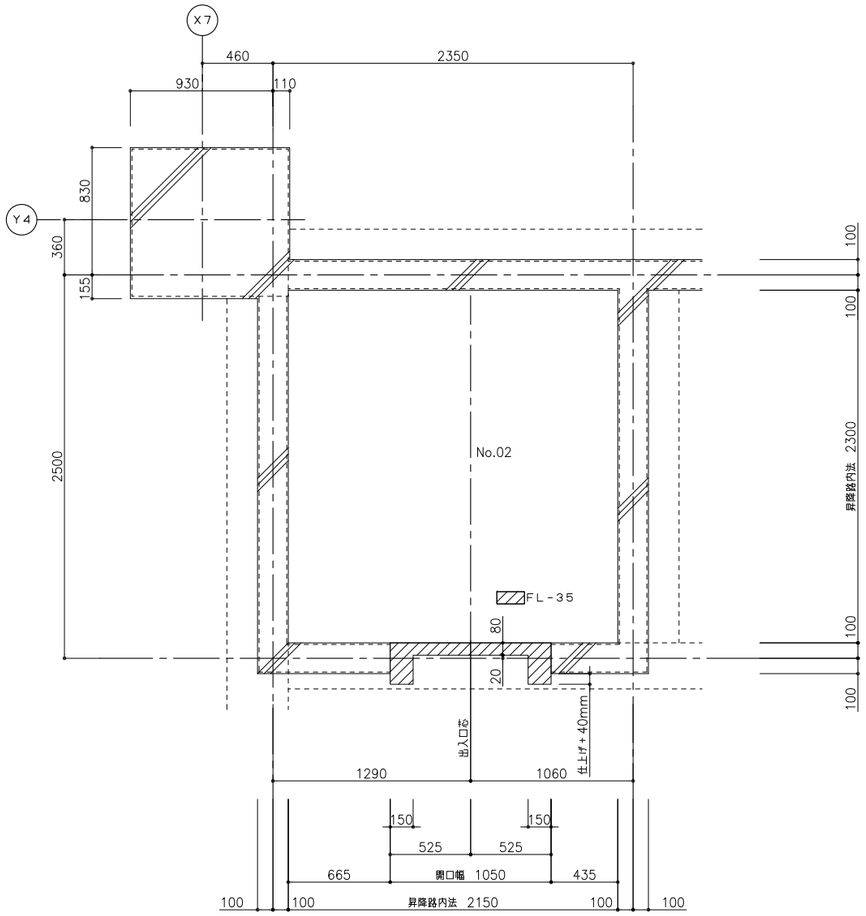
昇降路断面図　（１／３０）
（ＮＯ．０２）

図面は塗膜防水仕上後の有効寸法

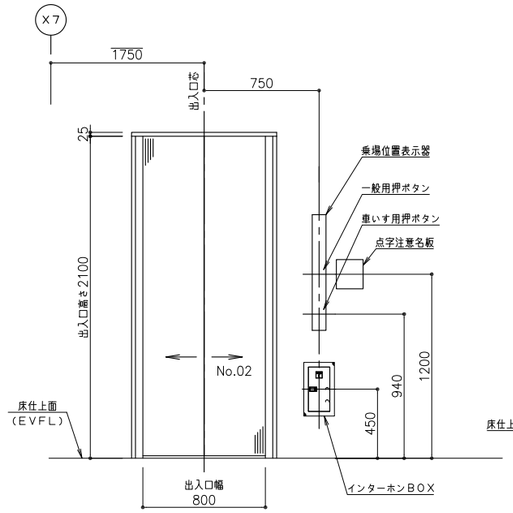
ブラケット取付のため、ピット内の壁または梁は最下階ＦＬ面まで立ち上げ（建築工事）

株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号
一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

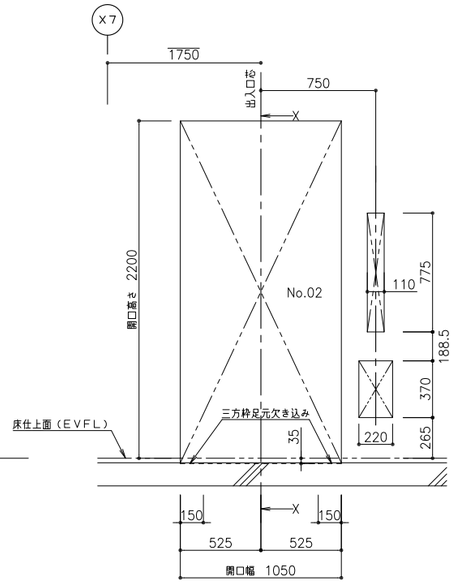
工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	昇降機設備図 8	縮尺 1/60(A3) 1/30(A1)	EL-008
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(147/224)



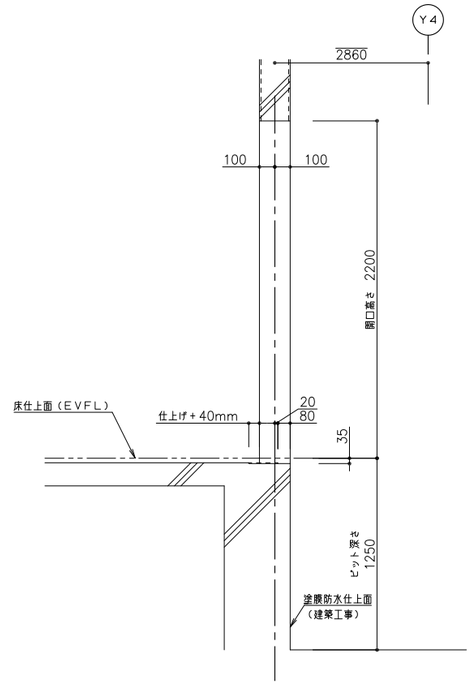
昇降路穴あけ図 (1/30)
(2-5階)



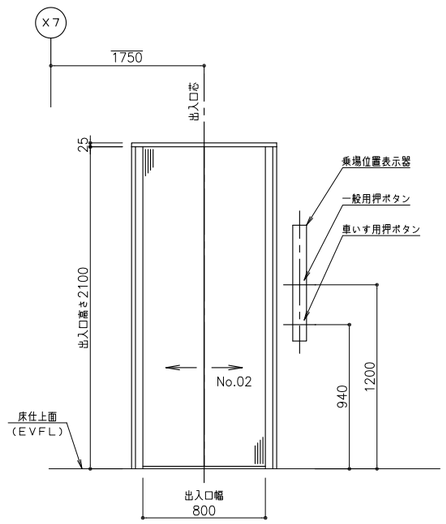
乗場正面図 (1/30)
(No.02号機)
(2階)



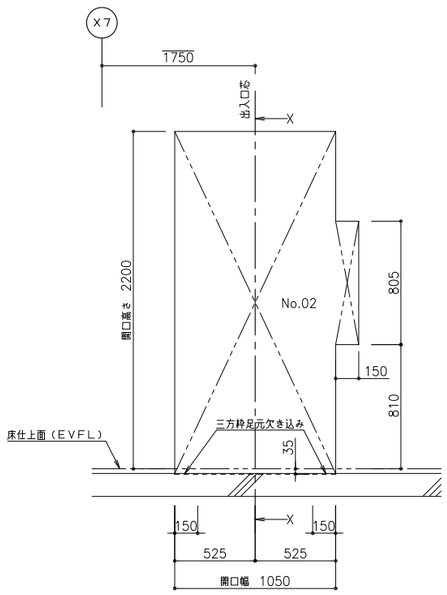
乗場穴あけ図 (1/30)
(No.02号機)
(2階)



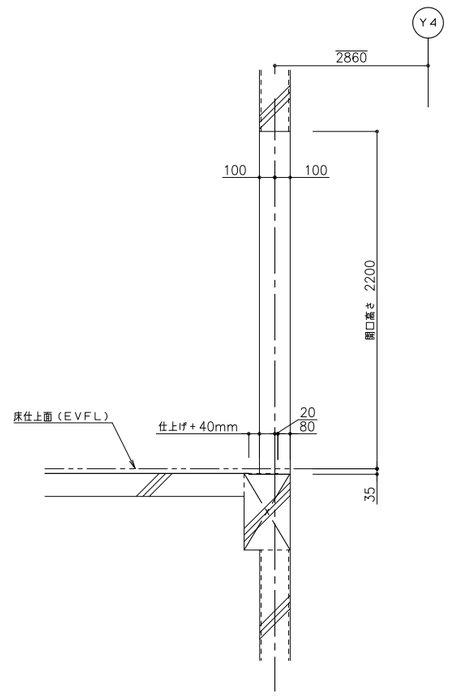
X－X断面



乗場正面図 (1/30)
(No.02号機)
(3-5階)



乗場穴あけ図 (1/30)
(No.02号機)
(3-5階)

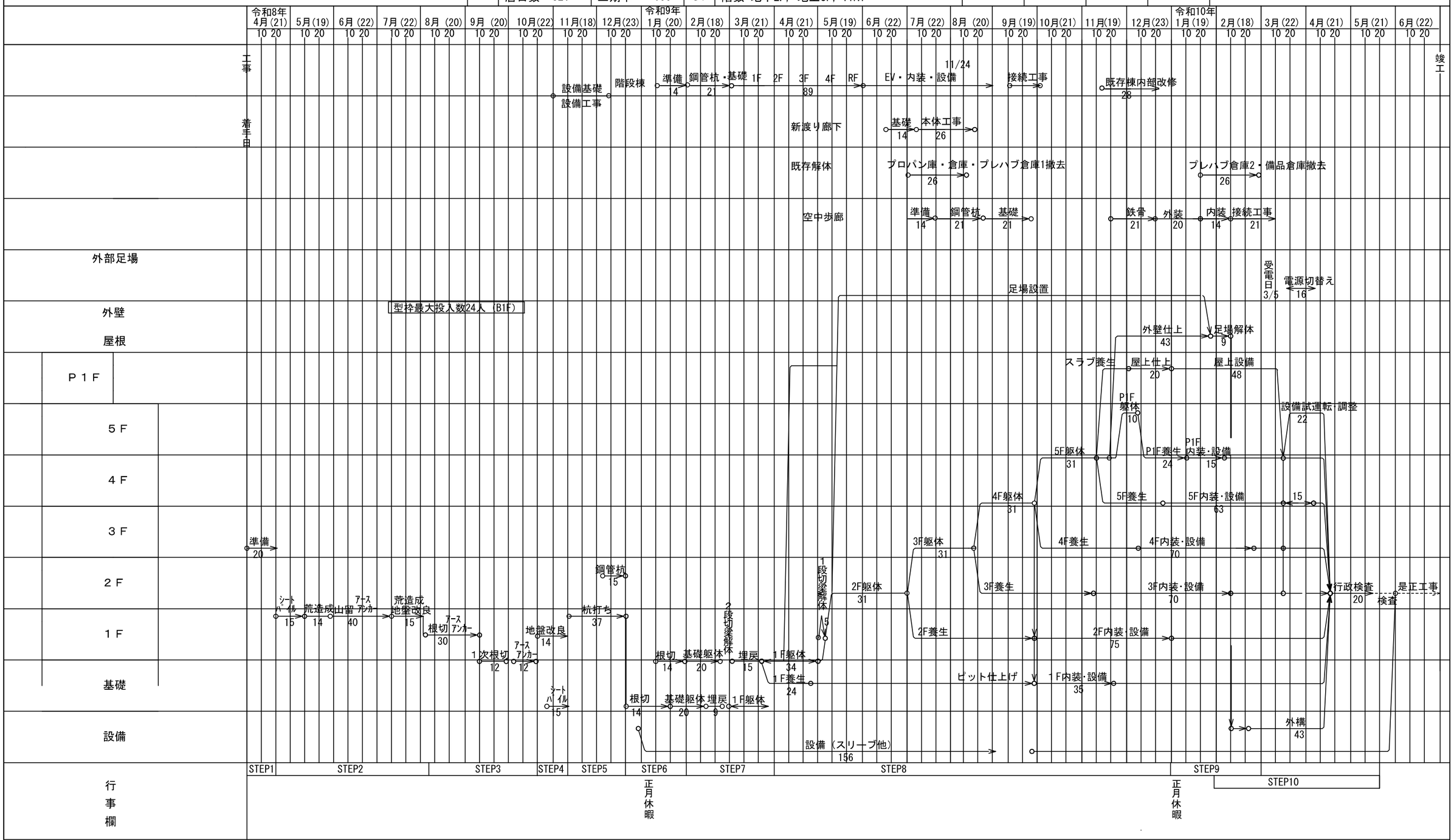


X－X断面

株式会社 大建設計 (技にこころを) 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 (第 274708号) 山岡 憍弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和	図面名	昇降機設備図 9	縮尺 1/30	EL-009
	設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春		船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(148/224)

船橋市立海神中学校校舎建替工事 工程表

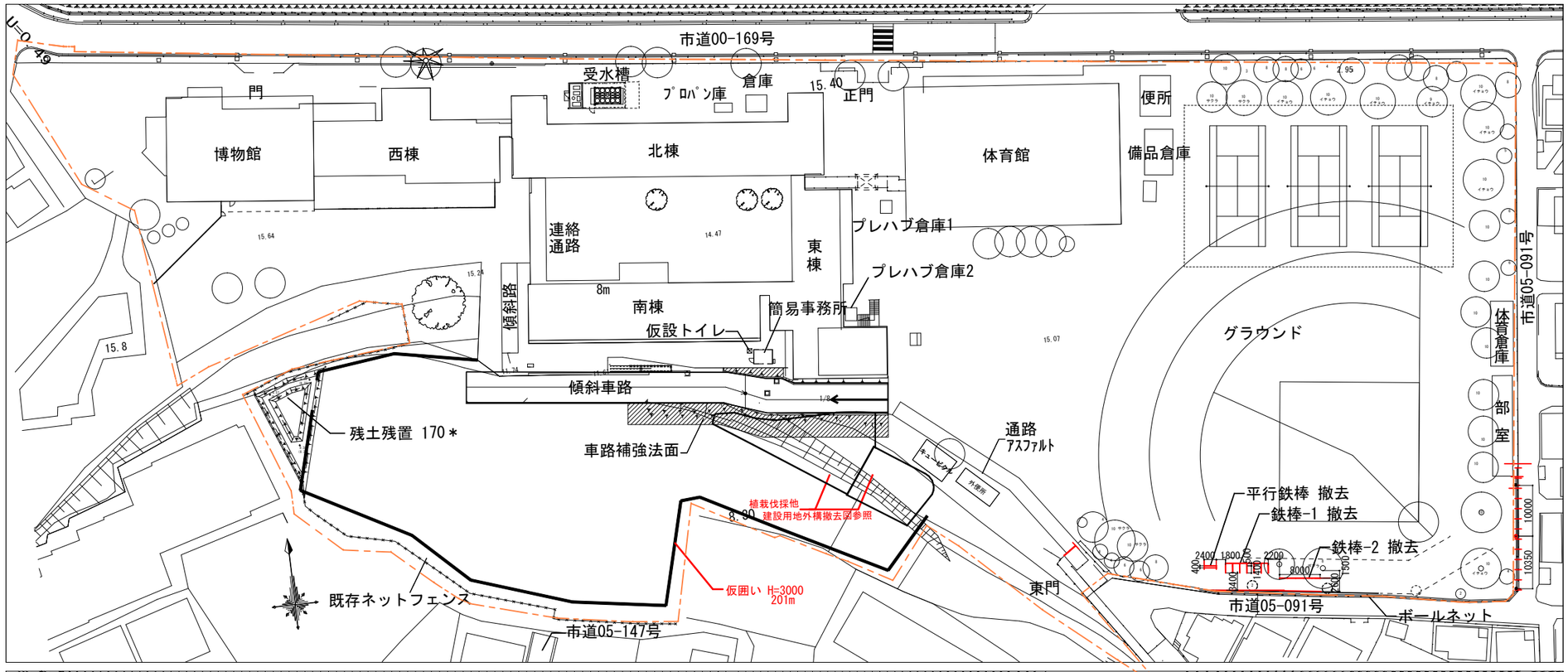
工期		工事概要	
着工 令和 8年4月		建築面積 1,547.98㎡	延床面積 5,981.06㎡
竣工 令和10年6月30日		地上 RC造 , 地下 RC造 学校	
暦日数 821	工期率 100	階数 地下2F, 地上3F, PH1F	



株式会社 大建設計 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和	図面名	工事工程表（参考図）	縮尺 —	参仮-01
	設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春		船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(149/224)

■ STEP 1 配置図
S=1/500

・現況図
・準備工事
・支障物撤去

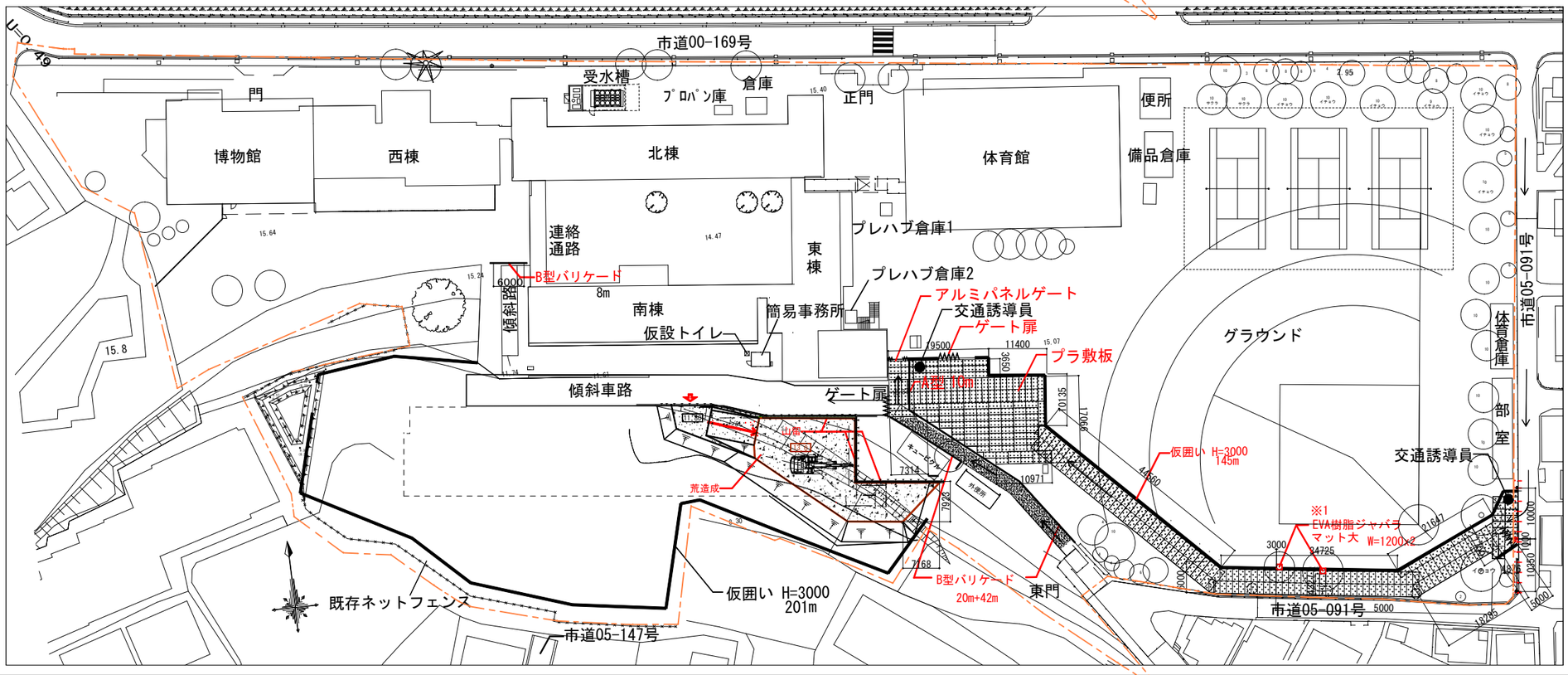


■ STEP 2 配置図
S=1/500

・博物館側動線プラ敷板設置、一部フェンス撤去開口部B型バリケード

・鋼矢板及び1段目

アースアンカー作業用荒造成面構築



〈 凡例 〉

	仮囲い フラットパネル H=3.0m
	仮囲いB型バリケード H=1.8m
	仮囲いA型バリケード H=0.8m
	アルミキャスターゲート W=7.2m 、 H=2.0m
	アルミパネルゲート W=3.8m 、 H=4.3m
	プラ敷板 2438x1219
	敷鉄板 1524x6096x22 1524x3048x22
	敷鉄板 914x1829x22
	地盤改良 セメント系固化剤 100kg/＊ t=1.0m
●	交通誘導員 延べ人数：1892人
←	生徒登下校ルート
←	車両ルート ※工事中の生徒動線は基本正門からのルートとする。
	重機進入ルート ※大型重機搬入は基本休日正門からのルートとする。
⇦	荒造成中の重機進入ルート

・敷き鉄板以外でアスファルト及びプラ敷板上に重機のアウトリガーを張り出す際は敷鉄板で必ず養生を行なうこと。

・登下校時は車両搬出入を制限し、生徒の安全な通行を確保すること。

・交通誘導員は躯体工事時は４人分、その他の時期は３人分の人員を見込むこと。

株式会社 大建設計
一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号

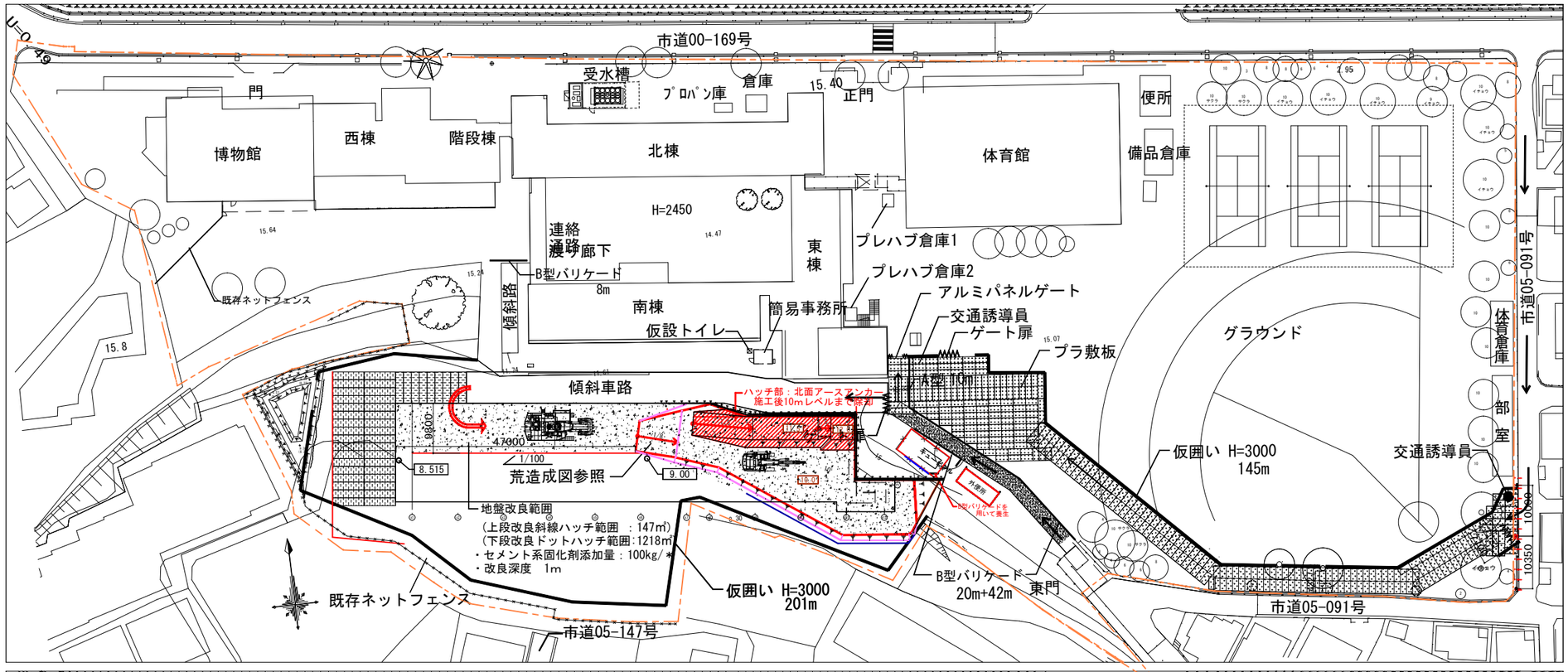
一級建築士	（第 274708号）	山岡 信弘
構造設計一級建築士	（第 6608号）	長坂 典和
設備設計一級建築士	（第 753号）	鈴木 光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	仮設工事 STEP 1・2（参考図）	縮尺 1/1000 (A3) 1/500 (A1)	参仮-02
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(150/224)

■ STEP 3 配置図
S=1/500

⇓

・鋼矢板及び2段目
アースアンカー作業
用荒造成面



■ STEP 4 配置図
S=1/500

・杭打機作業用地盤面
造成(地盤改良)

⇓

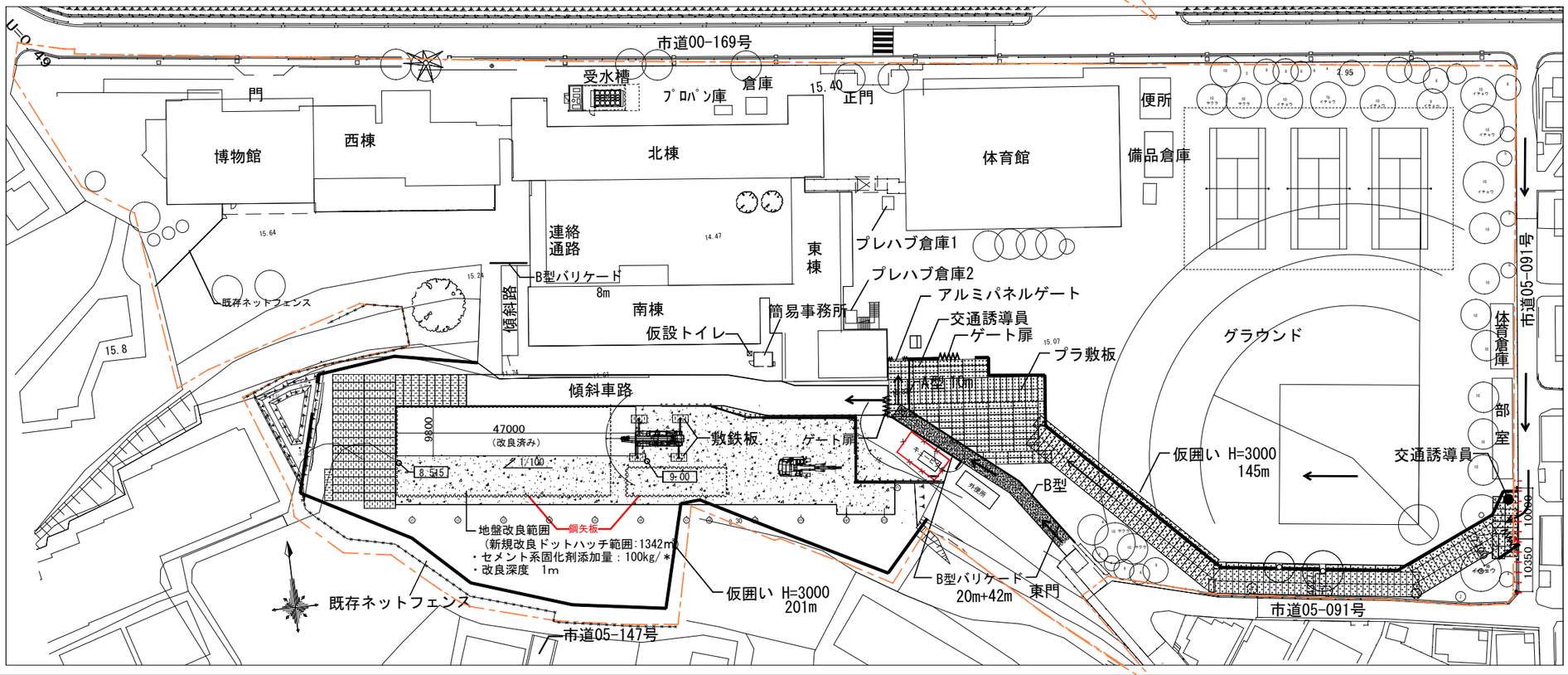
・敷地東(奥)側根切

⇓

・敷地中央部及び西側
鋼矢板打込み

⇓

・杭打設面構築



〈 凡例 〉

━━	仮囲い フラットパネル H=3.0m
──	仮囲いB型バリケード H=1.8m
──	仮囲いA型バリケード H=0.8m
⩘⩘⩘	アルミキャスターゲート W=7.2m 、 H=2.0m
⩘ ⩘	アルミパネルゲート W=3.8m 、 H=4.3m
▪▪▪	プラ敷板 2438x1219
▒▒▒	敷鉄板 1524x6096x22 1524x3048x22
▒▒▒	敷鉄板 914x1829x22
▒▒▒	地盤改良 セメント系固化剤 100kg/＊ t=1.0m
●	交通誘導員 延べ人数：1892人
←	生徒登下校ルート
←	車両ルート ※工事中の生徒動線は基本正門からのルートとする。
	重機進入ルート ※大型重機搬入は基本休日正門からのルートとする。
⇦	荒造成中の重機進入ルート

・敷き鉄板以外でアスファルト及びプラ敷板上に重機のアウトリガーを張り出す際は敷鉄板で必ず養生を行なうこと。

・登下校時は車両搬出入を制限し、生徒の安全な通行を確保すること。

・交通誘導員は躯体工事時は４人分、その他の時期は３人分の人員を見込むこと。

株式会社 大建設計
一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号

一級建築士	(第 274708号)	山岡 信弘
構造設計一級建築士	(第 6608号)	長坂 典和
設備設計一級建築士	(第 753号)	鈴木 光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	仮設工事 STEP 3・4 (参考図)	縮尺 1/1000 (A3) 1/500 (A1)	参仮-03
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(151/224)

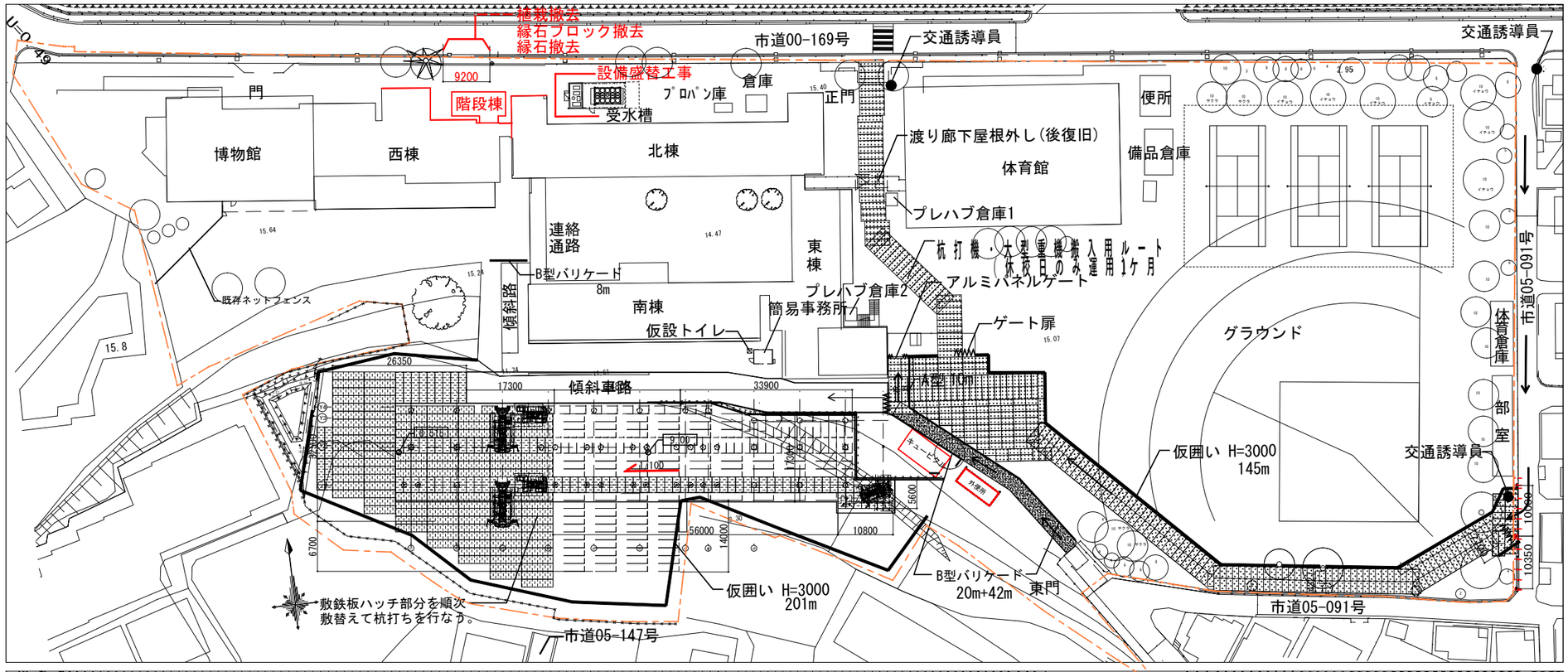
■ STEP 5 配置図
S=1/500

新校舎棟
・杭打機作業用敷鉄板
大型施工機械
既成杭搬入は南側から

⇓

・杭打ち
敷鉄板敷き替え
産廃土搬出

階段棟
・施工準備
・設備盛替え工事
基礎他工事ー建築
（改修図参照）

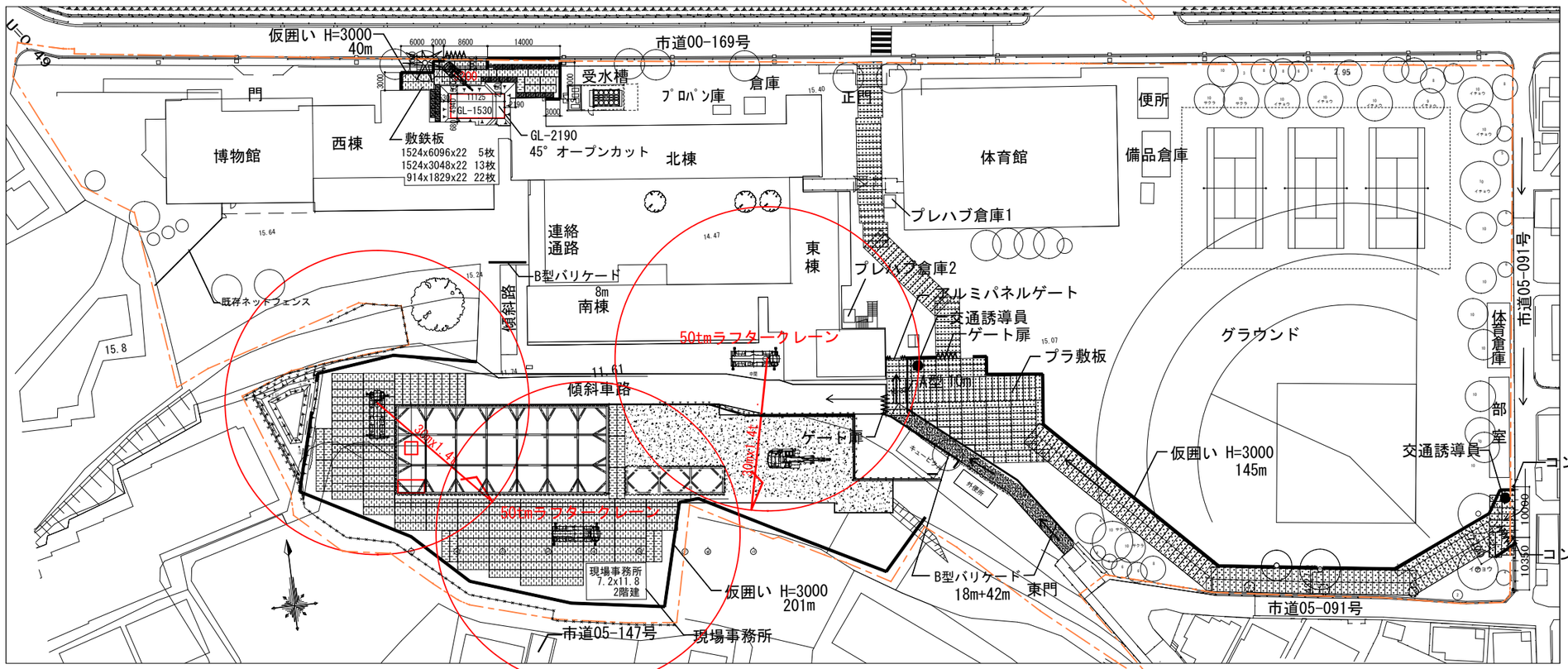


■ STEP 6 配置図
S=1/500

新校舎棟
・基礎掘削工事
敷地東側より施工
残土搬出
必要に応じ南側活用
・現場事務所設営

階段棟
・杭工事
・土工事

・ラフタークレーン
3台



〈 凡例 〉

━━	仮囲い フラットパネル H=3.0m
──	仮囲いB型バリケード H=1.8m
──	仮囲いA型バリケード H=0.8m
⩘⩘⩘	アルミキャスターゲート W=7.2m 、 H=2.0m
⩘ ⩘	アルミパネルゲート W=3.8m 、 H=4.3m
	プラ敷板 2438x1219
	敷鉄板 1524x6096x22 1524x3048x22
	敷鉄板 914x1829x22
●	交通誘導員 延べ人数：1892人
←	生徒登下校ルート
←	車両ルート ※工事中の生徒動線は基本正門からのルートとする。
	重機進入ルート ※大型重機搬入は基本休日正門からのルートとする。

・敷き鉄板以外でアスファルト及びプラ敷板上に重機のアウトリガーを張り出す際は敷鉄板で必ず養生を行なうこと。

・登下校時は車両搬出入を制限し、生徒の安全な通行を確保すること。

・交通誘導員は躯体工事時は４人分、その他の時期は３人分の人員を見込むこと。

株式会社 大建設計
一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号

一級建築士 （第 274708号） 山岡 信弘
構造設計一級建築士（第 6608号） 長坂 典和
設備設計一級建築士（第 753号） 鈴木 光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	仮設工事 STEP 5・6（参考図）	縮尺 1/1000(A3) 1/500(A1)	参仮-04
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(152/224)

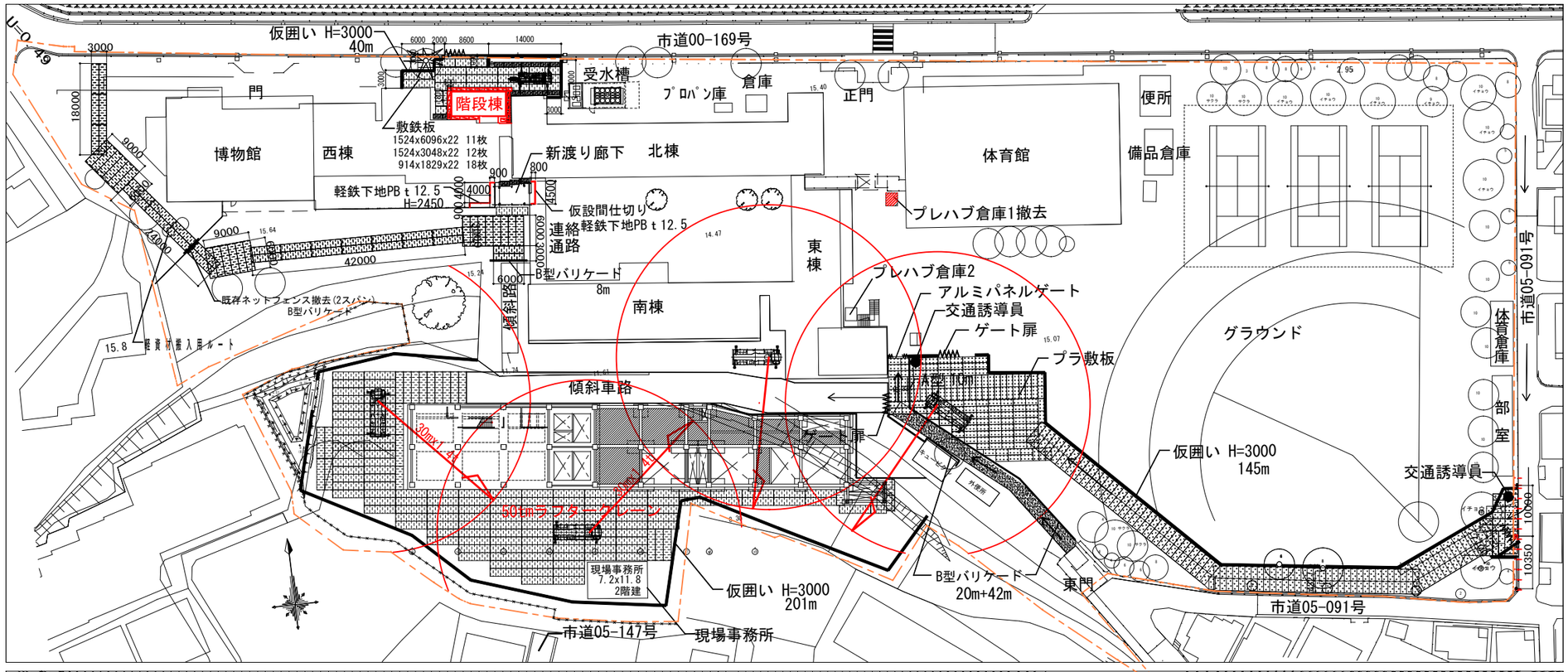
■ STEP 7 配置図
S=1/500

新校舎棟
- 基礎廻り施工
- 地下ピット
  一部埋め戻し

階段棟
- 基礎工事
- 鉄骨工事

新渡り廊下
- 準備工事

- ラフタークレーン
  4台



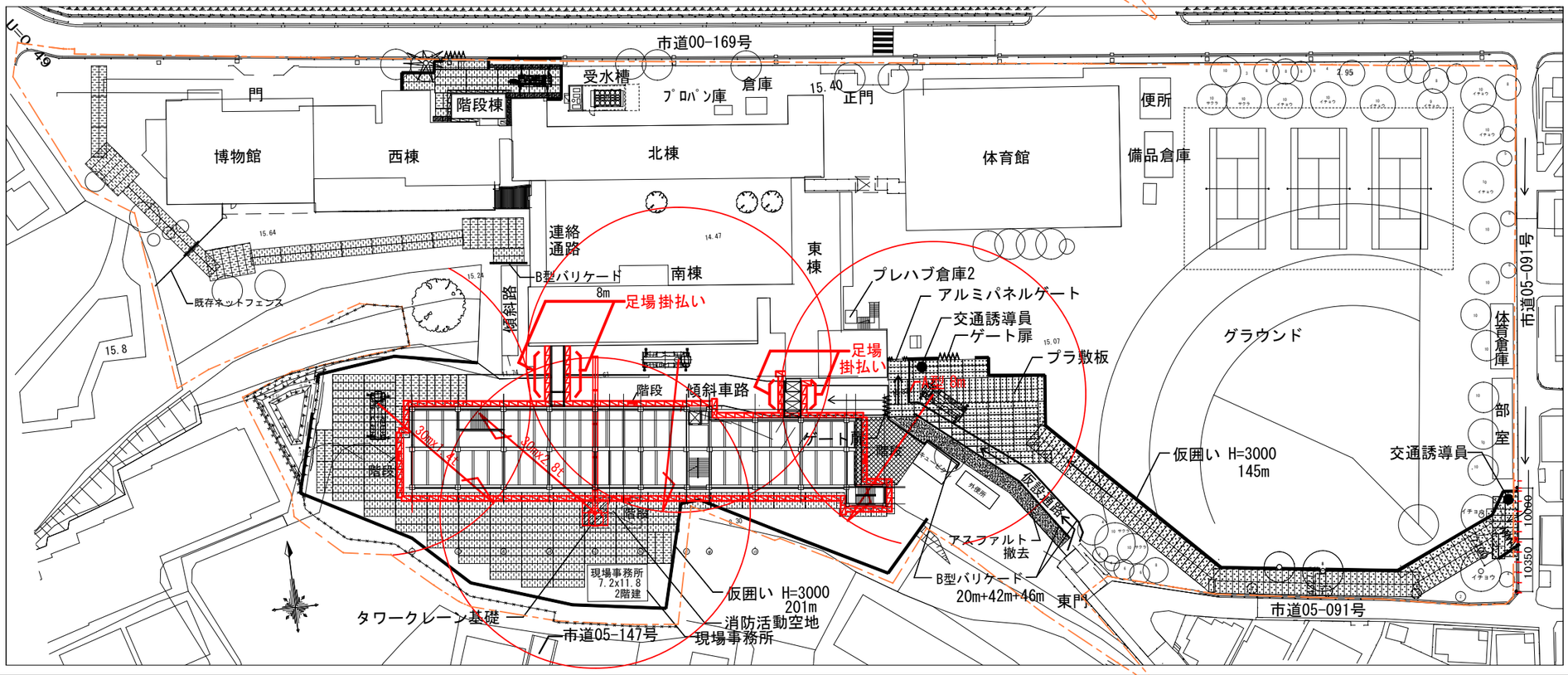
■ STEP 8 配置図
S=1/500

新校舎棟
- 枠組み足場組み上げ
- 校舎躯体組み上げ
- 内装・設備工事
- 空中歩廊組み上げ
- 屋上防水工事

階段棟
- 鉄骨工事
- 足場工事
- 外装工事
- EV工事
- 内装工事
- 既存棟接続工事

新渡り廊下
- 完成

- ラフタークレーン
  3台
- タワークレーン
  1台



〈 凡例 〉

	仮囲い フラットパネル H=3.0m
	仮囲いB型バリケード H=1.8m
	仮囲いA型バリケード H=0.8m
	アルミキャスターゲート W=7.2m 、 H=2.0m
	アルミパネルゲート W=3.8m 、 H=4.3m
	プラ敷板 2438x1219
	敷鉄板 1524x6096x22 1524x3048x22
	敷鉄板 914x1829x22
	枠組足場 600x1200x1675h 外周部防音シート張り
●	交通誘導員 延べ人数：1892人
←	生徒登下校ルート
←	車両ルート ※工事中の生徒動線は基本正門からのルートとする。
	重機進入ルート ※大型重機搬入は基本休日正門からのルートとする。

- 敷き鉄板以外でアスファルト及びプラ敷板上に重機のアウトリガーを張り出す際は敷鉄板で必ず養生を行なうこと。
- 登下校時は車両搬出入を制限し、生徒の安全な通行を確保すること。
- 交通誘導員は躯体工事時は４人分、その他の時期は３人分の人員を見込むこと。

株式会社 大建設計
一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号
一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘
構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和
設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	仮設工事 STEP 7・8 (参考図)	縮尺 1/1000(A3) 1/500(A1)	参仮-05
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(153/224)

■ STEP 9 配置図
S=1/500

新校舎棟
- 内装・設備工事
- 屋上設備機器設置
- タワークレーン
  解体・撤去

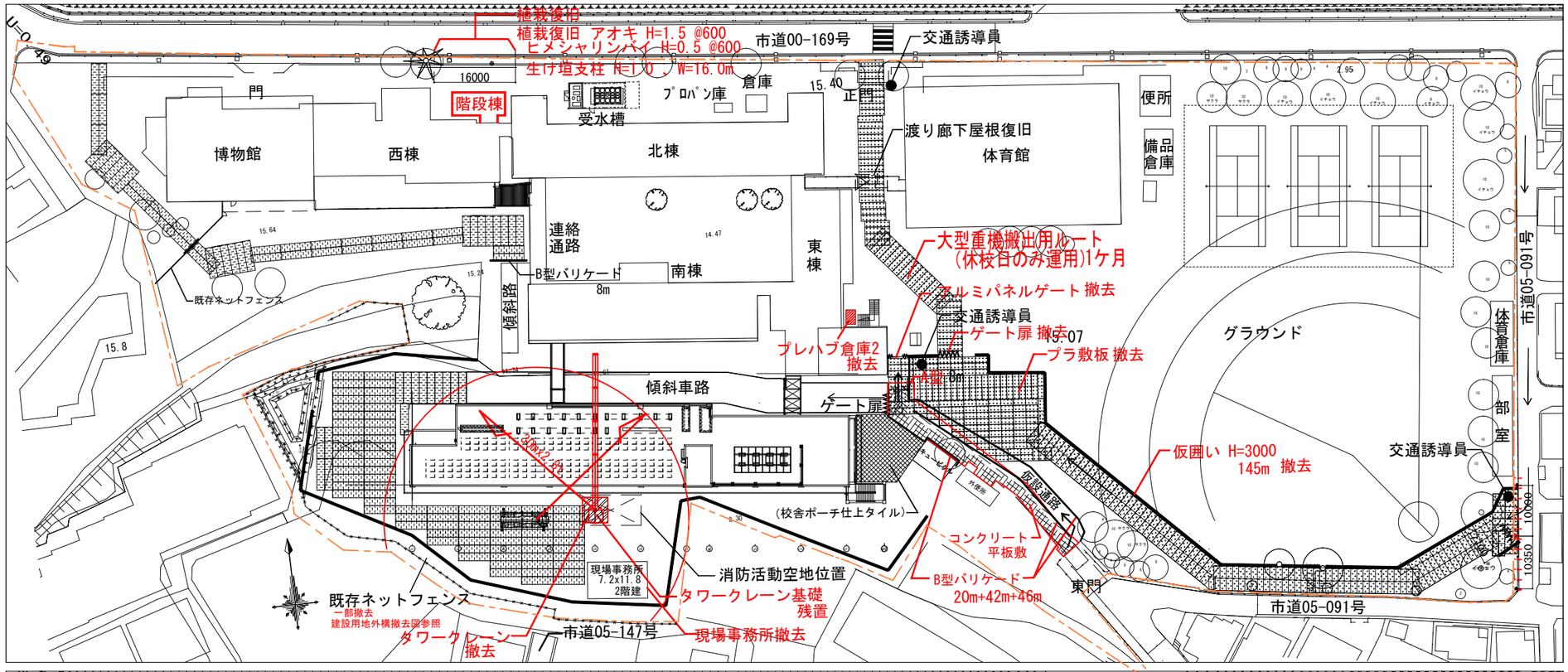
階段棟
- 仮設復旧工事
- 試運転、完成

付属建屋撤去
- プレハブ倉庫2

仮設撤去
- プラ敷板・敷鉄板
  撤去
- 仮囲い撤去
- 現場事務所

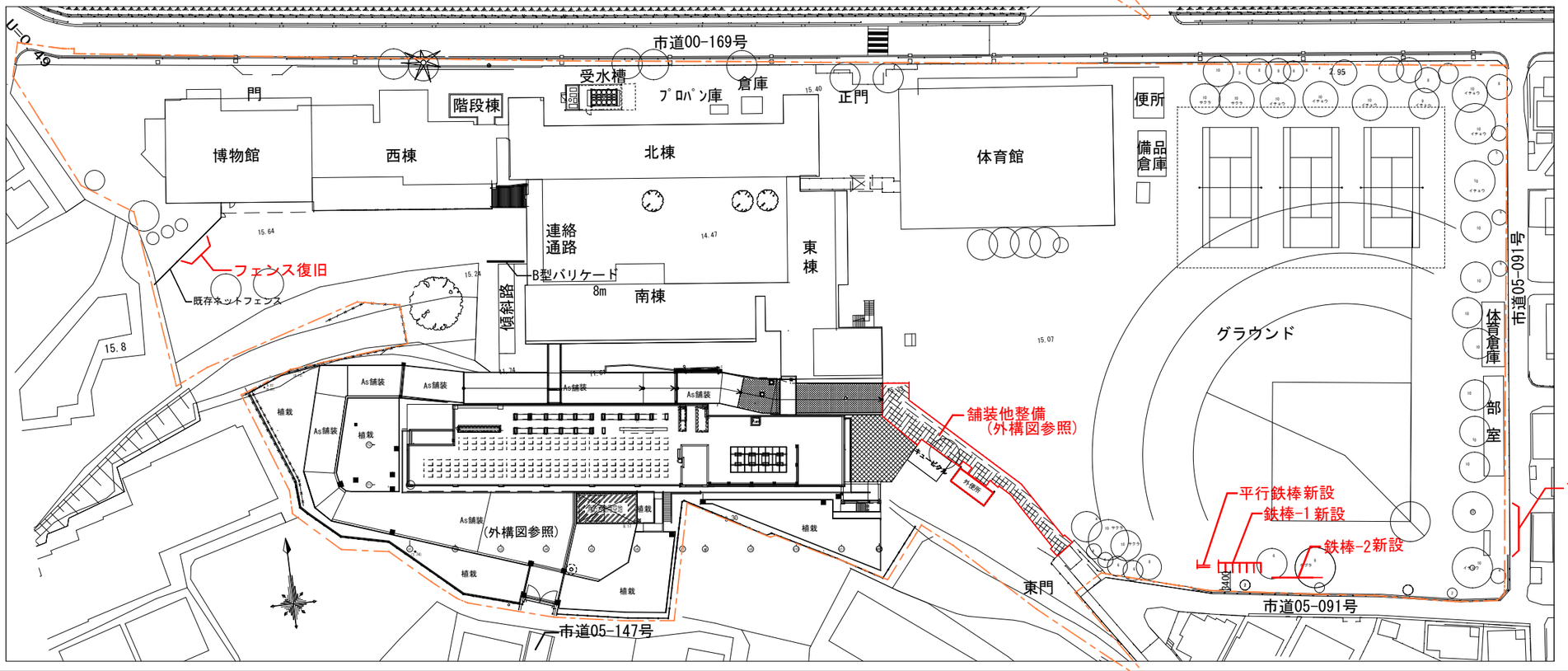
既存フェンス一部撤去

- ラフタークレーン
  1台
- タワークレーン
  1台



■ STEP 10 配置図
S=1/500

- 内装・設備工事
- 外構・排水設備施工
- 植栽工事
- 搬入動線撤去物復旧
  フェンス
  鉄棒、平行棒（新設）
- 仮使用検査



〈 凡例 〉

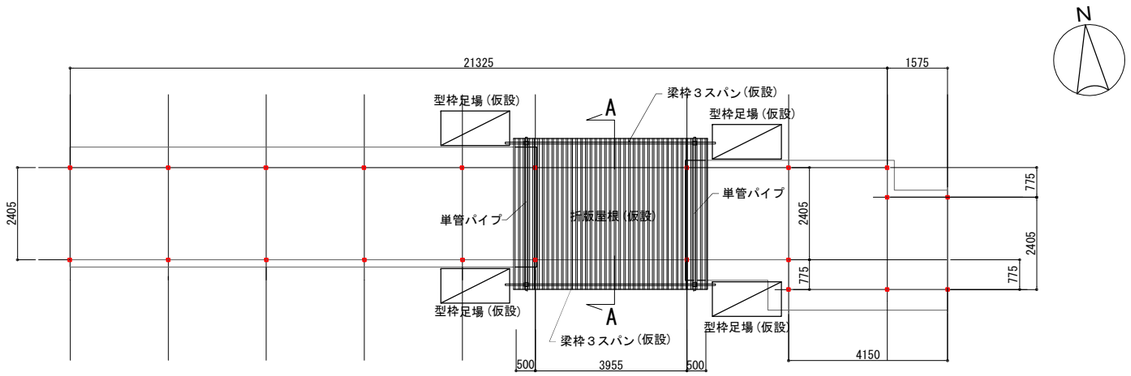
	仮囲い フラットパネル H=3.0m
	仮囲いB型バリケード H=1.8m
	仮囲いA型バリケード H=0.8m
	アルミキャスターゲート W=7.2m 、 H=2.0m
	アルミパネルゲート W=3.8m 、 H=4.3m
	プラ敷板 2438x1219
	敷鉄板 1524x6096x22 1524x3048x22
	敷鉄板 914x1829x22
●	交通誘導員 延べ人数：1892人
←	生徒登下校ルート
←	車両ルート ※工事中の生徒動線は基本正門からのルートとする。
	重機進入ルート ※大型重機搬入は基本休日正門からのルートとする。

- 敷き鉄板以外でアスファルト及びプラ敷板上に重機のアウトリガーを張り出す際は敷鉄板で必ず養生を行なうこと。
- 登下校時は車両搬出入を制限し、生徒の安全な通行を確保すること。
- 交通誘導員は躯体工事時は４人分、その他の時期は３人分の人員を見込むこと。

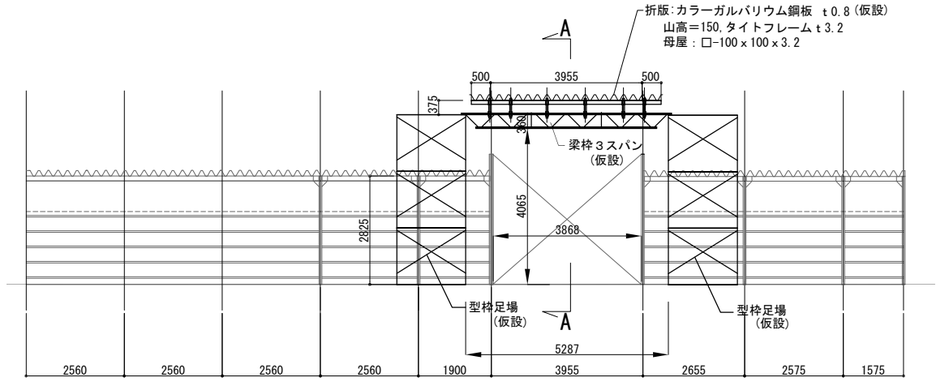
株式会社 大建設計 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事
	構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和	図面名	仮設工事 STEP 9・10（参考図） 縮尺 1/1000(A3) 1/500(A1)
	設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春		船橋市建設局建築部建築課 令和7年度

図面番号 参仮-06 (154/224)

渡り廊下　撤去・復旧図

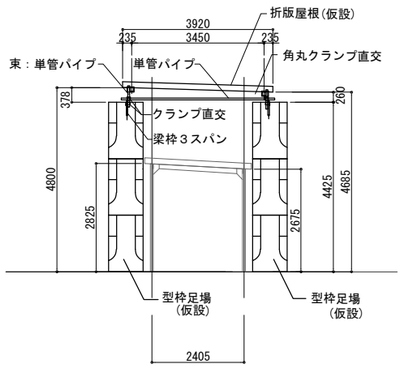


平面図

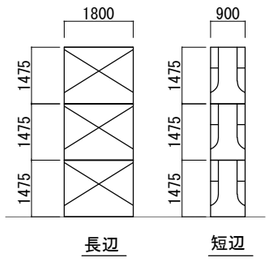


南立面図

	構造・仕上・仕様
構造	軽鉄造
屋根	折版屋根　t=0.8　H=150
外壁	風除け板：ポリカーボネイト
床	コンクリート金コテ押え
壁	風除け板：ポリカーボネイト
天井	直天
備考	



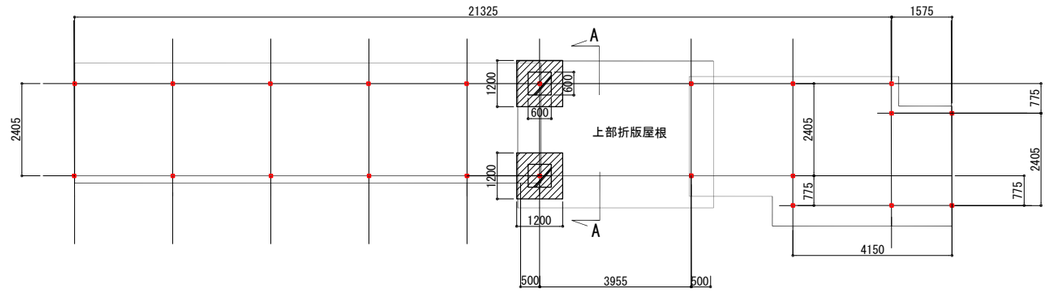
A-A 断面図



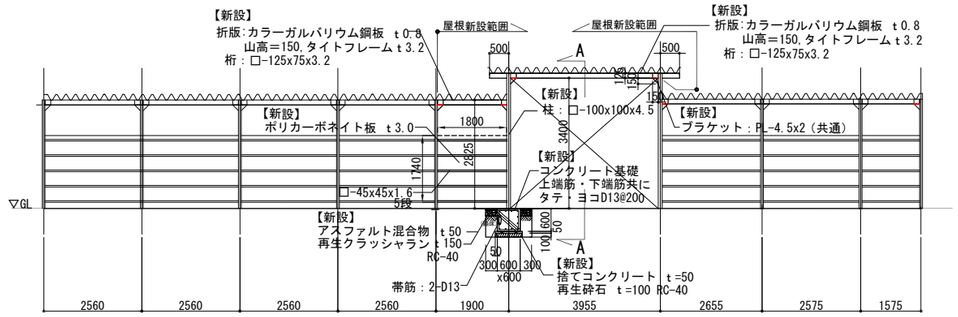
枠組足場　姿図

渡り廊下　仮設図

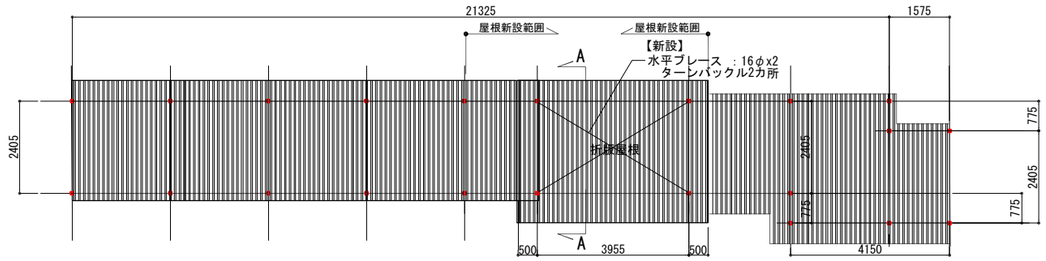
屋根伏せ図

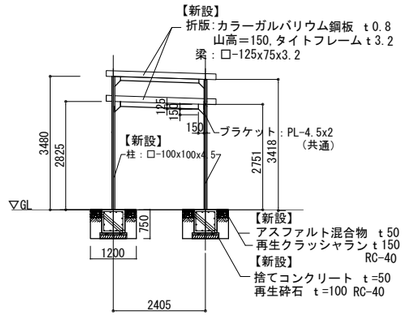


平面図



南立面図

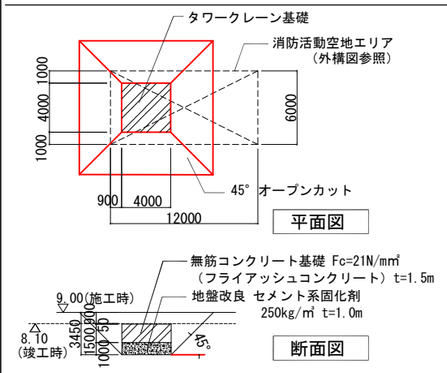




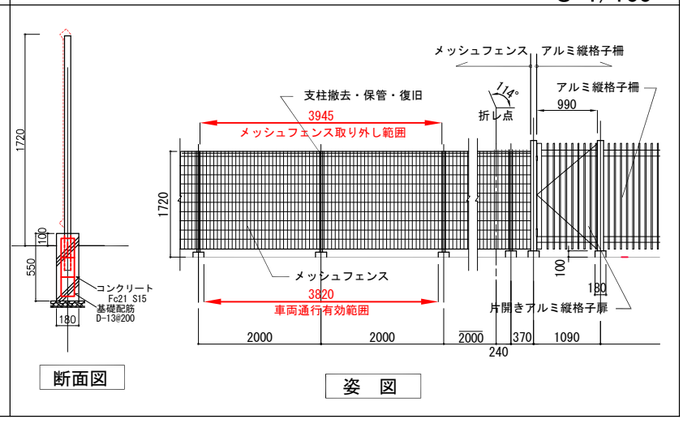
A-A 断面図

株式会社 大建設計 技にこころを 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和	図面名	**渡り廊下撤去復旧、仮設図（参考図）**	縮尺 1/80 (A3) 1/40 (A1)	参仮-07
	設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春		船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(155/224)

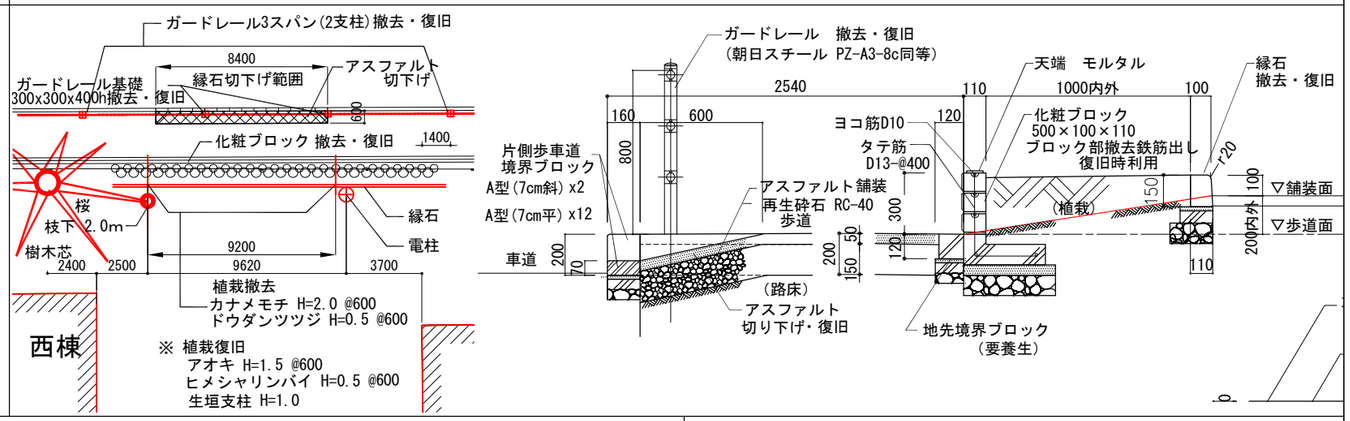
タワークレーン基礎詳細 S=1/50



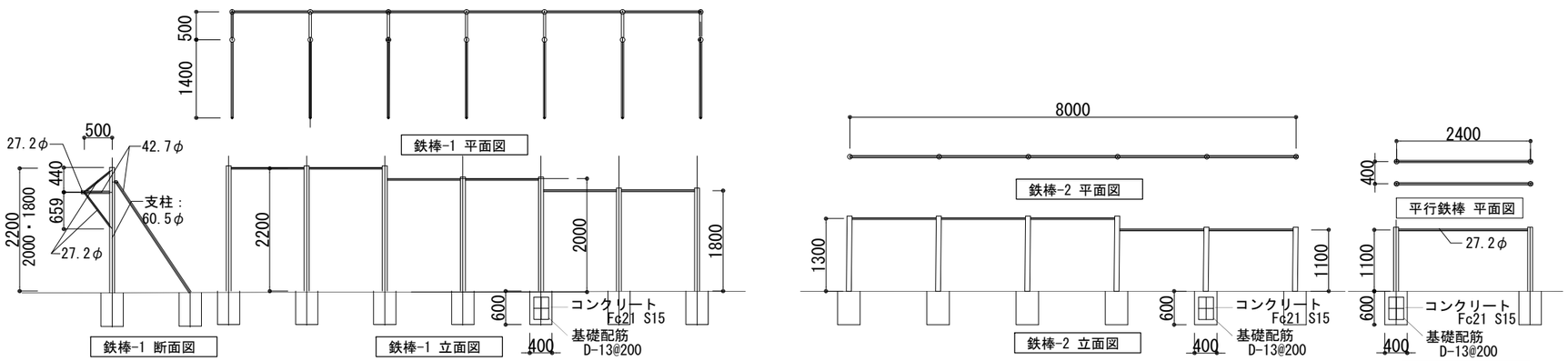
博物館側搬入口 既存フェンス撤去詳細図 S=1/50 S=1/100



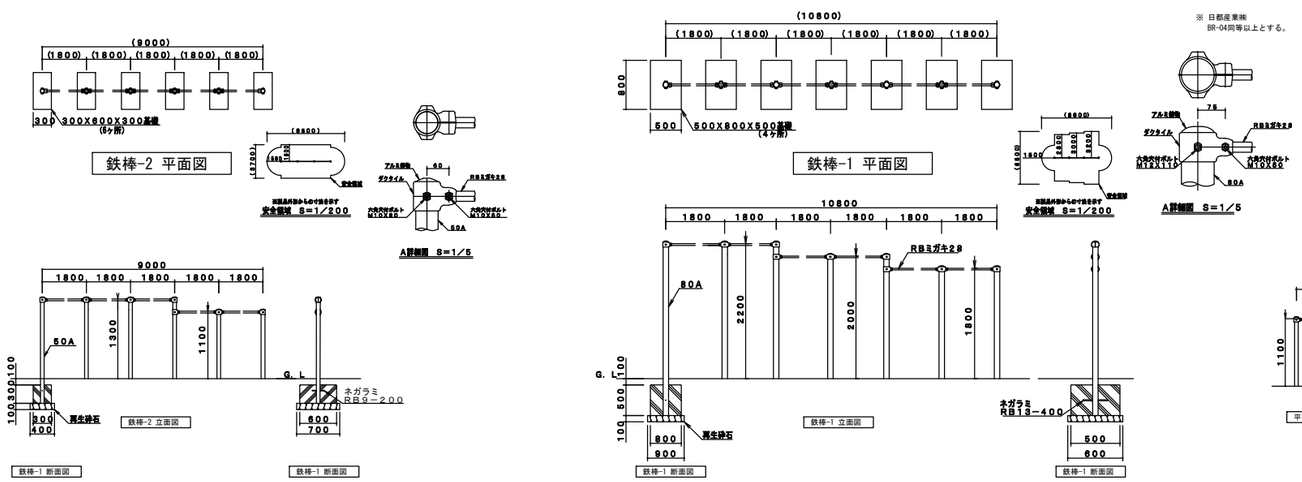
階段棟前植栽縁石撤去・復旧 詳細 S=1/300・30



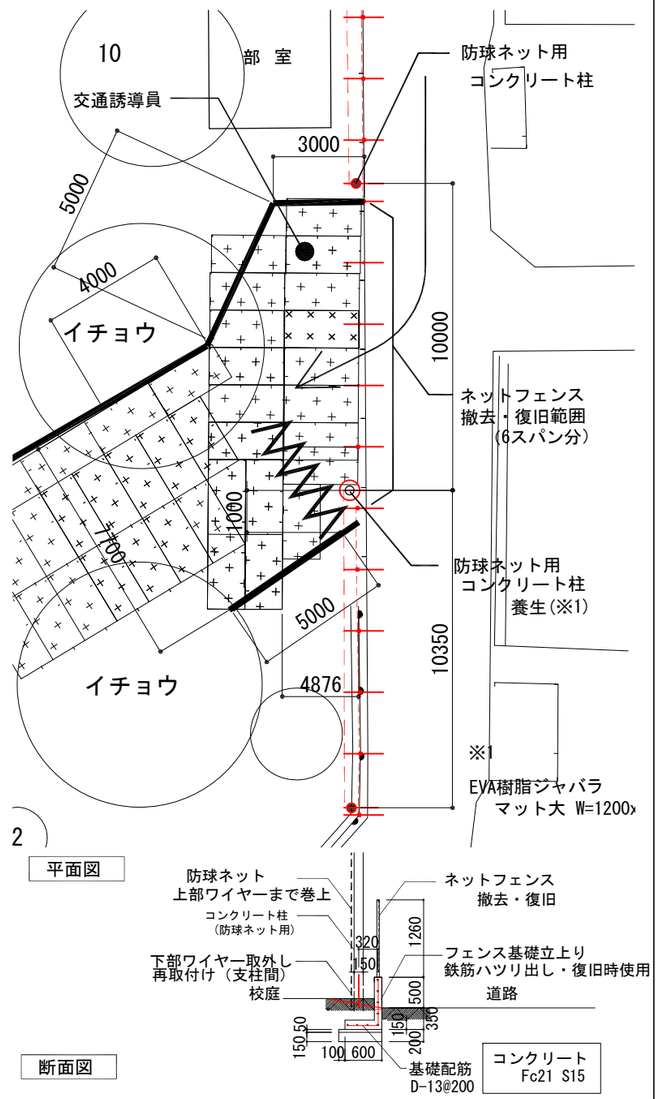
鉄棒 撤去 S=1/100



鉄棒 新設 S=1/100



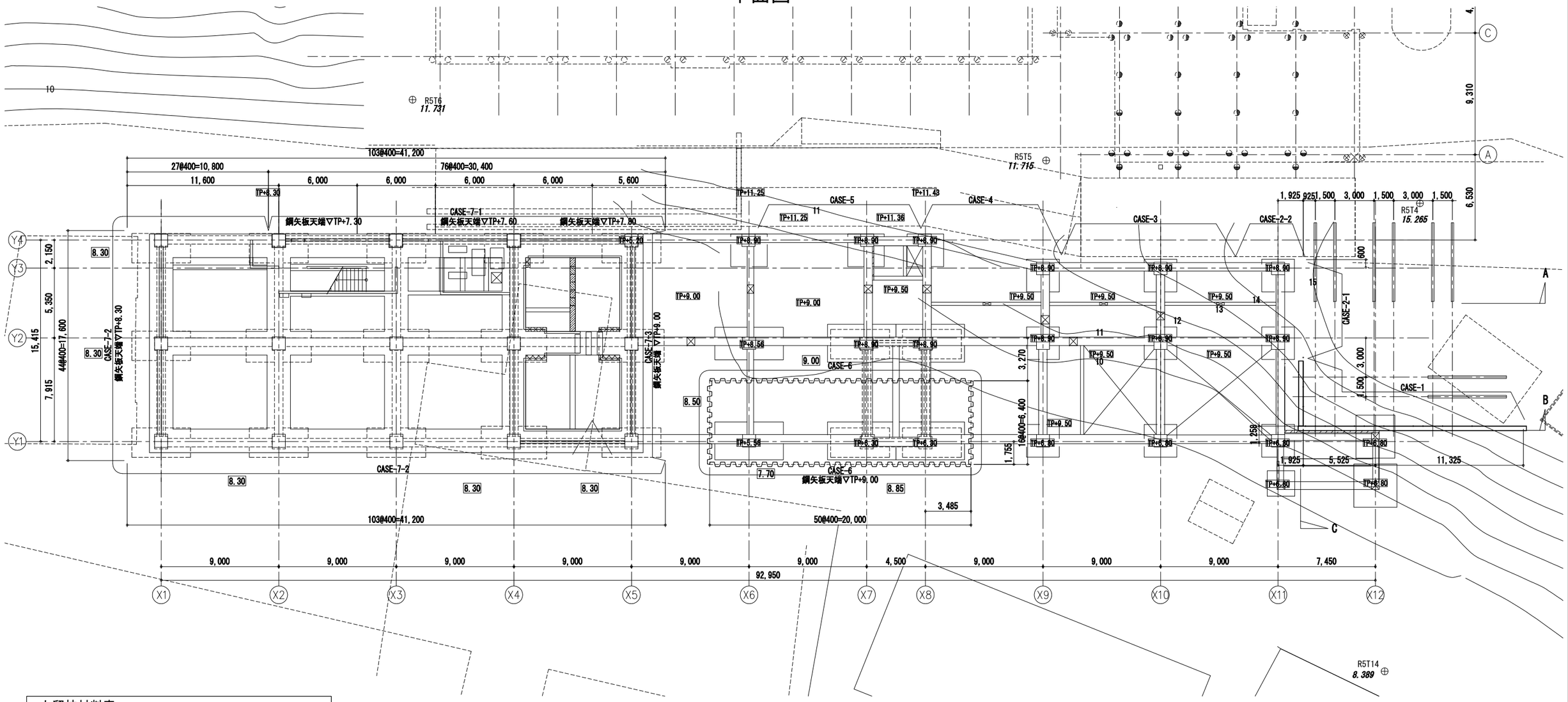
校庭東側搬入口 既存干渉物撤去詳細図 S=1/100



株式会社 大建設計 技にこころを 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘 構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和 設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
		図面名	仮設工事詳細図（参考図）	縮尺 図示	参仮-08
			船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(156/224)

土留め計画図

平面図



山留杭材料表

	サイズ	ピッチ	杭長	杭天端(TP)	杭下端(TP)
CASE-1	親　杭　H-350x350x12x19	@1500	L=15,000	+15.370	+0.370
CASE-2-1	親　杭　H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-2-2	親　杭　H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-3	親　杭　H-350x350x12x19	@1500	L=9,500	+14.180	+4.680
CASE-4	親　杭　H-400x400x13x21	@1200	L=11,000	+12.380	+1.380
CASE-5	親　杭　H-300x300x10x15	@1500	L=8,500	+11.360	+2.860
CASE-6	鋼矢板　Ⅳ型		L=10,500	+9.000	-1.500
CASE-7-1	鋼矢板　Ⅳ型		L=11,500	+7.800	-3.700
CASE-7-2	鋼矢板　Ⅳ型		L=12,000	+8.300	-3.700
CASE-7-3	鋼矢板　Ⅳ型		L=13,000	+9.000	-4.000

アンカー部材表

CASE	段数	アンカー位置 (m)	支点反力 R(kN/m)	設計荷重 T(kN)	ピッチ @(m)	角度 θ(°)	自由長 Lf(m)	定着長 La(m)	アンカー長 L(m)	腹起サイズ
CASE-1	1段目	TP+13.63	74.92	238.39	2.25	45°	18.00	5.00	23.00	2H-300
	2段目	TP+10.43	133.27	424.06	2.25	45°	13.50	8.50	22.00	2H-350
CASE-2-1	1段目	TP+12.88	90.69	384.77	3.00	45°	17.00	8.00	25.00	2H-350
CASE-2-2	1段目	TP+12.88	90.69	288.57	2.25	45°	8.50	6.00	14.50	2H-350
CASE-3	1段目	TP+12.13	64.37	204.82	2.25	45°	7.50	4.50	12.00	2H-300
備　考										

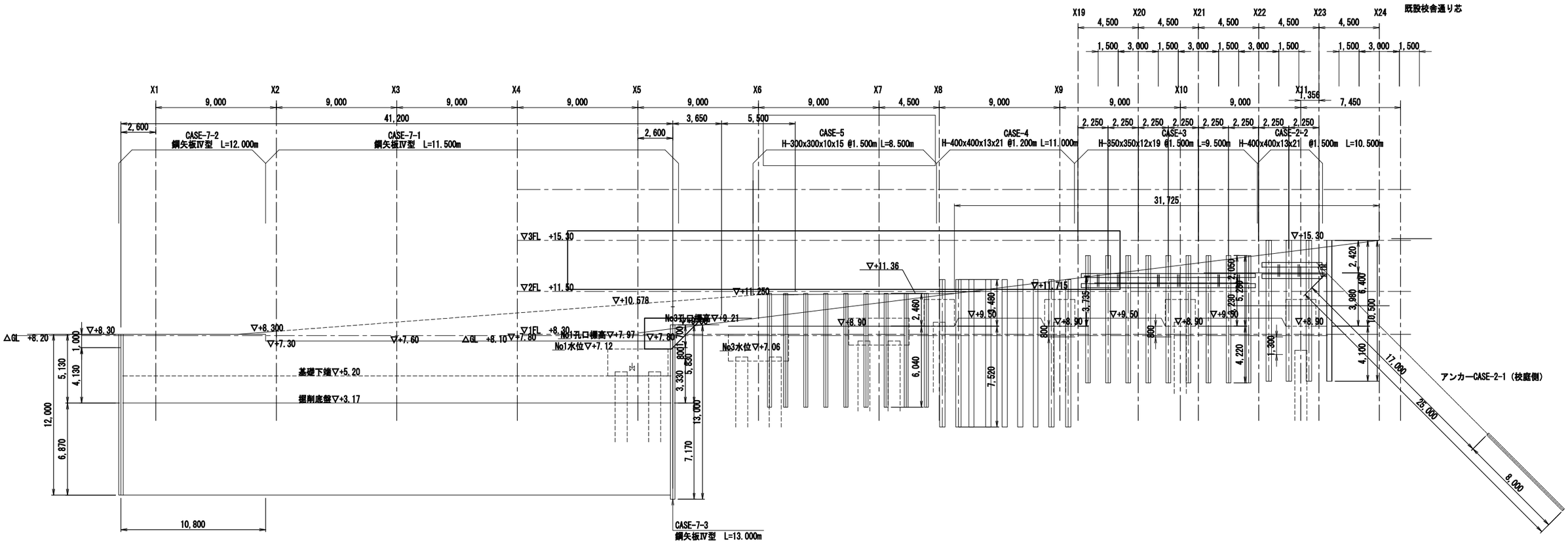
技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

一級建築士　(第 274708号)　山岡　信弘
構造設計一級建築士(第 6608号)　長坂　典和
設備設計一級建築士(第 753号)　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	土留め計画図 (1) (参考図)	縮尺 1:200(A3) 1:100(A1)	参仮-09
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(157/224)

土留め計画図

Ａ側面図



山留杭材料表

	サイズ	ピッチ	杭長	杭天端(TP)	杭下端(TP)
CASE-1	親杭 H-350x350x12x19	@1500	L=15,000	+15.370	+0.370
CASE-2-1	親杭 H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-2-2	親杭 H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-3	親杭 H-350x350x12x19	@1500	L=9,500	+14.180	+4.680
CASE-4	親杭 H-400x400x13x21	@1200	L=11,000	+12.380	+1.380
CASE-5	親杭 H-300x300x10x15	@1500	L=8,500	+11.360	+2.860
CASE-6	鋼矢板 Ⅳ型		L=10,500	+9.000	-1.500
CASE-7-1	鋼矢板 Ⅳ型		L=11,500	+7.800	-3.700
CASE-7-2	鋼矢板 Ⅳ型		L=12,000	+8.300	-3.700
CASE-7-3	鋼矢板 Ⅳ型		L=13,000	+9.000	-4.000

アンカー部材表

CASE	段数	アンカー位置 (m)	支点反力 R(kN/m)	設計荷重 T(kN)	ピッチ @(m)	角度 θ(°)	自由長 Lf(m)	定着長 La(m)	アンカー長 L(m)	腹起サイズ
CASE-1	1段目	TP+13.63	74.92	238.39	2.25	45°	18.00	5.00	23.00	2H-300
	2段目	TP+10.43	133.27	424.06	2.25	45°	13.50	8.50	22.00	2H-350
CASE-2-1	1段目	TP+12.88	90.69	384.77	3.00	45°	17.00	8.00	25.00	2H-350
CASE-2-2	1段目	TP+12.88	90.69	288.57	2.25	45°	8.50	6.00	14.50	2H-350
CASE-3	1段目	TP+12.13	64.37	204.82	2.25	45°	7.50	4.50	12.00	2H-300
備考										

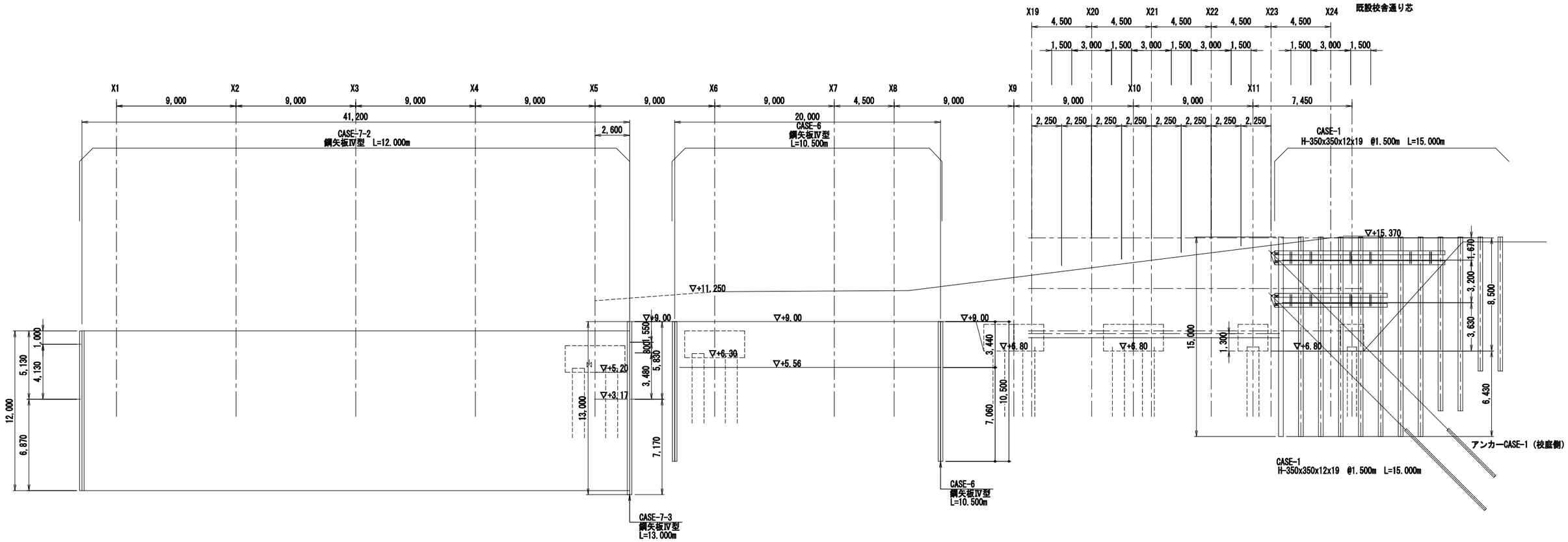
技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号

一級建築士 （第 274708号） 山岡 信弘
構造設計一級建築士（第 6608号） 長坂 典和
設備設計一級建築士（第 753号） 鈴木 光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	土留め計画図（2）（参考図）	縮尺 1:200(A3) 1:100(A1)	参仮-10
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(158/224)

土留め計画図

B側面図



山留杭材料表

	サイズ	ピッチ	杭長	杭天端(TP)	杭下端(TP)
CASE-1	親杭 H-350x350x12x19	@1500	L=15,000	+15.370	+0.370
CASE-2-1	親杭 H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-2-2	親杭 H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-3	親杭 H-350x350x12x19	@1500	L=9,500	+14.180	+4.680
CASE-4	親杭 H-400x400x13x21	@1200	L=11,000	+12.380	+1.380
CASE-5	親杭 H-300x300x10x15	@1500	L=8,500	+11.360	+2.860
CASE-6	鋼矢板 Ⅳ型		L=10,500	+9.000	-1.500
CASE-7-1	鋼矢板 Ⅳ型		L=11,500	+7.800	-3.700
CASE-7-2	鋼矢板 Ⅳ型		L=12,000	+8.300	-3.700
CASE-7-3	鋼矢板 Ⅳ型		L=13,000	+9.000	-4.000

アンカー部材表

CASE	段数	アンカー位置 (m)	支点反力 R(kN/m)	設計荷重 T(kN)	ピッチ @(m)	角度 θ(°)	自由長 Lf(m)	定着長 La(m)	アンカー長 L(m)	腹起サイズ
CASE-1	1段目	TP+13.63	74.92	238.39	2.25	45°	18.00	5.00	23.00	2H-300
	2段目	TP+10.43	133.27	424.06	2.25	45°	13.50	8.50	22.00	2H-350
CASE-2-1	1段目	TP+12.88	90.69	384.77	3.00	45°	17.00	8.00	25.00	2H-350
CASE-2-2	1段目	TP+12.88	90.69	288.57	2.25	45°	8.50	6.00	14.50	2H-350
CASE-3	1段目	TP+12.13	64.37	204.82	2.25	45°	7.50	4.50	12.00	2H-300
備考										

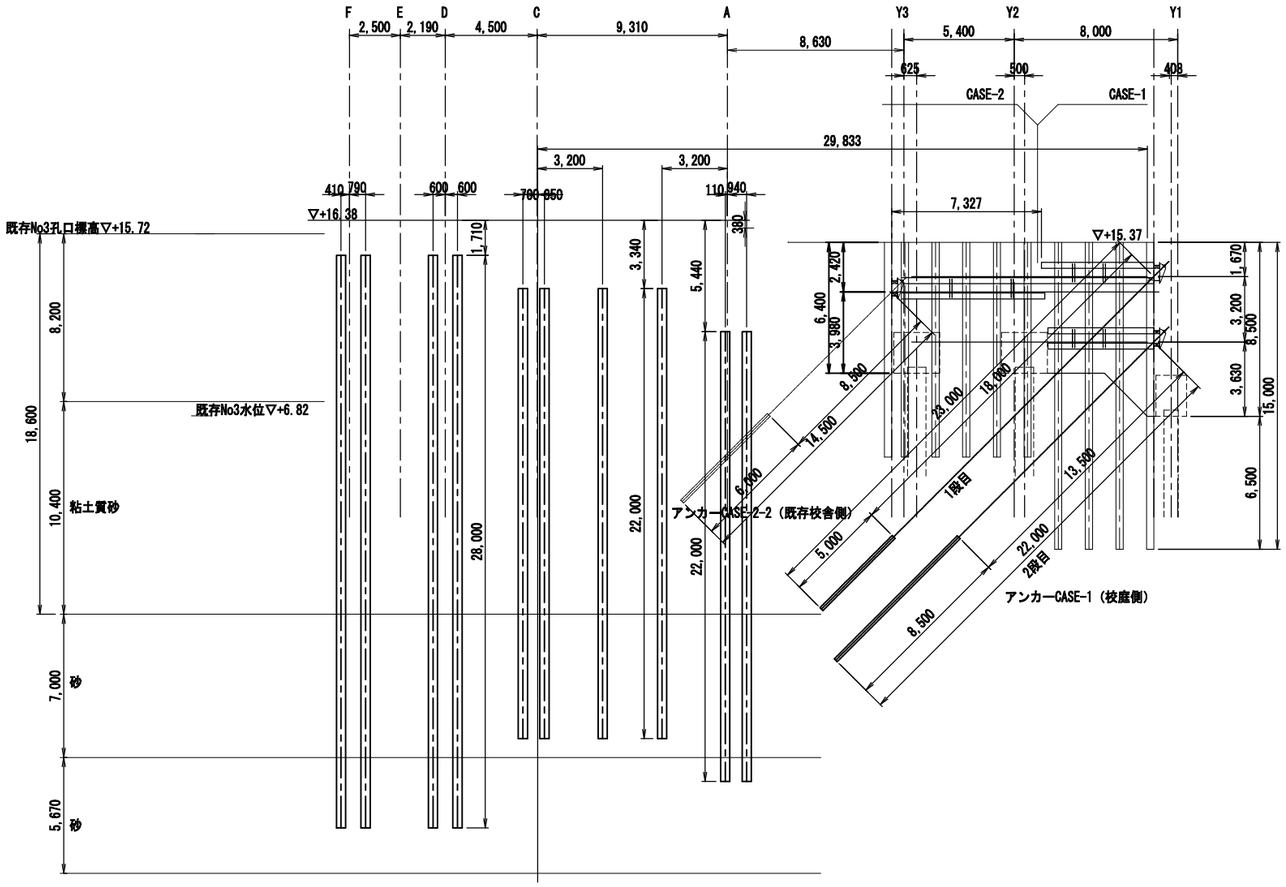
株式会社 大建設計
技にこころを
一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号

一級建築士 （第 274708号） 山岡 信弘
構造設計一級建築士（第 6608号） 長坂 典和
設備設計一級建築士（第 753号） 鈴木 光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	土留め計画図（3）（参考図）	縮尺 1:200(A3) 1:100(A1)	参仮-11
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(159/224)

土留め計画図

Ｃ断面図



山留杭材料表

	サイズ	ピッチ	杭長	杭天端(TP)	杭下端(TP)
CASE-1	親　杭　H-350x350x12x19	@1500	L=15,000	+15.370	+0.370
CASE-2-1	親　杭　H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-2-2	親　杭　H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-3	親　杭　H-350x350x12x19	@1500	L=9,500	+14.180	+4.680
CASE-4	親　杭　H-400x400x13x21	@1200	L=11,000	+12.380	+1.380
CASE-5	親　杭　H-300x300x10x15	@1500	L=8,500	+11.360	+2.860
CASE-6	鋼矢板　Ⅳ型		L=10,500	+9.000	-1.500
CASE-7-1	鋼矢板　Ⅳ型		L=11,500	+7.800	-3.700
CASE-7-2	鋼矢板　Ⅳ型		L=12,000	+8.300	-3.700
CASE-7-3	鋼矢板　Ⅳ型		L=13,000	+9.000	-4.000

アンカー部材表

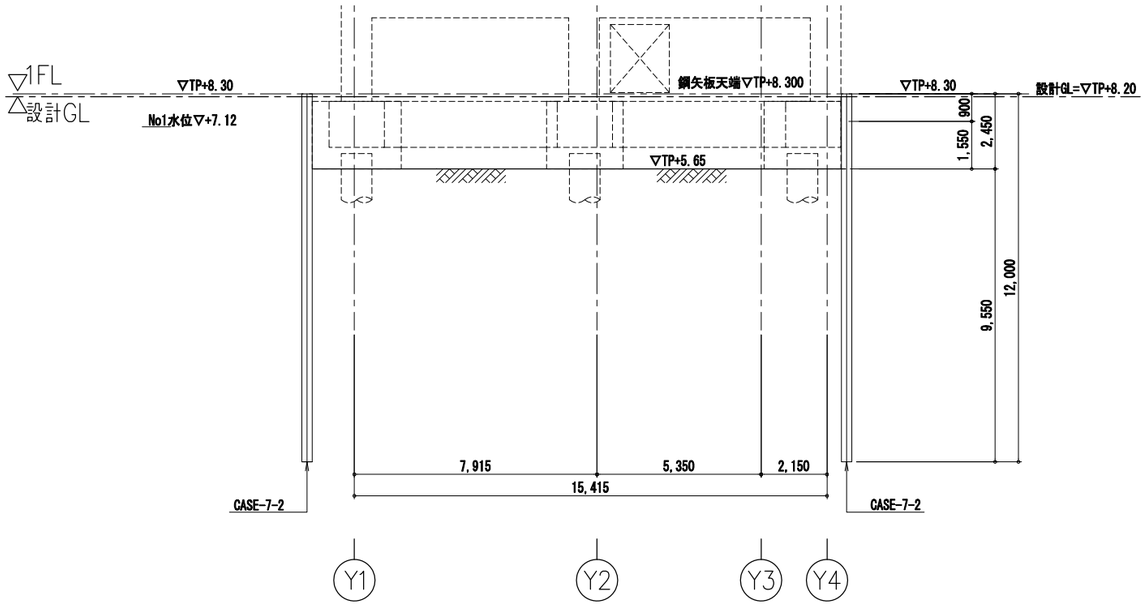
CASE	段数	アンカー位置 (m)	支点反力 R(kN/m)	設計荷重 T(kN)	ピッチ @(m)	角度 θ(°)	自由長 Lf(m)	定着長 La(m)	アンカー長 L(m)	腹起サイズ
CASE-1	1段目	TP+13.63	74.92	238.39	2.25	45°	18.00	5.00	23.00	2H-300
	2段目	TP+10.43	133.27	424.06	2.25	45°	13.50	8.50	22.00	2H-350
CASE-2-1	1段目	TP+12.88	90.69	384.77	3.00	45°	17.00	8.00	25.00	2H-350
CASE-2-2	1段目	TP+12.88	90.69	288.57	2.25	45°	8.50	6.00	14.50	2H-350
CASE-3	1段目	TP+12.13	64.37	204.82	2.25	45°	7.50	4.50	12.00	2H-300
備　考										

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

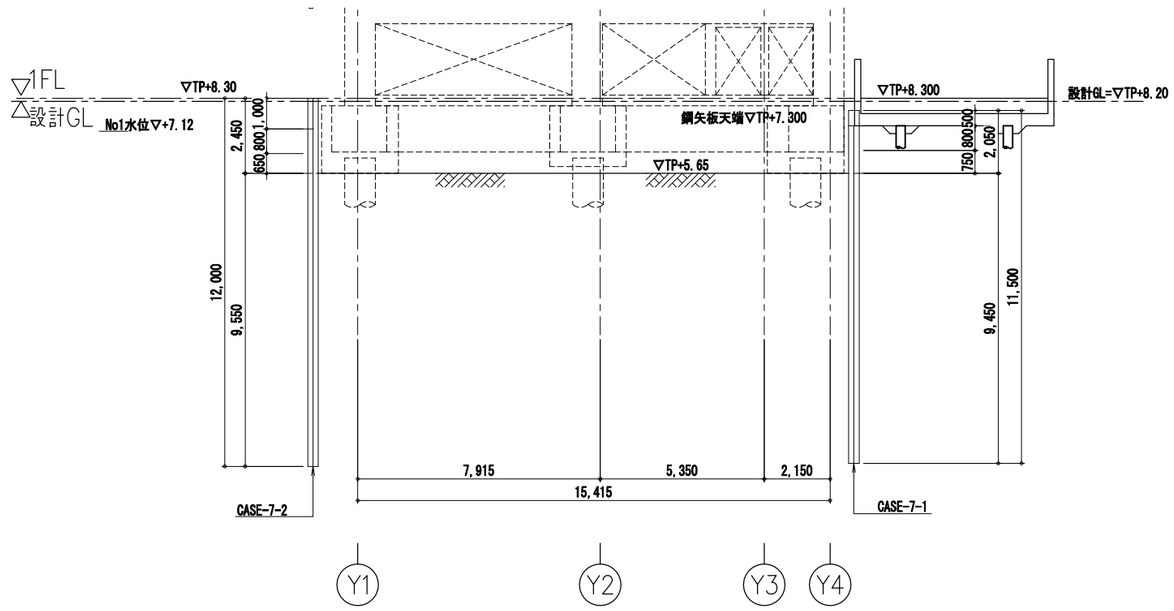
一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	土留め計画図（4）（参考図）	縮尺 1:200(A3) 1:100(A1)	参仮-12
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(160/224)

土留め計画図



X1通り　軸組図



X2通り　軸組図

山留杭材料表

	サイズ	ピッチ	杭長	杭天端(TP)	杭下端(TP)
CASE-1	親　杭　H-350x350x12x19	@1500	L=15,000	+15.370	+0.370
CASE-2-1	親　杭　H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-2-2	親　杭　H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-3	親　杭　H-350x350x12x19	@1500	L=9,500	+14.180	+4.680
CASE-4	親　杭　H-400x400x13x21	@1200	L=11,000	+12.380	+1.380
CASE-5	親　杭　H-300x300x10x15	@1500	L=8,500	+11.360	+2.860
CASE-6	鋼矢板　Ⅳ型		L=10,500	+9.000	-1.500
CASE-7-1	鋼矢板　Ⅳ型		L=11,500	+7.800	-3.700
CASE-7-2	鋼矢板　Ⅳ型		L=12,000	+8.300	-3.700
CASE-7-3	鋼矢板　Ⅳ型		L=13,000	+9.000	-4.000

アンカー部材表

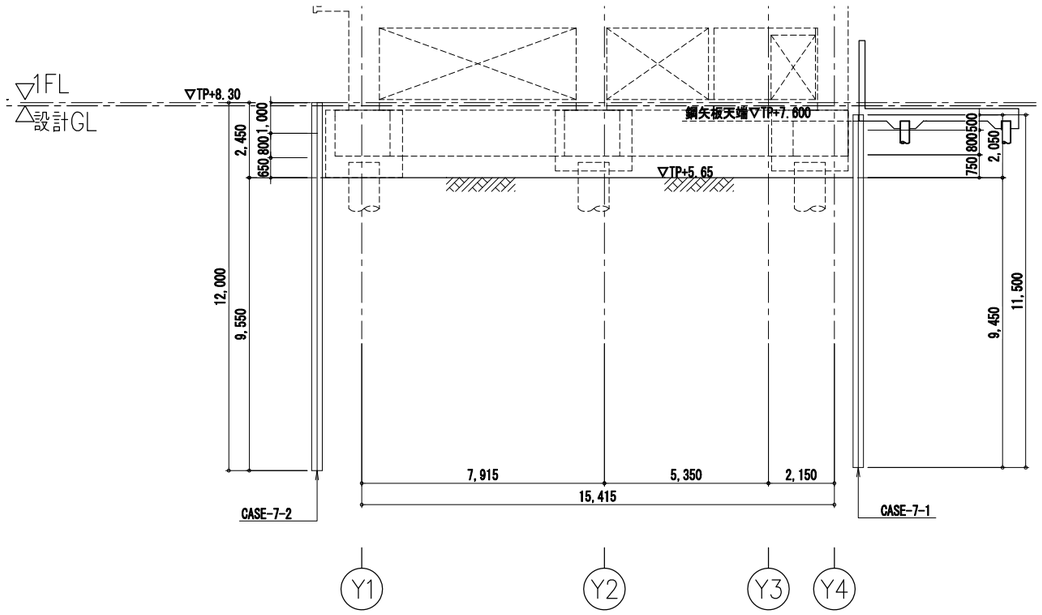
CASE	段数	アンカー位置 (m)	支点反力 R(kN/m)	設計荷重 T(kN)	ピッチ @(m)	角度 θ(°)	自由長 Lf(m)	定着長 La(m)	アンカー長 L(m)	腹起サイズ
CASE-1	1段目	TP+13.63	74.92	238.39	2.25	45°	18.00	5.00	23.00	2H-300
	2段目	TP+10.43	133.27	424.06	2.25	45°	13.50	8.50	22.00	2H-350
CASE-2-1	1段目	TP+12.88	90.69	384.77	3.00	45°	17.00	8.00	25.00	2H-350
CASE-2-2	1段目	TP+12.88	90.69	288.57	2.25	45°	8.50	6.00	14.50	2H-350
CASE-3	1段目	TP+12.13	64.37	204.82	2.25	45°	7.50	4.50	12.00	2H-300
備　考										

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

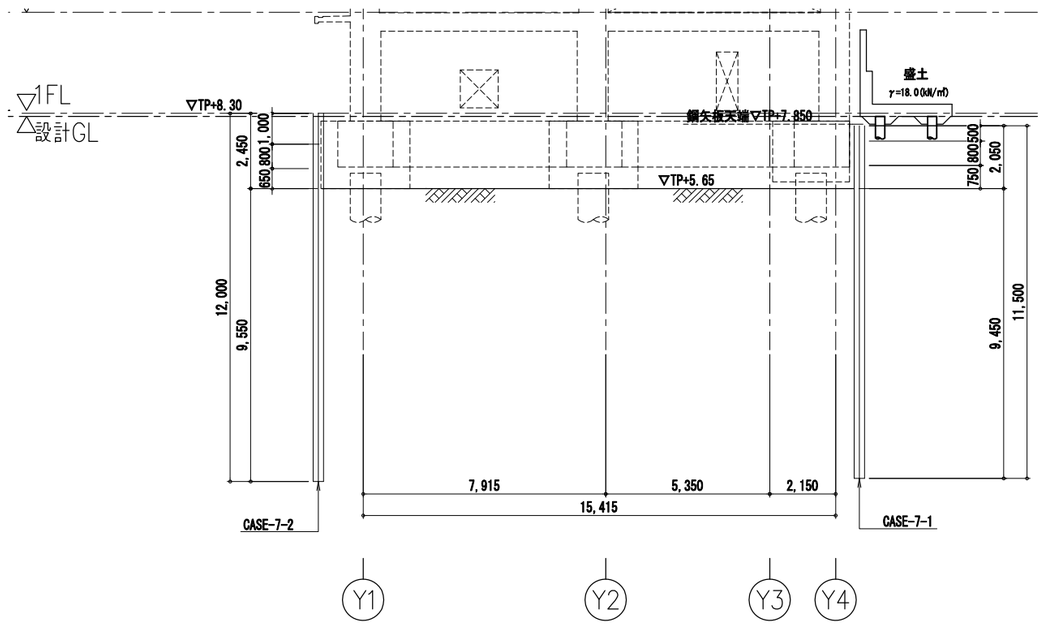
一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	土留め計画図（5）（参考図）	縮尺 1:200(A3) 1:100(A1)	参仮-13
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(161/224)

土留め計画図



X3通り　軸組図



X4通り　軸組図

山留杭材料表

	サイズ	ピッチ	杭長	杭天端(TP)	杭下端(TP)
CASE-1	親杭 H-350x350x12x19	@1500	L=15,000	+15.370	+0.370
CASE-2-1	親杭 H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-2-2	親杭 H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-3	親杭 H-350x350x12x19	@1500	L=9,500	+14.180	+4.680
CASE-4	親杭 H-400x400x13x21	@1200	L=11,000	+12.380	+1.380
CASE-5	親杭 H-300x300x10x15	@1500	L=8,500	+11.360	+2.860
CASE-6	鋼矢板 Ⅳ型		L=10,500	+9.000	-1.500
CASE-7-1	鋼矢板 Ⅳ型		L=11,500	+7.800	-3.700
CASE-7-2	鋼矢板 Ⅳ型		L=12,000	+8.300	-3.700
CASE-7-3	鋼矢板 Ⅳ型		L=13,000	+9.000	-4.000

アンカー部材表

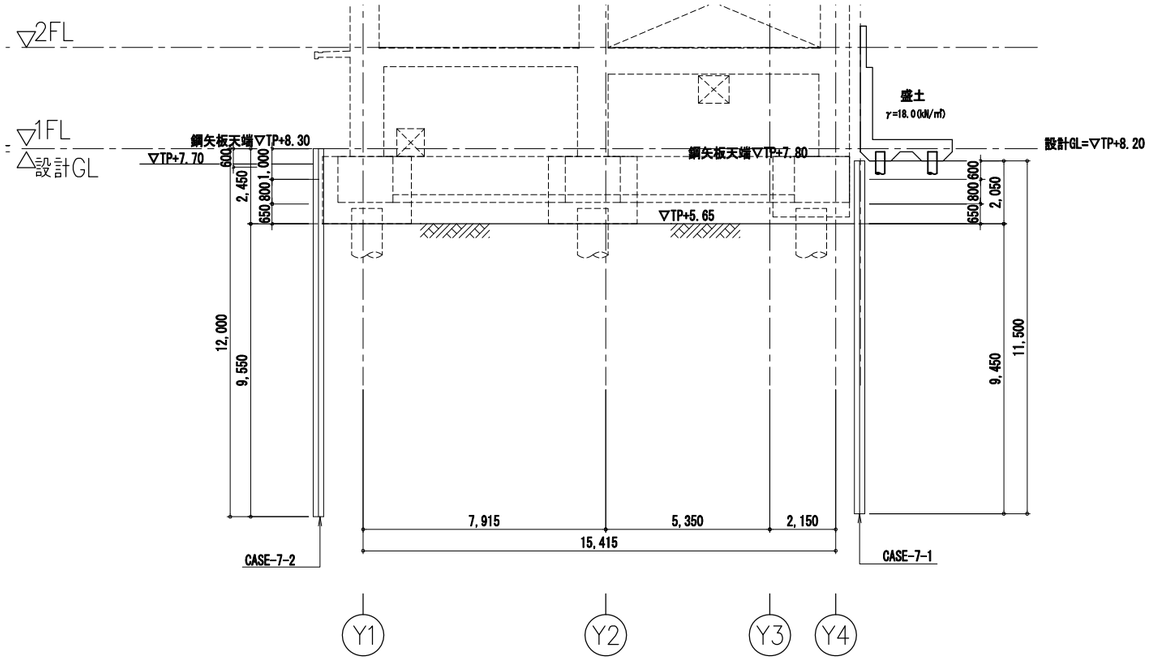
CASE	段数	アンカー位置 (m)	支点反力 R(kN/m)	設計荷重 T(kN)	ピッチ @(m)	角度 θ(°)	自由長 Lf(m)	定着長 La(m)	アンカー長 L(m)	腹起サイズ
CASE-1	1段目	TP+13.63	74.92	238.39	2.25	45°	18.00	5.00	23.00	2H-300
	2段目	TP+10.43	133.27	424.06	2.25	45°	13.50	8.50	22.00	2H-350
CASE-2-1	1段目	TP+12.88	90.69	384.77	3.00	45°	17.00	8.00	25.00	2H-350
CASE-2-2	1段目	TP+12.88	90.69	288.57	2.25	45°	8.50	6.00	14.50	2H-350
CASE-3	1段目	TP+12.13	64.37	204.82	2.25	45°	7.50	4.50	12.00	2H-300
備考										

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

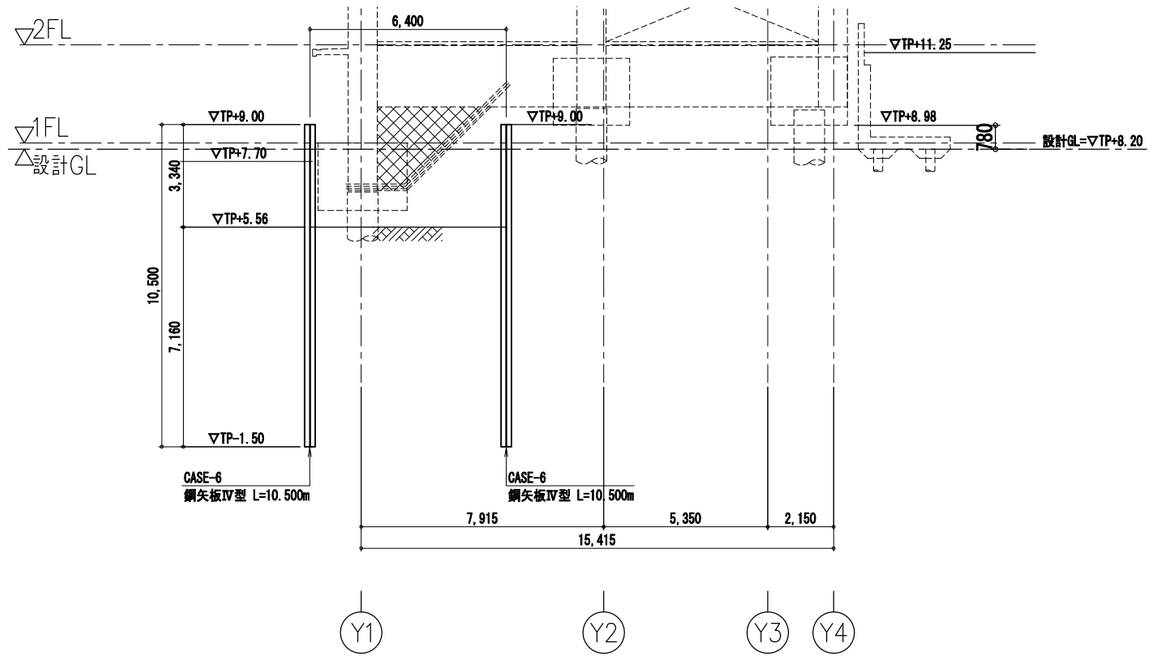
一級建築士　(第 274708号)　山岡　信弘
構造設計一級建築士(第 6608号)　長坂　典和
設備設計一級建築士(第 753号)　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	土留め計画図 (6) (参考図)	縮尺 1:200(A3) 1:100(A1)	参仮-14
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(162/224)

土留め計画図



X5通り　軸組図



X6通り(擁壁部)軸組図

山留杭材料表

	サイズ	ピッチ	杭長	杭天端(TP)	杭下端(TP)
CASE-1	親　杭　H-350x350x12x19	@1500	L=15,000	+15.370	+0.370
CASE-2-1	親　杭　H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-2-2	親　杭　H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-3	親　杭　H-350x350x12x19	@1500	L=9,500	+14.180	+4.680
CASE-4	親　杭　H-400x400x13x21	@1200	L=11,000	+12.380	+1.380
CASE-5	親　杭　H-300x300x10x15	@1500	L=8,500	+11.360	+2.860
CASE-6	鋼矢板　Ⅳ型		L=10,500	+9.000	-1.500
CASE-7-1	鋼矢板　Ⅳ型		L=11,500	+7.800	-3.700
CASE-7-2	鋼矢板　Ⅳ型		L=12,000	+8.300	-3.700
CASE-7-3	鋼矢板　Ⅳ型		L=13,000	+9.000	-4.000

アンカー部材表

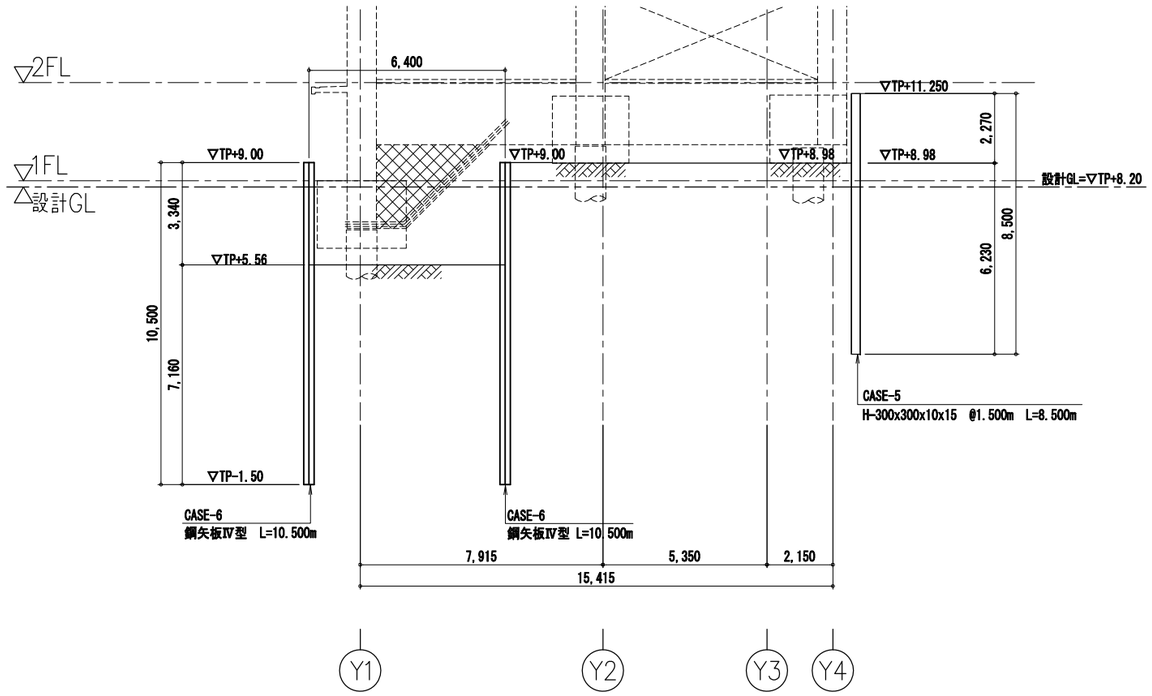
CASE	段数	アンカー位置 (m)	支点反力 R(kN/m)	設計荷重 T(kN)	ピッチ @(m)	角度 θ(°)	自由長 Lf(m)	定着長 La(m)	アンカー長 L(m)	腹起サイズ
CASE-1	1段目	TP+13.63	74.92	238.39	2.25	45°	18.00	5.00	23.00	2H-300
	2段目	TP+10.43	133.27	424.06	2.25	45°	13.50	8.50	22.00	2H-350
CASE-2-1	1段目	TP+12.88	90.69	384.77	3.00	45°	17.00	8.00	25.00	2H-350
CASE-2-2	1段目	TP+12.88	90.69	288.57	2.25	45°	8.50	6.00	14.50	2H-350
CASE-3	1段目	TP+12.13	64.37	204.82	2.25	45°	7.50	4.50	12.00	2H-300
備　考										

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

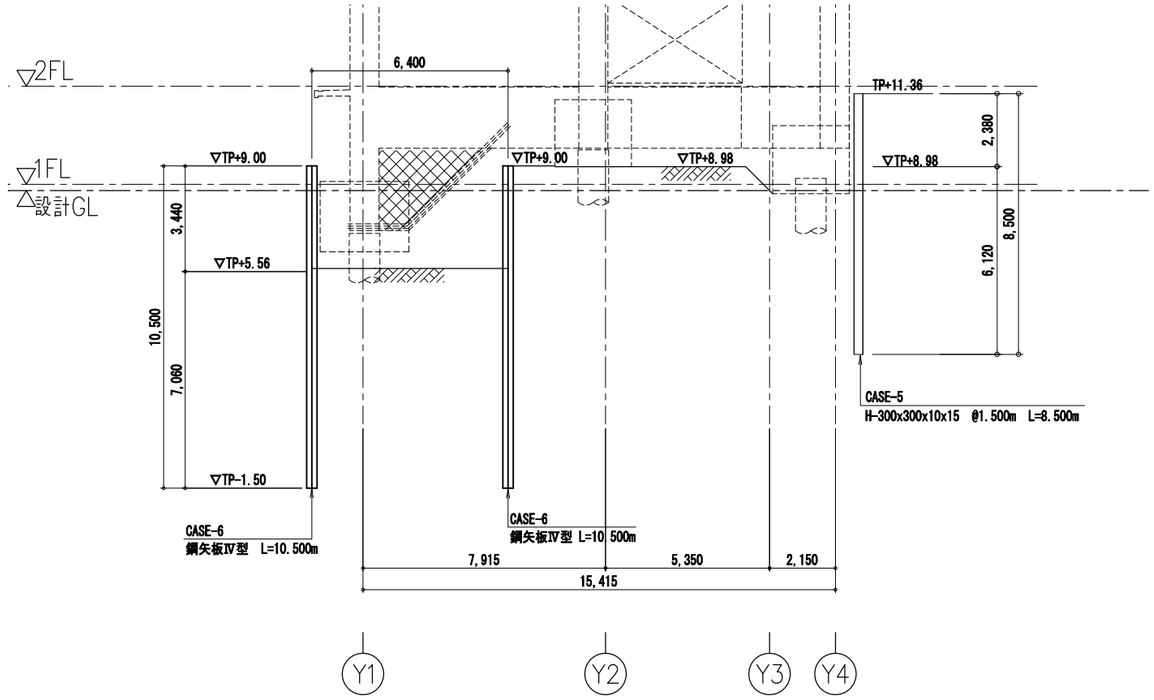
一級建築士　(第 274708号)　山岡　信弘
構造設計一級建築士(第 6608号)　長坂　典和
設備設計一級建築士(第 753号)　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	土留め計画図 (7) (参考図)	縮尺 1:200(A3) 1:100(A1)	参仮-15
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(163/224)

土留め計画図



X6通り(地山部)軸組図



X7通り　軸組図

山留杭材料表

	サイズ	ピッチ	杭長	杭天端(TP)	杭下端(TP)
CASE-1	親　杭　H-350x350x12x19	@1500	L=15,000	+15.370	+0.370
CASE-2-1	親　杭　H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-2-2	親　杭　H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-3	親　杭　H-350x350x12x19	@1500	L=9,500	+14.180	+4.680
CASE-4	親　杭　H-400x400x13x21	@1200	L=11,000	+12.380	+1.380
CASE-5	親　杭　H-300x300x10x15	@1500	L=8,500	+11.360	+2.860
CASE-6	鋼矢板　Ⅳ型		L=10,500	+9.000	-1.500
CASE-7-1	鋼矢板　Ⅳ型		L=11,500	+7.800	-3.700
CASE-7-2	鋼矢板　Ⅳ型		L=12,000	+8.300	-3.700
CASE-7-3	鋼矢板　Ⅳ型		L=13,000	+9.000	-4.000

アンカー部材表

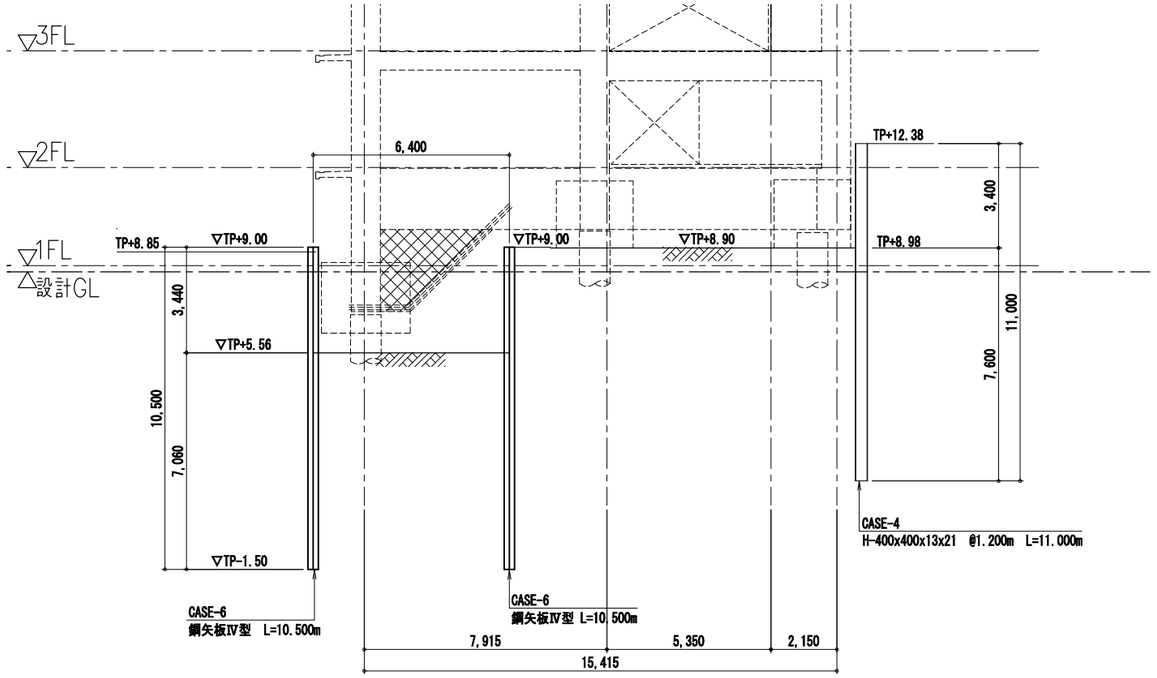
CASE	段数	アンカー位置 (m)	支点反力 R(kN/m)	設計荷重 T(kN)	ピッチ @(m)	角度 θ(°)	自由長 Lf(m)	定着長 La(m)	アンカー長 L(m)	腹起サイズ
CASE-1	1段目	TP+13.63	74.92	238.39	2.25	45°	18.00	5.00	23.00	2H-300
	2段目	TP+10.43	133.27	424.06	2.25	45°	13.50	8.50	22.00	2H-350
CASE-2-1	1段目	TP+12.88	90.69	384.77	3.00	45°	17.00	8.00	25.00	2H-350
CASE-2-2	1段目	TP+12.88	90.69	288.57	2.25	45°	8.50	6.00	14.50	2H-350
CASE-3	1段目	TP+12.13	64.37	204.82	2.25	45°	7.50	4.50	12.00	2H-300
備　考										

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

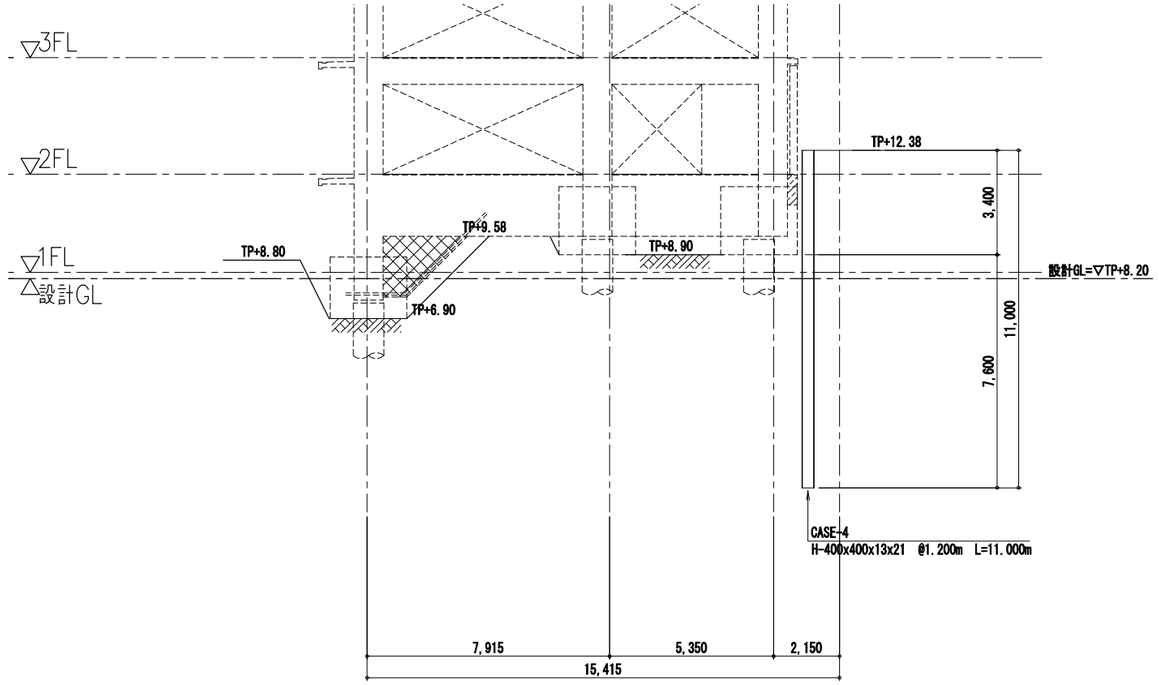
一級建築士　(第 274708号)　山岡　信弘
構造設計一級建築士(第 6608号)　長坂　典和
設備設計一級建築士(第 753号)　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	土留め計画図 (8) (参考図)	縮尺 1:200(A3) 1:100(A1)	参仮-16
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(164/224)

土留め計画図



X8通り　軸組図



X9通り　軸組図

山留杭材料表

	サイズ	ピッチ	杭長	杭天端(TP)	杭下端(TP)
CASE-1	親　杭　H-350x350x12x19	@1500	L=15,000	+15.370	+0.370
CASE-2-1	親　杭　H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-2-2	親　杭　H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-3	親　杭　H-350x350x12x19	@1500	L=9,500	+14.180	+4.680
CASE-4	親　杭　H-400x400x13x21	@1200	L=11,000	+12.380	+1.380
CASE-5	親　杭　H-300x300x10x15	@1500	L=8,500	+11.360	+2.860
CASE-6	鋼矢板　Ⅳ型		L=10,500	+9.000	-1.500
CASE-7-1	鋼矢板　Ⅳ型		L=11,500	+7.800	-3.700
CASE-7-2	鋼矢板　Ⅳ型		L=12,000	+8.300	-3.700
CASE-7-3	鋼矢板　Ⅳ型		L=13,000	+9.000	-4.000

アンカー部材表

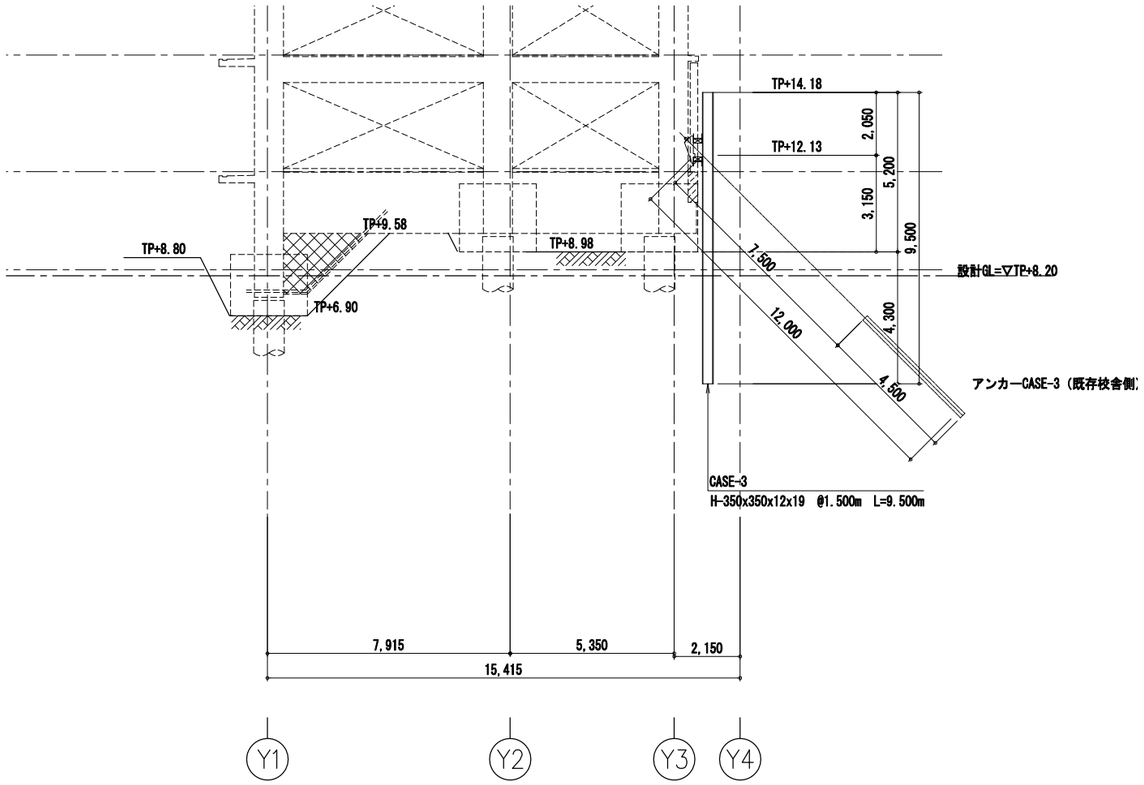
CASE	段数	アンカー位置 (m)	支点反力 R(kN/m)	設計荷重 T(kN)	ピッチ @(m)	角度 θ(°)	自由長 Lf(m)	定着長 La(m)	アンカー長 L(m)	腹起サイズ
CASE-1	1段目	TP+13.63	74.92	238.39	2.25	45°	18.00	5.00	23.00	2H-300
	2段目	TP+10.43	133.27	424.06	2.25	45°	13.50	8.50	22.00	2H-350
CASE-2-1	1段目	TP+12.88	90.69	384.77	3.00	45°	17.00	8.00	25.00	2H-350
CASE-2-2	1段目	TP+12.88	90.69	288.57	2.25	45°	8.50	6.00	14.50	2H-350
CASE-3	1段目	TP+12.13	64.37	204.82	2.25	45°	7.50	4.50	12.00	2H-300
備　考										

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

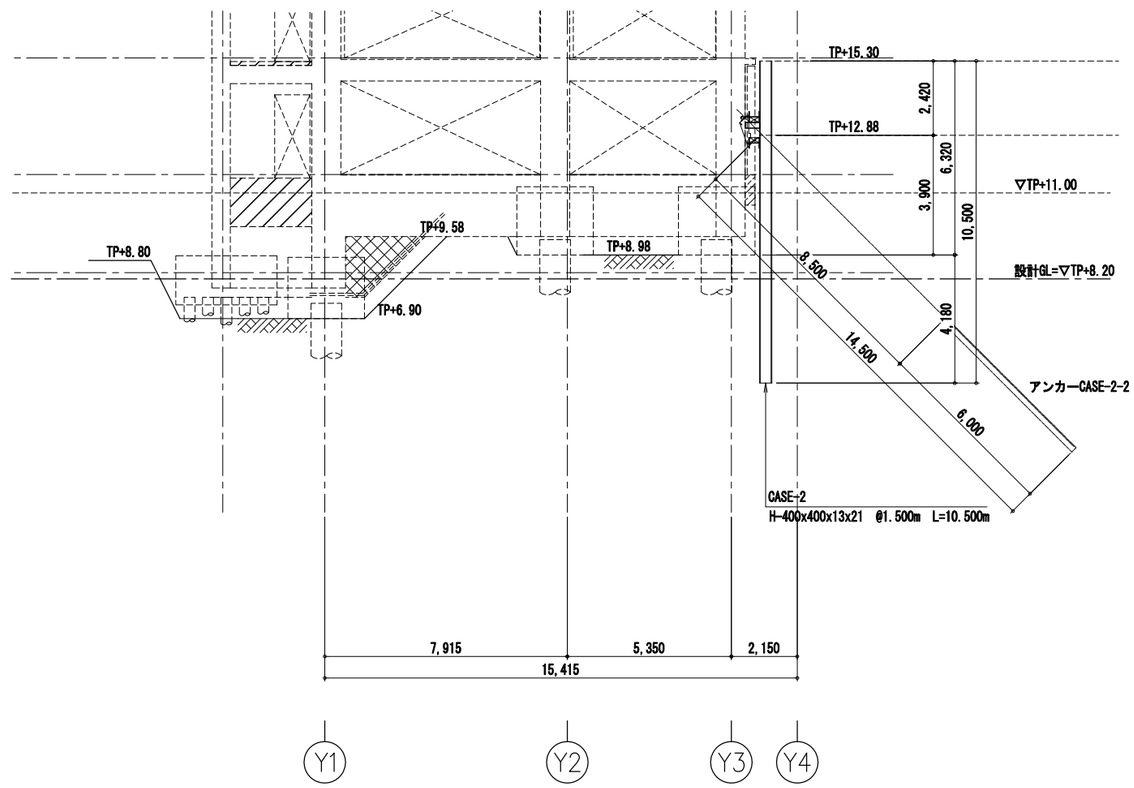
一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	土留め計画図（9）（参考図）	縮尺 1:200(A3) 1:100(A1)	参仮-17
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(165/224)

土留め計画図



X10通り　軸組図



X11通り　軸組図

山留杭材料表

	サイズ	ピッチ	杭長	杭天端(TP)	杭下端(TP)
CASE-1	親　杭　H-350x350x12x19	@1500	L=15,000	+15.370	+0.370
CASE-2-1	親　杭　H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-2-2	親　杭　H-400x400x13x21	@1500	L=10,500	+15.300	+0.300
CASE-3	親　杭　H-350x350x12x19	@1500	L=9,500	+14.180	+4.680
CASE-4	親　杭　H-400x400x13x21	@1200	L=11,000	+12.380	+1.380
CASE-5	親　杭　H-300x300x10x15	@1500	L=8,500	+11.360	+2.860
CASE-6	鋼矢板　Ⅳ型		L=10,500	+9.000	-1.500
CASE-7-1	鋼矢板　Ⅳ型		L=11,500	+7.800	-3.700
CASE-7-2	鋼矢板　Ⅳ型		L=12,000	+8.300	-3.700
CASE-7-3	鋼矢板　Ⅳ型		L=13,000	+9.000	-4.000

アンカー部材表

CASE	段数	アンカー位置 (m)	支点反力 R(kN/m)	設計荷重 T(kN)	ピッチ @(m)	角度 θ(°)	自由長 Lf(m)	定着長 La(m)	アンカー長 L(m)	腹起サイズ
CASE-1	1段目	TP+13.63	74.92	238.39	2.25	45°	18.00	5.00	23.00	2H-300
	2段目	TP+10.43	133.27	424.06	2.25	45°	13.50	8.50	22.00	2H-350
CASE-2-1	1段目	TP+12.88	90.69	384.77	3.00	45°	17.00	8.00	25.00	2H-350
CASE-2-2	1段目	TP+12.88	90.69	288.57	2.25	45°	8.50	6.00	14.50	2H-350
CASE-3	1段目	TP+12.13	64.37	204.82	2.25	45°	7.50	4.50	12.00	2H-300
備　考										

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

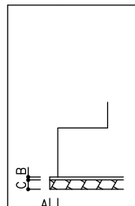
工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	土留め計画図（10）（参考図）	縮尺 1:200(A3) 1:100(A1)	参仮-18
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(166/224)

1。一般事項

1．特記仕様書と重複して記入された項目があれば、本構造特記仕様書を優先する。
2．本構造特記仕様書に特記された事項を適用する。なお、選択事項は⊙印を適用し、⊙印が無い場合は
　＊印を適用する。⊙印と⊗印が有る場合は、共に適用する。
　特記のない場合は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）
　（令和4年版）」（以下「標準仕様書」という）による。
3．公共建築工事以外に適用する場合は、上記仕様書の「監督職員」を「監理者」と読み替える。
4．設計荷重
　1）地震荷重　（a）地震地域係数Z　⊙1．0　・0．9　・0．8　・0．7
　　（b）重要度係数I　＊1．00　⊙1．25　・1．50
　2）積雪荷重　（a）地域　＊一般区域　・多雪区域
　　（b）割増係数　＊1．00　・告示594号第2（割増係数＝　　）
　　（c）垂直積雪量　0cm（・長期　＊短期）　単位荷重　0N／m²・cm
　3）風荷重　（a）地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ
　　（b）速度圧の割増係数　＊1．00　⊙1．15　・1．30
　　（c）建物高さと軒の高さの平均H　H＝　23m
　　（d）基準風速V_0　V_0＝　34m／s
　　（e）速度圧q　q＝　1633N／m²　（速度圧の割増考慮）
5．構造体の耐久性　供用期間の級　・短期（30）　＊標準（65）　⊙長期（100）　・超長期（200）
　　（　　）内は、計画供用期間としておよその年数を示す。
6．凍結深度　＊なし　・あり（　　mm）
7．構造特記仕様書の記号説明
　Fc　：設計基準強度（N／mm²）
　SL　：スランプ（cm）
　w/c：水セメント比（％）
　γ　：気乾単位容積質量（t／m³）
　W　：単位水量（kg／m³）
　C　：単位セメント量（kg／m³）
　S　：構造体強度補正値（N／mm²）

2。地業工事

①．砂利（砕石）・捨てコンクリート地業



	A（mm）	B 捨てコンクリート厚さ（mm）	C 地業材	C 厚さ（mm）
独立基礎	・50 ＊100 ・150 ・200 ・	＊50　・60 ・	＊砂利（砕石） ・なし	・50 ＊60 ・100 ・150
礎　盤		＊50　・60 ・150　・	＊砂利（砕石） ・なし	・50 ＊60 ・100 ・150
地中梁	・50 ＊100	＊50　・60 ・	＊砂利（砕石） ・なし	・50 ＊60 ・100 ・150
床　版	—	＊50　・60 ・		
土　間		＊無し　・50 ・60　・	＊砂利 ・なし	＊100 ・150

②．既製杭地業　杭材はＪＩＳ規格品または建築基準法に基づく指定もしくは認定を受けたものとする。
　1）杭種・杭長・支持力　（kN／本）

杭　種	杭径・杭長	杭先端深さ	長期設計支持力	短期設計支持力	備　考
杭リストによる	ø　m	GL－　m			
	ø　m	GL－　m			
	ø　m	GL－　m			
	ø　m	GL－　m			

　2）工法　JIS A 7201（遠心力コンクリートくいの施工標準）
　　a　打撃工法　ハンマー種別　・油圧ハンマー　・ディーゼルハンマー
　　プレボーリング　・行う（GL－　mまで）　・行わない
　　試験杭の測定（JIS A 7201以外）
　　ハンマーの落下高さおよび貫入量の測定は、原則として、杭長さの1/2までは1mごと、
　　以降は0.5mごとに行う。
　　打撃回数は、打ち込む長さの全長にわたり連続して測定する。
　　本杭は、1本ごとに最終貫入量様を測定、記録し、報告書に記載する。
　　ⓑ　埋込み工法　・セメントミルク工法
　　オーガーの支持地盤への掘削深さ　＊1．5m程度　・
　　杭の支持地盤への根入れ深さ　＊1m以上　・
　　⊙プレボーリング拡大根固め工法（工法名：Hyper－MEGA工法同等以上）
　　杭周固定液　＊有　・無
　　・中堀り拡大根固め工法　（工法名：　　）
　　・回転根固め工法　（工法名：　　）
　　⊙その他　（工法名：スクリューパイルEAZET同等以上）
　3）継手　＊アーク溶接継手　但し、監督職員の承諾の上、無溶接継手とすることができる。
　　・無溶接継手（工法名：　　）
　4）杭頭の処理　＊切断しない　・
　5）ネガティブフリクション対策　・あり（SLコンパウンド塗布）　＊なし

3．場所打ちコンクリート杭地業
　1）杭径・杭長・支持力　（kN／本）

杭径、形状	杭先端深さ	長期設計支持力	短期設計支持力	備　考
ø	GL－　m			
ø	GL－　m			
ø	GL－　m			
ø	GL－　m			

　注）（1）杭径は施工径を示す。
　2）工法　・アースドリル工法　（＊安定液使用　・無水掘削）
　　・リバースサーキュレーション工法
　　・オールケーシング工法　・拡底杭工法
　　・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
　3）表層ケーシング　・施工に必要な長さ　・GL－　mまで
　4）孔壁測定　＊行う（＊全数　・　）　・行わない
　5）傾斜測定　＊行う（＊全数　・　）　・行わない
　6）余盛り　・500mm　＊800mm　・
　7）杭頭処理　＊静的破砕剤　・
　8）コンクリート
　　a　セメント　・普通ポルトランドセメント　＊高炉セメントB種　・
　　b　Fc　・21　・24　・27　・
　　c　SL　＊18　・21　・
　　d　W／C　＊55以下　・60以下　・
　　e　W　＊185以下　・200以下　・
　　f　C　＊340以上　・310以上　・
　　g　構造体強度補正値（S）　・0　＊3　・
　　※認定工法の場合、監督職員の承諾の上、上記各項目を認定範囲内で変更することができる。
　9）鉄筋
　　a　材料　・SD295A（D16以下）・SD345（D19以上）・SD390（D　以上）
　　b　最小かぶり厚さ　＊100　・
　　c　帯筋の形状　＊配筋基準図7．B．④丸形（ロ）　・

④．試験杭
　試験施工　＊行う（試験杭の位置、本数は杭伏図による。）　・行わない
　　試験杭は本杭と（＊兼用　・別途）
⑤．載荷試験
　①　平板載荷試験　試験方法は、地盤工学会基準JGS1521による。
　　・行う（位置は別図による。）　・行わない

試験深さ（m）	最大荷重（kN／m²）	箇所数	備　考
GL－			
GL－			

　　載荷方法　・1サイクル法　・多サイクル法（　サイクル）
　2）杭載荷試験　試験方法は、地盤工学会基準「杭の鉛直載荷試験方法・同解説」による。
　　・行う（位置は別図による。）　・行わない

杭　径	最大荷重（kN）	備　考

　　反力杭　＊本杭と兼用　・本杭と別途
　　載荷方法　・1サイクル法　・多サイクル法（　サイクル）

6．地盤改良地業
　・ラップルコンクリート　（形状は別図による。）
　・表層改良工法　（改良深さ、範囲、固化材の種別・量は別図による。）
　・深層改良工法　（改良深さ、工法等は別図による。）

⑦．その他
　1）杭の位置ずれの精度　既成杭・鋼管杭　＊杭径の1/4かつ100mm　・
　　場所打ちコンクリート杭　＊100mm　・
　2）杭の傾斜　・1/200　＊1/100
　3）打込杭の推定支持力の算定方法
　　＊下式による（JIS A 7201）　・
　　$R=\frac{F}{5S+0.1}$　ドロップハンマーの場合　F＝W×g×H
　　R：杭の長期推定支持力（kN）　油圧ハンマーの場合　F＝2W×g×H
　　S：杭の最終貫入量（m）　W：重りの質量（t）　g：重力の加速度（m／s²）
　　F：ハンマーの打撃エネルギー（kJ）　H：重りの落下高さ（m）
　　やっとこ打ちの場合推定支持力を低減する。低減率は20％もしくは試験打に基づく適切な値とする。
　4）埋込杭、場所打ちコンクリート杭の支持地盤　深さ（GL－　m）　土質名（　　）
　5）埋込杭の未固結試験　・行う　＊行わない（但し、認定上で実施する必要がある場合は行う）
　6）ボアホールソナー探査　・行う　＊行わない
　7）オートマチック・ラム・サウンディング試験　・行う　（位置　・名杭位置　・図示）
　　＊行わない

3。鉄筋工事

①．鉄筋　異形鉄筋を使用し、ＪＩＳ規格品または建築基準法に基づく認定を受けたものとする。

種　類	径	使用場所	継　手	備　考
⊗SD295	D16以下	スターラップ　フープ　床版　壁	＊重ね継手	
⊗SD345 ・SD295B	D19以上 D　以下	小梁・大梁・柱の主筋 土圧壁　礎盤	＊ガス圧接継手 ・重ね継手	柱・梁の主筋及び D35以上に重ね 継手は用いない。
⊙SD390 ・	D29以上 D　以下	大梁・柱の主筋	・溶接継手 ・機械式継手	
・SD345	D19以上 D25以下	耐圧版	＊ガス圧接継手 ・重ね継手	
・SD490	D　以上		・ガス圧接継手 ・重ね継手 ・溶接継手 ＊機械式継手	
・USD590B	D　以上			
・USD685B	D　以上			
⊙685または 785N／mm²級	S10以上 S16以下	スターラップ　フープ		高強度せん断補強筋

②．継手・定着
　1）重ね継手長さ（耐力壁）
　　＊40d（軽量コンクリート50d）と配筋基準図の値のうち大きい値　・
　　なお、柱、梁、耐力壁以外の鉄筋の重ね継手の長さは配筋基準図の値とする。
　2）継手は監督職員の承諾の上、機械式継手、溶接継手とすることができる。継手位置等は認定条件による。
　3）ガス圧接、溶接継手及び機械式継手で接合または溶接しようとする鉄筋は、その端面が直角なものを用いる。
　　ただし、重ねアーク溶接の場合は除く。
　4）機械式鉄筋定着工法　・適用する
　　＊適用しない　但し、監督職員の承諾の上、機械式定着とすることができる。
3．溶接金網　ＪＩＳ規格品とする。
　1）鉄線径（mm）　＊6　・
　2）網目寸法（mm）　・50　＊100　・
④．試験
　1）鉄筋の材料試験　＊規格証明書の提出　・行う
　2）圧接部の試験・検査

検査項目	試験方法	時期・回数
＊外観検査	目　視	圧接作業完了時に全数
＊抜取り検査	・引張試験 JIS Z 3120	1検査ロットに ＊3本　・5本　・
	＊超音波探傷試験 JIS Z 3062	1検査ロットに ＊30箇所　・

　注）（1）1検査ロットは、1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数量で、200箇所程度以内とする。
　　超音波探傷試験とする場合は、初回の試験は監督職員が立会うこととする。
　　（2）コンクリート打設前に監督職員に検査結果を報告すること。

4。コンクリート工事

①．材料　コンクリートに用いる材料は、ＪＩＳ規格品または建築基準法に基づく認定を受けたものとする。
　1）セメント　特記がなければ普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種
　　またはフライアッシュセメントA種とする。

種　類		使用箇所
⊙ポルトランドセメント JIS R 5210	＊普通	
	・早強	
	・中庸熱	
	・低熱	
・高炉セメント JIS R 5211	・A種 ＊B種	
・シリカセメント JIS R 5212	＊A種 ・	
・フライアッシュセメント JIS R 5213	・A種 ＊B種	
・エコセメント JIS R 5214	＊普通 ・	
・	・	

　注）マスコンクリート適用部分
　　・構造図　S－　による。
　　・部材断面最小寸法が壁部材で80cm以上、マット状部材で100cm以上でかつセメントの
　　水和熱による温度上昇で有害なひび割れが入るおそれがある部分に適用する。
　　温度解析等により有害なひび割れが発生しないことが確認できた場合は、監督職員の承認の上、
　　中庸熱ポルトランドセメント以外とすることができる。
　2）骨　材　アルカリシリカ反応性試験結果が無害と判定されたものを用いる。　＊A種　・B種
　　細骨材の塩分含有量は、NaCl換算で0．04％以下とする。
　　エコセメントを使用するコンクリートへの再生骨材Hの使用
　　・有り　＊無し
　3）混和材料　AE減水剤は全ての構造体コンクリートに使用する。
　　（高性能AE減水剤を使用する場合は適用しない。）

混和材料	記号	備　考
・高性能AE減水剤	A	
・膨張剤（材）	B	
⊙躯体防水剤（材）	C	
・防せい剤	D	

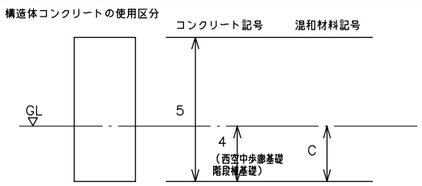
②．コンクリート　ＪＩＳQ1001及びＪＩＳQ1011に基づき、ＪＩＳ A5308への
　　適合を認証された、コンクリートとする。
　1）構造体コンクリート

	Fc	SL	W	記号	備　考
普通コンクリート	・18			1	
	・21			2	
	＊24			3	
	⊙30			4	西空中歩廊基礎、階段棟基礎
	⊙36			5	
	・			6	
	・			7	
軽量コンクリート	・			11	
	・			12	
	・			13	

　注）（1）構造体コンクリートの調合管理強度は、F+S　とする。
　　（2）暑中コンクリートの場合のS　＊6　・
　　（3）Wは、特記のない場合は185kg／m³以下とする。
　　（4）SLは特記のない場合は、基礎・地中梁は15cm、その他は18cmとする。
　　（5）普通コンクリートのγは2．3とする。
　　（6）軽量コンクリート　種類　＊1種　・2種
　　γ　＊1．85　・1．55　・
　　（7）塩化物量は、塩化物イオン量として0．3kg／m³以下とする。
　　（8）寒中コンクリート　・適用期間（　～　）　・監督職員の指示
　2）雑コンクリート

種　類	Fc	γ	SL
土間コンクリート	＊18　・21	＊2.3　・	＊15　・
かさ上げコンクリート	＊18　・	＊2.3　・	＊18　・
防水押えコンクリート	＊18　・	＊2.3　・	＊18　・
捨てコンクリート	＊18　・	＊2.3　・	＊18　・
ラップルコンクリート	＊18　・	＊2.3　・	＊15　・

　3）構造体コンクリートの使用区分



③．試験
　1）材料試験（セメント・骨材・練混ぜ水・混和材料等）　・行う　＊試験結果報告書の提出
　2）フレッシュコンクリートの試験（SL・空気量・温度・塩化物量・軽量コンクリートのγ）
　　＊行う　・行わない
　3）構造体コンクリートの圧縮試験＊試験は、調合管理強度の管理試験用、型枠取外し時期の決定用、及び構
　　造体コンクリートの圧縮強度推定用とし、圧縮強度推定用は公的機関において行う。

5。鉄骨工事

①. 鋼材　　ＪＩＳ規格品または建築基準法に基づく指定もしくは認定を受けたものとする。

規　格	鋼　材　名		使 用 箇 所
一般構造用圧延鋼材 JIS G 3101	⊙SS400 ・	・SS490 ・	空中歩廊小梁、階段樓小梁
溶接構造用圧延鋼材 JIS G 3106	・SM400A ・	・SM490A ・	
建築構造用圧延鋼材 JIS G 3136	・SN400A ⊙SN400B	⊙SN490B	空中歩廊柱、大梁 階段樓柱、大梁
	・SN400C	⊙SN490C	ダイアフラム
溶接構造用遠心力鋳鋼管 JIS G 5201	・SCW490－CF		
建築構造用冷間成形角形鋼管	・BCR295 ・BCP235	・BCP325	
一般構造用角形鋼管 JIS G 3466	・STKR400	・STKR490	
建築構造用炭素鋼鋼管 JIS G 3475	・STKN400B ・STKN490B		
一般構造用炭素鋼鋼管 JIS G 3444	⊙STK400	・STK490	空中歩廊吊り材
一般構造用軽量形鋼 JIS G 3350	・SSC400		
建築構造用TMCP鋼板	・490級認定品	・520級認定品	

1）　鋼材は高炉材とする。
ただし、下記の適用部位は、監督職員の承諾の上、電炉材とすることができる。
電炉材の適用部位
・柱　　・大梁　　・大梁中央部（ボルト接合の場合）
＊二次部材（小梁、間柱、耐風梁、母屋、胴縛など）
＊スプライスプレート　　＊ガセットプレート（完全溶け込み溶接部を除く）
・ダイアフラム　　・ベースプレート
＊水平ブレース　　・鉛直ブレース
・その他（　　）
電炉材の板厚は40mm以下とする。

2）　以下に示す部位に電炉材を使用する場合は、下記の化学成分および機械的性質を満足する製品に限る。
・柱　　＊大梁（ボルト接合の場合大梁端部）　　・大梁中央部（ボルト接合の場合）
＊通しダイアフラム　　・左記以外のダイアフラム　　・ベースプレート
・鉛直ブレース
・その他（　　）

a）化学成分

種類の記号	化学成分　単位：%									
	C	Si	Mn	P	S	Cu	Cr	Sn	Ceq	Pcm
SS400	≦0.2	≦0.35	≦1.4	≦0.03	≦0.015	≦0.4	≦0.25	≦0.04	－	－
SM490A	≦0.18	≦0.4	≦1.6	≦0.03	≦0.013	≦0.4	≦0.25	≦0.04	≦0.44	≦0.29
SN400B	≦0.2	≦0.35	0.6~1.4	≦0.03	≦0.015	≦0.4	≦0.25	≦0.04	≦0.36	≦0.26
SN400C	≦0.18	≦0.35	0.6~1.4	≦0.02	≦0.008	≦0.4	≦0.25	≦0.04	≦0.36	≦0.26
SN490B	≦0.18	≦0.4	≦1.6	≦0.03	≦0.013	≦0.4	≦0.25	≦0.04	≦0.44	≦0.29
SN490C	≦0.18	≦0.4	≦1.6	≦0.02	≦0.008	≦0.4	≦0.25	≦0.04	≦0.44	≦0.29

b）機械的性質
シャルピー衝撃値　70J以上　（ただし、SS400は除く）

②. 高力ボルト　　ＪＩＳ・ＪＳＳ規格品または建築基準法に基づく指定もしくは認定を受けたものとする。

種　類	使 用 箇 所
＊トルシア形高力ボルト（S10T）	全般
・ＪＩＳ形高力ボルト　２種（F10T）	トルシア形が使用出来ない部分
・溶融亜鉛めっき高力ボルト　１種（F8T）相当	溶融亜鉛めっき調材
・超高力ボルト　（SHTB F14T）相当	図示

③. 普通ボルト　　ＪＩＳ規格品とする。
1）　材質　　＊SS400　　・

④. アンカーボルト　　ＪＩＳ規格品とする。
1）　材質
ⓐ）　構造用アンカーボルト　　・SNR400B　・SNR490B
・SS400　・SS490
・ABR400　・ABR490
・ABM400　・ABM490
ｂ）　建方用アンカーボルト　　・SS400　・SS490

⑤. スタッド　　ＪＩＳ規格品とする。

軸　径	長さ（mm）
・　13ø	⊙80　・100　・120
⊙　16ø	
・　19ø	・80　・100　・130　・150
・　22ø	

⑥. デッキプレート　　ＪＩＳ規格品または公共建築協会規格品とする。
①）　構造用
⊛合成スラブ　・その他（　　）
形状（山高さmm）　・50　・75　⊙80
板厚（mm）　⊙1.2　・1.6　・
材料　・SDP1T　・SDP2　・SDP1TG
＊SDP2G
めっき量　＊Z12　・Z27　・無し
鉄骨部材との溶接方法　＊焼抜栓溶接　・アークスポット溶接　・隅肉溶接
②）　型枠用
形状　＊フラットタイプ　・山高さ　mm
板厚（mm）　・0.8　・1.0　⊙1.2　・1.4　・1.6
材料　＊SGCC　・SGHC　・
めっき量　⊛Z12　⊙Z27　・無し
鉄骨部材との溶接方法　＊アークスポット溶接　・隅肉溶接
3）　その他

⑦. 丸鋼ブレース　　ＪＩＳ規格品とする。
1）　建築用ターンバックル　　JIS A 5540
2）　建築用ターンバックル胴　JIS A 5541

⑧. さび止め塗装
本工事の建築工事特記仕様書　18章　塗装工事による。

⑨. 溶接接合
1）　柱梁完全溶込み溶接部工法
＊ノンスカラップ工法　　・複合円型スカラップ工法　　・その他（図示による）
2）　エンドタブを切断する箇所：
上記以外は、切断不要
3）　板厚が異なる場合の突合せ継手
低応力高サイクル疲労を受ける部位　　・有り（箇所：　　）
・無し

⑩. 試験・検査
1）　材料試験　　＊規格証明書の提出　　・行う
2）　溶接部の検査

検査方法	検査箇所	検査率又は検査数			備　考
		社　内	第三者		
＊外観検査	全溶接部	＊100%	工場溶接部	＊30% ・	
			現場溶接部	＊100% ・	
＊超音波探傷試験	完全溶け込み溶接部	＊100% ・	工場溶接部	検査水準 ＊第6　・ AOQL（%） ・2.5　＊4.0	
			現場溶接部	＊100%	
・マクロ試験		・		・	
・浸透探傷試験		・		・	

注）　特記なき限り、第三者機関が行う外観検査箇所はその他の試験（超音波探傷試験、マクロ試験、浸透探傷試験等）と同一試験箇所において実施する。
溶接部の試験は、技能資格者が行う。
溶接部の不合格箇所は、全て補修し、再試験を実施する。
3）　溶接技術者の技量付加試験　　＊行う（但し、AW検定有資格者は免除）　　・行わない
4）　監督職員による現寸検査　　＊行う　　・行わない
5）　監督職員による仮組検査　　＊行う　　・行わない
6）　監督職員による製品検査　　＊行う　　・行わない
7）　スタッド溶接打撃曲げ試験　　＊行う　　・行わない

⑪. 鉄骨製作工場
鉄骨製作工場認定制度に基づき、指定性能評価機関（（株）日本鉄骨評価センター又は、（株）全国鉄骨評価機構）の評価を受け、大臣認定を取得した下記のグレード以上の鉄骨製作工場とする。
・Sグレード　　・Hグレード　　＊Mグレード　　・Rグレード　　・

⑫. 施工管理技術者　　＊適用する　　・適用しない

13．クレーンガーダーの建方精度
以下のレール据付精度を満足させるようにクレーンガーダーの建方精度を確保すること。
走行レール据付精度

	項目		許容誤差
1	レールスパン	25m未満	±10mm以内
		25~40m以下	±15mm以内
2	左右の水平差		スパンの1/500以内
3	走行レールとガーダーとの芯ずれ		0.5tw以内（tw：ガーダーウェブ厚）
4	勾配		1/500以内

注）上記の他、各クレーンメーカーの仕様にも適合すること。

14．アンカーボルトの設置等
1）　アンカーボルトの保持及び埋込み工法
a）　構造用アンカーボルト　　・図示（　　）による。
b）　建方用アンカーボルト　　・A種　　・B種
2）　柱底均しモルタル工法　　＊A種　　・B種
・柱底均しモルタルの厚さは図示による。
・無収縮モルタルのメーカーは性能等の確認できる資料を監督職員に提出し承諾を受ける。
3）　その他

⑮. 溶融亜鉛めっき
摩擦面の処理　　・ブラスト処理　　⊙りん酸塩処理（すべり耐力等の確認はすべり試験による。）
注）上記以外の処理を行う場合は、すべり係数試験を行う。

6。建築設備の構造安全性等　：令第129条の2の3についての法適合確認

・■はチェックした項目を示す。
・建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

	項目	チェック欄
1	建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとすること。	■
2	屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの（以下「屋上水槽等」）は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。	□
3	煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。	□
4	煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。	□
5	建築物に設ける給水、排水その他配管設備（給湯設備＊を除く）は、以下の構造方法による。	
	風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。	■
	建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。	■
	管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。	■
	管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。	■
6	法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあっては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとすること。	■
7	給湯設備＊は風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。	■

＊「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

7。その他

1。共通事項

A. 適用範囲

設計図に記載がない場合、本配筋基準図を適用する。

B. 凡　例

（1）　d ---- 異形鉄筋の径（呼び名に用いた数値）。

（2）　ho ---- 柱の内のり高さ。

（3）　lo ---- 有効スパン。

（4）　L ---- 継手　定着長さ及び帯筋の溶接長さ。

（5）　━━ ---- 継手及び余長。

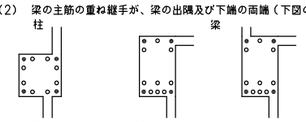
C. 鉄筋の種別はＪＩＳによる。

2。鉄筋の末端部及び中間部の加工

異形鉄筋の末端部には次の場合フックをつける。

（1）　柱の四隅にある主筋（下図の●印）で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合。

（2）　梁の主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端（下図の●印）にある場合。ただし、基礎梁を除く。



（3）　煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。

（4）　杭基礎のベース筋。

（5）　帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径（D） SD295A,SD295B,SD345 D16以下	SD295A,SD295B,SD345 D19~D38	SD390 D19~D38
180°	d D 4d以上	3d以上	4d以上	5d以上
135°	d D 4d以上			
90°	d D 12d以上			
135°及び 90°	4d以上 D d d D 12d以上			

注）　片持ちスラブ先端，壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には，余長は４ｄ以上とする。

3。鉄筋の継手及び定着

A. 鉄筋の重ね継手

鉄筋の重ね継手の長さは、下表による。なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

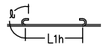
鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295A SD295B	18	45ｄ	35ｄ
	21	40ｄ	30ｄ
	24 27	35ｄ	25ｄ
	30 33 36	35ｄ	25ｄ
SD345	18	50ｄ	35ｄ
	21	45ｄ	30ｄ
	24 27	40ｄ	30ｄ
	30 33 36	35ｄ	25ｄ
SD390	21	50ｄ	35ｄ
	24 27	45ｄ	35ｄ
	30 33 36	40ｄ	30ｄ

注）1）　L1 ,L1h　：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ

2）フックありの場合のL1hは、右図に示すようにフック部分 ℓ を含まない。

3）軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



B. 隣合う継手の位置

隣合う継手の位置は下表による。但し、壁の場合及びスラブ筋でＤ１６以下の場合は除く。

隣合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合	L1h a=0.5L1h　L1h a≧0.5L1h
	フックなしの場合	L1 a=0.5L1　L1 a≧0.5L1
圧接継手 溶接継手	－	圧接継手、溶接継手 a≧400mm
機械式継手	－	カップラー a≧400mm、かつ、a≧(b+40) mm

C. 鉄筋の定着

（１）鉄筋の定着の長さは下表による。

表１.鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	直線定着の長さ L1	L2	L3 小梁	L3 スラブ	フックあり定着の長さ L1h	L2h	L3h 小梁	L3h スラブ
SD295A SD295B	18	45ｄ	40ｄ	20ｄ	10ｄかつ150mm以上	35ｄ	30ｄ	10ｄ	－
	21	40ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		
	24 27	35ｄ	30ｄ			25ｄ	20ｄ		
	30 33 36	35ｄ	30ｄ			25ｄ	20ｄ		
SD345	18	50ｄ	40ｄ			35ｄ	30ｄ		
	21	45ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		
	24 27	40ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		
	30 33 36	35ｄ	30ｄ			25ｄ	20ｄ		
SD390	21	50ｄ	40ｄ			35ｄ	30ｄ		
	24 27	45ｄ	40ｄ			35ｄ	30ｄ		
	30 33 36	40ｄ	35ｄ			30ｄ	25ｄ		

注）1）　L1 , L1h　：2）から4）以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

2）　L2, L2h　：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

3）　L3 ：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。（基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。）なお、片持小梁及び片持ちスラブの場合は、20ｄ及び10ｄを25ｄ以上とする。

4）　L3h：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ

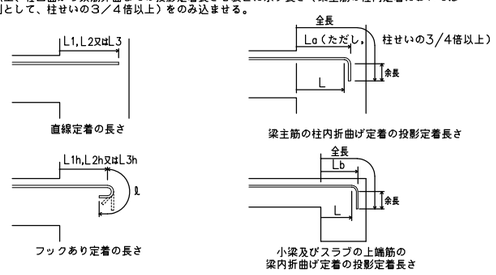
5）　フックありの場合は（2）に示すようにフック部分 ℓ を含まない。

また、中間部での折曲げは行わない。

6）　軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

（2）定着の方法は下図による。

なお、仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、表１のフックあり定着長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法は、全長を表１に示す直線定着の長さ以上とし、かつ、余長を８ｄ以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表２に示す長さ（梁主筋の柱内定着においては原則として、柱せいの３／４倍以上）をのみ込ませる。



（イ）直線定着　　（ロ）折曲げ定着

表２.投影定着長さ

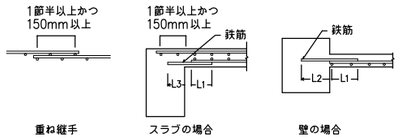
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	La	Lb
SD295A SD295B	18	20ｄ	15ｄ
	21	15ｄ	15ｄ
	24 27	15ｄ	15ｄ
	30 33 36	15ｄ	15ｄ
SD345	18	20ｄ	20ｄ
	21	20ｄ	20ｄ
	24 27	20ｄ	15ｄ
	30 33 36	15ｄ	15ｄ
SD390	21	20ｄ	20ｄ
	24 27	20ｄ	20ｄ
	30 33 36	20ｄ	15ｄ

注）1）　La ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁，片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）

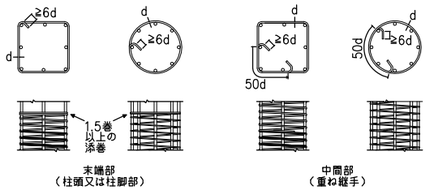
2）　Lb ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）

3）　軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

D. 溶接金網の継手及び定着



E. スパイラル筋の継手及び定着



4。鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

A. 鉄筋のかぶり厚さ

（１）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下表による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

（2）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

（3）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

鉄筋の最小かぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種別				最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ 耐力壁以外の壁	仕上げあり		20
		仕上げなし		30
	柱 梁 耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁、耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁			40
	基礎、擁壁、耐圧スラブ			60
煙突等高熱を受ける部分				60

注）1）この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。

2）「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。

3）スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。

4）杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。

5）塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

B. 鉄筋の相互のあき

鉄筋相互のあきは、次の値のうち最大のもの以上とする。但し、機械式継手及び溶接継手の場合のあきは、特記による。

（1）　粗骨材の最大寸法の 1.25 倍

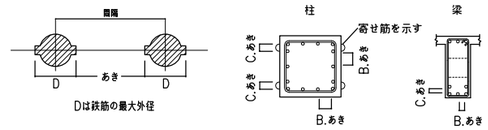
（2）　25mm

（3）　隣り合う鉄筋の平均径（呼び名に用いた数値ｄ）の 1.5 倍

（4）　鉄骨鉄筋コンクリート造の場合は、主筋と平行する鉄骨とのあきは、上記(1)～(3)の最大のもの以上とする。

C. 二段筋、寄せ筋

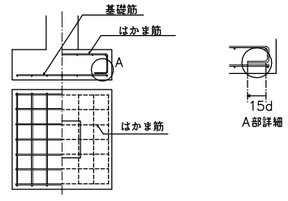
（1）　あきは 1.5ｄとする。



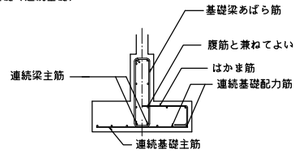
5。基　礎

A. 基礎の配筋

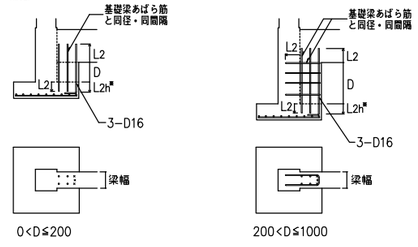
直接基礎（独立基礎）



直接基礎（連続基礎）



B. 基礎接合部の補強



※L2hを確保できない場合は、3.C.（2）によることができる。

6。基礎梁

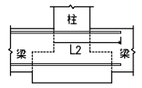
A. 基礎梁筋の継手及び定着

（1）　一般事項

i）　梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。

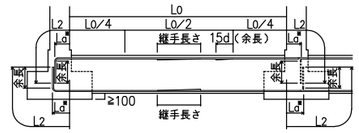
但し、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。

ii）　梁筋を柱内に定着する場合は、「8。大梁」の項による。

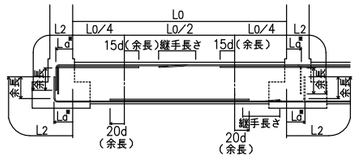


（2）　主筋の継手及び定着位置

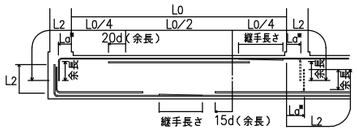
（A形）独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合



（B形）独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合



（C形）連続基礎及びべた基礎の場合

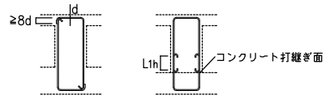


注）　1）破線は、柱内定着の場合を示す。

※Laの数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

B. あばら筋

（1）あばら筋組立ての形及びフックの位置は、「８。大梁」の項による。但し、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ梁せいが 1.5m 以上の場合は下図によることができる。



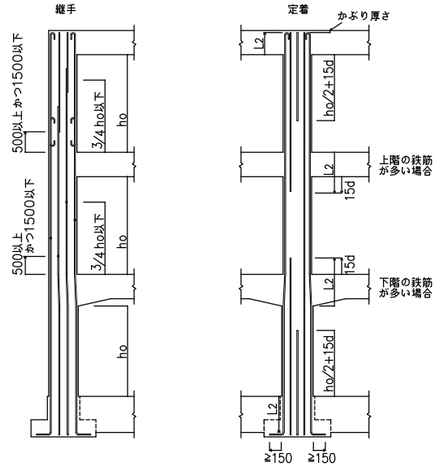
（2）あばら筋の割付、腹筋　及び　幅止め筋は「８。大梁」の項による。

7。柱

A. 柱主筋の継手、定着及び余長

（1） 継手中心位置は、梁上端から 500mm 以上,1500mm 以下かつ3/4 ho 以下とする。

（2） 継手、定着及び余長は、下図による。



注）1） 2.（1）で定めた鉄筋にはフックをつける。

2） 隣合う継手の位置は3-Bによる。

3） 継手長さは、特記による。
特記なき場合は、監督職員と協議し構造設計者の承認を得る。

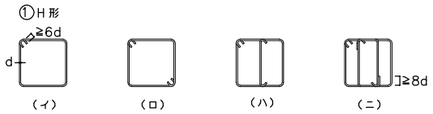
B. 帯筋の形状

（1） 帯筋組立ての形はH形とする。

（2） H形の135°曲げのフックが困難な場合はW-Ⅰ形とする。

（3） 溶接する場合の溶接長さ は、両面フレア溶接の場合は5d 以上、片面フレア溶接の場合は10d 以上とする。

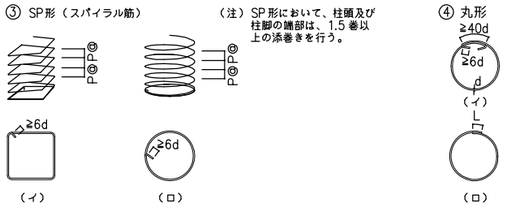
（4） フック及び継手の位置は、交互とする。



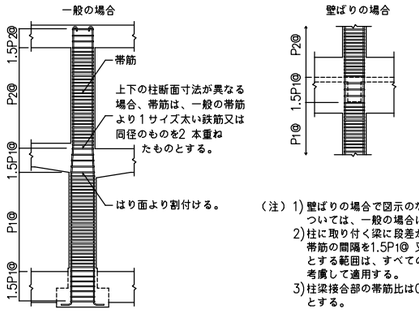
②W-Ⅰ形 （注） 溶接は、鉄筋の組立て前に行う。

③ SP形（スパイラル筋） （注）SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5 巻以上の添巻きを行う。

④ 丸形



C. 帯筋の割付け



（注）1）壁ばりの場合で図示のない事項については、一般の場合に同じ。

2）柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P①又は1.5P②とする範囲は、すべての方向の梁を考慮して適用する。

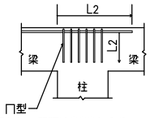
3）柱梁接合部の帯筋比は0.3%以上とする。

8。大梁

A. 大梁主筋の継手及び定着

1. 一般事項

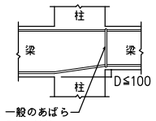
（1） 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、（2）により柱内に定着することができる。
ただし、やむを得ず、梁内に定着する場合は、右図による。



梁主筋拘束筋 ⊓型あばら筋と同径とし、間隔は200とする。

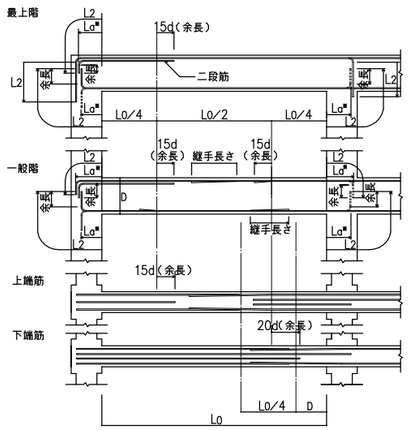
（2） 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。
なお、定着の方法は、3。C.(2)による。
上端筋 ― 曲げ降ろす。
下端筋 ― 原則として曲げ上げる。

（3） 段違い梁は、右図によることができる。



吊上げ筋は、一般のあばら筋より1サイズ太い鉄筋又は同径のものを2本重ねたものとする。

2. ハンチのない場合の重ね継ぎ手、定着及び余長



（注）1）2。（2）で定めた鉄筋にはフックを付ける。

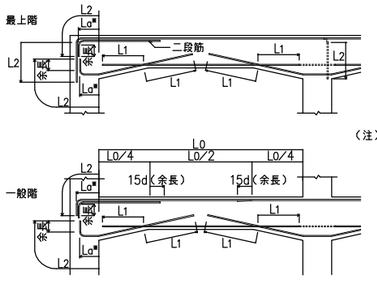
2）破線は、柱内定着の場合を示す。

3）隣合う継手の位置は3.Bによる。

※ Laの数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

4）継手長さは、特記による。
特記なき場合は、監督職員と協議し構造設計者の承認を得る。

3. ハンチのある場合の定着及び余長



（注）1）2。（2）で定めた鉄筋にはフックを付ける。

2）柱内定着の端部下端筋が接近するときは、…… のように引き通すことができる。

3）破線は、柱内定着の場合を示す。

4）隣合う継手の位置は3。Bによる。

※ Laの数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

B. あばら筋、腹筋及び幅止め筋

1. 一般事項

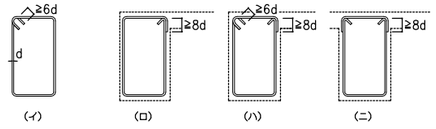
（1） 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm 程度とする。

（2） 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@ 程度とする。

2. あばら筋組立ての形及びフックの位置

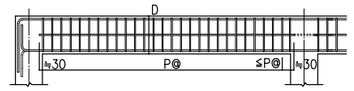
（1） 形は、(イ)とする。但し、L 形の場合は (ロ) 又は (ハ) 、T 形梁の場合には (ロ)~(ニ)とすることができる。
ただし、置きスラブの場合は（イ）と同様とする。

（2） フックの位置は、(イ) の場合は交互とし、(ロ) の場合は、L 形ではスラブのつく側、T 形では交互とする。
なお、(ハ) の場合はスラブのつく側を90°折曲げとする。

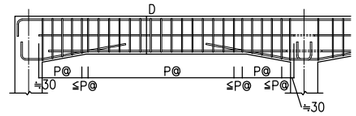


3. あばら筋の割付け

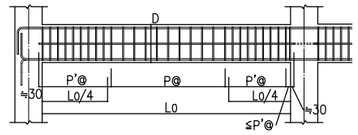
（1） 間隔が一様でハンチのない場合



（2） 間隔が一様でハンチのある場合



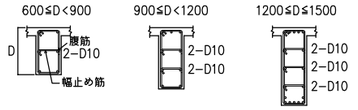
（3） 梁の端部で間隔の異なる場合



（注）1）あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。

2）図のP@,P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

4. 腹筋及び幅止め筋



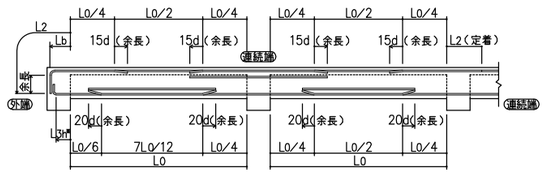
（注）1）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。

2）幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1000@程度とする。

9。小梁及び片持梁

A. 小梁主筋の継手、定着及び余長

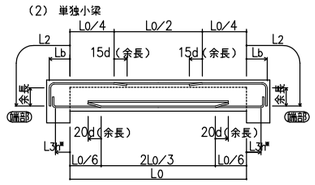
（1） 連続小梁



（注） 図示のない事項は「8.大梁」の項による。

※L3hを確保できない場合は、3.C.（2）によることができる。

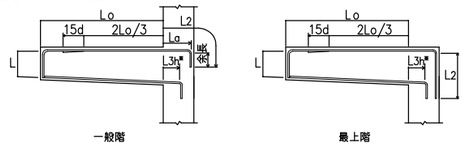
（2） 単独小梁



（注） 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
図示のない事項は「8.大梁」の項による。
※L3hを確保できない場合は、3.C.（2）によることができる。

B. 片持梁主筋の定着及び余長

1. 先端に小梁のない場合

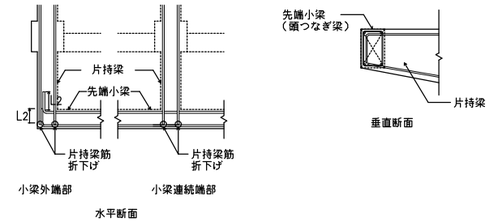


（注）1）図示のない事項は、「8.大梁」の項による。

2）先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

※L3hを確保できない場合は、3.C.（2）によることができる。

2. 先端に小梁がある場合



（注）1） 図示のない事項は、上記 1.による。

2） 先端小梁純端部の主筋は片持梁内に水平定着する。

3） 先端小梁の連続端は片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

10。壁

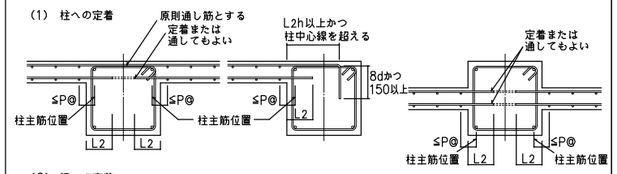
A. 一般事項

（1） 壁配筋の重ね継手はL1、定着長さはL2とする。

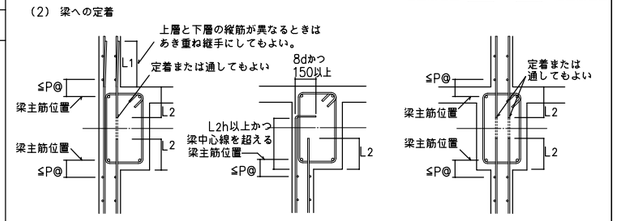
（2） 幅止め筋は、縦、横ともD10-1,000@ 程度とする。

B. 壁筋の配筋

（1） 柱への定着



（2） 梁への定着



（注） 1）P@は壁筋間隔を示す。

C. 階段受け壁

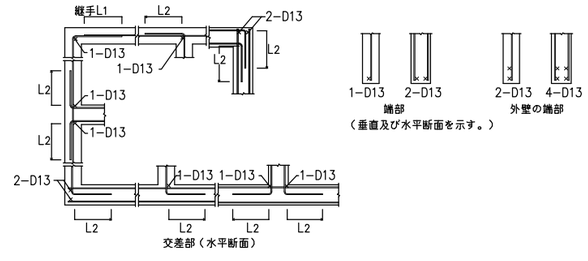
片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋

配筋種別	壁厚 t(mm)	壁 配 筋			階段の配筋種別
KW1	180	縦筋	D13-200@	（ダブル）	KA1
		横筋	D10-200@	（ダブル）	
KW2	200	縦筋	D13-150@	（ダブル）	KA2
		横筋	D10-200@	（ダブル）	

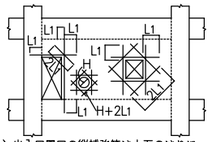
（注） 1）縦筋は横筋の外側に配筋する。

2）階段の配筋種別は 12。Aによる。

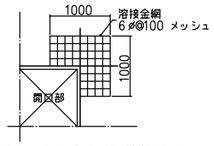
D. 交差部及び端部の配筋



E. 壁開口部の補強（耐震壁を除く）



（注）出入口開口の縦補強筋は上下のはりに定着する



（注）溶接金網を用いる場合は、斜め補強筋 1−D13 のかわりに１枚、2−D13 のかわりに２枚を主筋の外側の被り部分に入れる。

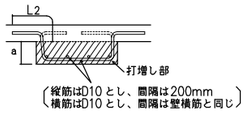
壁の種別	A 形		B 形	
	補強筋		補強筋	
	縦、横	斜め	縦、横	斜め
W12，W15	1−D13	1−D13	2−D13	1−D13
W18，W20	2−D13	2−D13	4−D13	2−D13

（注）開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋ができる場合は補強を省略することができる。

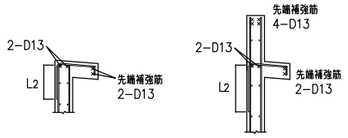
F. 打増し補強筋

（1） aが50mm未満の打増しの場合は、補強不要とする。

（2） aが200mmを越える場合は特記による。



G パラペット配筋



11。スラブ

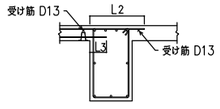
A. 一般事項

（1） 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。

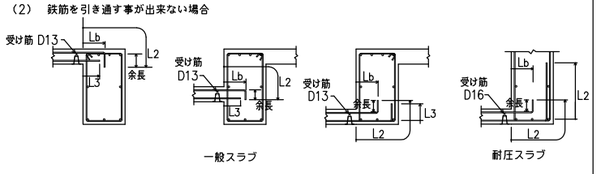
（2） 鉄筋の重ね継手長さは、L1 とする。

B. 定着長さ及び受け筋

（1） 鉄筋を引き通す場合

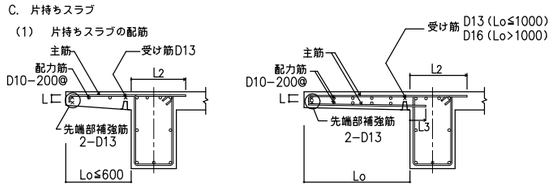


（2） 鉄筋を引き通す事が出来ない場合



C. 片持ちスラブ

（1） 片持ちスラブの配筋

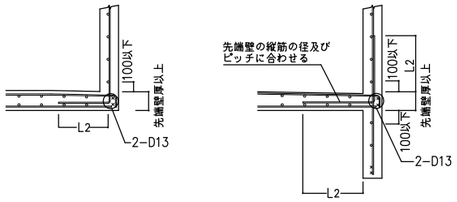


注）1） 片持ちスラブの先端部及び三辺固定スラブの自由端には、上図により補強筋を配置する。

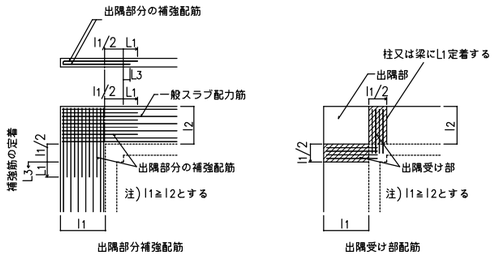
2） スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

3） 先端の折曲げ長さLは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

（2） 先端に壁 が付く場合



（3） 出隅部の補強

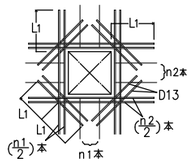


D. スラブ開口部の補強

（1） スラブ開口の最大径が 700mm 以下の場合は、右図により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部は斜め方向に 2−D13（L=2L1）シングルを、上下筋の内側に配筋する。

（2） スラブ開口の最大径が、700mm をこえる場合は、特記による。

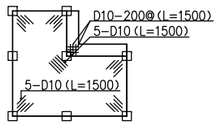
（3） スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



E. その他の補強

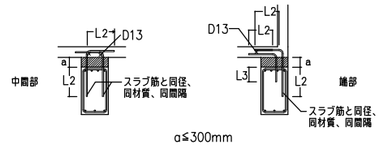
1. 屋根スラブ

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



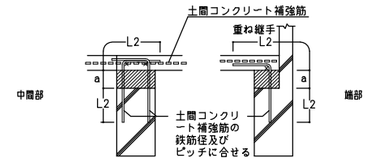
2. 土間スラブ（土に接する構造スラブ）の打継ぎ補強筋

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、特記がない場合には下図による。



3. 土間コンクリート（床荷重を直接支持地盤へ伝達できるもの）の補強筋

土間コンクリートと基礎梁との接合部は下図による。



a≦300mm

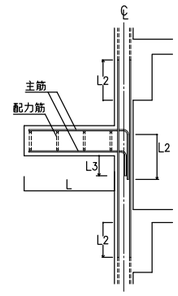
4. 段差のあるスラブの補強

150mm以下の段差のあるスラブの補強は、特記がない場合には下図による。

（a）H ≦70 の場合　　（b） 70<H≦150 の場合

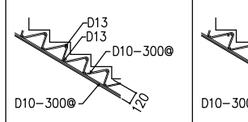
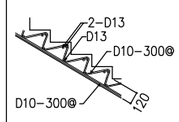
12。階段

A. 片持スラブ形階段



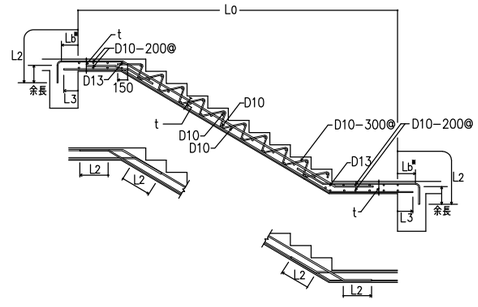
（注） 1.）壁配筋は、10。Cによる。
2.）階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3.）階段配力筋の継手及び定着長さは、3。C（1）の L3（スラブ）とする。

片持スラブ形階段の基準配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
許容スパン（mm）	L ≦1500	L ≦2000

（注）許容スパンの値は、鉄筋コンクリート手摺り腰壁等、重い手摺りがある場合は適用できない。

B. 二辺固定スラブ形階段



二辺固定スラブ形階段基準配筋

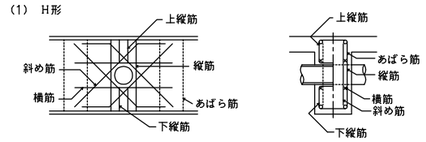
配筋種別	スラブ厚さ t(mm)	上端筋、下端筋とも（全域）	許容スパン（mm）
KB1	150	D13−200@	Lo≦3000
KB2	150	D13−150@	Lo≦3500
KB3	150	D13−100@	Lo≦4000
KB4	180	D13, D16−150@	Lo≦4500
KB5	180	D16−150@	Lo≦5000
KB6	180	D16−125@	Lo≦5500
KB7	200	D16−100@	Lo≦6000

（注）許容スパンの値は、鉄筋コンクリート手摺り腰壁等、重い手摺りがある場合は適用できない。

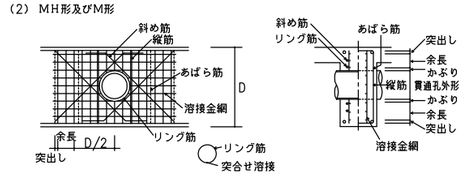
13。梁貫通孔の補強

1. 梁貫通孔補強筋の名称などは下図による。

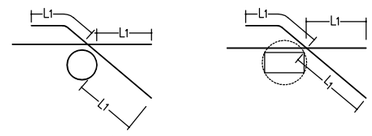
（1） H形



（2） MH形及びM形

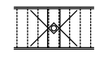
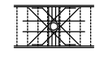
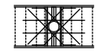


2. 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
3. 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より1/3D（Dは梁せい）の範囲には設けてはならない。
4. 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。
5. 孔が並列する場合の中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。
6. 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
7. 補強筋は主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、下図による。



8. 孔の径が梁せいの 1/10 以下かつ150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
9. 溶接金網の余長は１格子以上とし、突出しは10mm 以上とする。
10. 溶接金網に付けるリング筋は、溶接金網に 4箇所以上溶接する。
11. 溶接金網の割付始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
12. 補強形式は次表による。

H形配筋（RC梁）

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2−2−D13	なし	なし	なし	
H2		2−2−D13			
H3	4−2−D13	2−2−D13	2−2−D13	2−2−D13	
H4	4−2−D16				
H5	4−2−D16	4−2−D13	2−2−D13	3−2−D13	
H6	4−2−D19				
H7	4−2−D22				

（注） ┈┈┈ は、一般部分のあばら筋を示す。

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

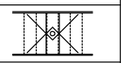
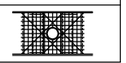
工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	配筋基準図（３）	縮尺 ―	S-05
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(171/224)

M形配筋（SRC梁）

配筋種別	縦筋	溶接金網	リング筋	配筋図
M1	2-2-D13	なし	なし	
M2	4-2-D13			
M3	4-2-D13	2-6ø-100@	13ø	
M4	6-2-D13			

（注） ---------- は、一般部分のあばら筋を示す。

MH形配筋（RC梁、SRC梁）

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	リング筋	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	なし	
MH2		2-2-D13			
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6ø-100@	13ø	
MH4	4-2-D13				
MH5	4-2-D16				
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6ø-100@	13ø	
MH7	4-2-D19				

（注） ---------- は、一般部分のあばら筋を示す。

13. 梁貫通孔補強筋は、監督職員の承諾を受けて、既製品と入れ替える事ができる。

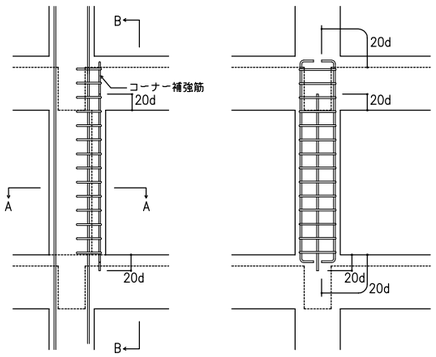
製品名	メーカー名
・ダイヤレン	コーリョー建販
・リバーレン	JFEテクノワイヤ
・MAXリンブレンK型	丸井産業

14。柱、梁の打増しコンクリート補強

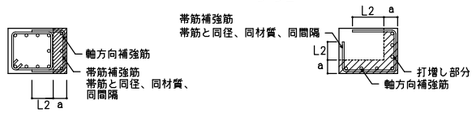
A. 柱の打増しコンクリート補強筋

梁及び耐力壁の鉄筋の定着長さは打増し部分を除いて算定する。

α<70　打増し補強筋不要
70≦α≦200　軸方向補強筋 D16−300@
200<α≦300　軸方向補強筋 D19−300@



B−B面

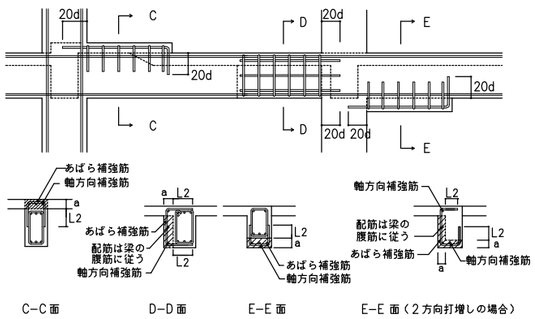


A−A面　　A−A面（2方向打増しの場合）

B. 梁の打増しコンクリート補強筋

あばら補強筋は、あばら筋と同径、同材質、同間隔とする。

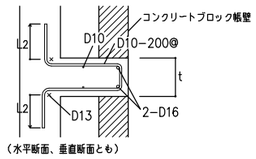
α<70　打増し補強筋不要
70≦α≦200　軸方向補強筋 D16−300@
200<α≦300　軸方向補強筋 D19−300@
300<α≦450　軸方向補強筋 D22−300@



C−C面　　D−D面　　E−E面　　E−E面（2方向打増しの場合）

15。コンクリートブロック帳壁

1. 帳壁の控壁

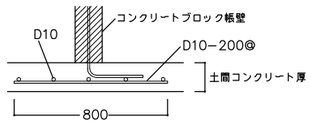


（水平断面、垂直断面とも）

控壁の配筋

2. 土間コンクリートの補強

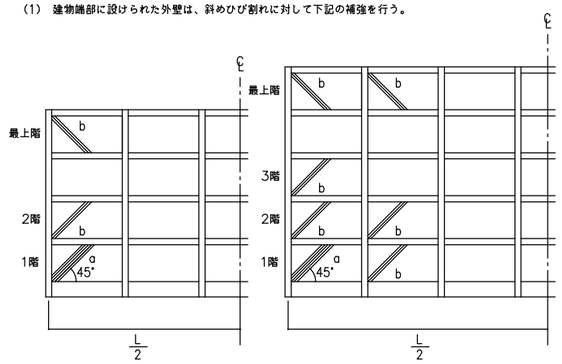
帳壁が、土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下図による。



16。壁のひびわれ対策

A. 建物端部に設けられた外壁の補強

（1） 建物端部に設けられた外壁は、斜めひび割れに対して下記の補強を行う。

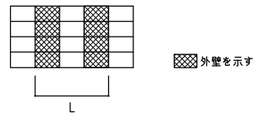


20m <L ≦ 40mの場合　　40m <L ≦ 60mの場合

斜めひび割れ補強筋

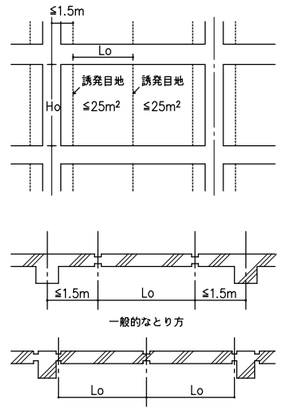
壁配筋	補強筋	
	a	b
シングル	5−D13	3−D13
ダブル	10−D13	6−D13

（2） 外壁が建物の端部以外の部分に設けられている場合、壁より外側のフレームを除いた長さLにより前項を適用する。



B. 誘発目地

（1） 特に対策を講ずる場合以外は、原則として周囲を柱・はり・床組・誘発目地などで囲まれた1枚の壁の面積を25m²以下とする。誘発目地間隔は3m以内とし、位置は意匠図による。

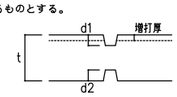


一般的なとり方

柱ぎわに目地を設ける場合

（2） 架構より突出したバルコニー、腰壁、垂れ壁等には原則として3m程度以内の間隔で誘発目地を設ける。

（3） 誘発目地は、原則として目地による壁断面の欠損率を施工時の実壁厚に対して 1/5~1/4とし、壁の両面から欠き込むものとする。ただし、耐震壁に目地を設ける場合、欠損率は1/5程度にとどめるものとする。



$$1/5 \leq \frac{d1 + d2}{t} \leq 1/4$$

（4） 誘発目地部分の鉄筋は目地底より最小かぶり厚を確保するものとする。

C. その他

（1） 壁に配管類などを埋め込む場合、管径は壁板内外配筋の中間に収まる寸法とし、配管類に対するかぶり厚さおよび配管類間のあきは、30mm以上とする。

溶接接合

1. 一般事項

1.1 溶接方法

溶接方法は原則としてアーク溶接とし、溶接方法の種類は、アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接、サブマージアーク自動溶接、エレクトロスラグ溶接及びアークスタッド溶接とする。

1.2 溶接継手

溶接継手の種類は、完全溶込み溶接、隅肉溶接、部分溶込み溶接及びフレア溶接とし、完全溶込み溶接の継手形状の種類は、突合わせ継手、T形継手及びかど継手とする。

1.3 溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号

分類			記号
溶接方法	アーク手溶接，ガスシールドアーク半自動溶接 セルフシールドアーク半自動溶接		H
	サブマージアーク自動溶接		A
	エレクトロスラグ溶接		E
溶接継手	完全溶込み溶接	突合わせ継手	B
		T形継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	フレア溶接		FL
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接(注)		2

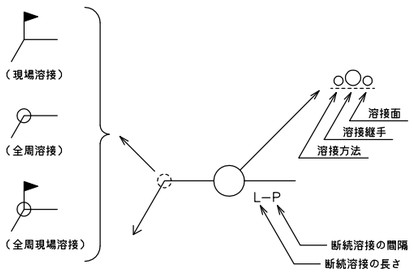
（注）両面溶接とは、裏はつりの有無にかかわらず、鋼材の表側と裏側の両面より溶接を行うことをいう。

1.4 溶接の補助記号

区分	補助記号
現場溶接	⚑
全周溶接	○
全周現場溶接	⚑○
断続溶接の長さ及び間隔	L－P

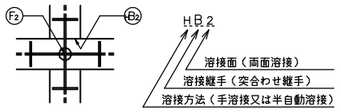
1.5 溶接記号の記載方法

溶接記号の記載方法は下図またはＪＩＳによる。ただし、溶接工法又は溶接面の指定を行わない場合は、溶接継手のみの記入とする。尚、ＪＩＳによる場合の、完全溶け込み溶接に対する溶接継手の記号は、↖で代表させる場合がある。



（注）基準線及び引出線は、溶接記号（ＪＩＳ Ｚ 3021）に準ずる。

（記載例）
溶接記号の記載は、下図に従い、溶接方法、溶接継手及び溶接面の記号を記入する。

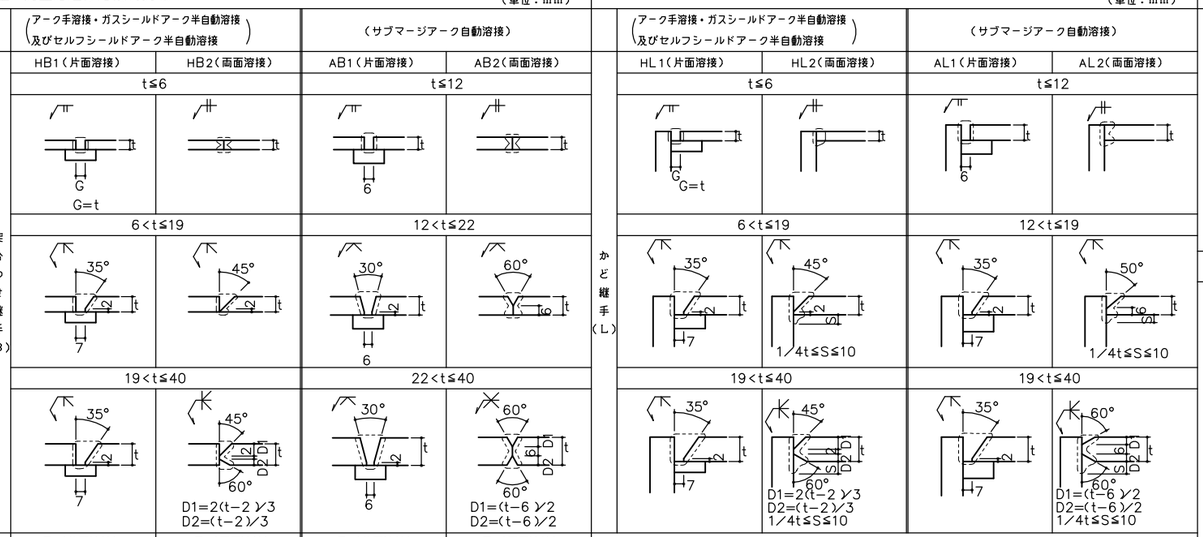


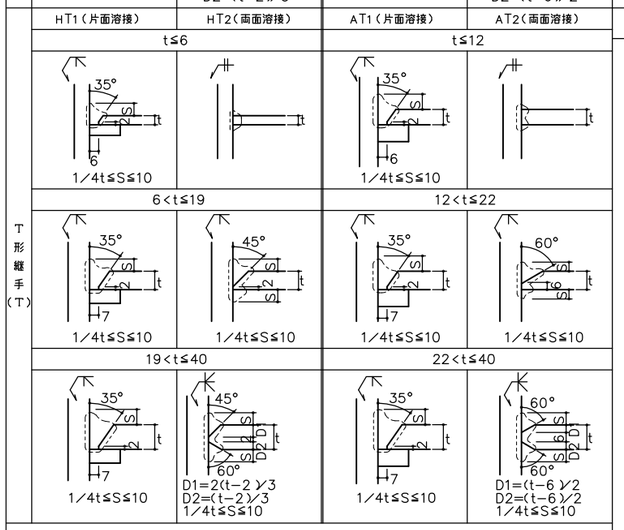
1.6 その他

1）設計図書に記載なき場合は、本基準図に従うものとする。
2）本基準図に記載なき場合は、「鉄骨工事技術指針（日本建築学会編）」による。
3）精度に関しては「鉄骨精度測定指針（日本建築学会編）」によるとともに、告示12−1464第二号イ（３）の規定も満足すること。
4）鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し、監督職員の承認を得ること。
5）本鉄骨基準図に示す溶接形状、開先角度、ルート間隔及びルートフェース等は標準を示すもので、鉄骨加工業者が、施工設備、経験により、独自の基準を有する場合は、「鉄骨工事施工要領書」にその基準及びその根拠を示すデータ、検査結果、検査要領等を添付し、監督職員の承認を得た場合に限り、その基準による事ができる。

2. 完全溶込み溶接開先標準

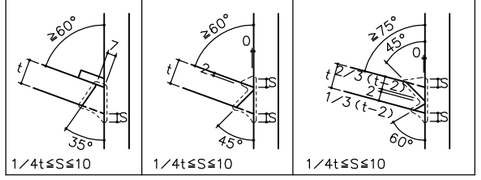
（単位：mm）





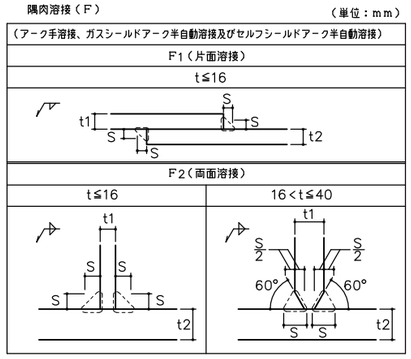
ハンチ部等の溶接
ハンチ部等のＴ形継手において、溶接板が直交しない場合の開先標準は、下図による。

（単位：mm）



3. 隅肉溶接基準

隅肉溶接（F）　（単位：mm）



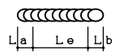
隅肉溶接のサイズ　（単位：mm）

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12

t	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	36	40
S	10	11	11	12	13	13	14	14	15	16	16	17	17	18	18	19	21	24

tは、t1,t2の薄い方の板厚とする。

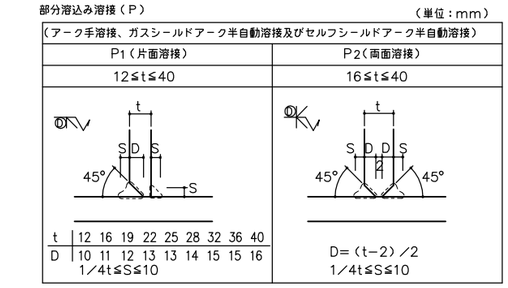
注）1） 隅肉溶接の長さ
設計図書（図面及び仕様書）に示す断続隅肉溶接長さは、右図の有効長さ（Le）とし、隅肉のサイズ（S）の10倍以上とする。ただし、有効長さは、ビードの始点（La）及びクレーター（Lb）を除いた部分の長さとする。



（La及びLb≧S）

4. 部分溶込み溶接開先標準

部分溶込み溶接（P）　（単位：mm）

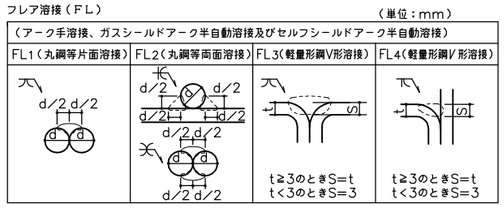


t	12	16	19	22	25	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16

注）1） 部分溶込み溶接のうち片面溶接においては、原則として開先をとらない側にも補強隅肉溶接を行う。

5. フレア溶接基準

フレア溶接（FL）　（単位：mm）

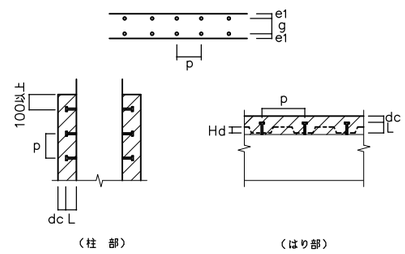


6. その他の溶接基準

6.1 スタッド溶接

1） スタッド溶接はアークスタッド溶接方式による直接溶接とし、溶接姿勢は下向きを原則とする。
2） スタッド溶接用材料はJIS B1198（頭付スタッド）の規格品とし、適用呼び名は、13mm、16mm、19mm及び22mmの4種類とする。
3） スタッド溶接は、デッキプレート上から行ってはならない。ただし、デッキプレート厚1.6mm以下で、あらかじめ施工試験で良好な溶接が得られることが確認された場合は、この限りではない。
4） スタッドの間隔、ゲージ等の寸法

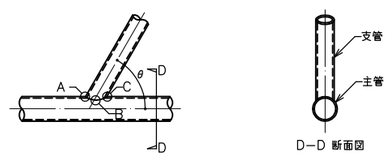
項目		寸法
間隔	（p）	呼び名の7.5倍以上かつ600mm以下
最小ゲージ	（g）	呼び名の5倍以上
へりあき	（e1）	40mm以上
呼び長さ	（L）	呼び名の4倍以上。デッキプレートが介在する場合は、呼び名の4倍以上で、かつ、デッキプレート高さ（Hd）に30mmを加えたもの以上とする。
コンクリートかぶり厚	（dc）	30mm以上。土に接する部分及び外壁仕上なしの部分は、40mm以上とする。



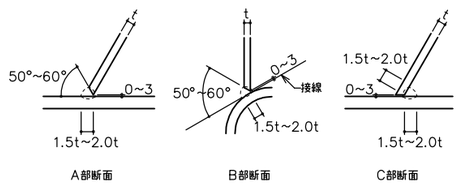
6.2 鋼管分岐継手

鋼管分岐継手における支管は、主管外径より細径のものを使用し、その開先標準は下図による。
ただし、自動機械により開先加工を行う場合は、これ以外の形状をとることができる。

適用管厚　3.2mm≦t≦12mm
交角　30°≦θ≦150°



主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。



6.3 焼抜き栓溶接

1）焼抜き栓溶接

項目			
溶接工資格		JIS Z 3801 基本級以上	
材料及び設備	溶接棒及び溶接材料	JIS D 4316,5016に定める低水素系被覆アーク溶接棒 φ4mm	
	溶接機	交流アーク溶接機AW300A以上 エンジン溶接機280A以上	
	附属設備	ケーブル類：38mm²以上	
	電源容量	溶接機1台につき24KVA	
標準溶接条件	デッキ板厚 (mm)	1.2~1.6	
	はりフランジ板厚 (mm)	6~9未満	9以上
	溶接電流 (A)	230~250	270~300
	溶接電圧 (V)	――	
	アークタイム (sec)	5~8（溶接時間10~18）	
余盛り径 (mm)		25~30	

2）自動焼抜き栓溶接

項目					
溶接工資格		JIS Z 3841 基本級以上			
材料及び設備	溶接棒及び溶接材料	ワイヤ：YGW11,12 φ1.2 ガス：CO_2			
	溶接機	専用溶接機（350A）			
	附属設備	プッシュフィーダー、ケーブル類、アークスポットガン、ノズル、レギュレータ			
	電源容量	溶接機1台につき18KVA		（エンジン発電機35KVA以上）	
標準溶接条件	デッキ板厚 (mm)	1.2		1.6	
	はりフランジ板厚 (mm)	6~9未満	9以上	6~9未満	9以上
	溶接電流 (A)	300~320	300~320	300~320	300~320
	溶接電圧 (V)	33~35	33~35	34~36	34~36
	アークタイム (sec)	3.0~4.0× 1度打ち	3.5~4.0× 2度打ち	3.5~4.5× 1度打ち	4.0~4.5× 2度打ち
余盛り径 (mm)		25±3			

7. 鉄骨加工要領

7.1 溶接材料

1）溶接材料は下表より、母材の種類、寸法及び溶接条件に相応したものを選定する。

種類	規格番号	規格名称
被覆アーク溶接棒	JIS Z3211	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒
	JIS Z3214	耐候性鋼用被覆アーク溶接棒
ガスシールドアーク溶接用ワイヤ	JIS Z3312	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ
	JIS Z3313	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
	JIS Z3315	耐候性鋼用のマグ溶接及びミグ溶接用ソリッドワイヤ
	JIS Z3320	耐候性鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
セルフシールドアーク溶接用ワイヤ	JIS Z3313	軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
サブマージアーク溶接用材料	JIS Z3183	炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶着金属の品質区分
	JIS Z3351	炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶接ソリッドワイヤ
	JIS Z3352	サブマージアーク溶接用フラックス
エレクトロスラグ溶接用材料	JIS Z3353	軟鋼及び高張力鋼用のエレクトロスラグ溶接ワイヤ及びフラックス
スタッド溶接用材料	JIS B1198	頭付きスタッド
――	――	上に掲げるもののほか、建築基準法に基づき指定又は認定を受けた溶接材料

2）引張強さ490N/mm²以上の鋼材、及び厚さ25mm以上の組立て溶接及び初層には低水素系溶接棒を使用する。
3）使用する溶接棒の最大径は1層目4mm、2層目以降は6mmとする。

7.2 加工

1）切断　：自動ガス切断とし、シャーリングは板厚13mm以下とする。
2）開先加工：自動ガス加工、及び切削加工とする。
3）孔あけ　：ドリル孔あけとし、ガス及びせん断は不可とする。

7.3 組立て

1）組立て溶接は、原則としてショートビートをさけ、その長さは下表による。

板厚（mm）	被覆アーク溶接 ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	サブマージアーク溶接 エレクトロスラグ溶接
t≦6	30以上	50以上
t>6	40以上	70以上

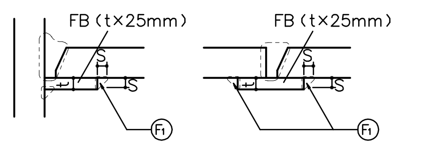
2）予熱：材料の種類、板厚及び母材の温度などにより、適当な予熱を行う。
（溶接線を中心に片側100mmずつ行う）

7.4 裏はつり

完全溶込み溶接における両面溶接は、原則として裏はつりを行う。裏はつりは、健全な溶着部分が現われるまではつり取った後、裏溶接を行う。ただし、自動溶接において完全溶込みが得られたことが超音波探傷試験等で確認できる場合は、裏はつりを省略することができる。

7.5 裏当て金

1）完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は、原則としてフランジ内側に設置し、取付方法は、下図による断続隅肉溶接とし、溶接間隔は溶接部に支障を与えない程度とする。
2）裏当て金の材質は、原則として母材と同等以上とする。

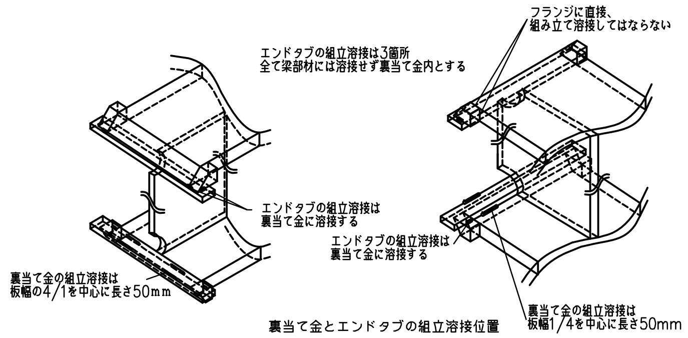


裏当て金の厚さ　（単位：mm）

溶接工法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ　（単位：mm）

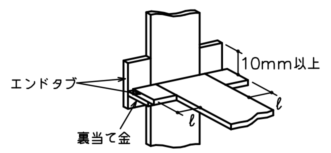
裏当て金の厚さ	S
t ≦ 9	5
t > 9	9



裏当て金とエンドタブの組立溶接位置

7.6 エンドタブ

エンドタブの材質は、母材と同等以上のものとし、形状は同厚・同開先のものを用い、長さは、下図及び下表のとおりとする。ただし、溶接部の品質が十分に確保できると判断される場合は、監督職員の承諾を受けて、その他の工法とすることができる。



エンドタブ

エンドタブの長さ　（単位：mm）

溶接工法	ℓ
被覆アーク溶接	35 以上
ガスシールドアーク溶接	35 以上
サブマージアーク溶接	70 以上

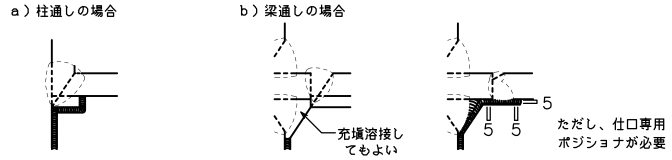
エンドタブを切断する場合は下記による。
1）エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジ等の端から、1～5mmを残して、部材断面を欠損しないように直線上に切断する。
なお、切断線が交差する場合には、交差部をアール状に加工する。
2）切断面は、グラインダーにより粗さ100uｍRｚ程度以下及びノッチ深さ1mm程度以下に仕上げる。

7.7 柱梁完全溶込み溶接部の形状

柱梁接合部のうち梁端溶接部の梁フランジを完全溶込み溶接する際の形状は以下による。

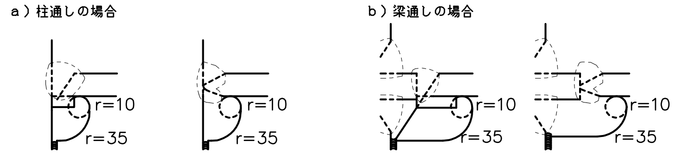
1）ノンスカラップ工法

a）柱通しの場合　　b）梁通しの場合



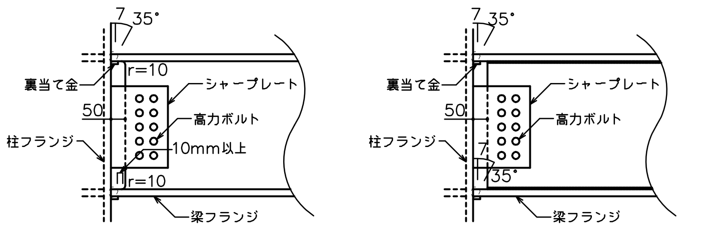
2）複合円型スカラップ工法

a）柱通しの場合　　b）梁通しの場合



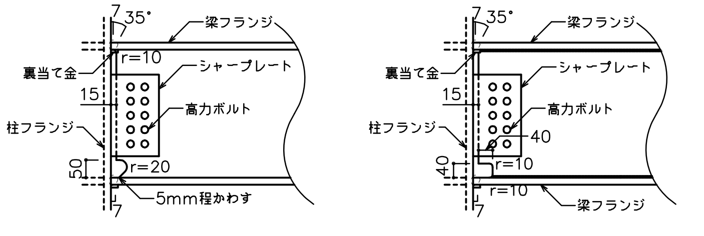
3）現場溶接の場合の梁端形状

a）ストレートカット形状



ロールH・ビルトH　　ビルトH

b）上端ノンスカラップ、下端スカラップ形式



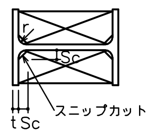
ロールH・ビルトH　　ビルトH

7.8 スニップカット

溶接の交差部をスニップカット（Sc）で、処理する場合の標準寸法は、鋼板の板厚に応じて下表によるものとし、スニップカット部は、溶接により埋めることとする。
ただし、既製形鋼のスニップカットはSc=r+2により求めるものとする。

スニップカット　（単位：mm）

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15



7.9 余盛り

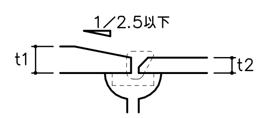
突合わせ継手、かど継手、隅肉溶接及びフレア溶接の溶接部には、余盛りを行う。その高さの上限は、下表による。

（単位：mm）

溶接継手	溶接方法	余盛りの限度
突合わせ継手 かど継手	手溶接	3
	半自動溶接	4
	自動溶接	4
隅肉溶接 フレア溶接	手溶接 半自動溶接	3

7.10 溶接板の段差

板厚が異なる場合の突合せ継手の溶接部の形状は、次による。
1）低応力高サイクル疲労を受ける部位は特記により、その形状は、厚い方の材を1／2.5以下の傾斜に加工し、開先部分で薄い方と同じ高さにする。



2）（1）以外で板厚差による段違いが薄い方の板厚の1／4を超えるか又は10mmを超える場合は、T継手に準じた高さの余盛を設ける。
3）板厚差による段違いが薄い方の板厚の1／4以下、かつ、10mm以下の場合は、溶接表面が薄い方の材から厚い方の材へ滑らかに移行するように溶接する。

7.11 開先精度

開先角度の精度は−0°～+5°とし、ルート間隔精度は±1.5mmとする。

8. ボルト接合

8.1 ボルト孔の径

（単位：mm）

ボルトの種類 ＼ ねじの呼び	M12	M16	M20	M22	M24	M27	M30
高力ボルト（F10T、S10T）	14.0	18.0	22.0	24.0	26.0	30.0	33.0
溶融亜鉛めっき高力ボルト（F8T相当）※1	╳	18.0	22.0	24.0	26.0	30.0	33.0
普通ボルト ※2	13.0	17.0	21.5	23.5	25.5		

※1　国土交通大臣認定条件による。
※2　母屋、胴縁類の取付用ボルトの場合は、ボルトの径+1.0mmとすることができる。

8.2 ボルトの締付け長さに加える長さ

（単位：mm）

ボルトの種類 ＼ ねじの呼び	M12	M16	M20	M22	M24	M27	M30
JIS形	25	30	35	40	45	50	55
トルシア形 ※1	╳	25	30	35	40	45	50

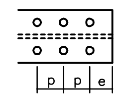
※1　国土交通大臣認定条件による。

8.3 縁端距離及びボルト間隔

縁端距離及びボルト間隔は、下表の値を標準とする。ただし引張材の接合部分において、せん断を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、ボルト軸径の2.5倍以上とする。

（単位：mm）

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70

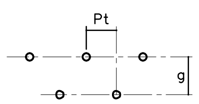


8.4 千鳥打ちのゲージ及び間隔

千鳥打ちのゲージ及び間隔は、下表の値を標準とする。

（単位：mm）

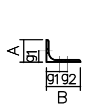
ゲージ g	千鳥打ちの間隔（Pt） ねじの呼び M16、M20、M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	―	40

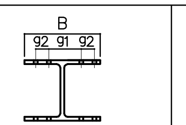


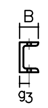
8.5 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、下表の値を標準とする。

（単位：mm）







A又はB	g_1	g_2	最大軸径	B	g_1	g_2	最大軸径	B	g_3	最大軸径
40	22		10	100※2	56		16	40	24	10
45	25		12	125	75		16	50	30	12
50	28		16	150	90		22	65	35	20
60	35		16	175	105		22	70	40	20
65	35		20	200	120		24	75	40	22
70	40		20	250	150		24	80	45	22
75	40		22	300※1	150	40	24	90	50	24
80	45		22	350	140	70	24	100	55	24
90	50		24	400	140	90	24			
100	55		24							
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

※1. H形鋼のB=300は、千鳥打ちとした時のゲージ標準である。
※2. H形鋼のB=100のg1および最大軸径の値は、強度上支障がない場合で、最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。

株式会社 大建設計　技にこころを
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

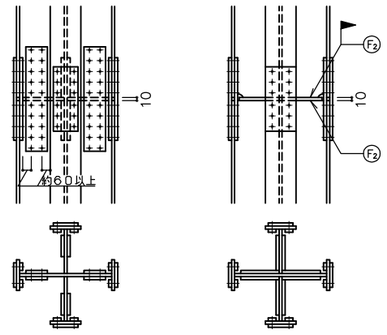
一級建築士	（第 274708号）	山岡　信弘
構造設計一級建築士	（第 6608号）	長坂　典和
設備設計一級建築士	（第 753号）	鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	鉄骨基準図（2）	縮尺 ―	S-08
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(174/224)

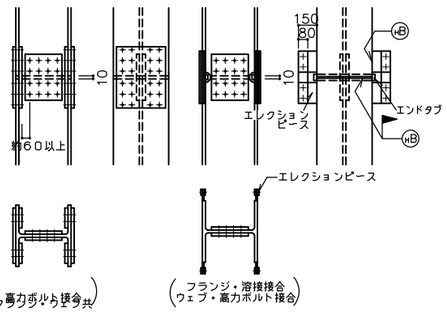
9. 継手部詳細

9.1 柱の継手

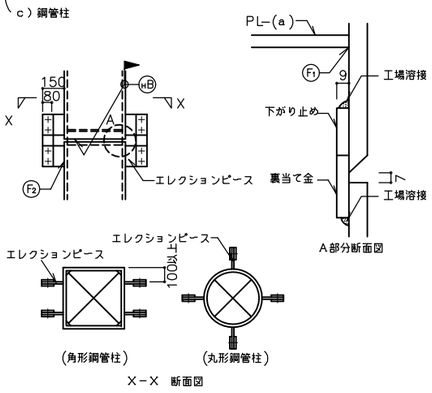
a）十字形柱



b）H形柱



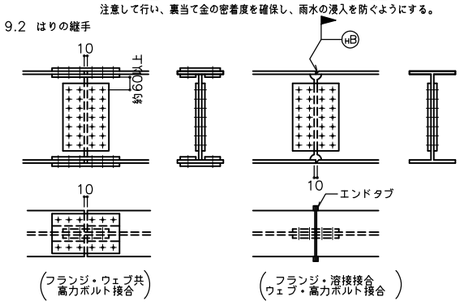
c）鋼管柱



(注1)PL－(a)は厚さ9mm以上とし、柱径400mm以下の場合は省略してよい。

(注2) 裏当て金と母材との間に水分があると、現場溶接時にブローホール等の溶接欠陥発生の原因となるので工場溶接における裏当て金の組立は十分注意して行い、裏当て金の密着度を確保し、雨水の浸入を防ぐようにする。

9.2 はりの継手

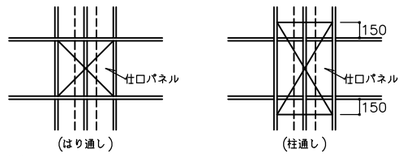


(注) 同じ継手において、上（または下）フランジを高力ボルト、下（または上）フランジを溶接とする組合せは可とする。

10. 仕口パネルその他

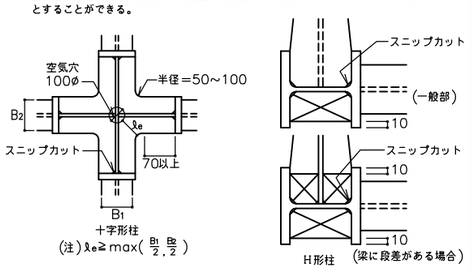
10.1 仕口パネル

仕口パネルの範囲は、下図を標準とし、材質は、取付く梁及び柱のウエブ材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等のものを用い、板厚は、いずれか厚いもの以上かつ9mm以上とする。

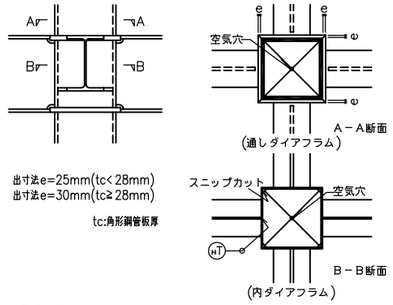


10.2 水平スチフナ

a）十字形柱及びH形柱の仕口部に設ける水平スチフナの形状及び大きさは、下図を標準とし、材質は、梁フランジ材と同等のものを用い、板厚は、梁フランジ厚以上かつ9mm以上とする。なお、梁幅が300mm以上の場合は、スニップカットの代わりにスカラップとすることができる。

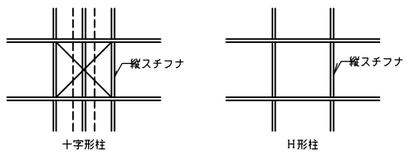


b）鋼管柱の仕口部に設けるダイアフラムの形状及び大きさは下図を標準とし、通しダイアフラムの場合の材質は、取付く梁フランジ材及び柱材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等以上のものを用い、板厚は、同レベルに集まる梁フランジ板厚の2サイズアップ以上（又はフランジ板厚＋6mm以上）、かつ柱の板厚以上とする。
また、内ダイアフラムの場合の材質は、梁フランジ材と同等以上のものを用い、板厚は、同レベルに集まる梁フランジのうち最厚のもの以上かつ9mm以上とする。ダイアフラム中心部には、最上部を除いて空気穴(直径30mm程度)を設ける。ただし、スニップカットの代わりにスカラップを設ける場合には、空気穴を省略することができる。

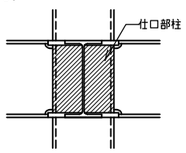


10.3 縦スチフナ

a）十字形柱及びH形柱の仕口部に設ける縦スチフナは、下図を標準とし、縦スチフナの幅は、取付く柱フランジと同一とし、材質は、上下柱フランジのうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等のものを用い、板厚は、いずれか最厚のもの以上とする。

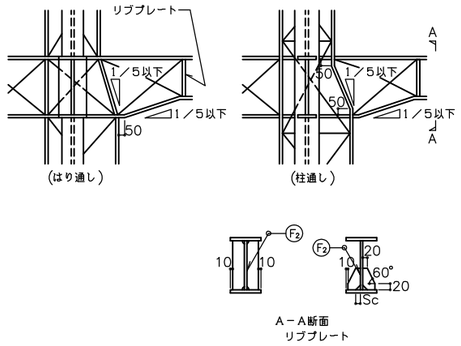


b）鋼管柱の仕口部に設ける柱の形状は、下図を標準とし、柱の大きさは、上下柱のうち大きいものと同一とし、材質は、上下柱材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものと同等以上のものとする。

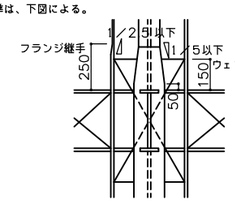


10.4 はり及び柱のしぼり

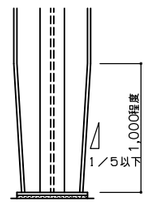
a）はり通し及び柱通しのしぼりの限度及び位置の標準は、下図により、梁ハンチ部にリブプレートを付けるものとし、板厚はウェブと同厚以上とする。ただし、リブプレートの大きさはスリーブ等の納りを考慮して小さくすることができる。



b）柱のフランジ幅、フランジ板厚及びウェブ板厚の異なる場合のしぼりの限度及び位置の標準は、下図による。



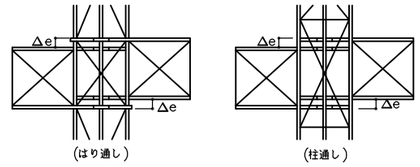
c）柱脚部のしぼりの限度及び位置の標準は、下図による。



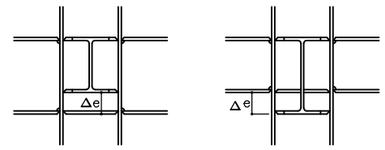
10.5 はりの段差

柱に取り付くはりに段差を設ける場合の寸法(Δe)は、溶接性を考慮して、150mm以上かつ6t以上（tは柱の板厚）を確保する。ただし、溶接及び超音波探傷検査に支障がない場合は、この限りではない。

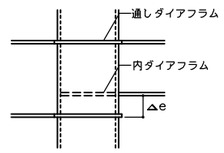
a）十字柱



b）H形柱

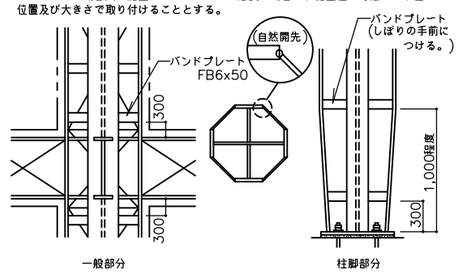


c）鋼管柱



10.6 バンドプレート

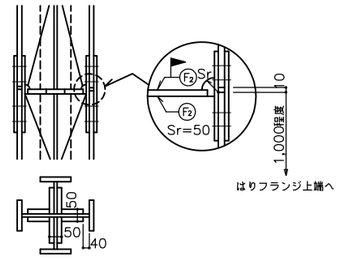
バンドプレートは、特に柱・はり接合部においては配筋上の支障となりやすいので、取り付けないこととする。ただし、ウェブ厚が薄く、溶接、運搬及び建方の際に変形のおそれのある場合又は施工上タラップとして必要な場合は、施工性を考慮して下図の位置及び大きさで取り付けることとする。



(注) バンドプレートの間隔は、約800mmとし、タラップとして使用する場合は、約400mmとする。

10.7 ウェブ継手現場溶接用隔板

現場で柱ウェブ材を溶接する場合の隔板の標準は下図により、材質は上下柱ウェブ材のうち、強度及び溶接性の最も優れたものを用いるものとし、板厚は上下柱ウェブ材の厚さ以上、かつ12mm以上とする。



10.8 フィラープレート(SS400)

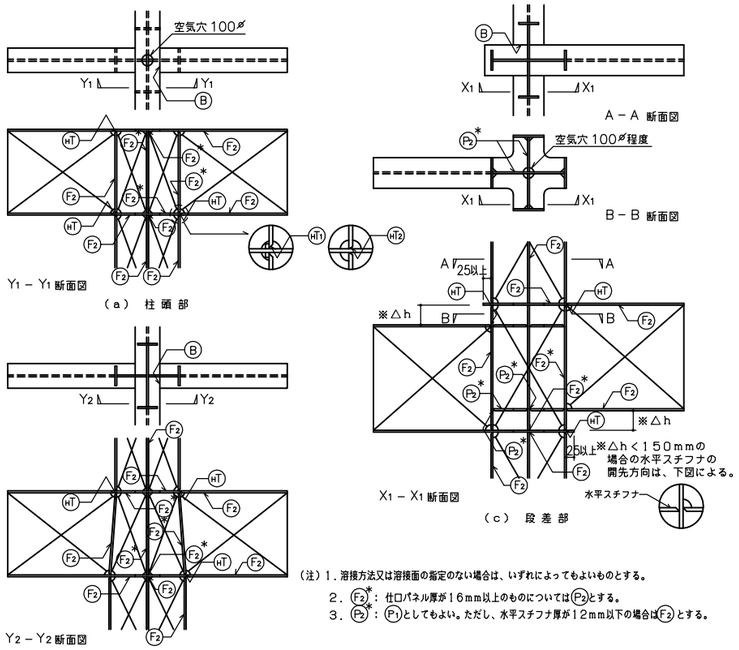
継手	T3又はT4	フィラープレート厚 (mm)
T1 T2 T3	≦ 1	無
	≦ 2	1.6
	≦ 3	2.3
	≦ 5	4.5
T1 T2 T3	≦ 7	6
	≦ 10	9
	≦ 13	12
T1 T3 T4 T2	≦ 17	16
	≦ 20	19
	≦ 23	22

(注) 1. フィラープレートは1mmを超えるはだすきに対して挿入する。
2. フィラープレートの厚みは1.6mm以上とする。

11. 仕口パネルその他仕口部詳細図

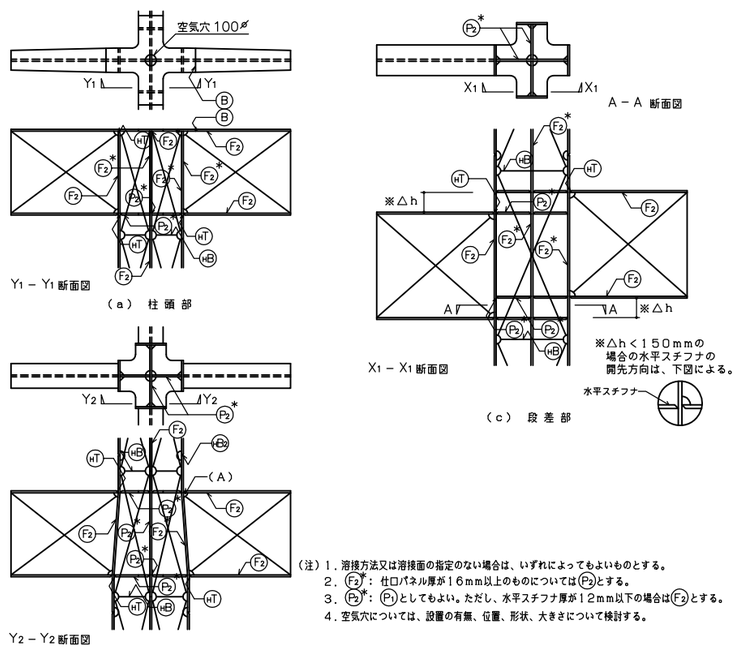
11.1 十字形柱

はり通し



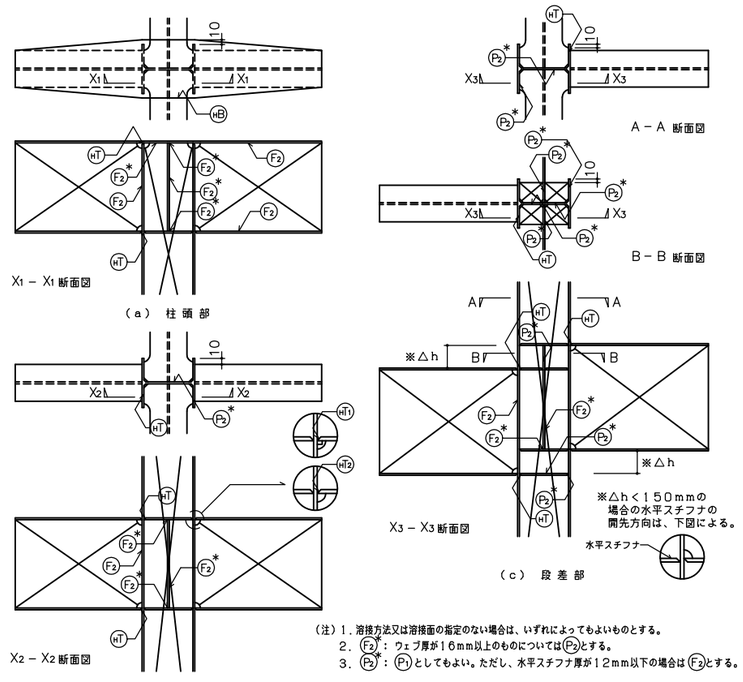
（注）1．溶接方法又は溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。
2．F_2^*：仕口パネル厚が16mm以上のものについてはP_2とする。
3．P_2^*：P_1としてもよい。ただし、水平スチフナ厚が12mm以下の場合はF_2とする。

柱通し



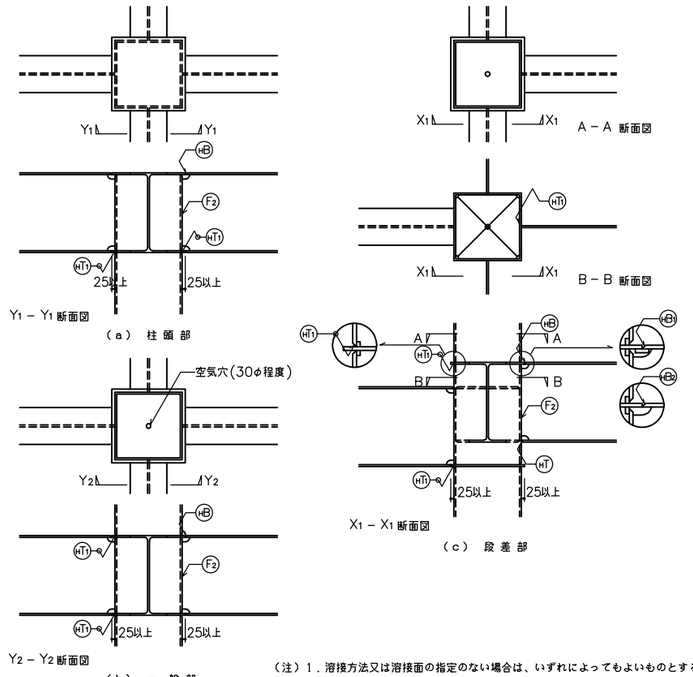
（注）1．溶接方法又は溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。
2．F_2^*：仕口パネル厚が16mm以上のものについてはP_2とする。
3．P_2^*：P_1としてもよい。ただし、水平スチフナ厚が12mm以下の場合はF_2とする。
4．空気穴については、設置の有無、位置、形状、大きさについて検討する。

11.2 H形柱



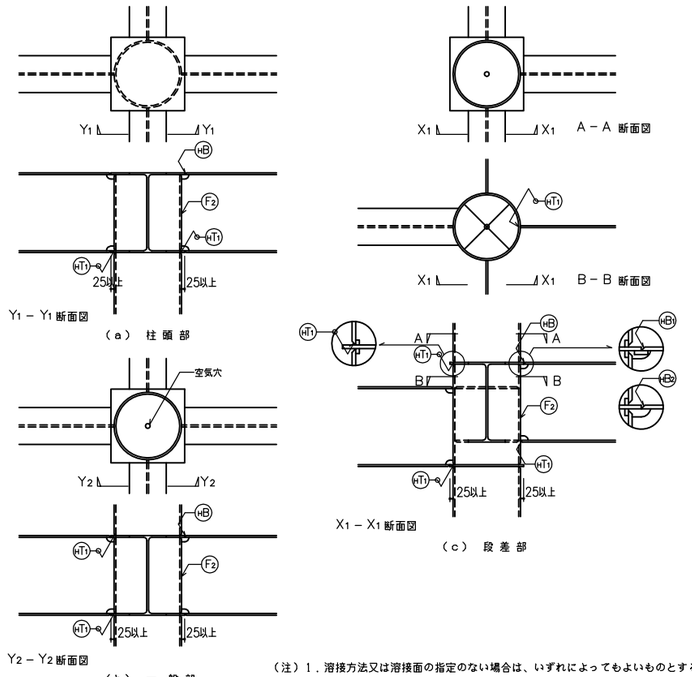
（注）1．溶接方法又は溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。
2．F_2^*：ウェブ厚が16mm以上のものについてはP_2とする。
3．P_2^*：P_1としてもよい。ただし、水平スチフナ厚が12mm以下の場合はF_2とする。

11.3 角形鋼管柱



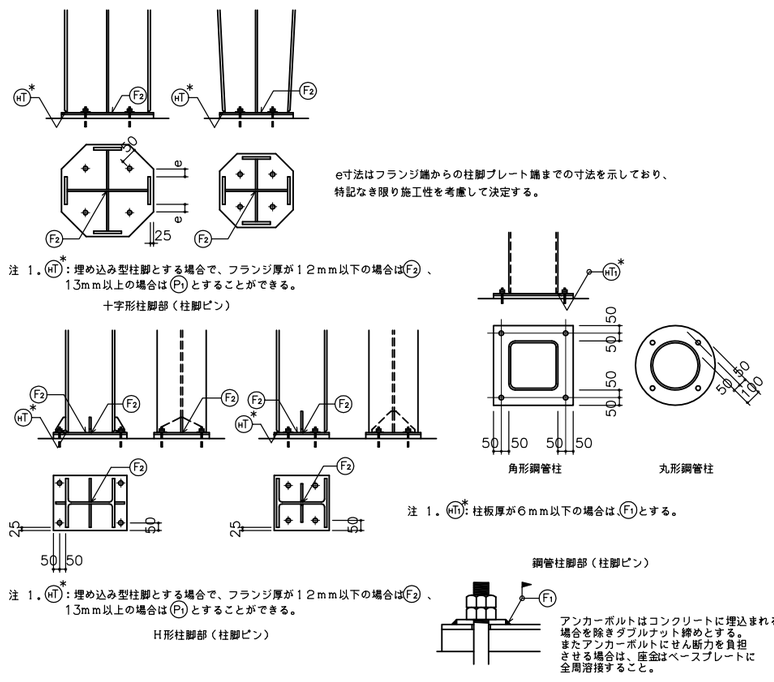
（注）1．溶接方法又は溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。
2．内ダイアフラムの場合は、角形鋼管コーナー（R）部への梁フランジの溶接は行わない。また、内ダイアフラムにスカラップを設けて溶接した場合は、梁フランジの溶接は当該スカラップによる欠損部分を避けて行う。

11.4 鋼管柱



（注）1．溶接方法又は溶接面の指定のない場合は、いずれによってもよいものとする。

11.5 柱脚部詳細図



技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号

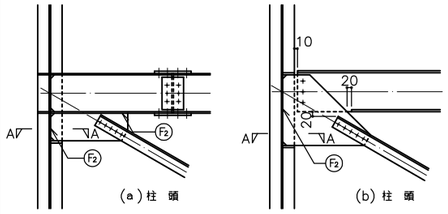
一級建築士	（第 274708号）	山岡 信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事
構造設計一級建築士	（第 6608号）	長坂 典和	図面名	鉄骨標準詳細図（2）
設備設計一級建築士	（第 753号）	鈴木 光春		船橋市建設局建築部建築課

縮尺	―	図面番号
令和7年度		S-10
		(176/224)

12. 各部詳細

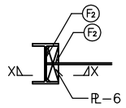
12.1 鉛直ブレースの仕口部

（はりが剛接合の場合）　（はりがピン接合の場合）

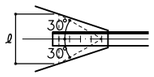


(a) 柱　頭　　(b) 柱　頭

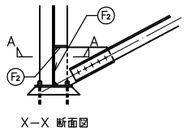
X−X 断面図　　X−X 断面図



A−A 断面図



(d) ガセットプレートの形状



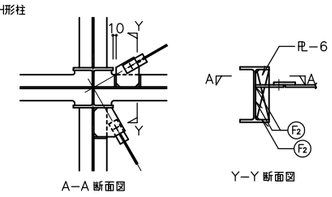
X−X 断面図

(c) 柱　脚

（注）1. 柱、はり及びブレースのゲージラインは、原則として一致させる。
2. ガセットプレートの幅は、材端ボルト位置で図(d)に示すℓの長さを確保する。ただし、それによりゲージラインが不一致となる場合はこの限りではない。

12.2 水平ブレースの仕口部

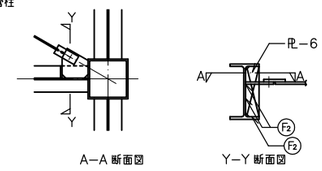
a） H形柱



A−A 断面図　　Y−Y 断面図

（注）1. 柱、はり及びブレースのゲージラインは、原則として一致させる。

b） 鋼管柱

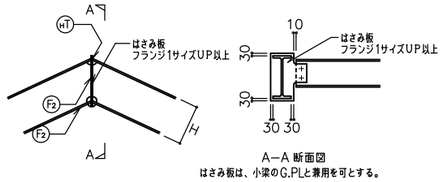


A−A 断面図　　Y−Y 断面図

（注）1. 柱、はり及びブレースのゲージラインは、原則として一致させる。

12.3 山形ラーメン棟部

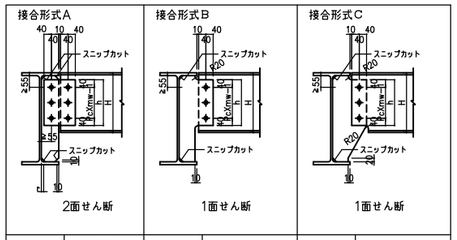
山形ラーメン棟部分の溶接方法の標準は、下図による。
はさみ板は、ラメラティアの恐れを考慮して、へりあきを30mmとし、
鋼種をSN490CまたはTMCP325Cとする。
また、大スパンの場合等で精度が問題となるときは、監督職員の承認を受けて
高力ボルト接合等、他のディテールを採ることができる。



A−A 断面図
はさみ板は、小梁のG.PLと兼用を可とする。

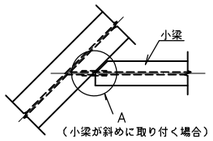
12.4 小ばり接合

a）ピン接合

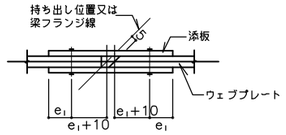


小梁せい	—	小梁せい	≦600	小梁せい	≦600
ウェブボルト列数	1列、2列（大梁幅による）	ウェブボルト列数	≦2列	ウェブボルト列数	≦2列
大梁フランジ幅	200≦	大梁フランジ幅	—	大梁フランジ幅	—
ガセット厚	≧小梁ウェブ厚、≧6mm	ガセット厚	小梁ウェブ厚の1サイズUP	ガセット厚	小梁ウェブ厚の1サイズUP

共通事項：大梁せい≧小梁せい
ガセット厚、添板厚（接合形式A）≧6mm
ウェブボルトの配置は、最小ボルト本数を2本、せい方向ピッチを
60、90,120mmの3種類とし、小梁のせい方向の中心振り分けとする。

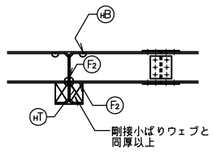


（小梁が斜めに取り付く場合）
（注）1. 一面せん断の場合もこれに準ずる。
2. e_1は縁端距離を示す。

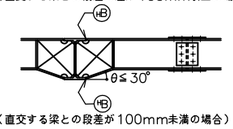


A部詳細

b）剛接合



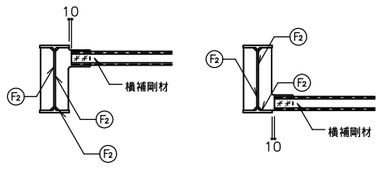
（直交する梁との段差の差が100mm以上の場合）



（直交する梁との段差が100mm未満の場合）

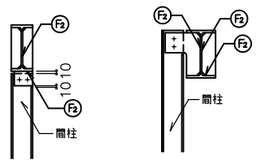
12.5 横補剛材の接合

a）上端に取付く場合　　b）下端に取付く場合



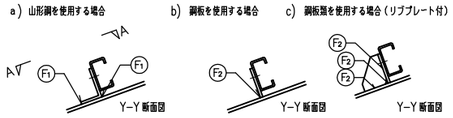
12.6 間柱の接合

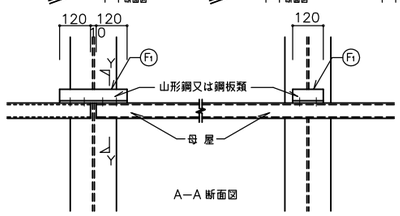
a）はり直下に取付く場合　　b）はり側面に取付く場合



12.7 母屋の接合

a）山形鋼を使用する場合　　b）鋼板を使用する場合　　c）鋼板類を使用する場合（リブプレート付）

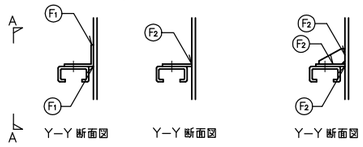


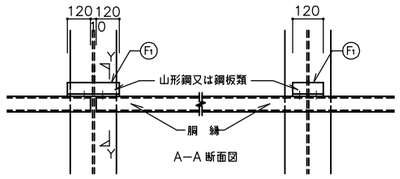


（母屋を継ぐ場合）　　（母屋を引通す場合）

12.8 胴縁の接合

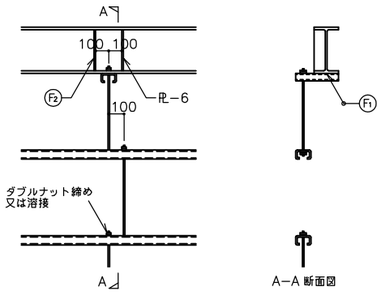
a）山形鋼を使用する場合　　b）鋼板を使用する場合　　c）鋼板類を使用する場合（リブプレート付）



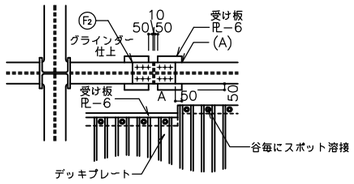


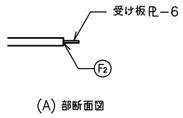
（胴縁を継ぐ場合）　　（胴縁を引通す場合）

c）胴縁材を吊る場合



12.9 デッキプレートの取付け

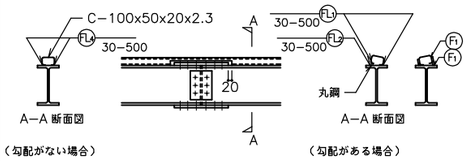




(A) 部断面図

（注）1. デッキプレート受板は、仮置時の破損を避けるため柱側で50mm、梁側10mmそれぞれ梁端とのあきをとる。
2. 建築基準法に基づき認定（構造用及び耐火構造用）を受けた合成床版用デッキプレートの取付け方法は、認定時の添付資料「標準仕様書」による。

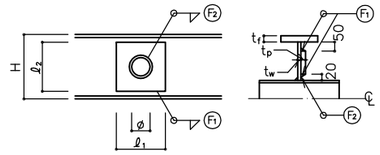
12.10 折版受材の取付け



A−A 断面図　　A−A 断面図
（勾配がない場合）　　（勾配がある場合）

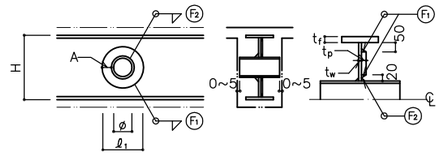
13. はり貫通孔の補強要領

13.1 標準ディテールA



・補強プレートの材質　　ウェブと同材質
・ℓ_1は、3ϕまたは、ℓ_2のうち小さい方とする。
・ℓ_2は、次式により算定する。
$\ell_2 = H-2\cdot t_f-100$
・補強プレート厚（t）は次式により算定する。
$t_p \geq \phi\cdot t_w/(H-2\cdot t_f-140-\phi)$
・補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な厚さの1／2の補強プレートをウェブ両面から溶接する。

13.2 標準ディテールB



・補強プレートの材質　　ウェブと同材質
・補強プレートの大きさ、厚さは次表による。（外接する四角形も可とする。）

大きさ（A）

孔径（φ）	A寸法 片面(mm)	A寸法 両面(mm)
75	40	—
100	55	30
125	125	60
150	150	75
175	175	85
200	200	100
225	—	110
250	—	125
275	—	135
300	—	150

（注）
1. 適用範囲はφ≦H／3とする。
2. 貫通孔が200mmを超える場合及び片面では補強プレートが納まらない場合に両面補強とする。

厚さ（tp）

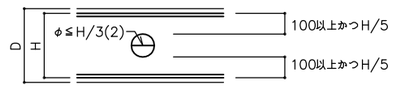
ウェブ・プレート厚	補強プレート厚（tp） φ≦100	補強プレート厚（tp） φ≧125
tw≦6	6	6
6＜tw≦9	9	6
9＜tw≦12	12	9
12＜tw≦16	—	9
16＜tw≦19	—	12
19＜tw≦22	—	12
22＜tw≦25	—	16

13.3 共通事項

φ≦H/5かつ孔の位置が背の中央H/3に納まっている場合は補強不要とする。

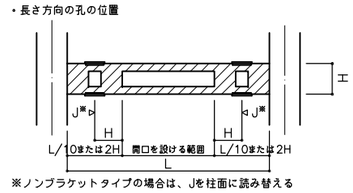
・貫通孔の大きさ　　鉄骨鉄筋コンクリート造：φ≦D/3 かつφ≦H/2，
鉄骨造：φ≦H/2

・せい方向の孔の位置　　フランジの外端から100以上かつH/5以上あける。



D：鉄筋コンクリート梁せい
H：鉄骨梁せい

・長さ方向の孔の位置



※ノンブラケットタイプの場合は、Jを柱面に読み替える

・連続する貫通孔　　貫通孔間隔は、鉄骨造において両側の貫通孔径の平均値の2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造において両側の貫通孔径の平均値の3倍以上を確保する。
離すことの出来ない場合は、包絡する外接円を貫通孔と見なして補強する。

13.4 鋼管スリーブ

鉄骨鉄筋コンクリート造の場合の鋼管スリーブは、下表による。
鉄骨造の場合は鋼管スリーブは不要とする。

スリーブ径	鋼管（STK400）	スリーブ径	鋼管（STK400）
50φ	φ 60.5 × 3.2	200φ	φ216.3 × 5.8
65φ	φ 76.3 × 3.2	250φ	φ267.4 × 6.6
80φ	φ 89.1 × 4.2	300φ	φ318.5 × 6.9
100φ	φ114.3 × 4.5	350φ	φ355.6 × 7.9
125φ	φ139.8 × 5.0	400φ	φ406.4 × 7.9
150φ	φ165.2 × 5.0	450φ	φ457.2 × 7.9
175φ	φ190.7 × 5.3		

13.5 梁貫通孔の補強は、監督職員の承諾を受けて、既製品と入れ替える事ができる。

製品名	メーカー名
・ハイリングⅢ	センクシア
・フリードーナツ	旭化成建材
・OSリング	岡部

梁 継 手（SCSS−H97準拠） (H)

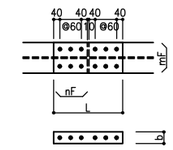
シリーズ		部材	400N/mm² 級用								490N/mm² 級用							
				フランジ継手			ウェブ継手					フランジ継手			ウェブ継手			
			径	タイプ	高力ボルト nFxmF	外面添板（txL） 内面添板（txb）	タイプ	高力ボルト mWxnW	Pc	添板（txbxL）	径	タイプ	高力ボルト nFxmF	外面添板（txL） 内面添板（txb）	タイプ	高力ボルト mWxnW	Pc	添板（txbxL）
細幅系列	200X100	H−200X100X 5.5X 8	M16	F1	2X2	16 X 290 / —	W1	2X1	60	6x140x170	M16	F1	3X2	16 X 410 / —	W2	2X2	60	6x140x290
	250X125	H−248X124X 5X 8	M16	F1	3X2	12 X 410 / —	W2	2X2	90	6x170x290	M16	F1	4X2	12 X 530 / —	W2	2X2	90	6x170x290
		H−250X125X 6X 9	M16	F1	3X2	12 X 410 / —	W2	2X2	90	6x170x290	M16	F1	4X2	12 X 530 / —	W2	2X2	90	6x170x290
	300X150	H−298X149X 5.5X 8	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 59	W1	2X1	120	6x200x170	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 59	W1	3X1	60	6x200x170
		H−300X150X 6.5X 9	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 60	W1	2X1	120	6x200x170	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 60	W1	3X1	60	6x200x170
	350X175	H−346X174X 6X 9	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 69	W1	3X1	90	6x260x170	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 69	W1	3X1	90	6x260x170
		H−350X175X 7X 11	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 70	W1	3X1	90	6x260x170	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 70	W1	3X1	90	6x260x170
	400X200	H−396X199X 7X 11	M20	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 79	W1	4X1	60	6x260x170	M20	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 79	W2	3X2	90	9x260x290
		H−400X200X 8X13	M20	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 80	W1	4X1	60	9x260x170	M20	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 80	W2	3X2	90	9x260x290
	450X200	H−446X199X 8X12	M20	F1	3X2	12 X 410 / 12 X 79	W1	5X1	60	9x320x170	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 79	W2	3X2	120	9x320x290
		H−450X200X 9X14	M20	F1	3X2	12 X 410 / 12 X 80	W1	5X1	60	9x320x170	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 80	W2	3X2	120	9x320x290
	500X200	H−496X199X 9X14	M20	F1	3X2	12 X 410 / 12 X 79	W1	5X1	60	9x320x170	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 79	W1	6X1	60	9x380x170
		H−500X200X 10X16	M20	F1	3X2	12 X 410 / 12 X 80	W1	5X1	60	9x320x170	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 80	W1	6X1	60	9x380x170
	600X200	H−596X199X 10X15	M20	F1	3X2	12 X 410 / 12 X 79	W2	4X2	120	9x440x290	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 79	W2	6X2	60	12x380x290
		H−600X200X 11X17	M20	F1	3X2	12 X 410 / 12 X 80	W2	4X2	120	9x440x290	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 80	W2	6X2	60	12x380x290
中幅系列	148X100	H−148X100X 6X 9	M16	F1	2X2	16 X 290 / —	W2	1X2	−	6x 80x290	M16	F1	3X2	16 X 410 / —	W2	1X3	−	6x 80x410
	200X150	H−194X150X 6X 9	M16	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 60	W1A	2X1	60	6x140x230	M16	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 60	W2A	2X2	60	6x140x350
	250X175	H−244X175X 7X 11	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 70	W1	2X1	60	9x140x170	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 70	W2	2X2	60	9x140x290
	300X200	H−294X200X 8X12	M20	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 80	W1	3X1	60	9x200x170	M20	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 80	W2	2X2	120	6x200x290
	350X250	H−340X250X 9X14	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 100	W2	3X2	60	9x200x290	M20	F1	5X2	12 X 650 / 12 X 100	W2	3X2	60	9x200x290
	400X300	H−390X300X 10X16	M22	F2	3X2	12 X 350 / 12 X 110	W1	3X1	90	9x260x170	M22	F2	4X2	12 X 440 / 12 X 110	W2	3X2	90	9x260x290
	450X300	H−440X300X 11X18	M22	F2	4X2	12 X 440 / 12 X 110	W1	5X1	60	9x320x170	M22	F2	5X2	12 X 530 / 12 X 110	W1	5X1	60	9x320x170
	500X300	H−482X300X 11X15	M22	F2	4X2	12 X 440 / 12 X 110	W1	5X1	60	12x320x170	M22	F2	5X2	12 X 530 / 12 X 110	W1	6X1	60	9x380x170
		H−488X300X 11X18	M22	F2	4X2	12 X 440 / 12 X 110	W1	5X1	60	12x320x170	M22	F2	5X2	12 X 530 / 12 X 110	W1	6X1	60	9x380x170
	600X300	H−582X300X 12X17	M22	F2	4X2	12 X 440 / 16 X 110	W1	7X1	60	9x440x170	M22	F2	5X2	12 X 530 / 16 X 110	W2	5X2	90	9x440x290
		H−588X300X 12X20	M22	F2	4X2	12 X 440 / 16 X 110	W1	7X1	60	9x440x170	M22	F2	5X2	12 X 530 / 16 X 110	W2	5X2	90	9x440x290
	700X300	H−692X300X 13X20	M22	F2	5X2	19 X 530 / 19 X 110	W1	9X1	60	9x560x170	M22	F2	7X2	19 X 710 / 19 X 110	W2	6X2	90	12x530x290
		H−700X300X 13X24	M22	F2	5X2	19 X 530 / 19 X 110	W1	9X1	60	9x560x170	M22	F2	7X2	19 X 710 / 19 X 110	W2	6X2	90	12x530x290
	800X300	H−792X300X 14X22	M22	F2	5X2	19 X 530 / 19 X 110	W1	10X1	60	12x620x170	M22	F2	7X2	19 X 710 / 19 X 110	W2	7X2	90	12x620x290
		H−800X300X 14X26	M22	F2	5X2	19 X 530 / 19 X 110	W1	10X1	60	12x620x170	M22	F2	7X2	19 X 710 / 19 X 110	W2	7X2	90	12x620x290
	900X300	H−890X299X 15X23	M22	F2	5X2	16 X 530 / 19 X 110	W1	12X1	60	12x740x170	M22	F2	7X2	16 X 710 / 19 X 110	W2	10X2	60	16x620x290
		H−900X300X 16X28	M22	F2	6X2	19 X 620 / 22 X 110	W1	12X1	60	12x740x170	M22	F2	8X2	19 X 800 / 22 X 110	W2	10X2	60	16x620x290
		H−912X302X 18X34	M22	F2	7X2	25 X 710 / 25 X 110	W2	10X2	60	16x620x290	M22	F2	9X2	25 X 890 / 25 X 110	W2	11X2	60	16x680x290
		H−918X303X 19X37	M22	F2	7X2	25 X 710 / 28 X 110	W2	10X2	60	16x620x290	M22	F2	10X2	25 X 980 / 28 X 110	W2	11X2	60	16x680x290
広幅系列	100X100	H−100X100X 6X 8	M16	F1	2X2	16 X 290 / —	W2A	1X2	−	9x 50x350	M16	F1	3X2	16 X 410 / —	W2A	1X2	−	9x 50x350
	125X125	H−125X125X 6.5X 9	M16	F1	3X2	12 X 410 / —	W2A	1X2	−	6x 80x350	M16	F1	4X2	12 X 530 / —	W2A	1X3	−	6x 80x470
	150X150	H−150X150X 7X10	M16	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 60	W2A	1X3	−	9x 80x470	M16	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 60	W2A	1X3	−	9x 80x470
	175X175	H−175X175X 7.5X 11	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 70	W2	1X2	−	9x 80x290	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 70	W2	1X3	−	9x 80x410
	200X200	H−200X200X 8X12	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 80	W1A	2X1	60	6x140x230	M20	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 80	W2A	2X2	60	6x140x350
	250X250	H−250X250X 9X14	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 100	W2	2X2	60	9x140x290	M20	F1	5X2	12 X 650 / 12 X 100	W2	2X2	60	9x140x290
	300X300	H−300X300X 10X15	M22	F2	3X2	9 X 350 / 12 X 110	W1	3X1	60	9x200x170	M22	F2	4X2	9 X 440 / 12 X 110	W2	3X2	60	9x200x290
	350X350	H−350X350X 12X19	M22	F3	2X4	12 X 290 / 12 X 140	W2	3X2	60	12x200x290	M22	F3	3X4	12 X 410 / 12 X 140	W2	3X2	60	12x200x290
	400X400	H−400X400X 13X21	M22	F3	3X4	12 X 410 / 16 X 170	W2	3X2	90	12x260x290	M22	F3	4X4	12 X 530 / 16 X 170	W2	4X2	60	12x260x290

柱 継 手（SCSS−H97準拠） (H)

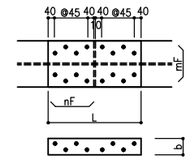
シリーズ		部材	400N/mm² 級用								490N/mm² 級用							
				フランジ継手			ウェブ継手					フランジ継手			ウェブ継手			
			径	タイプ	高力ボルト nFxmF	外面添板（txL） 内面添板（txb）	タイプ	高力ボルト mWxnW	Pc	添板（txbxL）	径	タイプ	高力ボルト nFxmF	外面添板（txL） 内面添板（txb）	タイプ	高力ボルト mWxnW	Pc	添板（txbxL）
細幅系列	200X100	H−200X100X 5.5X 8	M16	F1	2X2	16 X 290 / —	W2	2X2	60	6x140x290	M16	F1	3X2	16 X 410 / —	W2	2X2	60	6x140x290
	250X125	H−248X124X 5X 8	M16	F1	3X2	12 X 410 / —	W2	2X2	90	9x170x290	M16	F1	4X2	12 X 530 / —	W2	2X3	60	9x140x410
		H−250X125X 6X 9	M16	F1	3X2	12 X 410 / —	W2	2X2	90	9x170x290	M16	F1	4X2	12 X 530 / —	W2	2X3	60	9x140x410
	300X150	H−298X149X 5.5X 8	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 59	W1	3X1	60	6x200x170	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 59	W2	2X2	120	6x200x290
		H−300X150X 6.5X 9	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 60	W1	3X1	60	6x200x170	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 60	W2	2X2	120	6x200x290
	350X175	H−346X174X 6X 9	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 69	W1	4X1	60	6x260x170	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 69	W1	4X1	60	6x260x170
		H−350X175X 7X 11	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 70	W1	4X1	60	6x260x170	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 70	W1	4X1	60	6x260x170
	400X200	H−396X199X 7X 11	M20	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 79	W2	3X2	90	9x260x290	M20	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 79	W2	3X2	90	9x260x290
		H−400X200X 8X13	M20	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 80	W2	3X2	90	9x260x290	M20	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 80	W2	3X2	90	9x260x290
	450X200	H−446X199X 8X12	M20	F1	3X2	12 X 410 / 12 X 79	W1	5X1	60	9x320x170	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 79	W2	5X2	60	9x320x290
		H−450X200X 9X14	M20	F1	3X2	12 X 410 / 12 X 80	W1	5X1	60	9x320x170	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 80	W2	5X2	60	9x320x290
	500X200	H−496X199X 9X14	M20	F1	3X2	12 X 410 / 12 X 79	W1	6X1	60	9x380x170	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 79	W2	5X2	60	9x320x290
		H−500X200X 10X16	M20	F1	3X2	12 X 410 / 12 X 80	W1	6X1	60	9x380x170	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 80	W2	5X2	60	9x320x290
	600X200	H−596X199X 10X15	M20	F1	3X2	12 X 410 / 12 X 79	W2	5X2	90	9x440x290	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 79	W2	7X2	60	12x440x290
		H−600X200X 11X17	M20	F1	3X2	12 X 410 / 12 X 80	W2	5X2	90	9x440x290	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 80	W2	7X2	60	12x440x290
中幅系列	148X100	H−148X100X 6X 9	M16	F1	2X2	16 X 290 / —	W2	1X3	−	9x 80x410	M16	F1	3X2	16 X 410 / —	W2	1X3	−	9x 80x410
	200X150	H−194X150X 6X 9	M16	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 60	W2A	2X2	60	6x140x350	M16	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 60	W2A	2X2	60	6x140x350
	250X175	H−244X175X 7X 11	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 70	W2	2X2	60	9x140x290	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 70	W2	2X2	60	9x140x290
	300X200	H−294X200X 8X12	M20	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 80	W1	3X1	60	9x200x170	M20	F1	3X2	9 X 410 / 9 X 80	W2	3X2	60	9x200x290
	350X250	H−340X250X 9X14	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 100	W2	3X2	60	12x200x290	M20	F1	5X2	12 X 650 / 12 X 100	W2	3X2	60	12x200x290
	400X300	H−390X300X 10X16	M22	F2	3X2	12 X 350 / 12 X 110	W1	4X1	60	9x260x170	M22	F2	4X2	12 X 440 / 12 X 110	W2	3X2	90	9x260x290
	450X300	H−440X300X 11X18	M22	F2	4X2	12 X 440 / 12 X 110	W1	5X1	60	9x320x170	M22	F2	5X2	12 X 530 / 12 X 110	W2	5X2	60	12x320x290
	500X300	H−482X300X 11X15	M22	F2	4X2	12 X 440 / 12 X 110	W1	6X1	60	9x380x170	M22	F2	5X2	12 X 530 / 12 X 110	W2	5X2	60	12x320x290
		H−488X300X 11X18	M22	F2	4X2	12 X 440 / 12 X 110	W1	6X1	60	9x380x170	M22	F2	5X2	12 X 530 / 12 X 110	W2	5X2	60	12x320x290
	600X300	H−582X300X 12X17	M22	F2	4X2	12 X 440 / 16 X 110	W1	7X1	60	12x440x170	M22	F2	5X2	12 X 530 / 16 X 110	W2	6X2	60	12x380x290
		H−588X300X 12X20	M22	F2	4X2	12 X 440 / 16 X 110	W1	7X1	60	12x440x170	M22	F2	5X2	12 X 530 / 16 X 110	W2	6X2	60	12x380x290
	700X300	H−692X300X 13X20	M22	F2	5X2	19 X 530 / 19 X 110	W1	9X1	60	9x560x170	M22	F2	7X2	19 X 710 / 19 X 110	W2	7X2	60	16x440x290
		H−700X300X 13X24	M22	F2	5X2	19 X 530 / 19 X 110	W1	9X1	60	9x560x170	M22	F2	7X2	19 X 710 / 19 X 110	W2	7X2	60	16x440x290
	800X300	H−792X300X 14X22	M22	F2	5X2	19 X 530 / 19 X 110	W2	6X2	90	12x530x290	M22	F2	7X2	19 X 710 / 19 X 110	W2	8X2	60	16x500x290
		H−800X300X 14X26	M22	F2	5X2	19 X 530 / 19 X 110	W2	6X2	90	12x530x290	M22	F2	7X2	19 X 710 / 19 X 110	W2	8X2	60	16x500x290
	900X300	H−890X299X 15X23	M22	F2	5X2	16 X 530 / 19 X 110	W2	8X2	90	12x710x290	M22	F2	7X2	16 X 710 / 19 X 110	W2	10X2	60	16x620x290
		H−900X300X 16X28	M22	F2	6X2	19 X 620 / 22 X 110	W2	8X2	90	12x710x290	M22	F2	8X2	19 X 800 / 22 X 110	W2	10X2	60	16x620x290
		H−912X302X 18X34	M22	F2	7X2	25 X 710 / 25 X 110	W2	10X2	60	16x620x290	M22	F2	9X2	25 X 890 / 25 X 110	W2	11X2	60	16x680x290
		H−918X303X 19X37	M22	F2	7X2	25 X 710 / 28 X 110	W2	10X2	60	16x620x290	M22	F2	10X2	25 X 980 / 28 X 110	W2	11X2	60	16x680x290
広幅系列	100X100	H−100X100X 6X 8	M16	F1	2X2	16 X 290 / —	W2A	1X2	−	9x 50x350	M16	F1	2X2	16 X 290 / —	W2A	1X2	−	9x 50x350
	125X125	H−125X125X 6.5X 9	M16	F1	3X2	12 X 410 / —	W2A	1X2	−	6x 80x350	M16	F1	3X2	12 X 410 / —	W2A	1X2	−	6x 80x350
	150X150	H−150X150X 7X10	M16	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 60	W2A	1X3	−	9x 80x470	M16	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 60	W2A	1X3	−	9x 80x470
	175X175	H−175X175X 7.5X 11	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 70	W2	1X2	−	9x 80x290	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 70	W2	1X2	−	9x 80x290
	200X200	H−200X200X 8X12	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 80	W1A	2X1	60	6x140x230	M20	F1	2X2	9 X 290 / 9 X 80	W1A	2X1	60	6x140x230
	250X250	H−250X250X 9X14	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 100	W2	2X2	60	9x140x290	M20	F1	4X2	12 X 530 / 12 X 100	W2	2X2	60	9x140x290
	300X300	H−300X300X 10X15	M22	F2	3X2	9 X 350 / 12 X 110	W1	3X1	60	9x200x170	M22	F2	3X2	9 X 350 / 12 X 110	W1	3X1	60	9x200x170
	350X350	H−350X350X 12X19	M22	F3	2X4	12 X 290 / 12 X 140	W2	3X2	60	12x200x290	M22	F3	2X4	12 X 290 / 12 X 140	W2	3X2	60	12x200x290
	400X400	H−400X400X 13X21	M22	F3	3X4	12 X 410 / 16 X 170	W2	3X2	90	12x260x290	M22	F3	3X4	12 X 410 / 16 X 170	W2	3X2	90	12x260x290

凡 例

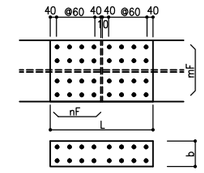
F1タイプ



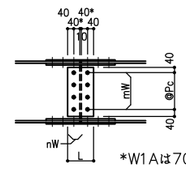
F2タイプ



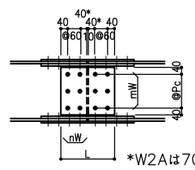
F3タイプ



W1・W1Aタイプ



W2・W2Aタイプ



共通事項

1．高力ボルトはS10TまたはF10Tとする。

2．添板の鋼種は母材と同等とする。

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号

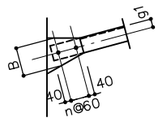
一級建築士 （第 274708号） 山岡 信弘
構造設計一級建築士（第 6608号） 長坂 典和
設備設計一級建築士（第 753号） 鈴木 光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	継手基準図（1）	縮尺 ー	S-12
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(178/224)

山形鋼継手

部材	軸ブレース・床ブレース 径	2面継手 高力ボルト 数量	2面継手 高力ボルト 継手	2面継手 ガセットプレート 最小B	2面継手 ガセットプレート 厚さ	1面継手 径	1面継手 高力ボルト 数量	1面継手 高力ボルト 継手	1面継手 ガセットプレート 最小B	1面継手 ガセットプレート 厚さ	床ブレース 径	1面継手 高力ボルト 数量	1面継手 高力ボルト 継手	1面継手 ガセットプレート 最小B	1面継手 ガセットプレート 厚さ	縦りボルト
L- 65x 65x 6	M16	5	G1	165	9	M16	5	G1	90	9	M20	2	G1	80	9	L≦600
L- 75x 75x 6	M16	5	G1	190	9	M16	5	G1	95	9	M20	2	G1	100	9	L≦700
L- 75x 75x 9	M20	5	G1	205	12	M16	5	G1	125	9	M20	3	G1	120	9	
L- 90x 90x 7	M20	5	G1	205	12	M20	5	G1	125	9	M20	3	G1	120	9	L≦800
L- 90x 90x10	M20	5	G1	270	12	M20	5	G1	165	9	M20	4	G1	140	9	
L-100x100x 7	M20	5	G1	225	12	M20	4	G1	135	9	M22	3	G1	140	9	L≦900
L-100x100x10	M20	6	G1	305	12	M20	5	G1	185	9	M22	4	G1	160	9	
L-100x100x13	M20	8	G1	385	12	M20	6	G1	185	12	M22	5	G1	200	9	

G1



特記事項

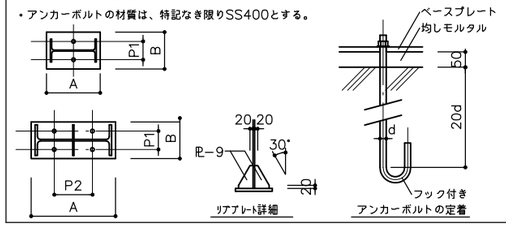
- 適用範囲の母材の鋼種は、SS400, SM400,SN400とする。
- プレートの鋼種は母材と同等とする。
- 高力ボルトは、S10TまたはF10Tとする。
- 軸ブレース継手は、建築構造設計指針2010（東京都建築構造行政連絡会）による。

間柱柱脚

部材	アンカーボルト 径	アンカーボルト 数量	アンカーボルト P1	アンカーボルト P2	ベースプレート 厚さx A x B
H-150x 75x 5x 7	M16	2	100		PL-12x200x180
H-175x 90x 5x 8	M16	2	100		PL-12x225x180
H-198x 99x4.5x 7 H-200x100x5.5x 8	M16	2	100		PL-12x250x180
H-248x124x 5x 8 H-250x125x 6x 9	M20	2	110		PL-16x300x220
H-298x149x5.5x 8 H-300x150x6.5x 9	M24	2	120		PL-19x350x240
H-346x174x 6x 9 H-350x175x 7x11	M24	2	120		PL-19x400x240
H-396x199x 7x11 H-400x200x 8x13	M20	4	120	200	PL-16x450x240
H-446x199x 8x12 H-450x200x 9x14	M20	4	120	225	PL-16x500x240
H-496x199x 9x14 H-500x200x 10x16	M24	4	120	250	PL-19x550x240
H-596x199x 10x15 H-600x200x 11x17	M24	4	120	300	PL-19x650x240
H-148x100x 6x 9	M16	2	100		PL-12x200x180
H-194x150x 6x 9	M20	2	110		PL-16x250x220
H-244x175x 7x11	M20	2	110		PL-16x300x220
H-294x200x 8x12	M24	2	120		PL-19x350x240
H-125x125x6.5x 9	M16	2	100		PL-12x175x180
H-150x150x 7x10	M20	2	110		PL-16x200x220

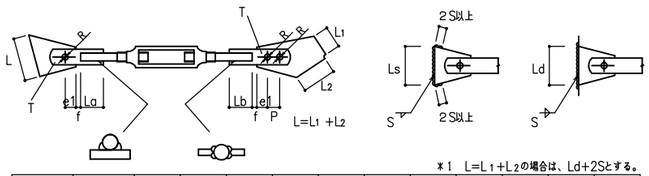
特記事項・凡例

- 適用範囲の母材の鋼種は、SS400,SM400,SN400とする。
- プレートの鋼種は母材と同等とする。
- アンカーボルトの材質は、特記なき限りSS400とする。



JIS建築用ターンバックル筋かい (TB)

特記なきはJIS・A・5540（建築用ターンバックル） 5541（建築用ターンバックル胴）による。



＊1 L=L1+L2の場合は、Ld+2Sとする。

	高力ボルト	T	e1	f	P	La	Lb	R	G.R.	S	Ls	Ld ＊1
M12	1−M16	6	40	12		40		17	6	6	60	42
M14	1−M16	6	40	12		50		17	6	6	61	43
M16	1−M16	6	45	14		55		17	9	8	80	56
M18	1−M20	9	50	16		60		21.5	9	8	80	56
M20	1−M20	9	50	16		75		21.5	9	8	97	65
M22	1−M22	9	55	18		85		23.5	12	10	100	70
M24	2−M20	9	50	20	60		85	21.5	12	10	112	76
M27	2−M20	9	50	22	60		90	21.5	12	10	145	93
M30	2−M22	12	55	28	60		95	23.5	12	10	177	109

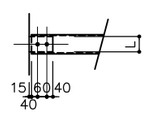
(mm)

- 高力ボルトは、原則としてS10TまたはF10Tとし、溶融亜鉛メッキ処理を行う場合は、溶融亜鉛メッキボルト（F8T相当）とする。
- 継手は建築構造設計指針2010（東京都建築構造行政連絡会）による。

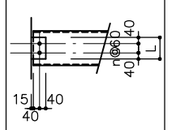
溝形鋼継手 (LG)

部材	径	ウェブ 高力ボルト 数量	ウェブ 高力ボルト 継手	ウェブ ガセットプレート 厚さx L
[-100x 50x 5	M16	2	G1	PL- 6x100
[-125x 65x 6	M20	2	G1	PL- 9x100
[-150x 75x6.5	M16	2	G2	PL- 9x140
[-150x 75x 9	M20	2	G2	PL- 9x140
[-180x 75x 7	M20	2	G2	PL- 9x140
[-200x 80x7.5	M22	2	G2	PL- 9x140
[-200x 90x 8	M22	2	G2	PL- 9x140
[-250x 90x 9	M20	3	G2	PL- 9x200
[-250x 90x 11	M20	3	G2	PL-12x200

G1



G2



特記事項

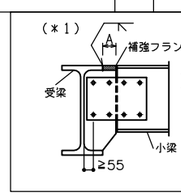
- 適用範囲の母材の鋼種は、SS400,SM400,SN400とする。
- プレートの鋼種は母材と同等とする。
- 高力ボルトは、S10TまたはF10Tとする。
- 継手耐力は、SCSS−H97に準拠する。
- 継手耐力は、母材せん断耐力の50%以上とする。

小梁継手

シリーズ	部材	WEB (HD) 高力ボルト 径	数量	継手	@P	添板 厚さ x W x L	WEB (HG) 高力ボルト 径	数量	継手	@P	ガセットプレート 厚さ x W x L
150x 75	150x 75x 5x 7	M16	2x2	W1	60	2PL- 9x290x120	M16	2	WG1	60	PL- 9x150x120
175x 90	175x 90x 5x 8	M16	2x2	W1	60	2PL- 9x290x140	M16	2	WG1	60	PL- 9x150x140
200x100	198x 99x4.5x 7 200x100x5.5x 8	M16	2x4	W3	60	2PL- 9x290x140	M16	4	WG3	60	PL- 9x150x140
250x125	248x124x 5x 8 250x125x 6x 9	M16	2x4	W3	90	2PL- 9x290x170	M16	3	WG2	60	PL- 9x 90x200
300x150	298x149x5.5x 8 300x150x6.5x 9	M20	2x3	W2	60	2PL- 6x170x200	M20	3	WG2	60	PL- 9x 90x200
350x175	346x174x 6x 9 350x175x 7x11	M20	2x4	W2	60	2PL- 6x170x260	M20	4	WG2	60	PL- 9x 90x260
400x200	396x199x 7x11 400x200x 8x13	M20	2x6	W3	90	2PL- 9x290x260	M20	5	WG2	60	PL- 9x 90x320
450x200	446x199x 8x12 450x200x 9x14	M20	2x5	W2	60	2PL- 9x170x320	M20	6	WG2	60	PL- 9x 90x380
500x200	496x199x 9x14 500x200x 10x16	M20	2x5	W2	60	2PL- 9x170x320	M20	7	WG2	60	PL- 9x 90x440
600x200	596x199x 10x15 600x200x 11x17	M20	2x7	W2	60	2PL- 9x170x440	M20	8	WG2	60	PL- 9x 90x500
150x100	148x100x 6x 9	M16	2x2	W1	60	2PL- 9x290x100	M16	2	WG1	60	PL-12x150x100
200x150	194x150x 6x 9	M20	2x2	W2	60	2PL- 6x170x140	M20	4	WG3	60	PL- 9x150x140
250x175	244x175x 7x11	M20	2x4	W3	60	2PL-12x290x140	M20	3	WG2A	60	PL- 9x 90x190
300x200	294x200x 8x12	M20	2x3	W2	60	2PL- 9x170x200	M20	3	WG2	60	PL- 9x 90x200
350x250	340x250x 9x14	M22	2x6	W3	60	2PL-12x290x200	M22	4	WG2	60	PL- 9x 90x260
400x300	390x300x 10x16	M22	2x4	W2	60	2PL- 9x170x260	M22	6	WG3	90	PL- 9x150x260
450x300	440x300x 11x18	M22	2x5	W2	60	2PL- 9x170x320	M22	5	WG2	60	PL- 9x 90x320
500x300	482x300x 11x15 488x300x 11x18	M22	2x6	W2	60	2PL- 9x170x380	M22	6	WG2	60	PL- 9x 90x380
600x300	582x300x 12x17 588x300x 12x20	M22	2x7	W2	60	2PL-12x170x440	M22	8	WG2	60	PL- 9x 90x500
700x300	700x300x 13x24	M22	2x9	W2	60	2PL-9x170x560					
800x300	800x300x 14x26	M22	2x12	W3	90	2PL-12x290x530					
900x300	900x300x 16x28	M22	2x16	W3	90	2PL-9x290x710					
100x100	100x100x 6x 8	M16	2x2	W1	60	2PL-12x290x 65	M16	2	WG1	60	PL-16x150x 65
125x125	125x125x6.5x 9	M16	2x2	W1	60	2PL-12x290x 90	M16	2	WG1	60	PL-12x150x 90
150x150	150x150x 7x10	M20	2x2	W1	60	2PL-12x290x100	M20	2	WG1	60	PL-12x150x100
175x175	175x175x7.5x11	M20	2x2	W1	60	2PL- 9x290x120	M20	2	WG1	60	PL-12x150x120
200x200	200x200x 8x12	M20	2x2	W2	60	2PL- 9x170x140	M20	4	WG3	60	PL-12x150x140
250x250	250x250x 9x14	M20	2x4	W4	60	2PL-12x290x160	M20	3	WG2A	60	PL- 9x 90x190
300x300	300x300x 10x15	M22	2x3	W2	60	2PL- 9x170x200	M22	6	WG3	60	PL-12x150x200
350x350	350x350x 12x19	M22	2x6	W3	60	2PL-16x290x200	M22	8	WG3	60	PL- 9x150x260
400x400	400x400x 13x21	M22	2x6	W3	90	2PL-12x290x260	M22	10	WG3A	60	PL- 9x150x310
	414x405x 18x28 428x407x 20x35	M22	2x8	W3	60	2PL-16x290x260					

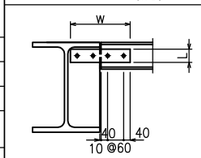
特記事項

- 適用範囲の母材の鋼種は、SS400, SM400,SN400とする。
- プレートの鋼種は母材と同等とする。
- 高力ボルトは、S10TまたはF10Tとする。
- 継手耐力はSCSS−H97に準拠し、ボルト欠損を考慮した有効断面に対する全強接合とする。
- D継手耐力は、母材せん断耐力の100%以上とする。
- G継手耐力は、母材せん断耐力の50%以上とする。

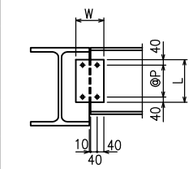


- A≦50：補強フランジ無し
- A＞50：補強フランジ有り
  補強フランジの厚さ：受梁フランジ厚程度
  補強フランジの幅：小梁フランジ幅以上
  補強フランジの鋼種：小梁鋼種と同等以上
- ガセット厚：小梁ウェブ厚以上かつ6mm以上

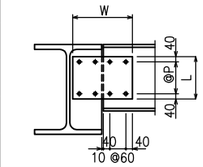
W 1 (＊1)



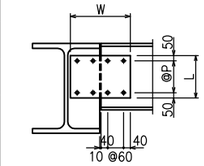
W 2 (＊1)



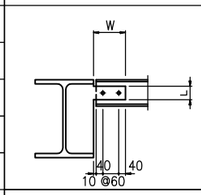
W 3 (＊1)



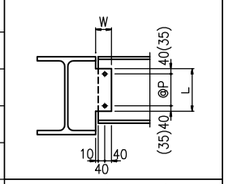
W 4 (＊1)



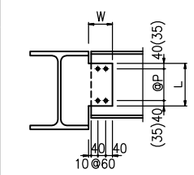
WG1



WG2(WG2A)



WG3(WG3A)



株式会社 大建設計 我にこころを
一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号
一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘
構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和
設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	継手基準図（2）	縮尺 —	S-13
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(179/224)

スクリューパイルEAZET（イーゼット）設計施工標準（関東・甲信越地区）

・引抜き評定適用時の許容支持力及び適用範囲については別途カタログをご参照ください。
・本掲載内容及び仕様については、予告なしに変更することがあります。
・本掲載内容及び仕様は、2022年10月現在のものです。

【許容支持力および適用範囲】

1.件名

先端羽根付き鋼管杭　　スクリューパイルＥＡＺＥＴ

2.本工法により施工される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期ならびに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

1）長期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{1}{3}\{\alpha\ \overline{N}\ Ap + (\beta\ \overline{Ns}\ Ls + \gamma\ \overline{qu}\ Lc)\ \Psi\}\ (kN)\cdot\cdot\cdot\cdot(i)$$

2）短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{2}{3}\{\alpha\ \overline{N}\ Ap + (\beta\ \overline{Ns}\ Ls + \gamma\ \overline{qu}\ Lc)\ \Psi\}\ (kN)\cdot\cdot\cdot\cdot(ii)$$

ここで、（i），（ii）式において、

α：基礎ぐいの先端付近の地盤（地震時に液状化するおそれのある地盤を除く）におけるくい先端支持力係数（α＝300）

β：基礎ぐいの周囲の地盤（地震時に液状化するおそれのある地盤を除く）のうち砂質地盤におけるくい周面摩擦力係数（$\beta\ \overline{Ns}$＝15を満たすβ）

γ：基礎ぐいの周囲の地盤（地震時に液状化するおそれのある地盤を除く）のうち粘土質地盤におけるくい周面摩擦力係数（$\gamma\overline{qu}$＝15を満たすγ）

$\overline{N}$：基礎ぐいの先端付近（くい先端位置より下方に1Dw（Dw：羽根の直径）、上方に1Dwの範囲）の地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値（回）

ただし、基礎ぐいの先端地盤が砂質地盤（礫質地盤含む）の場合は 15≦$\overline{N}$とし、60を超える場合は60を上限とする。

また、基礎ぐいの先端地盤が粘土質地盤の場合は 12≦$\overline{N}$とし、60を超える場合は60を上限とする。

Ap：基礎ぐいの先端の有効断面積（㎡）

Ap ＝ AD・e

e：有効面積率（e＝0.5）

AD：くい先端平面積　AD ＝ π・Dw²/4（㎡）

$\overline{Ns}$：基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値（回）

ただし、0＜$\overline{Ns}$とし、30を超える場合は30とする。なお、Ns値が0の場合、周面摩擦力を考慮しない。

$\overline{qu}$：基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤の一軸圧縮強度の平均値（kN/㎡）

ただし、0＜$\overline{qu}$とし、200を超える場合は200を上限とする。なお、qu値が0の場合、周面摩擦力を考慮しない。

Ls：基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤に接する有効長さの合計（m）

Lc：基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤に接する有効長さの合計（m）

Ψ：基礎ぐいの周囲の有効長さ（m）

Ψ ＝ π・Do

Do：くい本体部径（m）

3.くい材から決まる許容鉛直支持力

$Ra2 = fe \cdot Ae \times 10^{-3}$

Ra2：くい材から決まる長期許容鉛直支持力（kN）

fe ：くい材の長期許容応力度（＝ F※/1.5）

F※：設計基準強度（N/mm²）

F※＝ F・(0.80 + 2.5te / r)かつ F※≦F

F ：くい材の許容応力度を決定する場合の基準値

（STK400→235N/mm²、STK490→325N/mm²、SEAH590[STKT590]→440N/mm²）

te：腐食しろを除いた鋼管の肉厚(mm)

r ：鋼管の半径(mm)

Ae：腐食しろを考慮したくい材の有効断面積（mm²）

4.適用範囲

1）適用する地盤の種類

基礎ぐいの先端付近の地盤：

砂質地盤（礫質地盤含む）――――― TACP-0635

粘土質地盤 ――――――――――― TACP-0636

基礎ぐいの周囲の地盤：砂質地盤及び粘土質地盤

2）最大施工深さ（m）

杭本体部径	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4
先端砂質地盤（礫質地盤）	14.85	18.17	21.47	24.79	28.11	34.76	41.40	46.22	51.37
先端粘土質地盤	14.8	18.1	21.4	24.7	28.1	34.7	41.0	45.8	－

3）適用する建築物の規模

床面積の合計が500,000㎡以下の建築物

【EAZET（イーゼット）の構造・規格】

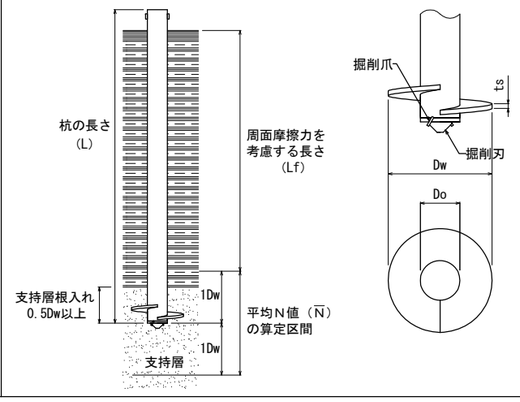
1.関東・甲信越地区向け杭材仕様

杭本体部				杭先端羽根部		
径 Do(mm)	STK400	STK490	SEAH590 [STKT590]	径 Dw(mm)	厚 ts(mm)	材質
	厚 t(mm)					
114.3	6.0	－	－	300	16	SM490A
139.8	6.6	－	－	350	19	
165.2	－	7.1	－	350	16	
				450	22	
190.7	－	7.0	－	400	19	
				500	22	
				570	25	
216.3	－	8.2 12.7	<8.2>	470	22	
				550	25	
				600	28	
				650	28	
267.4	－	8.0 12.7	<8.0> <12.7>	580	28	
				650	28	
				700	28	
				750	32	
				800 ※1	36	
318.5	－	7.9 <12.7>	－	700	28	
				800	32	
355.6	－	<7.9 12.7> <16.0>	－	750	28	
				800	32	
406.4	－	<7.9 12.7> <19.0>	－	800	28	
				880	32	

※1：N値45まで限定

※<　>の仕様は準標準材です。ご検討される場合は弊社担当までお問い合わせください。

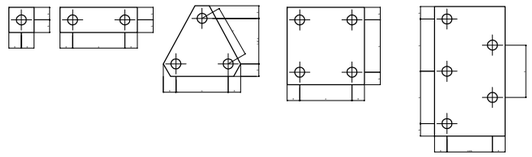
部材	規格
杭本体部	JIS G 3444　一般構造用炭素鋼鋼管　　STK400、STK490
	MSTL-0230 国土交通大臣認定 建築構造用テーパー鋼管　NS-490TPP
	MSTL-0419 国土交通大臣認定 基礎ぐい用高張力鋼管　SEAH590[STKT590]
杭先端部	JIS G 3106　溶接構造用圧延鋼材　　SM490A



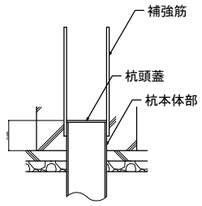
【基礎とフーチング形状例】

A：杭心間隔	B：へりあき
Dw ＋ Do	1.25 × Do

※ Dw：杭先端羽根部径　　Do：杭本体部径



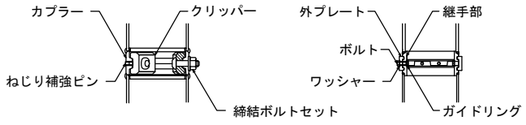
【杭頭接合例】



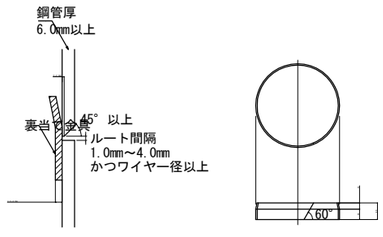
※杭頭接合部の設計は、認定書・評定書の中で規定されていませんので、設計者の判断に委ねられています。

【継手接続例】

ＮＣＣジョイント継手　　ＡＫジョイント継手



溶接継手



【施工管理項目一覧】

工　程	管理項目	管理方法	管　理　値
杭材の受け入れ	材料寸法	・搬入時に測定検査	・杭径、杭長、肉厚、羽根径、羽根厚に誤りがないこと
	外観不良・数量	・搬入時に目視確認	・継手部に異常がないこと
回転埋設	杭心からのずれ	・逃げ心棒にて測定	・偏心量±2cm以内
	杭の鉛直性	・水準器で確認	・傾斜　1/100以内 ※気泡が中央にあること
	回転トルク	・施工機械の管理装置（トルク計）	・杭体のねじり強さ以内
溶接継手	杭の鉛直性	・水準器で確認	・傾斜　1/100以内 ※気泡が中央にあること
	接続状況	・目視により確認	・異常なアンダーカット、ピット、割れがないこと
NCCジョイント	一次締付けトルク	・トルクレンチによる	・ボルトM16→約100N・m ・ボルトM20→約150N・m
	本締め	・シャーレンチによる	・ピンテールの破断、ボルト余長はネジ山２山以上
	共廻り防止	・マーキングで確認	・マーキングのずれ
ＡＫジョイント	一次締付けトルク	・トルクレンチによる	・締付トルク　90N・m±10%
	本締めトルク		・締付トルク 180N・m±10%
	締め忘れ防止	・マーキングで確認	・マーキングのずれ
支持層の確認	支持層到達確認	・施工機械のトルク計	・施工回転トルクの変化傾向 ・地盤調査データのN値の推移 ・施工回転トルクの管理目標値
	根入れ長さ	・施工機械の深度計	・支持層に0.5Dw以上 かつ設計時に設定された根入れ長さ以上
	回転貫入量	・専用用紙に記録する	・回転貫入量の管理値による
杭頭のずれ	偏心量	・逃げ心棒にて測定	・±10cm以内

【EAZET（イーゼット）取得済認定、公的評価】

国土交通大臣認定

名称	認定番号	取得年月日
先端羽根付き鋼管杭（名称：スクリューパイルEAZET）（先端地盤：砂質地盤（礫質地盤含む））	TACP-0635	令和4年2月7日
先端羽根付き鋼管杭（名称：スクリューパイルEAZET）（先端地盤：粘土質地盤）	TACP-0636	令和4年2月7日

一般財団法人 日本建築センター評定

件名	番号	取得年月日
鋼管くいに用いる無溶接継手（クリッパー式継手）	BCJ評定-FD0045-09	令和4年10月14日
鋼管杭に用いる接続プレート・嵌合方式無溶接継手（ＡＫジョイント）	BCJ評定-FD0509-03	令和元年6月20日

一般財団法人 ベターリビング評定

件名	認定区分	番号	取得年月日
スクリューパイルEAZET工法における引抜き方向の許容支持力（先端地盤：砂質地盤礫質地盤を含む）	一般評定	CBL FP004-07号	令和5年7月6日

※φ406.4は砂質地盤［礫質地盤を含む］の場合でも、引抜き支持力に対しては適用できません

一般財団法人 日本建築センター評定

件名	番号	取得年月日
スクリューパイルEAZET工法による基礎ぐいの引抜き方向の地盤の許容支持力（先端地盤：粘土質地盤）	BCJ評定-FD0579-02	令和5年4月14日

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	鋼管杭　特記仕様書（参考）	縮尺 ―	S-14
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(180/224)

SC杭

SC杭・鋼管杭用杭頭接合工法

クラウンパイルアンカー工法　標準図　1／2

（一財）日本建築センターによる一般評定
「BCJ評定-FD0511-04」（令和5年9月8日付）

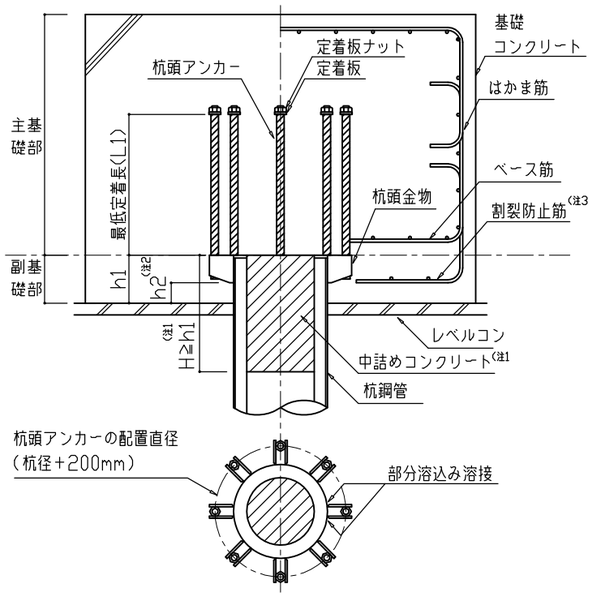
2023年10月作成

1。工法概要

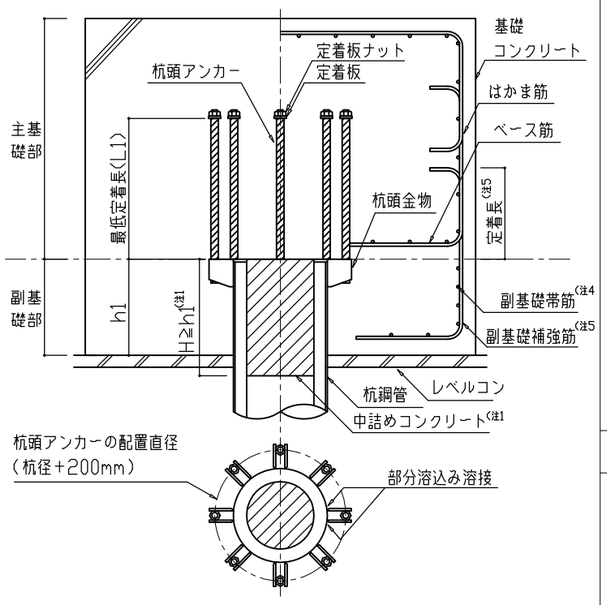
1。1 工法概要

クラウンパイルアンカー工法は、SC 杭の杭頭鋼管外周部に定着部材（以下、杭頭アンカー）を接続する金物（以下、杭頭金物）を部分溶込み溶接した後、杭頭金物のカプラー雌ねじ部に杭頭アンカーのねじ節鉄筋部を螺合することで、杭頭と基礎コンクリートを接合する工法である。
基礎コンクリートは杭頭上端面より上部を「主基礎部」、杭のみ込み部周囲を「副基礎部」と呼称し、杭頭側面と副基礎部の応力伝達を考慮した設計の適用有無により、杭頭接合部の構造規定が異なる。（杭ごとに、概要図Aまたは概要図Bのいずれかが適用される。）

● 概要図 A（主基礎部の応力伝達のみ考慮した設計の場合）



● 概要図 B（杭頭側面と副基礎部の応力伝達を考慮した設計の場合）



● 杭の中心間隔（設計値）
埋込み杭は杭径の2.0倍、打込み杭は杭径の2.5倍を最小値とする。
ただし、杭頭金物の溶接施工に支障がないことを確認すること。
施工許容差を超えた杭の偏心等により、中心間隔の最小値が確保できない場合の対応については、別途設計者指示による。

注1）中詰めコンクリート
中詰めコンクリートの強度と深さ（H）は 設計者により決定される。
ただし、杭のみ込み高さ(h1)は確保すること。（図は参考図）

注2）かぶり厚さ
杭頭アンカー及び杭頭金物下端部のかぶり厚さ(h2)は
設計かぶり厚さ70mm以上、最小かぶり厚さ60mmとする。

注3）割裂防止筋の配筋
杭頭外周部の基礎コンクリートには終局時の割裂を防止するために
D13@300程度の割裂防止筋を配筋し、無筋部を少なくすることが望ましい。

● 杭と基礎コンクリートのへりあき（設計値）
杭心からの距離で杭径の1.25倍以上を原則とする。
ただし、杭径が600mm以上の場合は1.0倍以上としてもよい。
施工許容差を超えた杭の偏心等により、へりあきの最小値が確保できない場合の対応については、別途設計者指示による。

注4）副基礎帯筋の配筋(コーン状破壊防止)※
設計者指示の配筋を施す。ただし、D13以上ピッチ150mm以下を配筋量の下限とする。

注5）副基礎補強筋の配筋（コーン状破壊防止/主基礎部への曲げ伝達)※
設計者指示の配筋を施す。ただし、D13以上ピッチ300mm以下を配筋量の下限とする。主基礎部への定着長は配筋指針等に基づき、設計者により決定される。

※マットスラブ形状の基礎については、上記、副基礎帯筋・副基礎補強筋の鉄筋径とピッチの規定によらず設計者指示の配筋とする。

1。2 適用範囲

本標準図はクラウンパイルアンカー工法を対象とする。本標準図の適用範囲以外の条件における設計施工は、BCJ評定-FD0511-04の評定書による。

● 杭と基礎コンクリートの適用範囲

杭の種類	外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
杭径	400mm以上　1200mm以下
杭鋼管　鋼種	SKK400, STK400, STKN400B SKK490, STK490, STKN490B
基礎コンクリート強度	21N/mm² 以上　45N/mm² 以下

● 杭のみ込み高さ

単位：mm

仕様	杭のみ込み高さ(h1)	
	概要図 A	概要図 B
D32,D38 -M	250以上(240)	杭径の0.48倍以上 かつ250以上(240)
D38,D38H-L D41H -L	280以上(270)	杭径の0.48倍以上 かつ280以上(270)

※（ ）内の数値は最小かぶり厚さによる
※杭の鉛直施工許容差を考慮した寸法とする

● 杭頭アンカー設置可能本数の上限

・杭鋼管 鋼種 400N/mm²級

杭径 (mm)	鋼管厚/仕様 9mm D32-M	鋼管厚/仕様 12mm以上 D32-M
400	7	8
450	8	9
500	8	9
600	9	10
700	10	12
800	11	13
900	11	14
1000	12	15
1100	13	17
1200	13	18

・杭鋼管 鋼種 490N/mm²級

単位：本

杭径 (mm)	鋼管厚/仕様 6mm D32-M	9mm D32-M	9mm D38-M	9mm D38-L	12mm以上 D32-M	12mm以上 D38-M	12mm以上 D38-L	12mm以上 D38H-L	14mm D41H-L	16mm以上 D41H-L
400	7	8	7	7	8	7	7	7	6	6
450	8	9	8	8	9	8	8	8	8	8
500	8	9	8	9	9	9	9	9	8	8
600	9	10	9	10	10	10	10	10	10	10
700	10	12	10	11	12	11	11	11	11	11
800	11	13	11	12	13	12	12	12	12	12
900	11	14	12	13	14	14	14	14	13	13
1000	12	15	13	14	15	15	15	15	14	14
1100	13	17	13	15	17	16	16	16	14	16
1200	13	18	14	16	18	17	17	17	15	17

※設置本数の下限は全仕様4本とする

● 杭頭アンカー の最低定着長

単位：mm

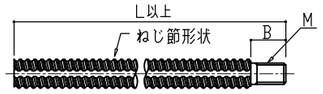
仕様	最低定着長(L1)
D32 -M	614
D38 -M,L	728
D38H-L	915
D41H -L	987

※ 本標準図以外に定着長の指定がある場合は、設計者指示の寸法による

2。構成部材

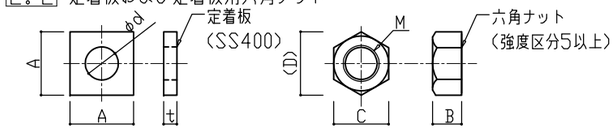
2。1 杭頭アンカー

杭頭アンカーは片端部にMねじを設けた異形棒鋼を用いる。
設計者の指定により定着長(L1)がアンカー呼び径の【35倍以上(SD390)，45倍以上(SD490)】となる場合は、Mねじ部を設けない仕様も可とする。



仕様	L (mm)	B (mm)	M	鋼種
D32 -M	790	39	M27	SD390
D38 -M,L	930	46	M33	
D38H-L	1130			SD490
D41H -L	1230	49	M36	

2。2 定着板および定着板用六角ナット



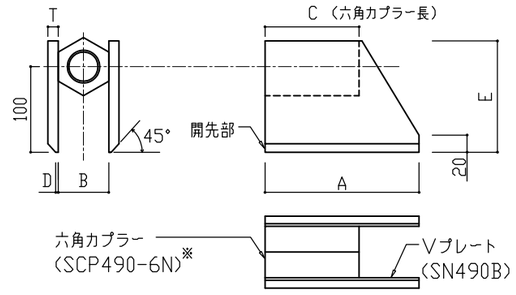
単位：mm

仕様	A	t	φd	M	B	C	(D)
D32 -M	55	9	28	M27	22	41	47
D38 -M,L D38H-L	65	12	34	M33	26	50	58
D41H -L	80		37	M36	29	55	64

※ 杭頭アンカーにMねじ部を設けない場合は使用しない

2。3 杭頭金物

杭頭金物にはM,Lタイプがあり、杭鋼管の鋼種と鋼管厚の適用範囲に応じて使い分ける。



単位：mm

仕様	A	B	C	D	E	T
D32 -M	180	50	90	2	130	12
D38 -M		59	110			
D38 -L	210		120			
D38H-L						
D41H -L		64	130		135	14

※ 国土交通大臣認定材：MSTL-0422またはMSTL-0574

3。工事現場施工

3。1 施工および施工管理

本工法は岡部(株)・グループ会社により教育・技術指導を受けた者が施工及び施工管理を実施する。

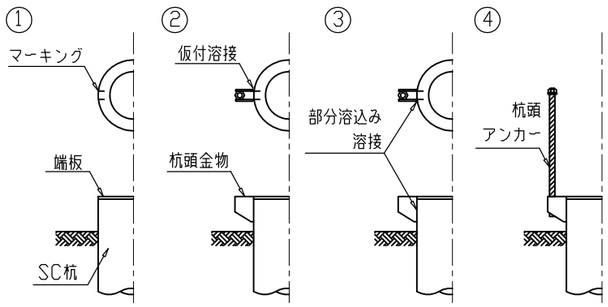
3。2 施工手順

本工法の実施に必要となる準備工事の実施範囲や施工手順について十分に協議する。

● 標準施工手順

- 準備工事
  - 杭周囲根伐り・レベルコン打設
  - 杭頭部の回転金物除去・洗浄・ケレン
  - 杭周辺の水処理・主筋等の墨出し
  - ① 杭頭金物取り付け位置のマーキング
- クラウンパイルアンカー工事
  - ② 杭頭金物を仮付溶接
  - 杭頭金物の配置検査
  - ③ 杭頭金物を部分溶込み溶接
  - 部分溶込み溶接部の外観検査
  - ④ 杭頭アンカーを設置／定着長の調整
  - 杭頭アンカーの設置検査
  - 杭頭アンカーの弛み止め処置
- 鉄筋工事
  - 副基礎コンクリート部の配筋
  - 主基礎コンクリート部の配筋

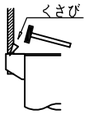
● 施工手順図



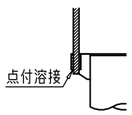
● 杭頭アンカー設置後の弛み止め処置

弛み止めは以下のいずれかの方法による。

・くさびの打ち込み



・カプラー下側余長部への点付溶接



3。3 部分溶込み溶接規準

● 溶接方法と溶接材料

材料は下記の規格を満たし、かつ490N/mm²級高張力鋼に適用可能なものを使用する。

溶接方法	規格：種類
ガスシールドアーク溶接	・JIS Z 3312：軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ ・JIS Z 3313：軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ

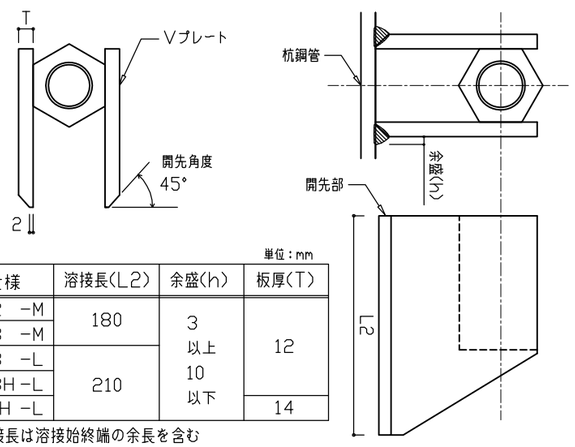
● 溶接資格

部分溶込み溶接は下記の規格を満たす立向姿勢の有資格者による施工を原則とする。

記号	規格：種類
SA-2V または SA-3V	・JIS Z 3841：半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準 ・WES 8241：半自動溶接技能者の資格認証基準

● 溶接寸法

Vプレートと杭鋼管の溶接は開先部全長（L2）にわたって行い、所定の余盛（h）を確保するように施工する。



単位：mm

仕様	溶接長(L2)	余盛(h)	板厚(T)
D32 -M	180	3 以上 10 以下	12
D38 -M			
D38 -L	210		
D38H -L			
D41H -L			14

※ 溶接長は溶接始終端の余長を含む

4。仕様一覧

4。1 杭頭接合部仕様の一覧

本工法を採用する杭頭接合部に関し、各杭符号ごとに仕様の一覧を記す。

● 概要図Aを適用する杭頭接合部仕様

杭仕様				クラウンパイルアンカー仕様			基礎コンクリート部仕様・補強要領	
杭符号	杭径	杭種(鋼管厚)	杭本数	仕様	本/1杭	備考	杭のみ込み高さ	割裂防止筋
P4	1000	SC(t16)	5	D41H-L	14/1杭		280 mm	基礎リストによる
							mm	
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)

上記、杭頭接合仕様について一般評定で規定する許容応力度計算を実施し、最終設計図書の記載と相違ないことを確認した。

※ 上記において、杭のみ込み高さおよび割裂防止筋の配筋量に関する計算上の規定はない

● 概要図Bを適用する杭頭接合部仕様

杭仕様				クラウンパイルアンカー仕様			基礎コンクリート部仕様・補強要領		
杭符号	杭径	杭種(鋼管厚)	杭本数	仕様	本/1杭	備考	杭のみ込み高さ	副基礎補強筋	副基礎帯筋
P1	1000	SC(t16)	9	D41H-L	14/1杭		500 mm	基礎リストによる	基礎リストによる
P1A	1000	SC(t16)	3	D41H-L	13/1杭		500 mm	基礎リストによる	基礎リストによる
P2	1000	SC(t16)	9	D41H-L	12/1杭		500 mm	基礎リストによる	基礎リストによる
P3	1000	SC(t16)	6	D41H-L	14/1杭		550 mm	基礎リストによる	基礎リストによる
P5	1000	SC(t16)	6	D41H-L	14/1杭		500 mm	基礎リストによる	基礎リストによる
P5A	1000	SC(t16)	6	D41H-L	14/1杭		600 mm	基礎リストによる	基礎リストによる
							mm	D @ (SD)	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)	D @ (SD)
							mm	D @ (SD)	D @ (SD)

上記、杭頭接合仕様について一般評定で規定する許容応力度計算を実施し、最終設計図書の記載と相違ないことを確認した。

4。2 特記事項、その他

合成スラブ設計・施工標準
耐火補強筋不要仕様

耐火仕様②

[耐火認定FP060FL-0099,0100,0101,0102,0126,FP120FL-0127用]

QLデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工規準 2018」、QLデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設　　　計

材料／デッキプレート

[ISO 9001認証取得]

デッキプレート種類		板厚(mm)	表面処理
■QL99-50 □QL99-75	端部加工 □ｴﾝｸﾛ有り □無し	■1.0 (東空中歩廊)	□亜鉛めっき [■Z12 □Z27] □JFEｴｺｶﾞﾙ(高耐食溶融めっき鋼板) [□Y18 □Y27] □その他( )
		■1.2 □1.6 (西空中歩廊・階段棟)	□裏面防錆処理(一次塗装) QLプライマー(P) *1*2 □亜鉛めっき [□Z12 □Z27] □JFEｴｺｶﾞﾙ(高耐食溶融めっき鋼板) [□Y18 □Y27] □その他( ) □無し *2
材質	JIS G 3352に定めるSDP1T、SDP2、SDP2G		

*1 現場搬入までの一次防錆(JIS K 5621 2種または3種相当)
*2 板厚1.2mm, 1.6mmに限る

材料／コンクリート

種類	■普通コンクリート
設計基準強度	□18 □21 □24 ■(30)N／mm²
厚さ(QLデッキ山上)	□60 □70 ■80 □85 □90 □95 □100 □( )mm

材料／溶接金網・異形鉄筋

□溶接金網	JIS G 3551	□φ6-75×75 □φ6-150×150 □φ6-100×100 □( )*3
■異形鉄筋	JIS G 3112、3117	■D10-150×150 □D10-200×200 □( )

*3 線形6mm以上を用いたもの

接　　合

梁との接合	■頭付きスタッド	JIS B 1198 □φ13 ■φ16 □φ19 □φ22 (各長さ・ピッチは特記による *4)
	□焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
	□打込み鋲	接合箇所は特記による
	□その他	

*4 最小長さはデッキ高さ+30mm以上とする

耐　　火

ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ	耐火区分	支持条件	ｺﾝｸﾘｰﾄ種別	耐火補強筋	認定番号
QL99-50	床1時間	単純/連続	普通	不要	□FP060FL−0126
					■FP060FL−0100
					□FP060FL−0101
QL99-75					□FP060FL−0102
					□FP060FL−0099
	床2時間				□FP120FL−0127
その他	□指定なし □( ) □( )				

注) 床2時間は床1時間耐火を含む

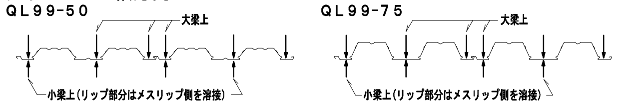
特　　記

支保工有無	その他：階段棟 EVシャフト屋根
□無 ■有	

上欄内の採用項目に☑を記して下さい。

焼抜き栓溶接

デッキプレート幅方向



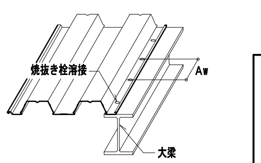
デッキプレートスパン方向

「QLデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$$A_W = \frac{1.5Q_a}{Q_D} \times 1000\text{mm かつ} 600\text{mm 以下}$$

A_W：焼抜き栓溶接ピッチ
Q_D：設計最大せん断力(N/m)
Q_a：焼抜き栓溶接1個当たりの長期許容せん断力(N)

板厚	1.0	1.2	1.6
Qa (N)	4,000	4,900	7,350(SPW) 6,860(APW)



Aw =(　　　)mm

(注) 接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要です。

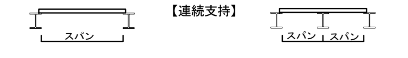
■施工時許容スパン表(デッキプレートの検討)

単位(m)

コンクリート厚(mm)		80			85			90			95			100		
板厚(mm)		1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6
QL50 支持条件	単純(内法)	2.28	2.42 (2.42)	2.64 (2.64)	2.26	2.39 (2.39)	2.61 (2.61)	2.24	2.37 (2.37)	2.59 (2.59)	2.22	2.35 (2.35)	2.57 (2.57)	2.20	2.33 (2.33)	2.54 (2.54)
	2連続	3.06	3.24 (3.24)	3.54 (3.54)	3.03	3.21 (3.20)	3.51 (3.51)	3.01	3.18 (3.15)	3.47 (3.47)	2.98	3.15 (3.11)	3.44 (3.44)	2.95	3.12 (3.07)	3.41 (3.41)
	3連続	2.82	2.99 (2.99)	3.26 (3.26)	2.80	2.96 (2.96)	3.23 (3.23)	2.77	2.93 (2.93)	3.20 (3.20)	2.75	2.91 (2.91)	3.17 (3.17)	2.72	2.88 (2.88)	3.15 (3.15)
QL75 支持条件	単純(内法)	3.01	3.18 (3.18)	3.48 (3.48)	2.98	3.15 (3.15)	3.45 (3.45)	2.96	3.13 (3.13)	3.42 (3.42)	2.93	3.10 (3.10)	3.39 (3.39)	2.91	3.07 (3.07)	3.37 (3.37)
	2連続	3.58	3.91 (3.67)	4.18 (4.18)	3.54	3.88 (3.62)	4.15 (4.15)	3.49	3.83 (3.58)	4.13 (4.13)	3.44	3.78 (3.53)	4.10 (4.10)	3.40	3.73 (3.49)	4.07 (4.07)
	3連続	3.50	3.68 (3.68)	3.93 (3.93)	3.47	3.65 (3.65)	3.91 (3.91)	3.44	3.63 (3.63)	3.88 (3.88)	3.41	3.60 (3.60)	3.86 (3.86)	3.38	3.58 (3.58)	3.83 (3.83)

注1：普通コンクリート(単位重量24.0kN/m3)、表面処理が亜鉛めっきの場合
注2：()数値は表面処理が亜鉛めっきなしまたは塗装品の許容スパンを示す。注3：上表を超える場合、別途支保工が必要です。

S造・施工時のスパンの取り方



耐　火　仕　様

○共通事項　支持梁：鉄骨梁、コンクリート：設計基準強度18～36 N/mm²の普通コンクリート
溶接金網[JIS G 3551]又は異形鉄筋[JIS G 3112, G 3117]　寸法は下表参照
耐火補強筋：不要

【QL99−50】

■認定番号[FP060FL−0100(床1時間耐火)]

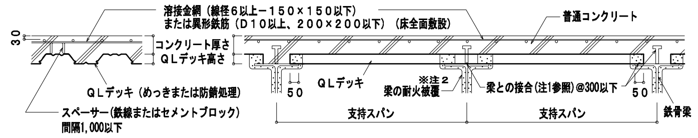
デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
QL99-50-10 QL99-50-12 QL99-50-16	単純支持 連続支持	2,700mm 以下	80mm 以上	5,400N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 打込み鋲(φ4.5) 頭付きスタッド(φ13以上)

□認定番号[FP060FL−0101(床1時間耐火)]

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
QL99-50-10 QL99-50-12 QL99-50-16	単純支持 連続支持	3,000mm 以下	80mm 以上	3,500N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 打込み鋲(φ4.5) 頭付きスタッド(φ13以上)

□認定番号[FP060FL−0126(床1時間耐火)]

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
QL99-50-10 QL99-50-12 QL99-50-16	単純支持 連続支持	2,700mm 以下	80mm 以上	7,000N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	頭付きスタッド(φ16以上)



【QL99−75】

□認定番号[FP060FL−0102(床1時間耐火)]

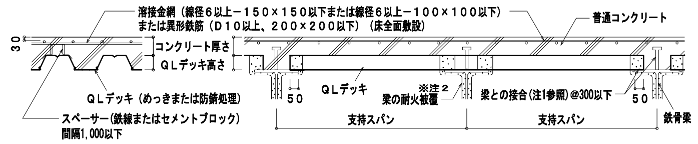
デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
QL99-75-10 QL99-75-12 QL99-75-16	単純支持 連続支持	3,000mm 以下	80mm 以上	5,400N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 頭付きスタッド(φ13以上)

□認定番号[FP060FL−0099(床1時間耐火)]

デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
QL99-75-10 QL99-75-12 QL99-75-16	単純支持 連続支持	3,400mm 以下	80～100mm	3,500N/m²以下	線径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	頭付きスタッド (φ16以上)

□認定番号[FP120FL−0127(床2時間耐火)]

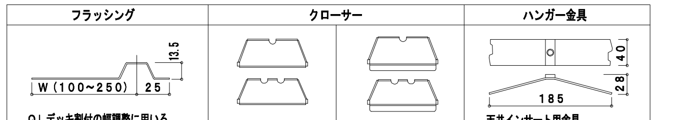
デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
QL99-75-10 QL99-75-12 QL99-75-16	単純支持 連続支持	2,500mm 以下	90mm 以上	6,000N/m²以下	線径6mm以上-100×100mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 頭付きスタッド(φ13以上)



注1) 梁との接合間隔は、焼抜き栓溶接・打込み鋲・頭付きスタッド共に、デッキ溝と直交する場合300mm以下、平行方向は600mm以下とする。
注2) 梁の耐火被覆　梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて適切な耐火被覆を施す。(本認定仕様外)
注3) 許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上げ荷重も含む)から床荷重(デッキプレート+コンクリート+鉄筋)を差し引いた値を示す。

アクセサリー

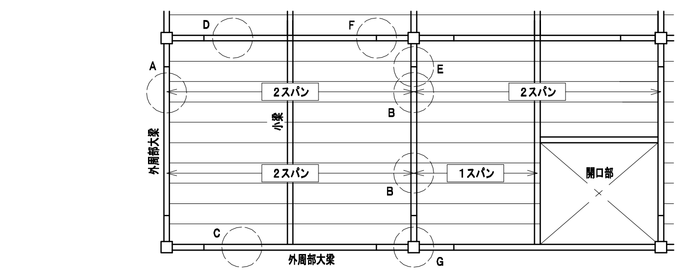
フラッシング	クローサー		ハンガー金具
QLデッキ割付の幅調整に用いる。 定尺2.4m、t＝1.2mmまたは1.6mm	QLデッキの小口ふさぎ用	梁の耐火被覆用面戸	天井インサート用金具 (QLデッキ下溝を利用して取付)



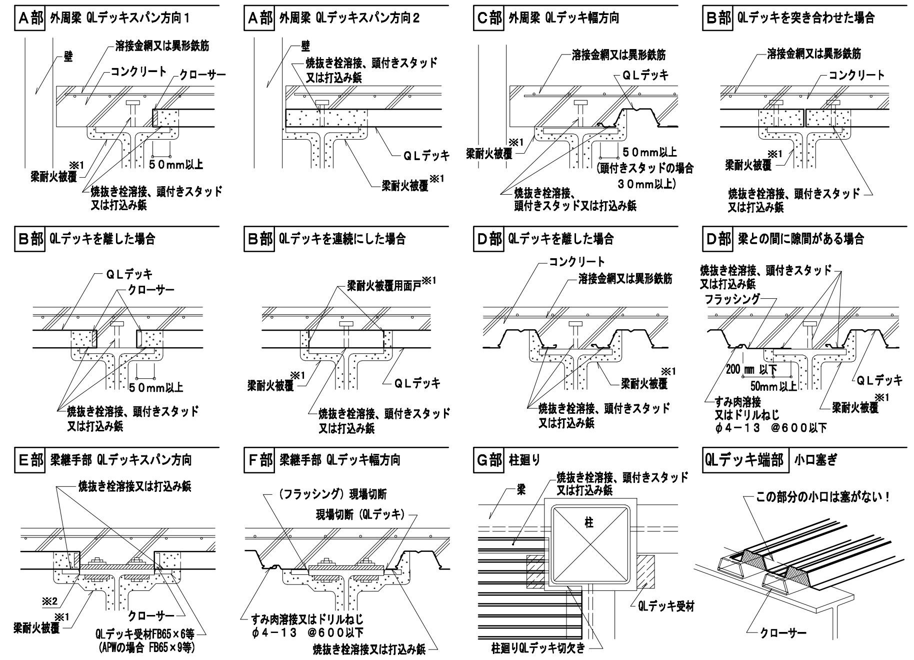
標　準　納　ま　り

支持梁：鉄骨梁

図中※1は、梁に1、2または3時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。
※2 溶接方法等は別途検討が必要。(合成スラブ工業会Q&A参照)



A：外周梁(デッキスパン方向)
B：内部梁(〃)
C：外周梁(デッキ幅方向)
D：内部梁(〃)
E：梁継手(デッキスパン方向)
F： 〃 (デッキ幅方向)
G：柱廻り



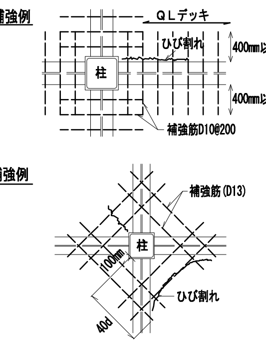
(参考)ひび割れ拡大防止のための留意事項

[1]設計上の留意点
1)小梁の剛性を大きくする。
2)ひび割れ拡大防止のため補強筋を設ける。(右図補強例参照)
3)スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。
(コンクリート厚さをQLデッキ山上から 80～90mmと厚くする。)
4)デッキプレートは各溝で梁に接合すること。
頭付きスタッド使用の場合にも、デッキプレート各溝全てをアークスポット溶接するのが望ましい。

[2]施工上の留意点
1)水セメント比を小さくする。
[例] 単位水量 175リットル/m³以下 / ベースコンクリートスランプ 10cm / 高性能AE減水剤 ］スランプ 15cm
2)溶接金網の位置−かぶり厚さ30mm−を確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)
3)コンクリート打込み後1週間は載荷作業を行わない。歩行程度は可。
4)打込み後初期には散水や養生シート等で湿潤養生を行う。
直射日光が当たる屋上は、散水養生は必須。
5)打込み後4～7日間はスラブに振動や荷重を加えないようにし、充分な養生期間を設ける。

大梁上の補強例

柱廻りの補強例

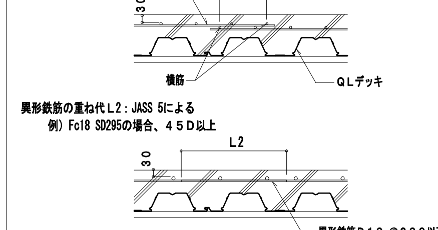


スラブの配筋

コンクリート表面よりのかぶり厚さが30mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。

溶接金網の重ね代L1：1メッシュと50mm以上、且つ150mm以上
(線径6-150×150の場合200mm以上、線径6-100×100の場合150mm以上)

異形鉄筋の重ね代L2：JASS 5による
例) Fc18 SD295の場合、45D以上



※配筋のスペーサーは鉄線またはセメントブロックとし、間隔は1.0m以下とする。

開口部補強案

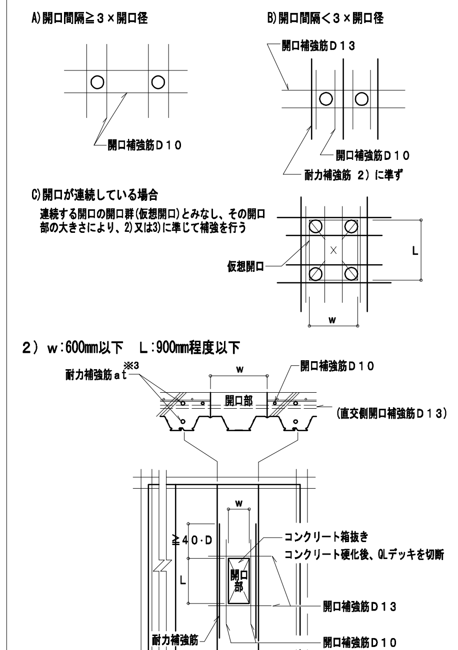
1) 開口がφ150mm程度の場合

A)開口間隔≧3×開口径

B)開口間隔＜3×開口径

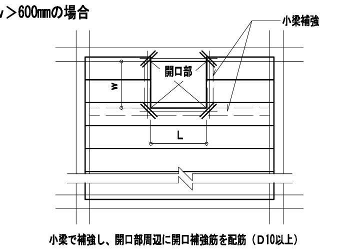
C)開口が連続している場合
連続する開口の開口群(仮想開口)とみなし、その開口部の大きさにより、2)又は3)に準じて補強を行う

2) w:600mm以下　L:900mm程度以下



※3 耐力補強筋 所要断面積 $at = \frac{M}{ft \times j}$
M：開口によって生じる隣接スラブの増加曲げモーメント

3) w＞600mmの場合



小梁で補強し、開口部周辺に開口補強筋を配筋(D10以上)

※開口補強の詳細は、合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」(I)合成スラブの設計 4.合成スラブの開口補強方法 を参照する。

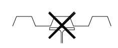
施工

施工順序

墨出し
↓
敷込み仮止め溶接
↓
QLデッキと梁との接合
1) 頭付きスタッド
2) 打込み鋲
3) 焼抜き栓溶接
↓
ひび割れ防止筋敷込み
↓
検査
↓
コンクリート打設

敷込み

鉄骨梁の場合
1)墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(5～10枚)ごとに仮止め溶接する。
2)各大梁上にデッキプレートの溝部が乗るように敷込む。



デッキプレート幅方向のかかり代は、50mm以上あることを確認する。
(頭付きスタッドの場合は30mm以上)
3)デッキプレート長手方向の大梁のかかり代は、50mm以上あることを確認する。

デッキプレートと梁との接合

1) 頭付きスタッド
施工は、JASS6「鉄骨工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。

2) 打込み鋲
施工は打込み鋲製造業者の施工要領による。
施工の仕様等については別途製造業者へご確認下さい。
日本ヒルティ(株)

3) 焼抜き栓溶接
国土交通省告示第326号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第606号(平成19年6月20日改正)の第2接合ハ(4)焼抜き栓溶接に基づく下記仕様による。(梁フランジの表面処理条件；黒皮または一般錆止め塗装)
合成スラブ工業会主催の「焼抜き栓溶接講習会」の受講が望ましい。

焼抜き栓溶接[SPW] —アーク手溶接—

(1) 溶接機
交流アーク溶接機 AW250A以上　エンジン溶接機 230A以上
(2) 溶接棒
JIS Z 3211のE4316、E4916 に定める低水素系被覆アーク溶接棒で棒径4mmφのもの
(3) 標準溶接条件
梁フランジ板厚：6mm以上
溶接電流　：190～230A(標準210A)
(4) 溶接工の資格
JIS Z 3801、JIS Z 3841 における基本級の有資格者
(5) 手順・要領
右の1～4の順に行う。

	工程	手順・要領
1	アーク発生	QLデッキを梁になじませ(隙間2mm以下)溶接棒をQLデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2	QLデッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm弱で"の"の字を描いてQLデッキを焼抜く。
3	押し込み・溶着	溶接棒を梁上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ2～3回転しながら運棒。
4	整形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安；電流値210A(標準)の場合8秒程度

自動焼抜き栓溶接[A.P.W] — CO2アークスポット溶接 —

(1) 一次側電源の必要容量：仮設電力の場合 18KVA以上 3相 200V
発電機の場合 35KVA以上 3相 200V
(2) ワイヤの種類と直径 ：YGW 11、12 φ1.2mm
(3) 標準溶接条件：下表

QLデッキ板厚	梁フランジ板厚	電流(A)	電圧(V)	アークタイム(秒)
1.2mm	6～9mm未満	300～320	33～35	3.0～4.0×1度打ち
	9mm以上	300～320	33～35	3.0～4.0×2度打ち
1.6mm	6～9mm未満	300～320	34～36	3.5～4.5×1度打ち
	9mm以上	300～320	34～36	4.0～4.5×2度打ち

注1.デッキプレート 板厚1.0mm 表面条件：Z12、Z27、裏面塗装
2.CO2ガス流量：20ﾘｯﾄﾙ／分以上

検　　査

【焼抜き栓溶接(SPW)及び自動焼抜き栓溶接(A.P.W)】
□事前検査
SPW：適正な溶接を行うため下記1)または2)の方法で電流値をチェックする。
1) 検流計での計測
2) 溶接棒の消費長さによる確認 —— 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約3mmに保持し、10mm程度の円を描いて10秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが45～53mmであること。
A.P.W：試し溶接を行って溶接径を確認する。
□溶接後の外観検査
1) 溶接箇所の確認　2) 焼き切れ、余盛り不足の有無
3) 標準余盛り径 SPW；18mm以上 A.P.W；25mm±3
□不良部の補修
SPW の場合：スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。
不具合箇所に溶着金属を流し込む要領で補修。
A.P.Wの場合：重ね溶接して補修する。
【その他】
(1)QLデッキ相互の嵌合状況　(2)ひび割れ拡大防止筋の敷込み状況　(3)開口部の補強状況

その他の納まり・参考例等については、QLデッキ施工マニュアルまたは別途『納まり図』(技術資料CADデータ収録)を参照下さい。

2021／11／01

株式会社 大建設計 技にこころを 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事			図面番号
	構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和	図面名	合成デッキプレート 標準図(参考)	縮尺	−	S-17
	設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春	船橋市建設局建築部建築課			令和7年度	(183/224)

ＲＣ造向け 型枠用デッキプレート　　設計・施工標準

（一社）公共建築協会 R4.3　評価 第941-0100A005号

１．製品・材料

（１）　質量および断面性能

☑	品名	板厚 (mm)	質量（Z12の場合） Kg/m	Kg/m²	断面二次 I (10⁴mm⁴/m)	断面係数 Z (10³mm³/m)
□	SF08	0.8	7.90	12.5	120	18.7
□	SF10	1.0	9.80	15.6	150	24.4
□	SF12	1.2	11.7	18.6	180	29.4
□	SF14	1.4	13.6	21.6	206	34.4
☑	SF16	1.6	15.4	24.4	232	39.3
□	SFKP	0.8	7.01	8.78	6.12	4.22
備考		断面二次モーメントは全断面有効の値である。 断面係数は，有効幅（=50t）を考慮した値である。				

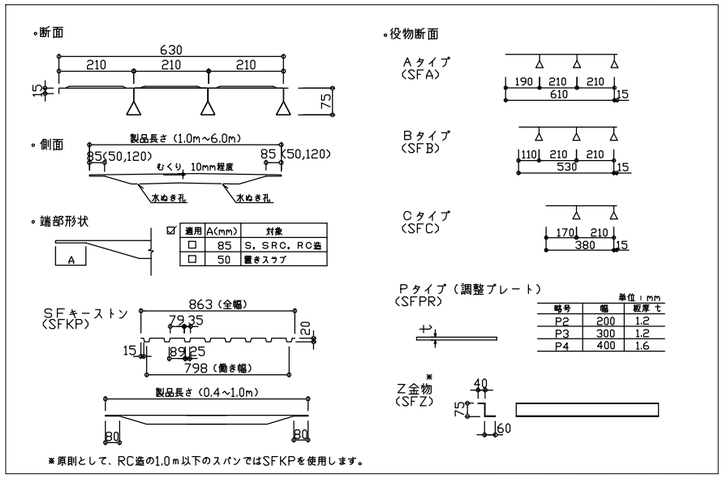
（２）　使用材料

☑	表面処理	最小付着量 (g/m²)	使用材料	適用板厚
☑	Z12	120	SGCC －Z12	1.4mm以下
			SGHC －Z12	1.6mm
□	Z27※	275	SGCC －Z27	1.4mm以下
			SGHC －Z27	1.6mm

＊SFについて、Z27をご希望の場合は予め御相談下さい。
＊SFKP及びSFZについては、Z27の製品はありません。

（３）　形状寸法

（単位：ｍｍ）



＊原則として、RC造の1.0ｍ以下のスパンではSFKPを使用します。

＊溝部換算スラブ厚さは、SFKP 4.2mmです。
＊改良等のため予告なく仕様を変更する場合がありますのでご了承下さい。

３．施工手順

項　目	施　工　要　領
１．計画	（１）工法、応力、たわみを確認し、割付図（施工図）を作成する。 （２）鉄骨や型枠の工程を十分考慮して施工計画を立てる。
２．搬入・養生	（１）ＳＦデッキにワイヤー傷、あて傷がつかないように、また、ＳＦデッキの形状保持、防錆、安全に十分注意を払って搬入、養生する。 （２）鉄骨梁や型枠の上に仮置きする場合、過度の荷重がかからないように分散配置し、また、梁から落下しないように十分養生する。
３．敷き込み	〈RC･SRC造〉 （１）梁型枠の強度・寸法、また縦桟木の取付等をチェックする。 （２）割付図に従いＳＦデッキを不陸のないように敷込む。 （３）ＳＦデッキは型枠に釘で接合する。 調整プレートは必要に応じ釘孔付きを使用する。 （４）標準品と役物、調整プレートとをアークスポット溶接で接合できない場合、タッピングビスやポップリベット等で接合する。 （５）梁型枠内にデッキをのみ込ませるか落下防止材の取付等により梁型枠脱型後、デッキが落下しないように施工する。 〈置きスラブ〉 （１）梁間隔が割付通りか確認する。ずれている場合はＳＦデッキをのみ込みできないことがあるので注意する。 （２）コンクリート梁にデッキを乗せ掛ける場合、乗せ掛け部は不陸がないように平坦にする。 （３）ＳＦデッキとコンクリート梁との接合方法は、梁への影響を考慮し、事前に検討する。

項　目	施　工　要　領
４．切断・孔明け	（１）切断はガス、プラズマ、電動のこ、グラインダー等を、また、孔明けはホールソー、ドリル等を使用してＳＦデッキの材質・形状 を損なわないよう行う。 （２）ＳＦデッキを切断する場合、下部作業の安全、他デッキ・梁等の養生に十分留意する。 （３）スリーブ等の開口は原則箱抜き型枠とし、コンクリート硬化後にＳＦデッキを切断する。
５．その他	（１）ＲＣ・ＳＲＣ造では梁型枠がデッキ型枠の支保工の役目をするため梁側型枠の取り外し時期は十分検討する。 （２）中間サポートをする場合、大引きがデッキのむくりを拘束しないよう設置する。 （３）デッキスパンが短くスラブが極厚の場合、デッキ端部の強度や中間サポートする場合の大引きに対するデッキリブ底面の支圧強度を事前に確認する。

２．設計・資料

（１）断面応力およびたわみの算定

ａ．断面応力の算定
フラットデッキに作用する最大曲げモーメント（M）の算定式は下式による。
$M = (1/8) \cdot W \cdot L^2 \times 10^3$ (N･mm/m)
W：施工時の鉛直荷重　(N/m²)
L：スパン長さ　(m)
断面応力（σ）の算定式は下式による。
$\sigma = M / Zt$　(N/mm²)
M：最大曲げモーメント (N･mm/m)
Zt：正曲げ用断面係数（有効幅考慮）(mm³/m)

ｂ．たわみの算定
たわみ（δ）の算定式は下式による。
$\delta = (C \cdot 5 \cdot W \cdot L^4) / (384 \cdot E \cdot I) \times 10^9$ (mm)
C：たわみ算定用係数(C=1.6)
E：鋼材のヤング係数(205,000N/mm²)
I：断面二次モーメント（全断面有効）(mm⁴/m)

【スラブ厚さ別許容スパン早見表】（施工時作業荷重1,470N/m²）　単位：mm（ただし10mm単位で切捨て表示）

スラブ厚さ(mm)	支持区分	許容スパン（mm）【中間支保工なし】 RC・SRC造のI類 板厚(mm) 0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	SFKP	RC・SRC造のII類 1.0	1.2	RC・SRC造のIII類 0.8	SFKP	許容スパン（mm）【中間支保工あり】 RC・SRC造のI類 0.8	1.0	1.2	SFKP	RC・SRC造のII類 1.0	1.2	RC・SRC造のIII類 0.8	SFKP
普通コンクリート ρ=24kN/m³	120	2,610	2,870	3,040	3,160	3,270	1,000	2,660	2,910	2,130	1,000	4,370	4,900	4,900	1,000	4,900	4,900	4,270	1,000
	130	2,540	2,830	2,990	3,110	3,220	△	2,590	2,840	2,080	980	4,150	△	△	△	△	△	4,150	△
	140	2,480	2,790	2,940	3,060	3,170		2,530	2,770	2,030	950	3,950				▽		3,950	
	150	2,420	2,750	2,900	3,020	3,130		2,470	2,700	1,980	930	3,770				4,900		3,770	
	160	2,370	2,700	2,860	2,980	3,080		2,410	2,640	1,930	910	3,600				4,830		3,600	
	170	2,320	2,640	2,820	2,940	3,040		2,360	2,590	1,890	890	3,450	▽			4,730		3,450	
	180	2,270	2,590	2,790	2,900	3,010	▽	2,320	2,540	1,850	870	3,310	4,900			4,640	▽	3,310	
	190	2,230	2,540	2,750	2,870	2,970	1,000	2,270	2,490	1,820	860	3,180	4,750			4,540	4,900	3,180	
	200	2,180	2,490	2,720	2,830	2,940	990	2,230	2,440	1,780	840	3,060	4,570	▽		4,460	4,880	3,060	
	250	2,000	2,290	2,500	2,690	2,790	940	2,040	2,240	1,640	770	2,570	3,850	4,900	▽	3,850	4,480	2,570	▽
	300	1,860	2,120	2,330	2,510	2,660	880	1,900	2,080	1,520	720	2,220	3,330	4,420	1,000	3,330	4,170	2,220	1,000
軽量コンクリート ρ=20kN/m³	120	2,760	2,980	3,140	3,270	3,390	1,000	2,810	3,080	2,260	1,000	4,900	4,900	4,900	1,000	4,900	4,900	4,520	1,000
	130	2,700	2,930	3,100	3,220	3,340	△	2,750	3,010	2,200	1,000	4,670	△	△	△	△	△	4,410	△
	140	2,640	2,890	3,050	3,180	3,290		2,680	2,940	2,150	1,000	4,450						4,310	
	150	2,580	2,850	3,010	3,130	3,250		2,630	2,870	2,100	990	4,260						4,210	
	160	2,520	2,810	2,970	3,090	3,200		2,570	2,810	2,060	970	4,080						4,080	
	170	2,470	2,780	2,940	3,060	3,160		2,520	2,760	2,020	950	3,920				▽		3,920	
	180	2,420	2,750	2,900	3,020	3,130		2,470	2,700	1,980	930	3,770				4,900		3,770	
	190	2,380	2,710	2,870	2,980	3,090	▽	2,420	2,650	1,940	920	3,630	▽			4,850	▽	3,630	
	200	2,340	2,660	2,840	2,950	3,060	1,000	2,380	2,610	1,910	900	3,500	4,900			4,770	4,900	3,500	
	250	2,150	2,450	2,690	2,810	2,910	980	2,190	2,400	1,760	830	2,970	4,430	▽	▽	4,390	4,810	2,970	▽
	300	2,000	2,290	2,500	2,690	2,790	940	2,040	2,240	1,640	770	2,570	3,850	4,900	1,000	3,850	4,480	2,570	1,000

※RC造,SRC造のように、フラットデッキが梁側板型枠となる合板で支持されている場合において、使用スパン長さが3.0mを超える場合はスパン中間に支保工を設けることを原則とします。

（２）許容スパン表算定条件

（１）許容応力度　：fb=205N/mm²　　σ/fb≦1/α
（２）たわみ許容値　：δa=1000･L/180+5.0mm　　δ≦δa
（３）たわみ算定用係数　：C=1.6
（４）断面係数（Ｚｔ）　：有効幅(50t)を考慮した値
（５）断面二次モーメント（Ｉ）　：全断面有効とした値
（６）作業荷重（W3）　：W3 = 1,470 又は2,450※(N/m²)（「労働安全衛生規則」より）
※ ホッパーやバケット打設工法の場合
（７）エンドクローズ強度：デッキ端部の反力がエンドクローズ強度ePaを上回らないことを確認して下さい　Pe=W×L/2≦ePa

デッキ板厚（mm）	0.8	1.0	1.2
許容支圧荷重（N/m）	9,800	14,700	19,600

（８）許容支圧荷重　：デッキリブ許容支圧荷重は右表の通りとする。

＊スパン（L）の取り方

－RC，SRC造の場合－　　－中間支保工を用いる場合－

〈RC・SRC造における施工上の安全性を確保するための施工割増係数〉

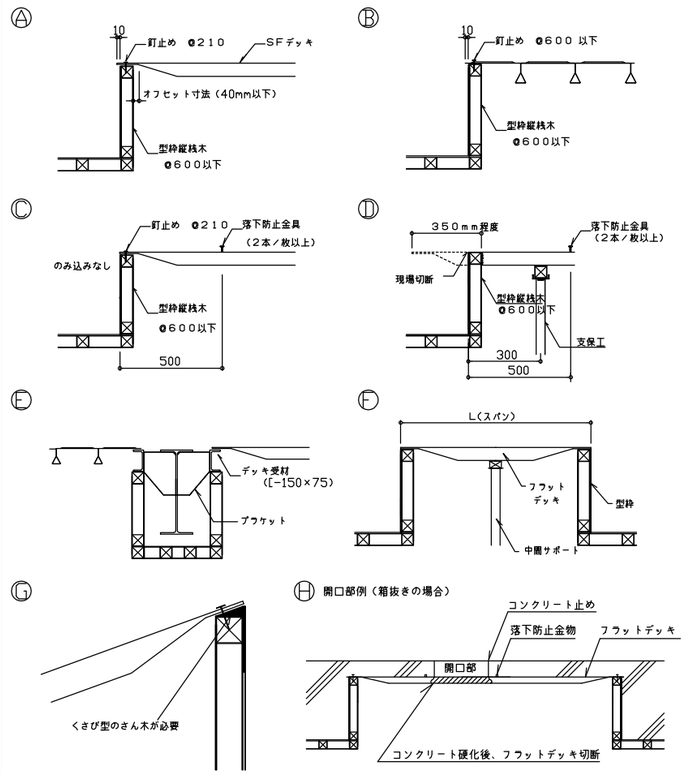
施工管理状況に応じて施工割増係数（α）を選定する。

☑	施工状況の種類	施工割増係数（α）	施工条件等
☑	Ｉ類	1.00	RC造またはSRC造の場合で、荷重条件、施工条件等の適切な設定、管理により施工上の安全性が確実に確保される場合。
□	II 類	1.25	Ｉ類以外のRC造またはSRC造の場合で、板厚1.0mmまたは1.2mmのフラットデッキを使用する場合。
□	III 類	1.50	Ｉ類以外のRC造またはSRC造の場合で、板厚0.8mmのフラットデッキを使用する場合。

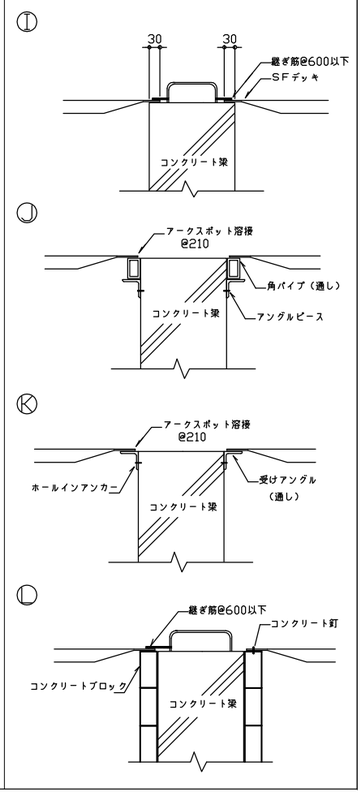
※　詳細は、『床型枠用鋼製デッキプレート（フラットデッキ）設計施工指針・同解説』－本編４章4.9αを参照願います。

４．納まり例

ＲＣ造・ＳＲＣ造



置きスラブ



技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	型枠用デッキプレート　標準図（参考）	縮尺 ―	S-18
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(184/224)

露出形柱脚工法設計・施工標準図 (SP:角型鋼管用 保有耐力接合タイプ)1/3

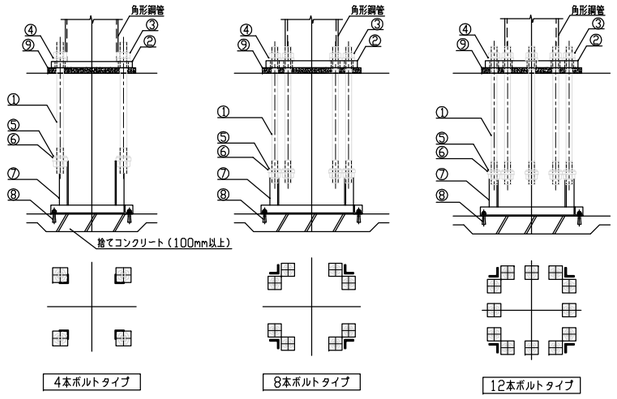
一般財団法人 日本建築センター 鋼構造評定委員会評定 BCJ評定－ST0282-02（2022年12月16日）

国土交通大臣認定番号（アンカー用ボルトセット） ※（ ）はミルメーカーと加工工場を示す。			
MBLT-0116	M24～M48（朝日工業・アイエスケー中島工場）	MBLT-0180	M24～M48（朝日工業・アイエスケー前橋工場）
MBLT-0144	M30～M48（JFE条鋼・アイエスケー中島工場）	MBLT-0181	M30～M48（JFEスチール・アイエスケー前橋工場）
MBLT-0164	M52～M76（JFE条鋼・アイエスケー前橋工場）		

適用柱材
F値=235N/mm², 275N/mm², 295N/mm², 325N/mm²

2023年11月作成

1. 構造概要

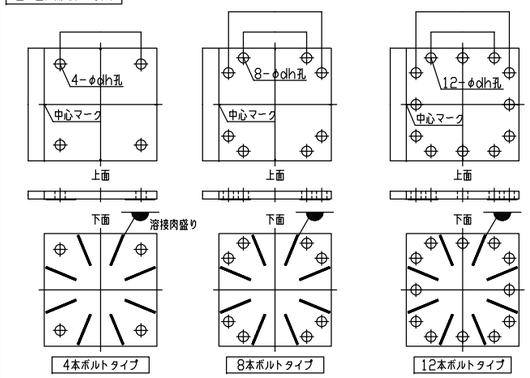


① アンカーボルト　② ベースプレート
③ 一種ナット（シングルナット） … 土間コンクリート等で被覆する場合は、シングルナットを標準仕様とする。
被覆されない場合は、ダブルナット又は六角リングにて緩み止めを行う。
④ 丸座金　⑦ セットフレーム
⑤ 六角リング　⑧ セットアンカー
⑥ 定着板　⑨ モルタル（30~50mm）

2. ベースプレート

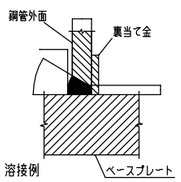
2-1. 材質　JIS G 3136 SN490B（t=40mm以下の場合のみ使用）
建築構造用認定鋼板　TMCP325B（板厚の制限なしで使用）

2-2. 形状と寸法



※ベースプレートは
"中心マーク"のある面が上面（調管取付面）
"溶接突起"のある面が下面（底面）

2-3. 柱材との溶接



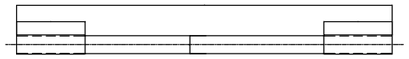
柱材とベースプレートの溶接は、完全溶け込み溶接とする。

※溶接施工に関しては、
「日本建築学会；建築工事標準仕様書 JASS 6鉄骨工事」に準じる。

※柱材のめっき仕様について
柱材をめっきする場合は、弊社までご相談ください。

3. アンカー用ボルトセット

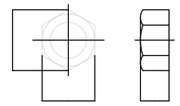
3-1. アンカーボルト
材料：　大臣認定材料（ISB740C, ISB740E, ISB800B）



（mm）

品番	呼び径	ピッチ	db ISB740C	db ISB740E	db ISB800B	L	Ls
A1	M24	3.0	22.0	-	-	595	100
A21	M30	3.5	28.0		-	605	115
A31	M36	4.0	33.15	33.0	-	675	130
A34						825	
A41	M42	4.5	38.92	38.8	-	745	145
A42						845	
A43						945	
A44						1045	
A52	M48	5.0	45.0		-	1015	160
A53						1115	
A61	M52	5.0	-		49.0	1100	185
A62						1200	
A71	M56	5.5	-		52.0	1165	195
A72						1265	
A81	M60	5.5	-		56.0	1230	205
A91	M64	6.0	-		60.0	1295	215
A92						1395	
AA1	M68	6.0	-		64.0	1360	225
AA2						1460	
AB1	M72	6.0	-		67.8	1425	235
AC1	M76	6.0	-		71.8	1490	245

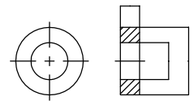
3-2. ナット
種類：　1種六角ナット　JIS B 1181
強度区分：　JIS B 1052　8（M48以下）
強度区分：　JIS B 1052　10（M52以上）



（mm）

呼び径	m	s	e
M24	19	36	41.6
M30	24	46	53.1
M36	29	55	63.5
M42	34	65	75.0
M48	38	75	86.5
M52	42	80	92.4
M56	45	85	98.1
M60	48	90	104.0
M64	51	95	110.0
M68	54	100	115.0
M72	58	105	121.0
M76	61	110	127.0

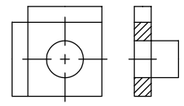
3-3. 丸座金
材質：　一般構造用圧延鋼材　SS400



（mm）

呼び径	品番	d1	d2	tw
M24	C1	52	25	9
M30	C2	58	31	12
M36	C3	68	37	16
M42	C4	78	43	19
M48	C5	90	50	19
M52	C6	100	54	25
M56	C7	108	58	28
M60	C8	114	62	32
M64	C9	120	66	36
M68	CA	128	70	36
M72	CB	134	74	36
M76	CC	140	78	36

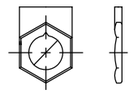
3-4. 定着板
材質：　一般構造用圧延鋼材　SS400（M48以下）
溶接構造用圧延鋼材　SM490A（M52以上）



（mm）

呼び径	品番	Ba	ta	d
M24	P1	50	9	26
M30	P2	65	12	32
M36	P3	75	16	38
M42	P4	85	19	44
M48	P5	95	22	50
M52	P6	115	25	54
M56	P7	120	25	58
M60	P8	130	28	62
M64	P9	135	32	66
M68	PA	140	32	70
M72	PB	150	36	74
M76	PC	155	36	78

3-5. 六角リング
材質：　JIS G3131 SPHC



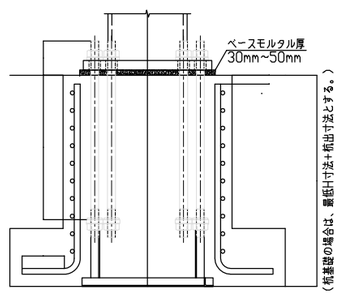
（mm）

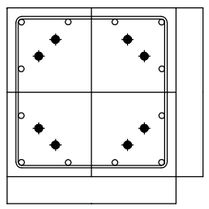
呼び径	S	di	mi	ti
M24	36	22.5	5	1.6
M30	46	28.9	7	2.0
M36	55	33.6	8	2.0
M42	65	39.2	9	2.3
M48	75	45.7	10	2.3
M52	80	49.9	11	2.8
M56	85	52.6	12	2.8
M60	90	56.6	12	3.2
M64	95	60.3	13	3.2
M68	100	64.3	14	3.2
M72	105	68.2	14	3.6
M76	110	72.2	15	3.6

4. コンクリート柱形

4-1. 使用材料　コンクリート：　Fc=21N/mm²　以上（鋼管サイズ□550以下）
Fc=24N/mm²　以上（鋼管サイズ□600以上）
鉄筋：　JIS G 3112 SD295A（D16以下）
JIS G 3112 SD345（D19~D25）
JIS G 3112 SD390（D29以上）

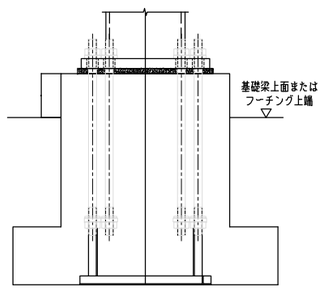
4-2. 形状・配筋





- 主筋頂部のフックは、設けないことを標準とする。
- トップフープは、シングルを標準とする。
- Lxは、使用する主筋呼径の10倍以上とする。
- 主筋、帯筋の径・本数は、標準柱形の場合を示す。
- 柱形の幅（bc）を標準柱形より拡げた場合、検討が必要。
柱形を拡げる場合や、柱芯が偏心する場合は、弊社までご相談ください。

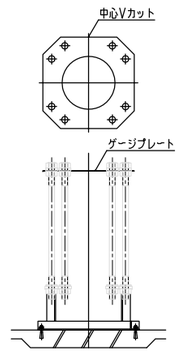
4-3. 基礎立上り部



- 柱形の配筋が標準の場合
基礎立上り高さ（Hs）は、250mm以下とする。
- 立上り高さ（Hs）が250mmを超える場合は、
検討が必要となるため、弊社までご相談ください。

5. 施工

※（ ）は、元請施工範囲を示す。
6.［コンクリート打設前検査］は、契約内容による。



アンカーボルト据付図

1. 施工打合せ
2.（捨てコンクリートの打設）…捨てコン厚さは100mm以上とする。
3.（墨出し）…柱芯を明示する。
4. アンカーボルト据付
5.（配筋・型枠）
ゲージプレートを外したり、上に物を置いたり、乗ったりしない。
アンカーボルト、セットフレーム等と鉄筋を拘束しない。
アンカーボルトに熱を加えない。
6.［コンクリート打設前検査］
7.（コンクリート打設）
8.（鉄骨建方・アンカーボルトの本締）
まんじゅう高さは（30~50mm）とする。
まんじゅうに使用する材料に規定はない。
まんじゅうの大きさは施工マニュアルを参照。
9. ベースモルタルの充てん…ISグラウト以外は使用不可。
10. ナットの緩み確認
11.（充てん型枠脱型・廃棄）

6. 施工管理

- ISベースの施工（アンカーボルトの据付及びベースモルタルの充てん）は、弊社が認定した施工者が行う。
- 施工は、施工マニュアルに準じて行い、施工後「チェックシート」により許容範囲内にあることを確認する。
- 材料は弊社にて支給する。支給品以外の材料を使用した場合、ISベースの性能を保証できない場合がある。
- アンカー用ボルトセットは大臣認定材である。形状・寸法・材質の変更、切り欠き・溶接などの加工は認められない。

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	露出形柱脚工法設計・施工標準図（参考）(1)	縮尺 ―	S-19
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(185/224)

露出形柱脚工法設計・施工標準図
(SP:角型鋼管用 保有耐力接合タイプ)2/3

一般財団法人 日本建築センター 鋼構造評定委員会評定 BCJ評定－ST0282-02（2022年12月16日）

国土交通大臣認定番号（アンカー用ボルトセット） ※（ ）はミルメーカーと加工工場を示す。			
MBLT-0116	M24～M48（朝日工業・アイエスケー中島工場）	MBLT-0180	M24～M48（朝日工業・アイエスケー前橋工場）
MBLT-0144	M30～M48（JFE条鋼・アイエスケー中島工場）	MBLT-0181	M30～M48（JFEスチール・アイエスケー前橋工場）
MBLT-0164	M52～M76（JFE条鋼・アイエスケー前橋工場）		

適用柱材(F値=235N/mm², 275N/mm², 295N/mm², 325N/mm²)

□150×150～□550×550

2023年11月作成

採用	柱脚記号	鋼管サイズ（mm）	適用柱サイズ（mm） ※柱材は、指定JIS規格品または大臣認定品とする。 柱材の基準強度（N/mm²） 235	275・295	325	ベースプレート D（mm）	C1（mm）	C2（mm）	dh（mm）	t（mm）	アンカーボルト 本数-呼び径（品番）	Lu（mm）	La（mm）	コンクリート柱形（標準） bc（最小～最大）（mm）	主筋	帯筋	Lx（mm）	コンクリート強度（N/mm²）	最低H寸法（mm） ※杭基礎の場合は（最低H寸法+杭出寸法）
	SP151	□150	t ≦ 9	t ≦ 6	-	290	210	-	φ36	25	4-M24（A1）	125	410	500~540	12-D16	D13@150	160	21以上	550以上
	SP152		t ≦ 12	t ≦ 12	-	310	210	-	φ42	32	4-M30（A21）	135	400	500~630	16-D16	D13@150	160	21以上	550以上
	SP171	□175	t ≦ 9	t ≦ 6	-	320	230	-	φ42	25	4-M30（A21）	135	400	500~540	12-D16	D13@150	160	21以上	550以上
	SP172		t ≦ 12	t ≦ 12	-	350	250	-	φ50	36	4-M36（A31）	155	440	540~630	16-D16	D13@150	160	21以上	600以上
	SP201	□200	t ≦ 9	t ≦ 9	-	350	260	-	φ50	32	4-M36（A31）	155	440	560~650	12-D19	D13@100	190	21以上	600以上
	SP202		t ≦ 12	t ≦ 12	-	380	280	-	φ50	40	4-M36（A31）	155	440	570~750	16-D19	D13@100	190	21以上	600以上
	SP203		t ≦ 16	t ≦ 16	-	380	270	-	φ58	45	4-M42（A41）	175	480	580~840	20-D19	D13@100	190	21以上	650以上
	SP251	□250	t ≦ 6	t ≦ 6	-	400	310	-	φ50	28	4-M36（A31）	155	440	620~650	12-D19	D13@100	190	21以上	600以上
	SP252		t ≦ 9	t ≦ 9	-	450	340	-	φ50	36	4-M36（A31）	155	440	650~680	16-D19	D13@100	190	21以上	600以上
	SP253		t ≦ 12	t ≦ 12	-	450	330	-	φ58	40	4-M42（A41）	175	480	640~840	20-D19	D13@100	190	21以上	650以上
	SP254		t ≦ 16	t ≦ 16	-	480	380	230	φ50	45	8-M36（A34）	155	590	680~980	20-D22	D13@100	220	21以上	750以上
	SP301	□300	t ≦ 9	t ≦ 9	-	480	370	-	φ58	36	4-M42（A42）	175	580	680~840	16-D22	D13@100	220	21以上	750以上
	SP302		t ≦ 12	t ≦ 12	t ≦ 9	500	400	250	φ50	40	8-M36（A34）	155	590	730~840	20-D22	D13@100	220	21以上	750以上
	SP303		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	530	420	250	φ58	45	8-M42（A43）	175	680	740~840	24-D22	D13@100	220	21以上	850以上
	SP304		t ≦ 19	t ≦ 19	t ≦ 16	570	440	270	φ58	50	8-M42（A43）	175	680	770~1120	20-D25	D13@100	250	21以上	850以上
	SP305		t ≦ 19	t ≦ 22	t ≦ 19	600	470	300	φ58	55	8-M42（A43）	175	680	800~1120	20-D25	D13@100	250	21以上	850以上
	SP351		t ≦ 12	t ≦ 12	t ≦ 9	560	460	290	φ58	40	8-M42（A43）	175	680	780~1070	24-D22	D13@100	220	21以上	850以上
	SP352		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	620	500	330	φ58	50	8-M42（A43）	175	680	850~1070	24-D22	D13@100	220	21以上	850以上
○	階段棟 SP353	□350	t ≦ 19	t ≦ 19	t ≦ 16	630	470	280	φ66	50	8-M48（A52）	195	720	830~1230	24-D25	D13@100	250	21以上	900以上
	SP354		t ≦ 22	t ≦ 22	t ≦ 19	670	530	340	φ66	60	8-M48（A52）	195	720	880~1260	28-D25	D13@100	250	21以上	900以上
	SP355		t ≦ 22	t ≦ 25	t ≦ 22	710	550	360	φ66	65	8-M48（A52）	195	720	930~1260	28-D25	D13@100	250	21以上	900以上
	SP401	□400	t ≦ 12	t ≦ 12	t ≦ 9	650	540	370	φ58	45	8-M42（A43）	175	680	860~1230	24-D25	D13@100	250	21以上	850以上
	SP402		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	670	540	350	φ66	50	8-M48（A53）	195	820	880~1230	24-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP403		t ≦ 19	t ≦ 19	t ≦ 16	730	590	400	φ66	60	8-M48（A53）	195	820	960~1230	24-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP404		t ≦ 22	t ≦ 22	t ≦ 19	780	630	440	φ66	70	8-M48（A53）	195	820	1020~1230	24-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP405		t ≦ 25	t ≦ 25	t ≦ 22	740	590	400	φ66	70	12-M48（A53）	195	820	980~1260	32-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP406		t ≦ 25	t ≦ 25	t ≦ 22	770	600	360	φ74	70	8-M56（A71）	245	800	1020~1260	36-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP451	□450	t ≦ 12	t ≦ 12	t ≦ 9	730	620	450	φ58	50	8-M42（A43）	175	680	950~1150	24-D25	D13@100	250	21以上	850以上
	SP452		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	760	630	440	φ66	55	8-M48（A53）	195	820	990~1260	28-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP453		t ≦ 19	t ≦ 19	t ≦ 16	850	680	490	φ66	70	8-M48（A53）	195	820	1100~1260	28-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP454		t ≦ 22	t ≦ 22	t ≦ 19	810	660	470	φ66	70	12-M48（A53）	195	820	1100~1260	32-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP455		t ≦ 25	t ≦ 25	t ≦ 22	880	680	490	φ66	75	12-M48（A53）	200	820	1140~1260	36-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP456		t ≦ 25	t ≦ 25	t ≦ 22	850	690	450	φ74	70	8-M56（A71）	245	800	1150~1260	36-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP457		t ≦ 28	t ≦ 28	t ≦ 25	860	680	420	φ80	75	8-M60（A81）	255	850	1130~1260	40-D25	D13@100	250	21以上	1050以上
	SP501	□500	t ≦ 12	t ≦ 12	t ≦ 9	750	630	440	φ66	50	8-M48（A53）	195	820	970~1260	28-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP502		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	790	660	470	φ66	60	12-M48（A53）	195	820	1050~1260	32-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP503		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	810	670	440	φ70	55	8-M52（A61）	235	750	1050~1260	32-D25	D13@100	250	21以上	950以上
	SP504		t ≦ 19	t ≦ 19	t ≦ 16	870	690	500	φ66	65	12-M48（A53）	195	820	1130~1260	32-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP505		t ≦ 19	t ≦ 19	t ≦ 16	890	730	500	φ70	70	8-M52（A61）	235	750	1150~1260	36-D25	D13@100	250	21以上	950以上
	SP506		t ≦ 22	t ≦ 22	t ≦ 19	880	710	450	φ80	70	8-M60（A81）	255	850	1140~1600	32-D29	D16@100	290	21以上	1050以上
	SP507		t ≦ 25	t ≦ 25	t ≦ 22	920	740	480	φ80	75	8-M60（A81）	255	850	1200~1600	32-D29	D16@100	290	21以上	1050以上
	SP508		t ≦ 28	t ≦ 28	t ≦ 25	920	720	440	φ88	80	8-M68（AA1）	275	950	1220~1690	36-D29	D16@100	290	21以上	1200以上
	SP551	□550	t ≦ 12	t ≦ 12	t ≦ 9	850	720	530	φ66	55	8-M48（A53）	195	820	1100~1260	28-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP552		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	890	740	550	φ66	65	12-M48（A53）	195	820	1150~1260	36-D25	D13@100	250	21以上	1000以上
	SP553		t ≦ 16	t ≦ 16	t ≦ 12	910	770	540	φ70	65	8-M52（A61）	235	750	1180~1260	36-D25	D13@100	250	21以上	950以上
	SP554		t ≦ 19	t ≦ 19	t ≦ 16	900	740	480	φ80	65	8-M60（A81）	255	850	1170~1600	32-D29	D16@100	290	21以上	1050以上
	SP555		t ≦ 22	t ≦ 22	t ≦ 19	970	800	540	φ80	75	8-M60（A81）	255	850	1260~1500	32-D29	D16@100	290	21以上	1050以上
	SP556		t ≦ 25	t ≦ 25	t ≦ 22	990	790	520	φ84	80	8-M64（A91）	265	900	1280~1690	36-D29	D16@100	290	21以上	1100以上
	SP557		t ≦ 28	t ≦ 28	t ≦ 25	980	770	470	φ92	80	8-M72（AB1）	285	1000	1300~1790	40-D29	D16@100	290	21以上	1250以上

技にこころを 株式会社 大建設計
一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号

一級建築士 （第 274708号） 山岡 信弘
構造設計一級建築士（第 6608号） 長坂 典和
設備設計一級建築士（第 753号） 鈴木 光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	露出形柱脚工法設計・施工標準図(参考)(2)	縮尺 ―	S-20
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(186/224)

露出形柱脚工法設計・施工標準図
(HH:H型鋼用 非保有耐力接合タイプ)2/3

一般財団法人 日本建築センター 鋼構造評定委員会評定 BCJ評定－ST0282-02（2022年12月16日）

国土交通大臣認定番号（アンカー用ボルトセット）	※（ ）はミルメーカーと加工工場を示す。		
MBLT-0116	M24～M48（朝日工業・アイエスケー中島工場）	MBLT-0180	M24～M48（朝日工業・アイエスケー前橋工場）
MBLT-0144	M30～M48（JFE条鋼・アイエスケー中島工場）	MBLT-0181	M30～M48（JFEスチール・アイエスケー前橋工場）
MBLT-0164	M52～M76（JFE条鋼・アイエスケー前橋工場）		

適用柱材(F値=235N/mm², F値=325N/mm²)

H-200×200～H-450×250

2023年11月作成

採用	柱脚記号	適用柱サイズ（mm） ※柱材は、指定JIS規格品または大臣認定品とする。 柱材の基準強度（235N/mm²，325N/mm²） 内法一定	外法一定	ベースプレート D1（mm）	D2（mm）	C1（mm）	C2（mm）	dh（mm）	t（mm）	アンカーボルト 本数-呼び径（品番）	Lu（mm）	La（mm）	コンクリート柱形（標準） bc1（最小～最大）（mm）	bc2（最小～最大）（mm）	主筋(bc1本数, bc2本数)	帯筋	Lx（mm）	コンクリート強度（N/mm²）	最低H寸法（mm） ※杭基礎の場合は（最低H寸法+杭出寸法）
	HH2020	H-200×200×8×12 H-200×204×12×12 H-208×202×10×16	-	380	300	300	220	φ36	32	4-M24（A1）	125	410	590~780	510~640	14-D19（5本, 4本）	D13@150	190	21以上	550以上
	HH2517	H-244×175×7×11	-	420	290	340	210	φ36	32	4-M24（A1）	125	410	630~790	500~630	14-D19（5本, 4本）	D13@150	190	21以上	550以上
	HH2525	H-244×252×11×11 H-248×249×8×13 H-250×250×9×14 H-250×255×14×14	-	430	340	350	260	φ36	32	4-M24（A1）	125	410	650~750	560~750	16-D19（5本, 5本）	D13@150	190	21以上	550以上
	HH2526	H-244×252×11×11 H-248×249×8×13 H-250×250×9×14 H-250×255×14×14	-	440	390	350	300	φ42	36	4-M30（A23）	135	580	650~740	600~670	14-D19（5本, 4本）	D13@150	190	21以上	750以上
	HH3020	H-294×200×8×12 H-298×201×9×14	-	490	380	400	290	φ42	36	4-M30（A23）	135	580	730~780	620~730	16-D19（5本, 5本）	D13@150	190	21以上	750以上
	HH3030	H-294×302×12×12 H-298×299×9×14 H-300×300×10×15 H-300×305×15×15 H-304×301×11×17	-	490	430	400	340	φ42	36	4-M30（A23）	135	580	710~840	650~800	14-D22（4本, 5本）	D13@150	220	21以上	750以上
○ 西空中歩廊	HH3031	H-294×302×12×12 H-298×299×9×14 H-300×300×10×15 H-300×305×15×15 H-304×301×11×17	-	510	470	410	370	φ50	40	4-M36（A35）	155	690	760~840	720~800	14-D22（5本, 4本）	D13@150	220	21以上	850以上
	HH3525	H-336×249×8×12 H-340×250×9×14	-	530	390	440	300	φ42	36	4-M30（A23）	135	580	750~840	610~680	16-D19（5本, 5本）	D13@150	190	21以上	750以上
	HH3526	H-340×250×9×14	-	550	400	450	300	φ50	45	4-M36（A35）	155	690	770~840	620~800	14-D22（5本, 4本）	D13@150	220	21以上	850以上
	HH3535	H-338×351×13×13 H-344×348×10×16 H-344×354×16×16 H-350×350×12×19 H-350×357×19×19 H-356×352×14×22	-	570	520	470	420	φ50	40	4-M36（A35）	155	690	830~910	780~850	16-D22（5本, 5本）	D13@125	220	21以上	850以上
	HH3536	H-344×348×10×16 H-344×354×16×16 H-350×350×12×19 H-350×357×19×19 H-356×352×14×22	-	590	530	480	420	φ58	50	4-M42（A44）	175	780	820~1000	760~1000	16-D25（5本, 5本）	D13@125	250	21以上	950以上
	HH4020	H-396×199×7×11 H-400×200×8×13 H-404×201×9×15	H-400×200×9×12 H-400×200×9×16 H-400×200×9×19 H-400×200×9×22 H-400×200×12×22	600	340	510	250	φ42	40	4-M30（A23）	140	580	820~1000	560~670	14-D22（5本, 4本）	D13@125	220	21以上	750以上
	HH4030	H-386×299×9×14 H-390×300×10×16	-	600	480	500	380	φ50	40	4-M36（A35）	155	690	850~960	700~800	16-D22（5本, 5本）	D13@125	220	21以上	850以上
	HH4031	H-390×300×10×16	-	630	490	520	380	φ58	50	4-M42（A44）	175	780	860~1010	720~1000	16-D25（5本, 5本）	D13@125	250	21以上	950以上
	HH4040	H-388×402×15×15 H-394×398×11×18 H-394×405×18×18 H-400×400×13×21 H-400×408×21×21 H-406×403×16×24	-	640	600	530	490	φ58	45	4-M42（A44）	175	780	870~1010	830~1010	18-D25（5本, 6本）	D13@125	250	21以上	950以上
	HH4041	H-394×398×11×18 H-394×405×18×18 H-400×400×13×21 H-400×408×21×21 H-406×403×16×24	-	680	620	550	490	φ66	55	4-M48（A53）	195	820	920~1010	860~1010	22-D25（6本, 7本）	D13@125	250	21以上	1000以上
	HH4520	H-446×199×8×12 H-450×200×9×14 H-456×201×10×17	H-450×200×9×12 H-450×200×9×16 H-450×200×9×19 H-450×200×9×22 H-450×200×12×19 H-450×200×12×22 H-450×200×12×25 H-450×250×9×16 H-450×250×9×19 H-450×250×9×22 H-450×250×12×22 H-450×250×12×25 H-450×250×12×18	650	360	560	270	φ42	40	4-M30（A23）	140	580	870~1010	580~760	16-D22（5本, 5本）	D13@125	220	21以上	750以上
	HH4521	H-450×200×9×14 H-456×201×10×17	H-450×200×9×16 H-450×200×9×19 H-450×200×9×22 H-450×200×12×19 H-450×200×12×22 H-450×200×12×25 H-450×250×9×16 H-450×250×9×19 H-450×250×9×22 H-450×250×12×22 H-450×250×12×25 H-450×250×12×28	670	410	570	310	φ50	45	4-M36（A35）	155	690	890~1010	630~860	18-D22（6本, 5本）	D13@125	220	21以上	850以上

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号

一級建築士 （第 274708号） 山岡 信弘
構造設計一級建築士（第 6608号） 長坂 典和
設備設計一級建築士（第 753号） 鈴木 光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	露出形柱脚工法設計・施工標準図(参考)(3)	縮尺 —	S-21
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(187/224)

EG定着板工法基準図(鉄筋コンクリート造：SD490以下 ， Fc＝21N/mm²～ 60N/mm²)

適 用 範 囲

(1)使用箇所
①梁主筋および柱主筋の柱梁接合部への定着
②梁主筋の梁への定着
③柱主筋の基礎部への定着
④基礎梁主筋の基礎部への定着
⑤壁筋の梁、柱および壁への定着
⑥小梁主筋およびスラブ筋の梁への定着

(2)コンクリート
①種類：普通コンクリート
②設計基準強度(Fc)：21N/mm²以上、かつ、60N/mm²以下

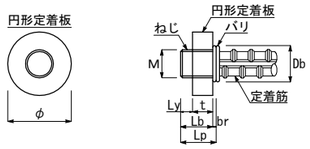
(3)鉄筋
①鋼　種：SD295A,B 、SD345 、SD390 、SD490
②呼び名：D13～D41

標 準 寸 法 、 概 要 図

ＥＧ定着板標準寸法　(単位：mm)

鉄筋呼び名	ねじ 呼び径 M	ねじ長 Lp	余長 Ly	バリ幅 br	バリ直径 最大Db	バリ直径 バリ抑え(オプション)	円形定着板 直径 φ	板厚 t	支圧面積 mm²	定着板内面とねじ外端間 Lb
D13	M16	36	17	5	23	－	36	14	891	31
D16	M20	36	14	6	28	24	40	16	1,058	30
D19	M24	36	11	7	32	28	48	18	1,523	29
D22	M27	39	12	7	35	31	55	20	1,989	32
D25	M30	43	13	8	39	35	63	22	2,610	35
D29	M33	46	14	8	43	38	70	24	3,206	38
D32	M39	50	15	9	51	※44	80	26	4,233	41
D35	M42	55	16	10	53	48	85	29	4,718	45
D38	M45	58	17	10	58	52	95	31	5,948	48
D41	M48	62	18	11	63	57	100	33	6,514	51

※SD390以下の場合は、バリ直径を42mm（ねじ径M36）とすることが可能。



共 通 規 定

1) 柱・梁接合部横補強筋比pjwh (接合部位置 ア～オ)

設計方針

A：接合部耐力余裕度方式（一貫構造計算で算定）
- ①pjwh≧0.2%(基礎・ト形)
  0.3%(十字形・T形・L形)
  両側直交梁(解4.1)式を満たす場合は、0.2%とする
  ※ト形または十字形の上階柱絞り接合部で柱主筋にEG定着板を使用する場合、X/Y両方向ともにpjwh≧0.3%とする

B：靭性保証型指針方式
- ②pjwh≧0.3%
  11.1節(2)(c)2)に記載されている十字形の重なり制限値外の場合に適用

C：設計指針・置換方式
- ③pjwh≧(7.1)式pjwhoかつ0.2%
  11.1節(2)(c)2)に記載されている十字形の重なり制限値外の場合に適用
  また、下記の場合にも適用
  1)十字形の非貫通定着 ，2)T形の梁降伏 ，3)L形の柱降伏

B：靭性保証型指針方式は、全接合部の柱・梁接合部横補強筋比をpjwh≧0.3%とする。
ただし、C-③1),2),3)の場合は、pjwh≧(7.1)式pjwhoかつ0.3%とする。
※C-②またはC-③を適用した場合、同一フロアの同形接合部は、
C-②またはC-③を適用しなければならない。

接合部毎の横補強筋比一覧表

	A	B	C-①
基礎梁接合部	pjwh≧(7.1)式pjwhoかつ0.2%	pjwh≧0.3%	pjwh≧0.2%
ト形接合部			pjwh≧0.2%※1
十字形接合部			pjwh≧0.3%※1,2
T形接合部			pjwh≧0.3%※2
L形接合部			pjwh≧0.3%

※1：ト形または十字形の上階柱絞り接合部で柱主筋にEG定着板を使用する場合、
X/Y両方向ともにpjwh≧0.3%とする。
※2：十字形またはT形はC-①を適用し、両側直交梁(解4.1)式を満たす場合は、0.2%とする。

2) 定着長さについては、大梁・大梁接合部内の梁主筋を除き、必ず設計指針8.1節の式(8.1)(基礎梁は式(14.1))により算出される必要定着長さℓaoを満足しなければならない。
(柱主筋は設計指針8.2節 3)より梁上下主筋の重心間距離jtgを柱両側最外縁主筋の中心間距離jtcoに読み替え算定する)

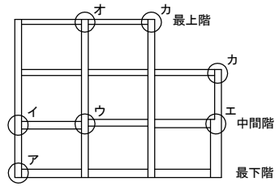
3) 梁主筋定着長さℓagが15db以上の場合、背面かぶり厚さCbは3db以上とする。(※3)

4) 定着筋中心からの側面かぶり厚さCsの規定は、柱主筋が2db(dbは柱主筋の呼び名)以上、梁主筋が3db(dbは梁主筋の呼び名)以上。

記 号 の 意 味

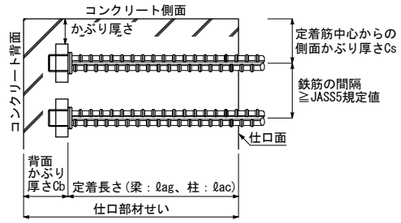
- Cs：定着筋中心からの側面かぶり厚さ
- Cb：定着板内面からの背面かぶり厚さ
- Dg：梁せい
- Dc：柱せい
- Bc：柱幅
- Bgy：定着側の梁幅
- Bgx：X方向大梁Gxの梁幅
- Dgx：X方向大梁Gxの梁せい
- Cg：梁主筋中心から梁上下面までのかぶり厚さ
- ℓac：柱主筋定着長さ
- ℓag：梁主筋定着長さ
- ℓdh：梁主筋投影定着長さ
- pjwh：接合部横補強筋比
- pjwv：かんざし筋比
- e：柱絞り寸法
- d：かんざし筋の呼び名
- db：柱・梁主筋の呼び名

接 合 部 検 定 位 置 図 (断 面 図)



ア：基礎梁接合部
イ：ト形接合部
ウ：十字形接合部
エ：上階柱絞り接合部
オ：T形接合部
カ：L形接合部

構 造 規 定



ア：最 下 階 柱 ・ 基 礎 梁 接 合 部

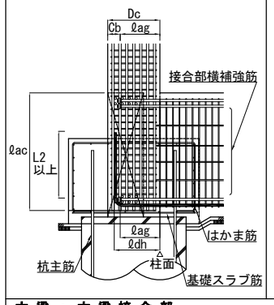
梁主筋に関する構造規定

	梁主筋定着長さ(ℓag)	背面かぶり厚さ(Cb)
上端筋	ℓao以上、14db以上かつ(3/4)Dc以上	4db以上(※3)
下端筋	ℓao以上、16db以上かつ(3/4)Dc以上	3db以上

・ℓdh：JASS5による大梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さLa以上とする。
・ℓac：JASS5のフック付き定着長さL2h以上、かつ、基礎梁下端筋の下部まで延長する。
・接合部横補強筋比pjwh：横補強筋鋼種に係わらず、0.2%以上とする。

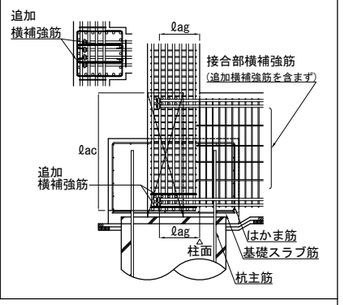
標準：曲上げ定着Aタイプ

1) コア内に定着する基礎梁主筋に適用可能。ただし、コア外に定着する基礎梁主筋はすべて折曲げ定着とする。



機械式直線定着タイプ(追加横補強筋を配置する場合)

1) 基礎梁下端一段筋にEG定着板を適用する場合は、基礎フーチング周囲に有効なはかま筋を配置する。杭偏芯が発生している場合は適用不可であり、その場合は左図の曲上げ定着Aタイプを適用する。
2) 追加横補強筋は【柱梁主筋外定着方式編】5章(3)の定着部拘束筋量を満たすこと。
3) 基礎梁下端筋定着部近傍(下端筋の上下)に上記2)の全量を均等に配置する。

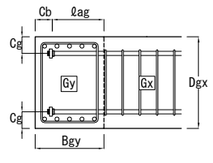


大 梁 ・ 大 梁 接 合 部

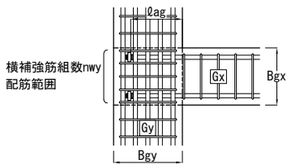
梁主筋に関する構造規定

梁主筋定着長さ(ℓag)	主筋中心から梁上下面までのかぶり厚さ(Cg)	背面かぶり厚さ(Cb)
14db以上かつ(3/4)Bgy以上	3db以上	4db以上(※3)

・大梁Gxと大梁Gyの交差部(大梁Gxの梁幅×大梁Gyの梁幅の範囲)には、設計で定められた大梁Gyの横補強筋比pwyで決まる式(15.9)の横補強筋組数nwyを均等に配置する。
式(15.9)は設計指針15.3節参照。



(鉛直断面)



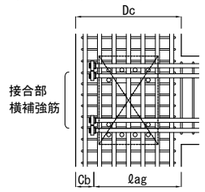
(水平断面)

イ：ト 形 接 合 部

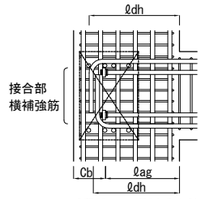
梁主筋に関する構造規定

	梁主筋定着長さ(ℓag)または梁主筋投影定着長さ(ℓdh)	背面かぶり厚さ(Cb)
引張柱軸力を受けない	ℓao以上、12db以上かつ(3/4)Dc以上	4db以上(※3)
引張柱軸力を受ける	ℓao以上、15db以上かつ(3/4)Dc以上	3db以上

※4：標準は引張柱軸力を受けるものとする。



標準タイプ

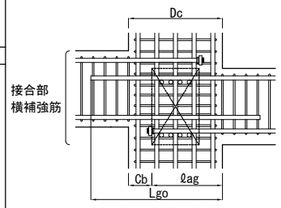


2段筋のみ機械式定着

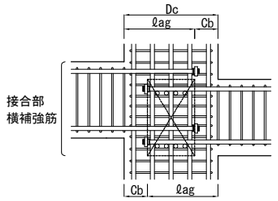
ウ：十 字 形 接 合 部

梁主筋に関する構造規定

梁主筋定着長さ(ℓag)	左右梁重なり部での梁主筋定着長さ(Lgo)	背面かぶり厚さ(Cb)
ℓao以上、12db以上かつ(3/4)Dc以上	max(Dc+10db,L2)	4db以上(※3)



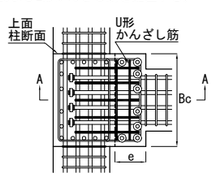
(重なり部梁主筋：準貫通定着形式)



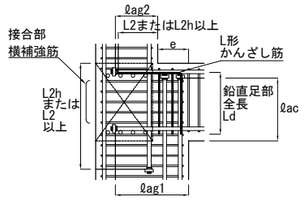
(重なり部梁主筋：非貫通定着形式)

エ：上 階 柱 絞 り ト 形 接 合 部（ピロティ柱梁接合部の場合）

1) 構造規定について、梁主筋は柱外面合せの場合：ト形接合部、柱内面合せの場合：L形接合部を参照。
柱主筋はT形接合部を参照すること。
柱外面合せの場合の定着起点は、梁下端筋定着長さℓag1は下階柱内面、梁上端筋定着長さℓag2は上階柱内面とする。
2) かんざし筋比pjwvは、上下階柱段差部断面に対し0.25%以上配置されるよう下図のU形かんざし筋およびL形かんざし筋を配置する。

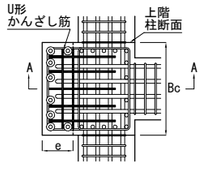


(水平断面)

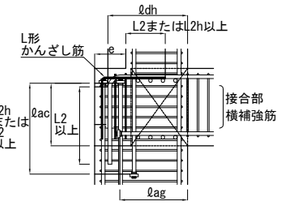


(A-A断面)

(a)柱外面合せト形接合部



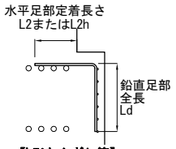
(水平断面)



(A-A断面)

(b)柱内面合せト形接合部

【U形かんざし筋】



【L形かんざし筋】

柱主筋頂部にEG定着板を使用する場合の共通事項(鉛直スタブがない場合)

柱主筋に関する構造規定

柱主筋定着長さ(ℓac)	背面かぶり厚さ(Cb)
ℓao以上、16db(※5)以上かつ(3/4)Dg以上	3db以上

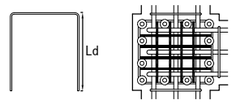
※5：付帯柱梁接合部内の場合、12db以上。
付帯柱梁接合部とは、耐震壁の壁板と一体化された柱、梁が接続する柱梁接合部を指す。

梁主筋に関する構造規定

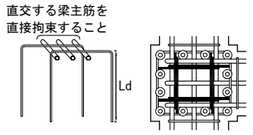
	梁主筋定着長さ(ℓag)または梁主筋投影定着長さ(ℓdh)	背面かぶり厚さ(Cb)
上端筋	ℓao以上、16db以上かつ(3/4)Dc以上	3db以上
下端筋	ℓao以上、14db以上かつ(3/4)Dc以上	4db以上(※3)

かんざし筋

1) T,L形接合部には、検定方向にかかわらず、X/Y両方向に柱頭補強筋としてかんざし筋を配置する。
2) かんざし筋比pjwvは、柱断面に対し0.25%以上配置する。
3) U形かんざし筋1組の足部本数は2本以上とする。
4) かんざし筋は、D10以上かつSD295A,B、SD345、SD390いずれかの異形鉄筋とする。
5) 足部の全長Ldは、梁下端筋の下部までの長さと40dの小さい方とする。
6) かんざし筋 足部2本/1組の最外部の幅は、接合部横補強筋の内幅程度とする。
ただし、足部の本数が3本以上の場合、かんざし筋の中間足部は、直交する梁主筋を直接拘束するように配置する。

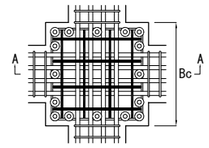


【U形かんざし筋　足部2本/1組】

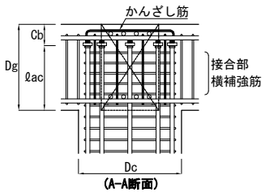


【U形かんざし筋　足部4本/1組】

オ：T 形 接 合 部

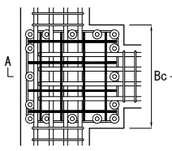


(水平断面)

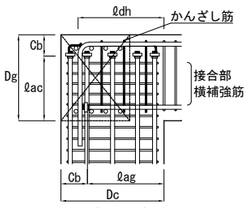


(A-A断面)

カ：L 形 接 合 部



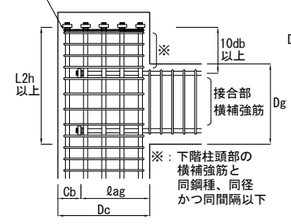
(水平断面)



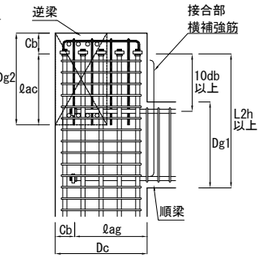
(A-A断面)

柱主筋頂部にEG定着板を使用する場合(鉛直スタブがある場合)

定着板直下に横補強筋とは別にひび割れ防止用補強筋を最低限1本配筋する。
(7.2節で規定するかんざし筋は不要だが、柱頭天端のひび割れ対策に配慮する)



鉛直スタブ付きの場合



鉛直スタブに逆梁が接続する場合

E G 定 着 板 の 施 工

1.役割
(1)EG定着板工法施工管理者：合同製鐵株式会社が行うEG定着板工法に関する技術指導を受けた者(以下、施工管理者と言う)
(2)EG定着板工法施工技能者：施工管理者に技術指導を受け、EG定着板工法の施工を行う者(以下、施工技能者と言う)

2.施工管理者の責務
(1)EG定着板工法の検定報告書の確認
(2)施工手順の確認
(3)施工技能者への技術指導
(4)施工時の管理、検査

3.施工技能者の責務
(1)施工手順(サンプルによる実地指導)の理解
(2)決められた手順による施工の実施

4.定着板の施工要領
(1)手締め
1)定着板を捻じ込み、バリにあてがう。
2)定着板を手で強く締付ける。
3)定着板とバリに合いマークを付ける。
4)余長が3mm以上であることを確認する。

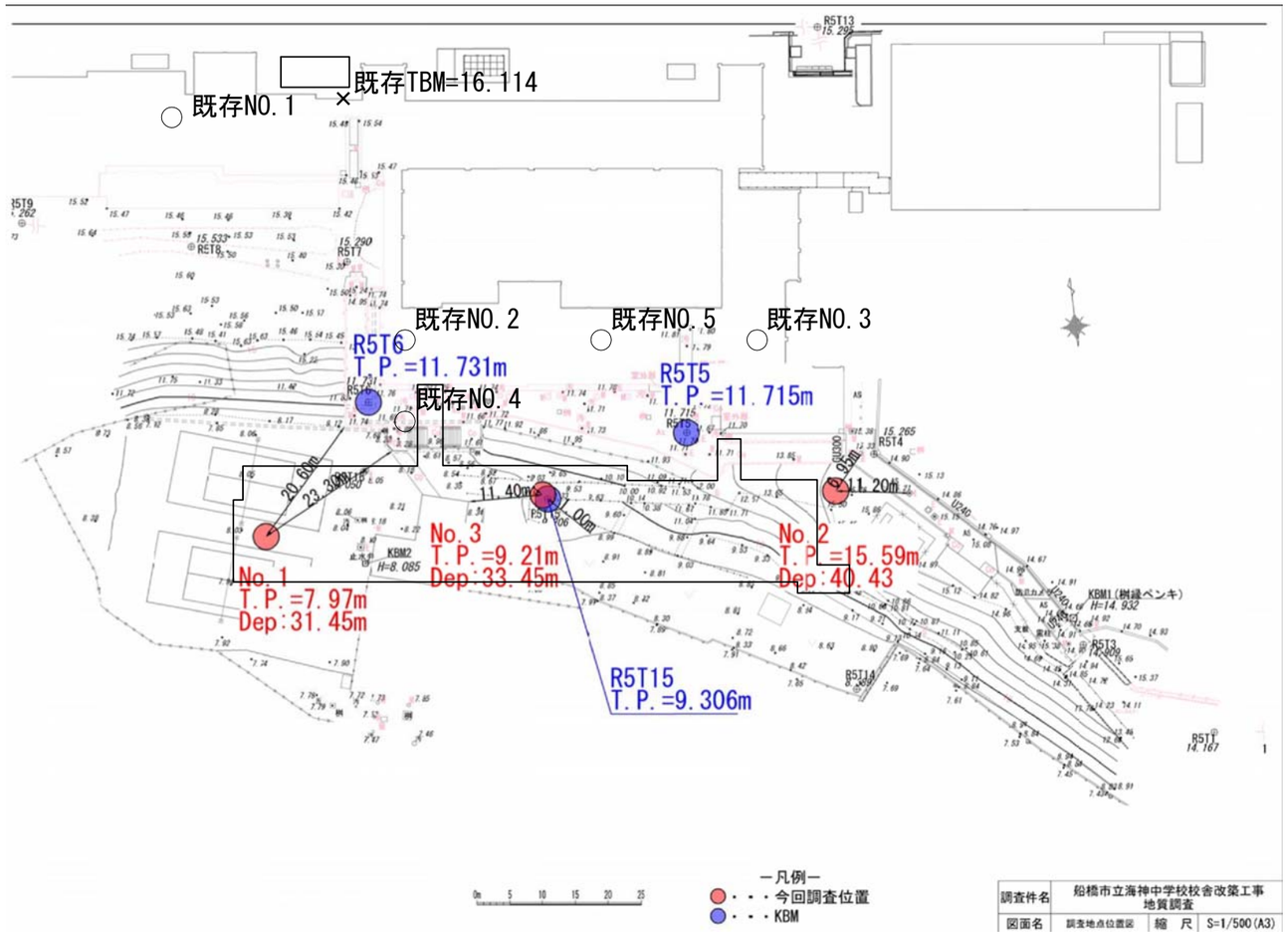
(2)結束締め
以下の場合、定着板の外側近接位置で、ねじを結束線によって締付ける。
・EG定着板を下向きに設置する場合
・施工時の安全性が危惧される場合
・その他、施工管理者が必要と判断した場合

5.施工後検査
(1)施工管理者は、コンクリート打設前の配筋検査において、EG定着板工法を適用した定着筋全数に対し、定着板とバリに付けた合いマークがずれていないことを確認する。
(2)合いマークがずれていれば、定着板を締め直すか、結束締めを行う。
(3)結束工法採用時は、ねじの余長が3mm以上であり、結束線が施されていることを目視によって確認する。

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

一級建築士	(第 274708号)	山岡　信弘	
構造設計一級建築士	(第 6608号)	長坂　典和	
設備設計一級建築士	(第 753号)	鈴木　光春	

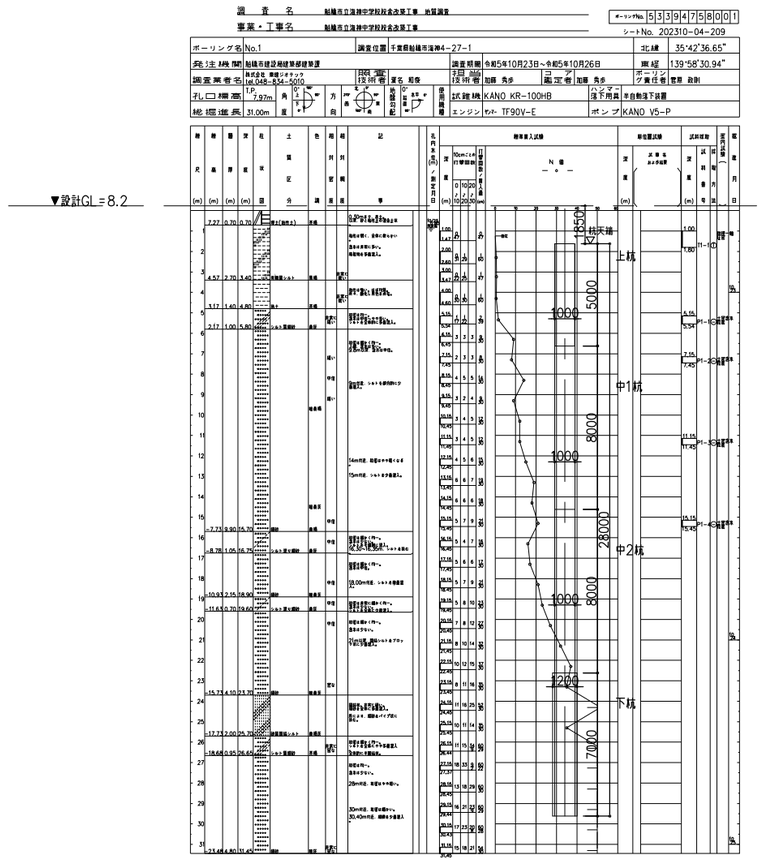
工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	機械式定着板　標準図（参考）	縮尺 ―	S-22
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(188/224)



調査件名	船橋市立海神中学校校舎改築工事 地質調査		
図面名	調査地点位置図	縮　尺	S=1/500(A3)

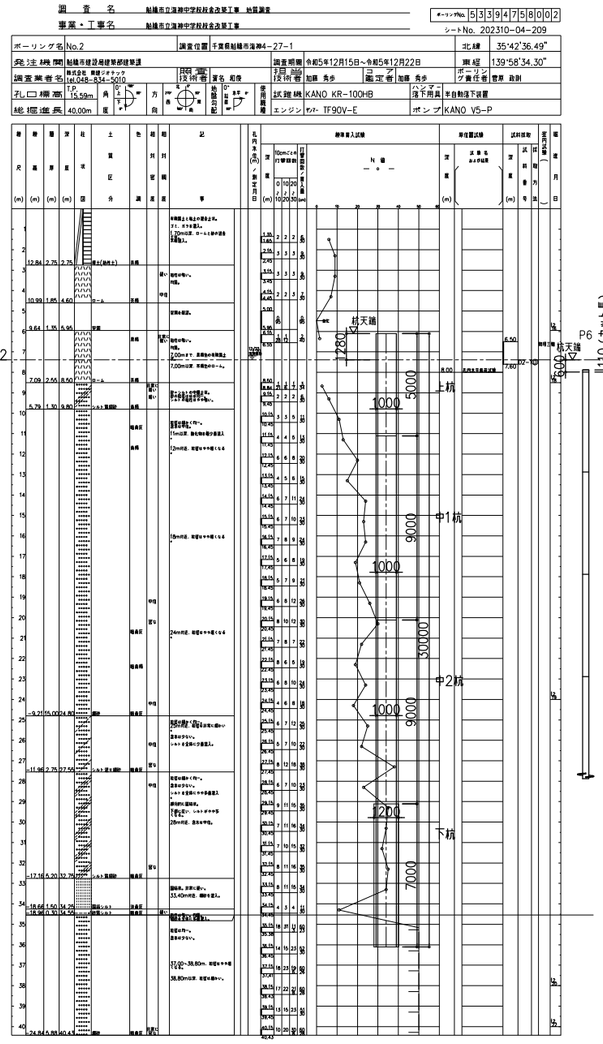
No.1

ボーリング柱状図



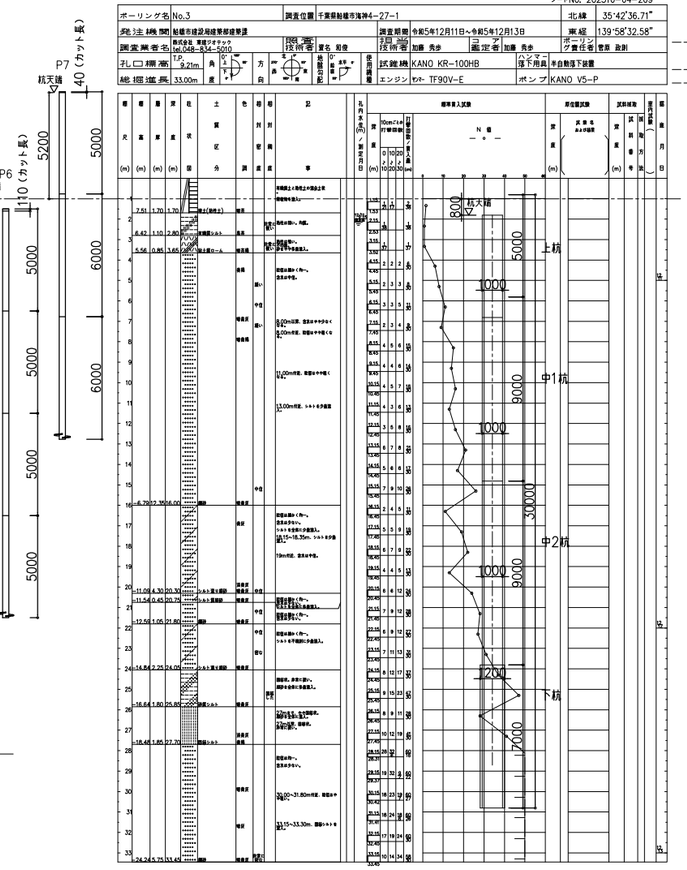
No.2

ボーリング柱状図

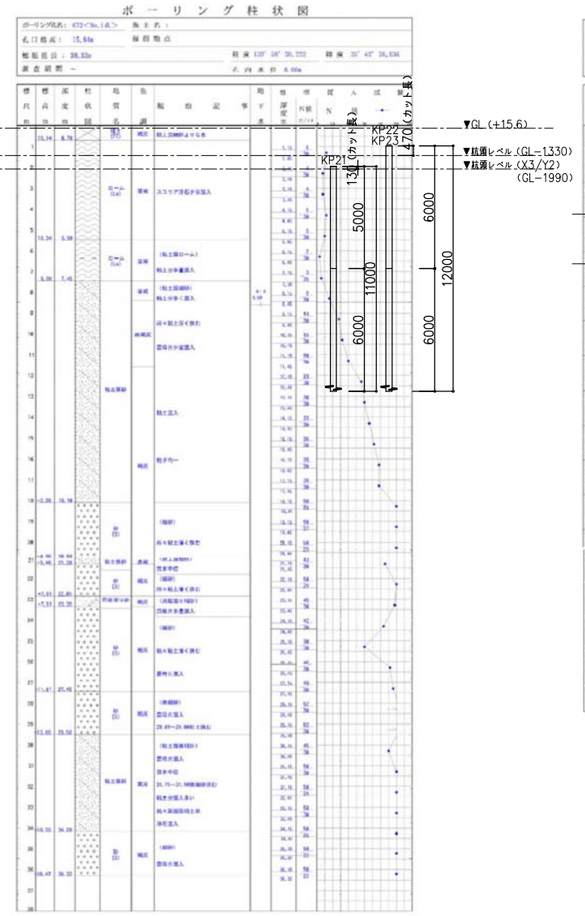


No.3

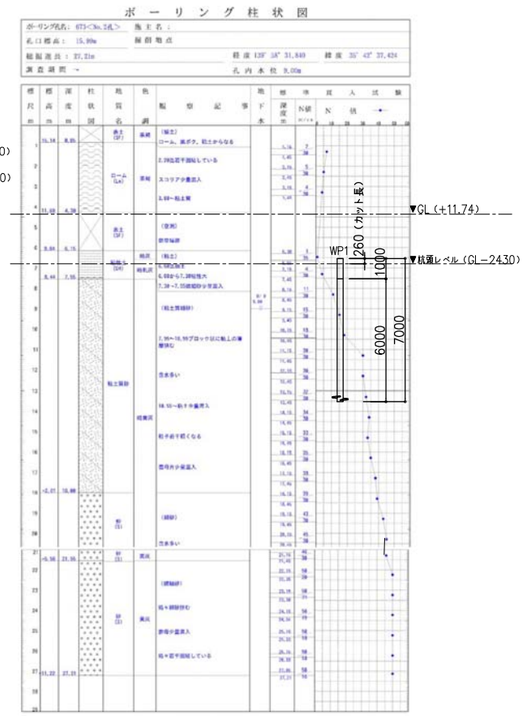
ボーリング柱状図



既存No.1

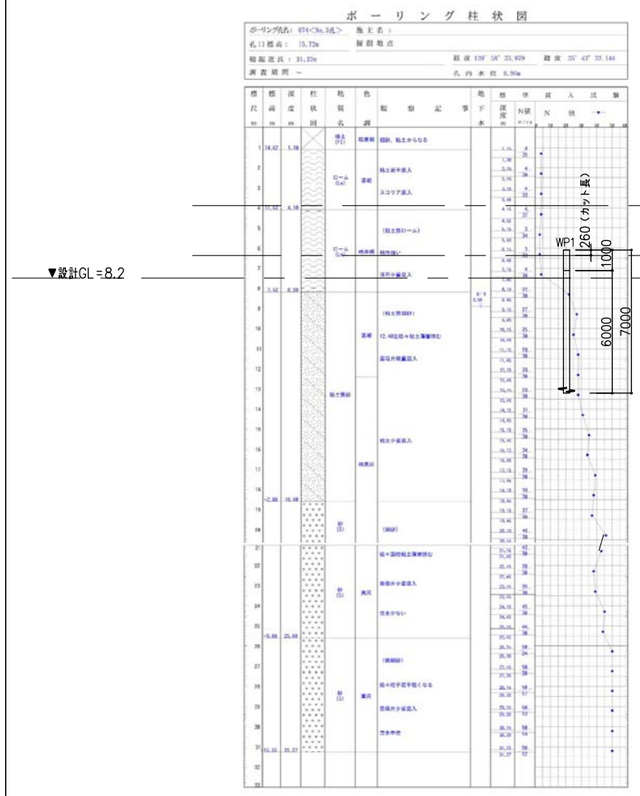


既存No.2

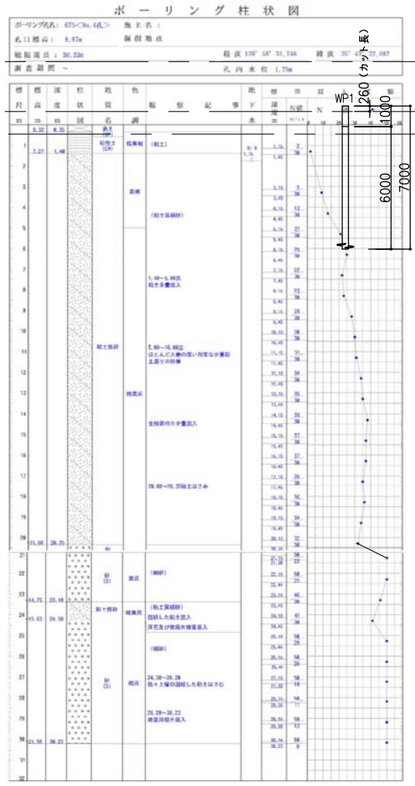


株式会社 大建設計 技にこころを 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘 構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和 設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
		図面名	土質柱状図 (2)	縮尺 —	S-24
		船橋市建設局建築部建築課		令和7年度	(190/224)

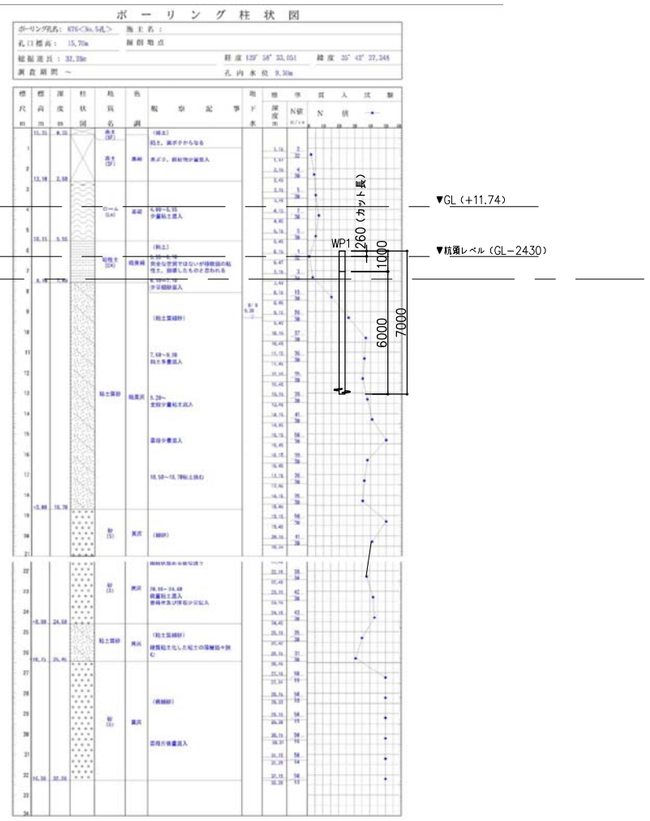
既存No.3



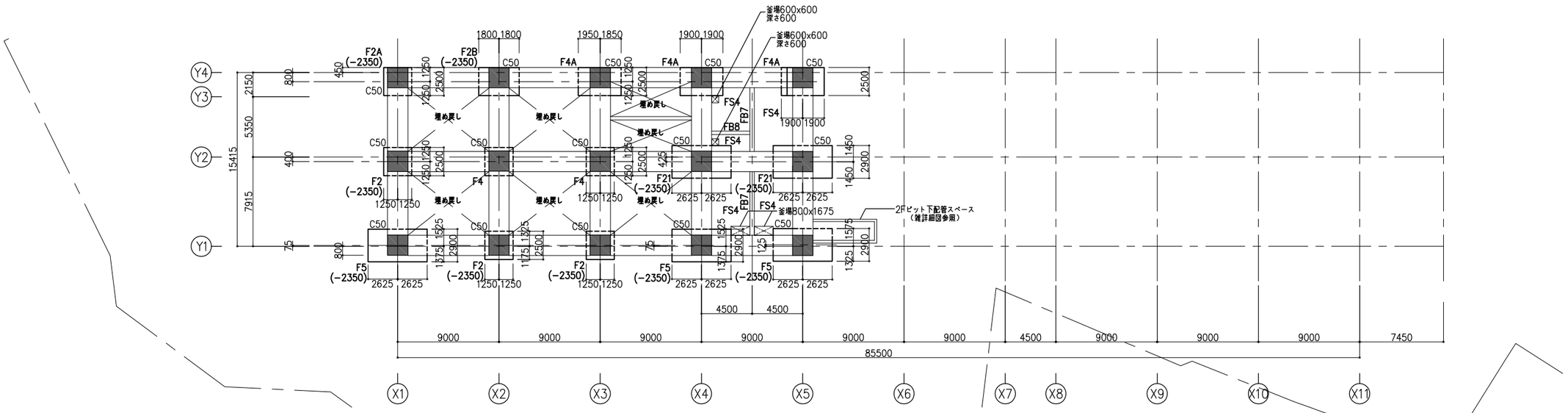
既存No.4



既存No.5

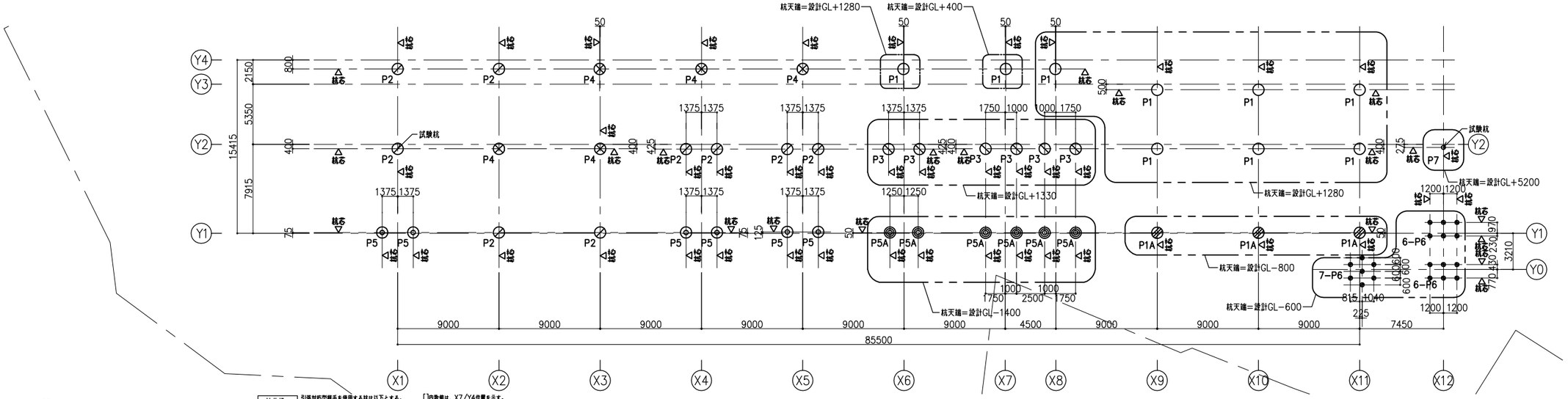


株式会社 大建設計 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 （第 274708号） 山岡 信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事			図面番号
	構造設計一級建築士（第 6608号） 長坂 典和	図面名	土質柱状図（３）	縮尺	―	S-25
	設備設計一級建築士（第 753号） 鈴木 光春		船橋市建設局建築部建築課		令和7年度	(191/224)

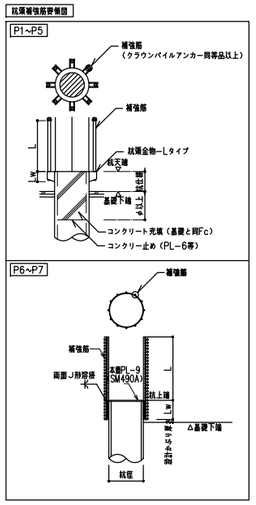


1階　ピット伏図

特記無き限り、下記による
1. スラブ天端＝1FL−1600
2. スラブ主筋方向は短辺、 ⟷ 印が有る場合は、⟷ 方向を主筋方向とする。
3. 基礎下端レベルは、設計GL−2130 とする。
4. （ ）内数値は、設計GLからの基礎下端レベルを示す。



杭頭補強筋詳細図



杭伏図

特記無き限り、下記による
1. 杭天端＝設計GL−1850
2. 設計GL＝8.2m

杭仕様　引張対応型継手を使用する杭は以下とする。　P1. P3. P5. P5A　　[ ]内数値は、X7/Y4位置を示す。

工法：Hyper MEGA工法【揺等型】同等工法（プレボーリング拡大根固め工法）　支持層：GL−27.22m以深の砂質土層　合計：44本

符号（埋込長）	記号	杭全長（m）	杭先端深度（m）	杭種 上杭	中1杭	中2杭	下杭	セット数	長期許容支持力（kN）	杭頭補強筋 L	Lw	材質
P1（500）	○	30.0	設計GL−28.72 [−29.60]	φ1000 105SC MAS(490) t16 t=16.0mm 5.0m	φ1000 105SC MAS(490) t12 t=12.0mm 9.0m	φ1000 105SC MAS(490) t9 t=9.0mm 9.0m	φ10080100 105PRC MF 1種 7.0m	9	6045	1000	210	14−D41 SD490
P1A（500）	⊘	29.0	設計GL−29.80	φ1000 105SC MAS(490) t16 t=16.0mm 5.0m	φ1000 105SC MAS(490) t12 t=12.0mm 8.0m	φ1000 105SC MAS(490) t9 t=9.0mm 9.0m	φ10080100 105PRC MF 1種 7.0m	3	6278	1000	210	13−D41 SD490
P2（500）	⊘	28.0	設計GL−29.85	φ1000 105SC MAS(490) t16 t=16.0mm 5.0m	φ1000 105SC MAS(490) t12 t=12.0mm 8.0m	φ1000 105SC MAS(490) t9 t=9.0mm 8.0m	φ10080100 105PRC MF 1種 7.0m	9	6148	1000	210	12−D41 SD490
P3（550）	⊘	30.0	設計GL−28.67	φ1000 105SC MAS(490) t16 t=16.0mm 5.0m	φ1000 105SC MAS(490) t12 t=12.0mm 9.0m	φ1000 105SC MAS(490) t9 t=9.0mm 9.0m	φ10090110 105MF C種 W1 7.0m	6	7041	1000	210	14−D41 SD490
P4（280）	⊗	28.0	設計GL−29.85	φ1000 105SC MAS(490) t16 t=16.0mm 5.0m	φ1000 105SC MAS(490) t12 t=12.0mm 8.0m	φ1000 105SC MAS(490) t9 t=9.0mm 8.0m	φ10090110 105MF C種 W1 7.0m	5	7041	1000	210	14−D41 SD490
P5（500）	◎	28.0	設計GL−29.85	φ1000 105SC MAS(490) t16 t=16.0mm 5.0m	φ1000 105SC MAS(490) t12 t=12.0mm 8.0m	φ1000 105SC MAS(490) t9 t=9.0mm 8.0m	φ10090110 105MF C種 W1 7.0m	6	7041	1000	210	14−D41 SD490
P5A（600）	◎	28.0	設計GL−29.40	φ1000 105SC MAS(490) t16 t=16.0mm 5.0m	φ1000 105SC MAS(490) t12 t=12.0mm 8.0m	φ1000 105SC MAS(490) t9 t=9.0mm 8.0m	φ10090110 105MF C種 W1 7.0m	6	7041	1000	210	14−D41 SD490

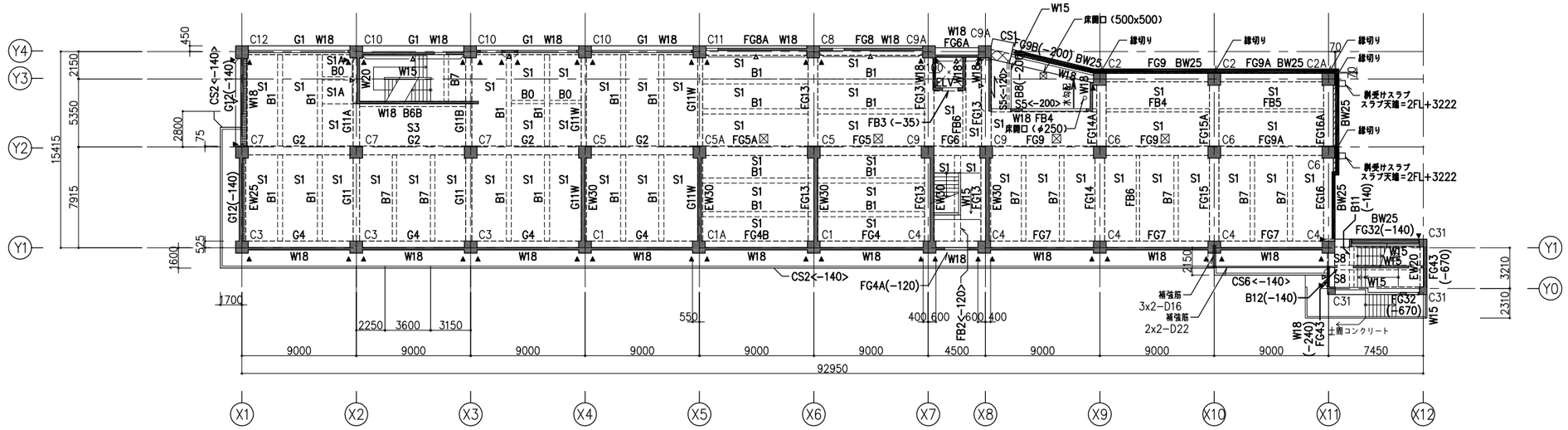
工法：スクリューパイルEAZET同等工法　支持層：GL−19.70m以深の砂質土層（P6），GL−10.70m以深の砂質土層（P7）　合計：20本

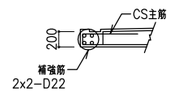
符号（埋込長）	記号	杭全長（m）	杭先端深度（m）	杭種 上杭	中1杭,中2杭（P7は中1杭のみ）	下杭 杭本体部	下杭 先端羽	セット数	長期許容支持力（kN）	杭頭補強筋 L	Lw	材質
P6（250）	⊘	19.590	設計GL−20.59	φ355.6−t16.0 STK490 (5.0m,杭端カット410mm)	φ355.6−t7.9 STK490 (5.0m)	φ355.6−t7.9 STK490 (5.0m)	φ800−t32.0 SM490A (−)	19	552	1280	150	11−D32 SD390
P7（250）	◑	16.960	設計GL−11.76	φ355.6−t16.0 STK490 (5.0m,杭端カット40mm)	φ355.6−t7.9 STK490 (6.0m)	φ355.6−t7.9 STK490 (6.0m)	φ800−t32.0 SM490A (−)	1	452	1000	110	10−D25 SD345

独にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	1階ピット伏図・杭伏図	縮尺 1:400(A3) 1:200(A1)	S−26
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(192/224)

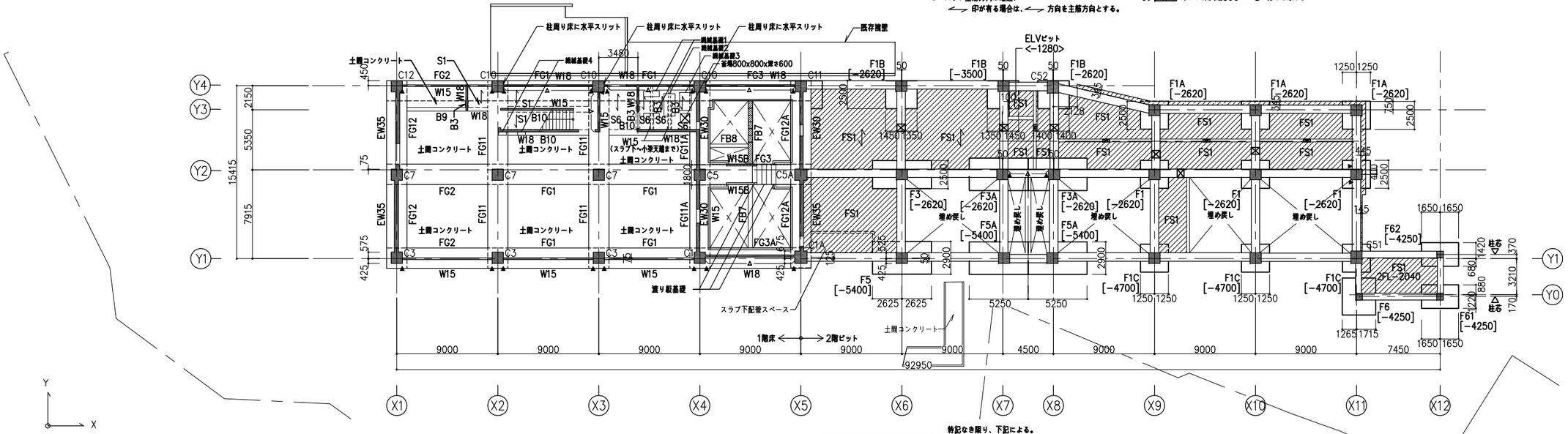




スラブ補強筋要領

2階　床伏図

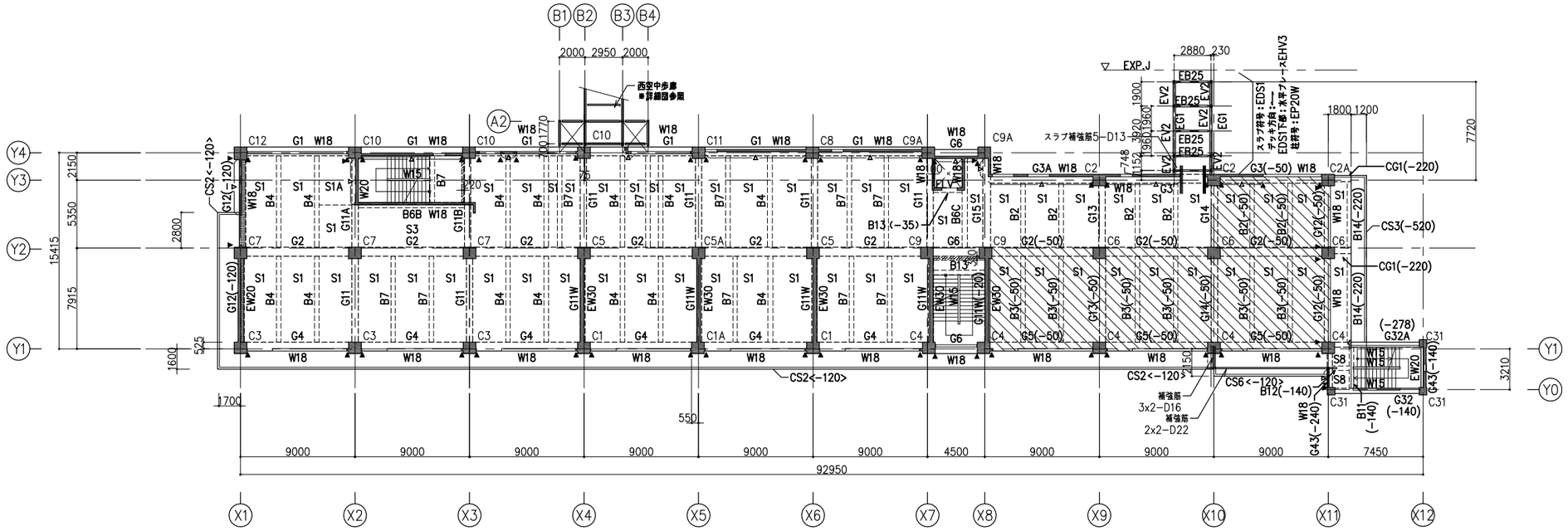
特記なき限り、下記による。
1. スラブ、梁天端レベル2FL−20
2. ▲印は鉛直スリット、△印は水平スリットを示す。
3. ( )内数値は2FLからの梁上端レベルを示す。
4. < >内数値は2FLからのスラブ上端レベルを示す。
5・スラブ主筋方向は短辺、
⟷ 印が有る場合は、⟷ 方向を主筋方向とする。
6. ▦ 印は、梁天端100ｍｍ増し打ちを示す。
7. ▨ 印は、梁側面増し打ち部を示す。
8. ⊠ 印は、床開口(600x600)を示す。
9. ▨ 印は、梁天端390ｍｍ増し打ちを示す。



1階床・2階ピット伏図

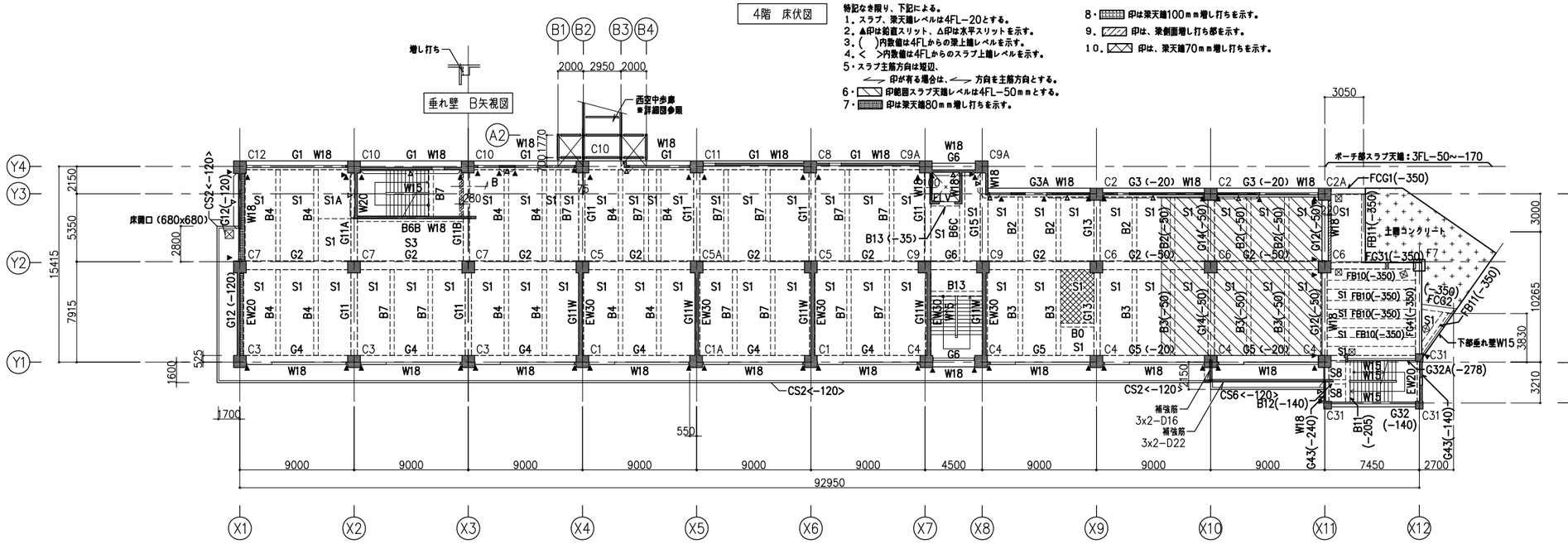
特記なき限り、下記による。
1. ▨ 印は、2階ピット範囲を示す。
2階ピットスラブレベル：2FL−1750
2. ▲印は鉛直スリット、△印は水平スリットを示す。
3. 1階大梁レベル：1FL−350
スラブ、土間：1FL±0
S1 ：1FL−20
4. ⊠ 印は、人通口600φを示す。
5. [ ]内数値は2FLからの基礎下端寸法を示す。
6. スラブ主筋方向は短辺、
⟷ 印が有る場合は、⟷ 方向を主筋方向とする。
7. ▨ 印は、梁側面増し打ち部を示す。
8. ▨ 印は、梁上増し打ち部（t500）を示す。
9. ▨ 印は、梁上増し打ち部（t380)を示す。

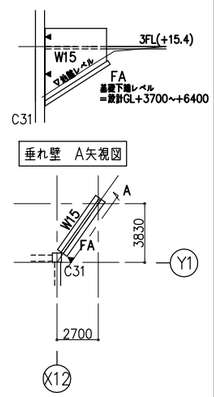
技にこころを 株式会社 大建設計 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和	図面名	1階床・2階ピット伏図・2階床伏図	縮尺 1:400(A3) 1:200(A1)	S-27
	設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春		船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(193/224)

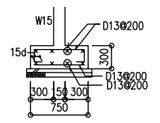


4階　床伏図

特記なき限り、下記による。
1．スラブ、梁天端レベルは4FL−20とする。
2．▲印は鉛直スリット、△印は水平スリット を示す。
3．（　）内数値は4FLからの梁上端レベルを示す。
4．＜　＞内数値は4FLからのスラブ上端レベルを示す。
5・スラブ主筋方向は短辺、
印が有る場合は、　方向を主筋方向とする。
6・印範囲スラブ天端レベルは4FL−50ｍｍとする。
7・印は梁天端80ｍｍ増し打ちを示す。
8・印は梁天端100ｍｍ増し打ちを示す。
9・印は、梁側面増し打ち部を示す。
10．印は、梁天端70ｍｍ増し打ちを示す。





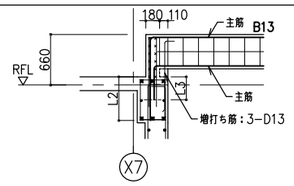


FA配筋図（1:40）

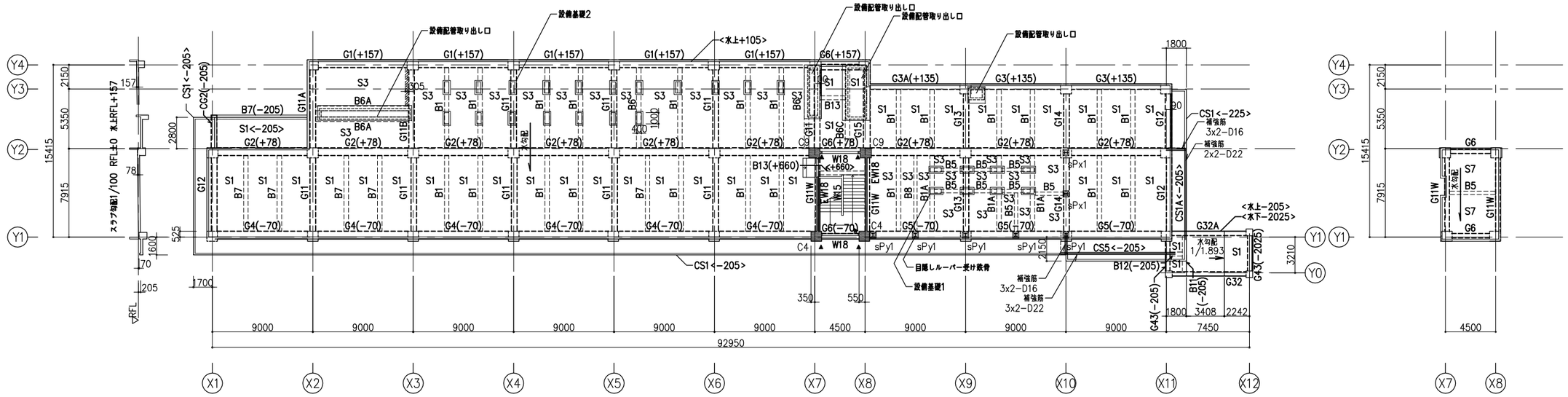
3階　床伏図

特記なき限り、下記による。
1．スラブ、梁天端レベルは3FL−20とする。
2．▲印は鉛直スリット、△印は水平スリット を示す。
3．（　）内数値は3FLからの梁上端レベルを示す。
4．＜　＞内数値は3FLからのスラブ上端レベルを示す。
5.スラブ主筋方向は短辺、
印が有る場合は、　方向を主筋方向とする。
6・印範囲スラブ天端レベルは3FL−50ｍｍとする。
7・印は梁天端30ｍｍ増し打ちを示す。
8・印範囲スラブ天端レベルは3FL−350ｍｍとする。
9・印は、梁側面増し打ち部を示す。
10．印は、梁天端100ｍｍ増し打ちを示す。
11．印は、床開口（500x500）を示す。

技にこころを 株式会社 大建設計 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和	図面名	3階床伏図・4階床伏図	縮尺 1:400(A3) 1:200(A1)	S-28
	設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春		船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(194/224)



B13納まり詳細図

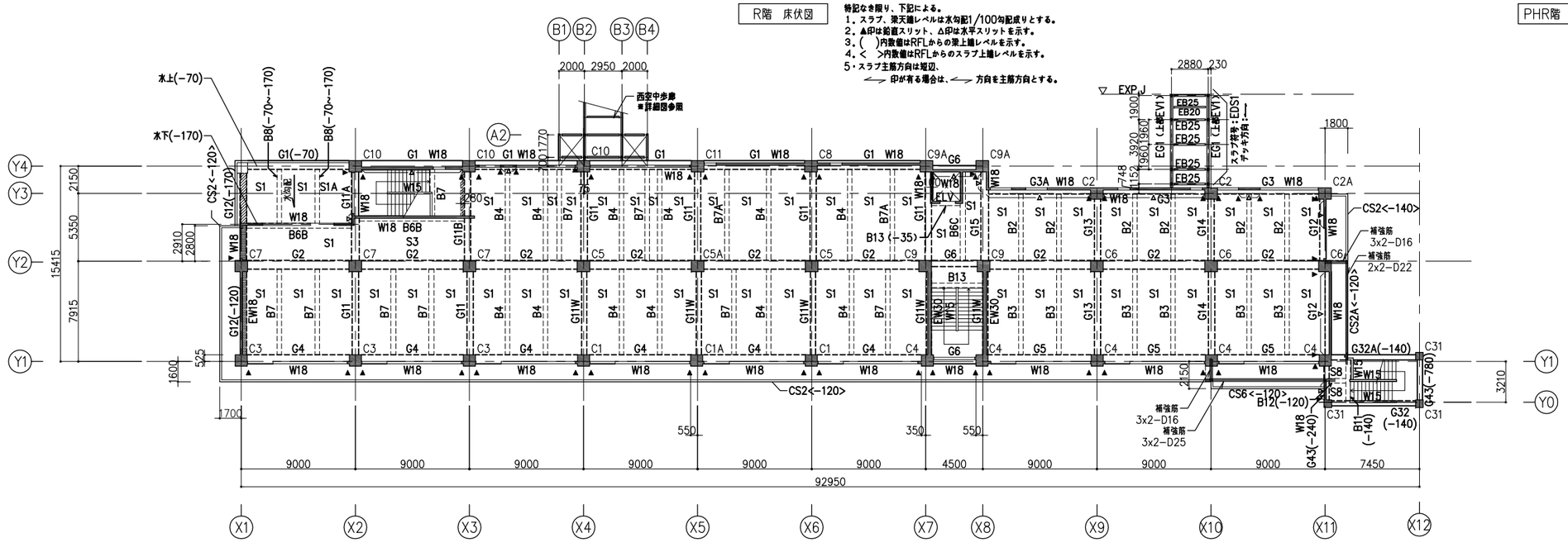


R階　床伏図

特記なき限り、下記による。
1．スラブ、梁天端レベルは水勾配1/100勾配成りとする。
2．▲印は鉛直スリット、△印は水平スリットを示す。
3．(　)内数値はRFLからの梁上端レベルを示す。
4．<　>内数値はRFLからのスラブ上端レベルを示す。
5・スラブ主筋方向は短辺、
〜 印が有る場合は、〜 方向を主筋方向とする。

PHR階　床伏図

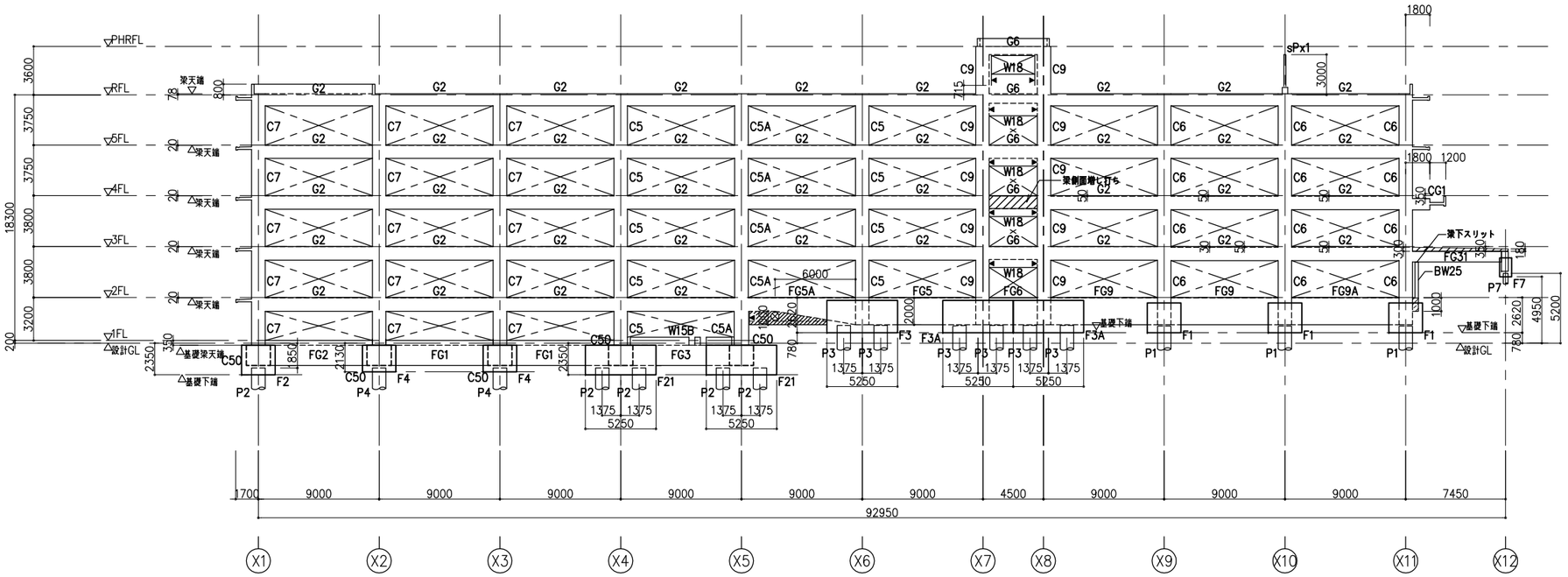
特記なき限り、下記による。
1．スラブ、梁天端レベルはRFL+3700
2・スラブ主筋方向は短辺



5階　床伏図

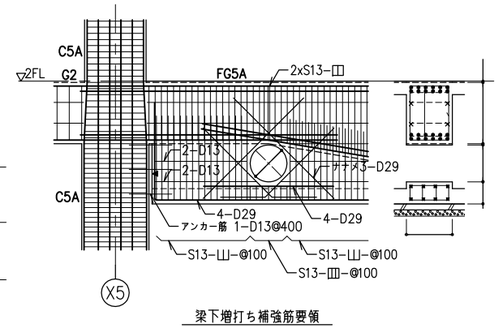
特記なき限り、下記による。
1．スラブ、梁天端レベルは5FL−20とする。
2．▲印は鉛直スリット、△印は水平スリットを示す。
3．(　)内数値は5FLからの梁上端レベルを示す。
4．<　>内数値は5FLからのスラブ上端レベルを示す。
5・スラブ主筋方向は短辺、
〜 印が有る場合は、〜 方向を主筋方向とする。
6・▭ 印は梁天端増し打ちを示す。
7・▨ 印は梁天端屋根勾配なりに増し打ち(0~100)を示す。
8. ▨ 印は、梁側面増し打ち部を示す。

技にこころを 株式会社 大建設計 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　(第 274708号)　山岡　信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士(第 6608号)　長坂　典和	図面名	5階床伏図・R階床伏図・PHR階床伏図	縮尺 1:400(A3) 1:200(A1)	S-29
	設備設計一級建築士(第 753号)　鈴木　光春		船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(195/224)

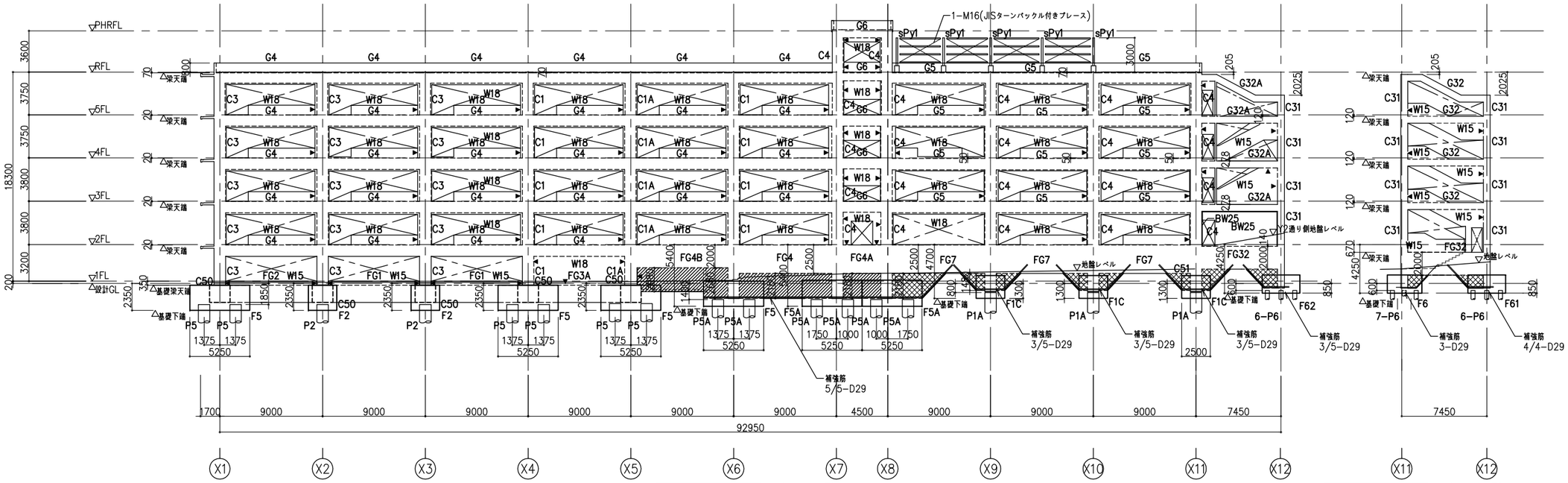


Y2通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ◄ は構造スリットを示す。
2. ▨ は増し打ちを示す。



梁下増打ち補強筋要領



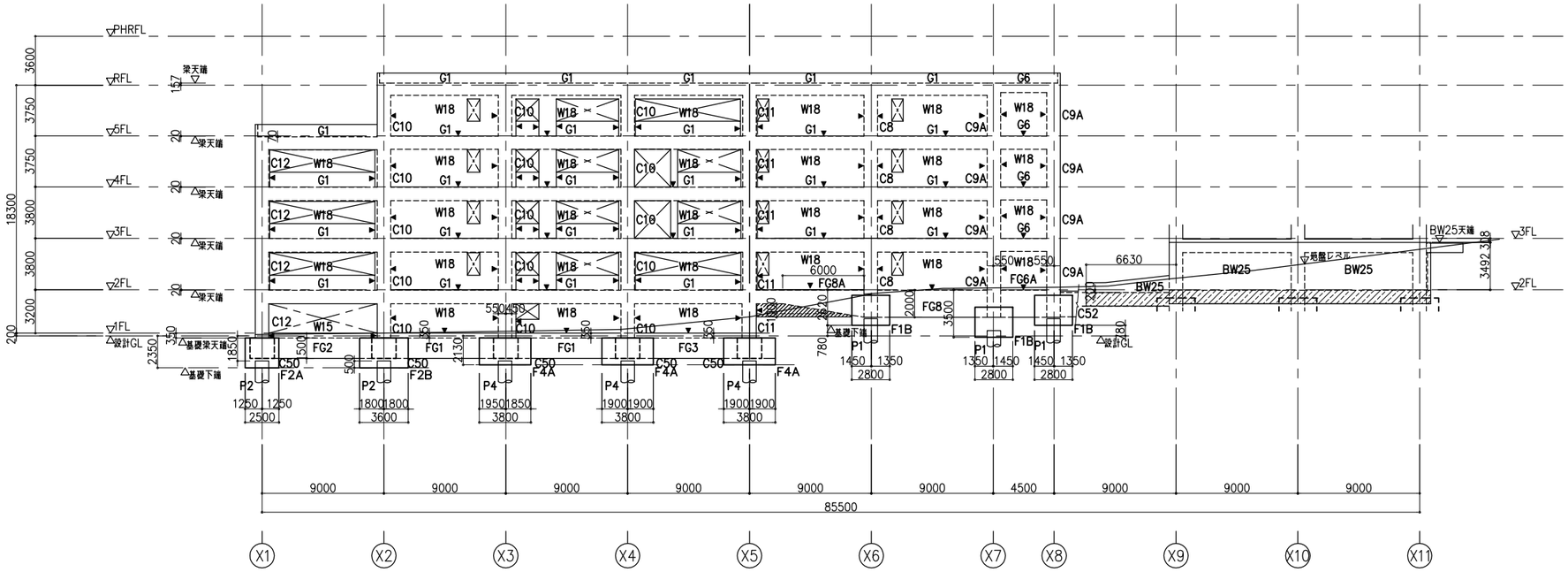
Y1通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ▨ はバットレスを示す。
2. ◄ は構造スリットを示す。
3. ▨ は増し打ちを示す。

Y0通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ▨ はバットレスを示す。
2. ◄ は構造スリットを示す。

株式会社 大建設計 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　(第 274708号)　岡　信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士(第 6608号)　長坂　典和	図面名	軸組図 (1)	縮尺 1:400(A3) 1:200(A1)	S-30
	設備設計一級建築士(第 753号)　鈴木　光春		船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(196/224)

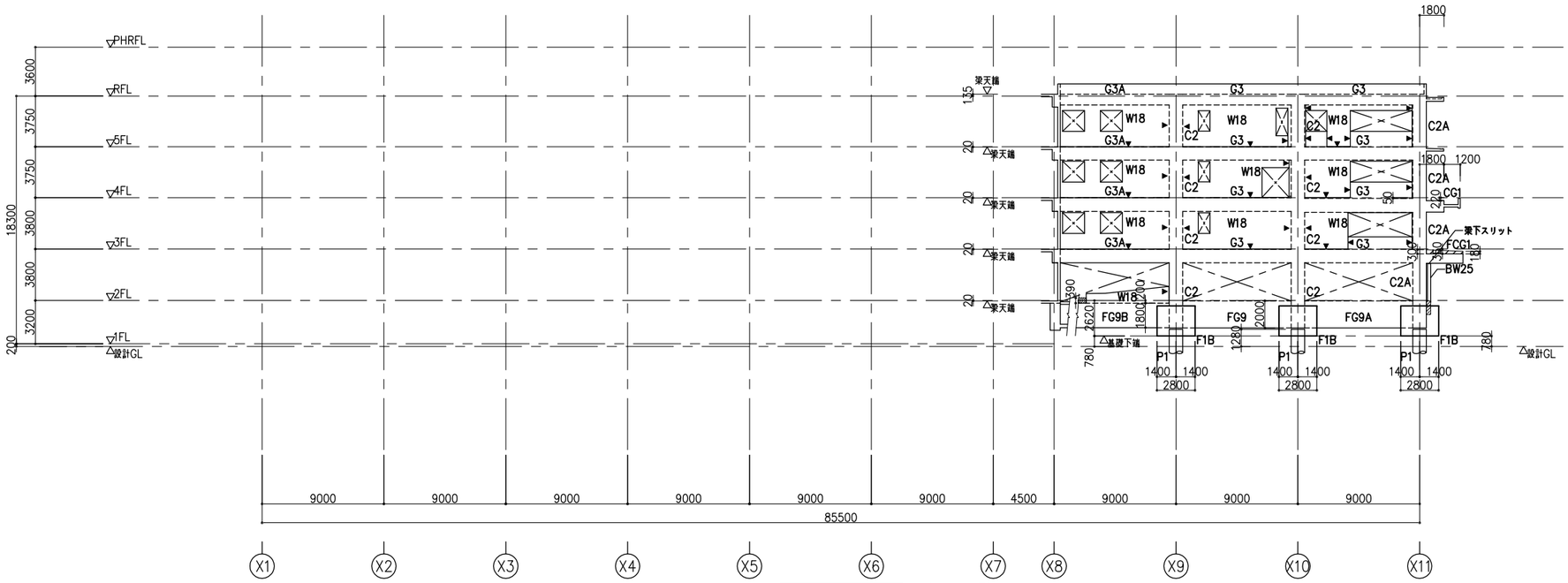


Y4通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ▨ は増し打ちを示す。
2. ◄ は構造スリットを示す。

Y3~Y4通り　BW25軸組図

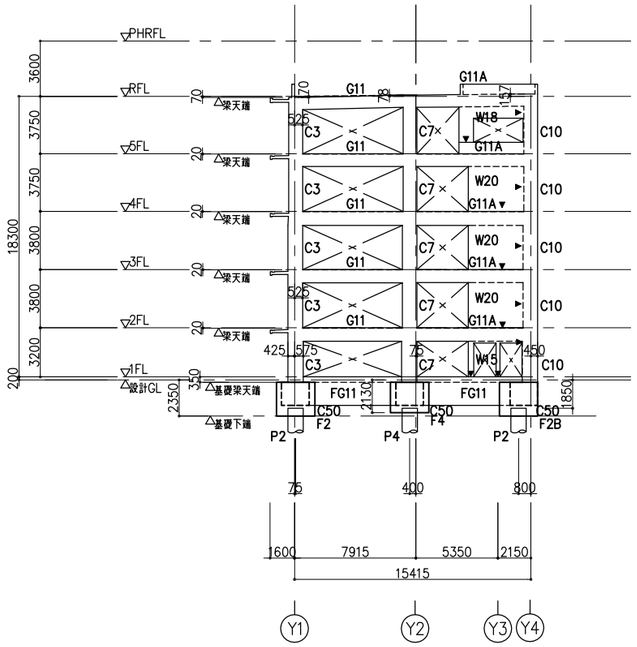
特記なき限り、下記による。
1. ▨ は梁側面増し打ちを示す。
2. ◄ は構造スリットを示す。



Y3通り　軸組図

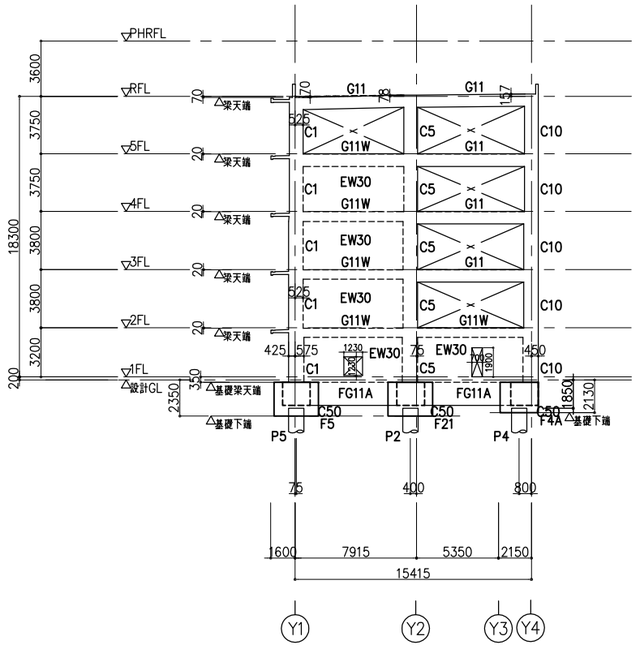
特記なき限り、下記による。
1. ▨ は増し打ちを示す。
2. ◄ は構造スリットを示す。

株式会社 大建設計 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和	図面名	軸組図 (2)	縮尺 1:400(A3) 1:200(A1)	S-31
	設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春		船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(197/224)

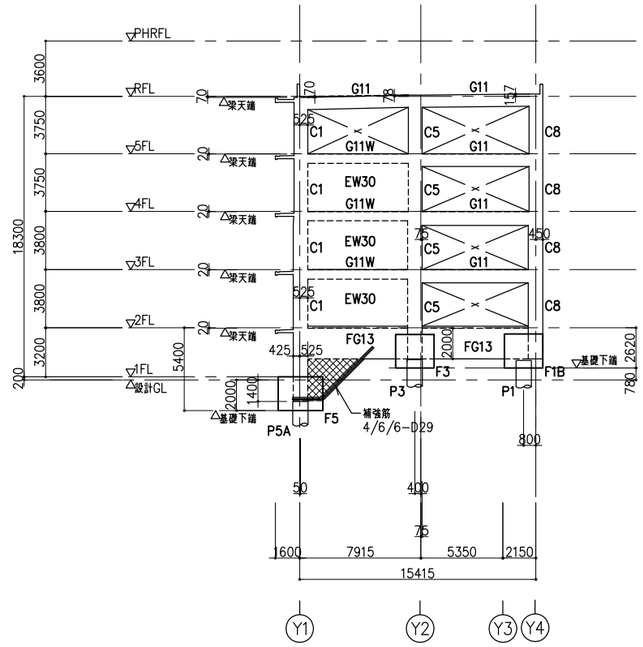


X2通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ◄ は構造スリットを示す。

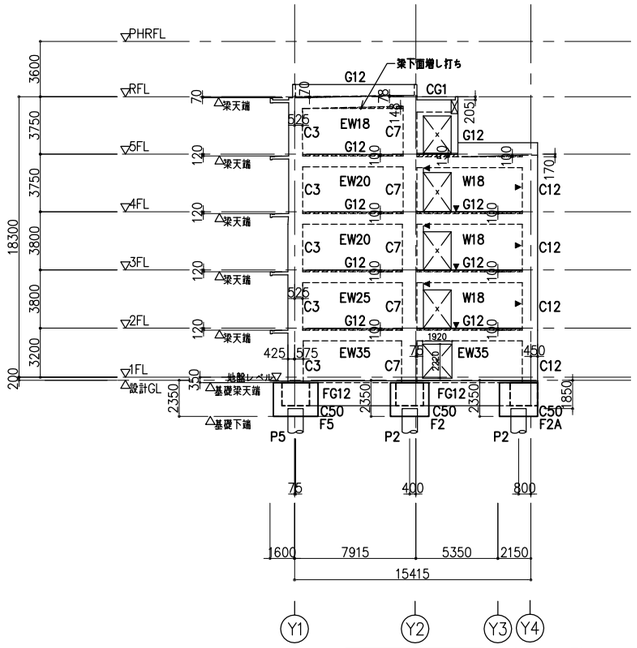


X4通り　軸組図



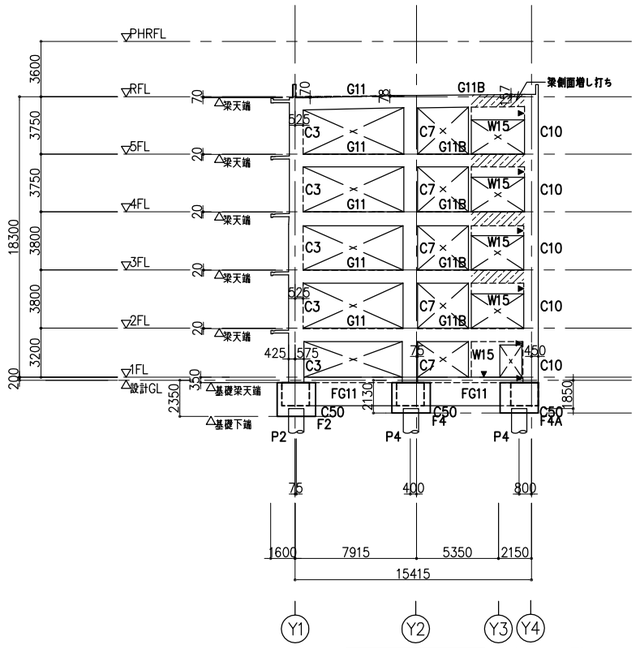
X6通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ▨ はパットレスを示す。
2. ◄ は構造スリットを示す。



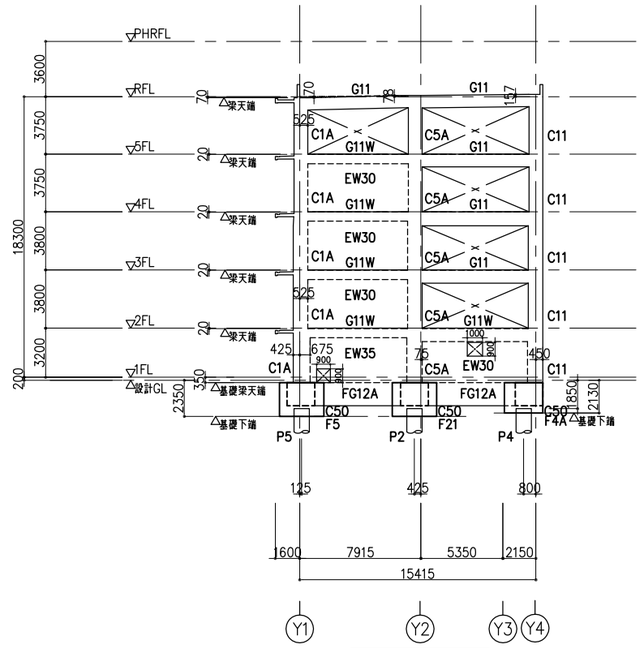
X1通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ◄ は構造スリットを示す。
2. ▨ は増し打ちを示す。



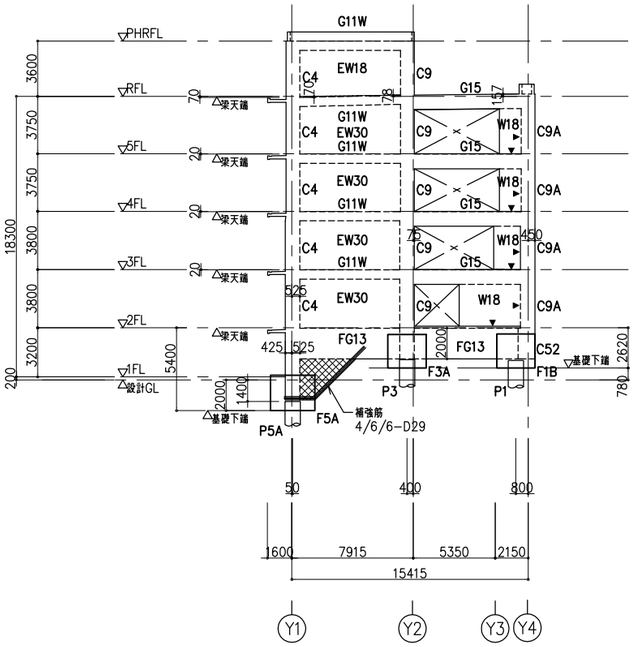
X3通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ◄ は構造スリットを示す。
2. ▨ は梁側面増し打ちを示す。



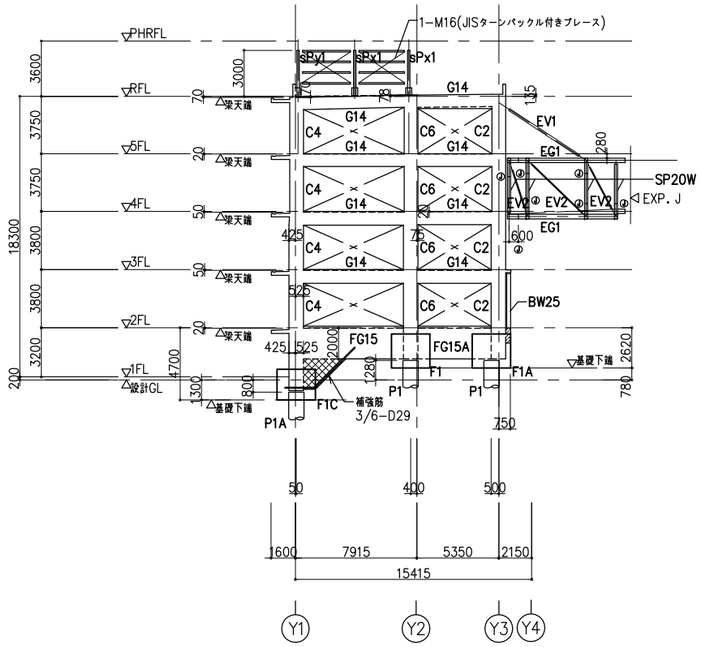
X5通り　軸組図

技にこころを 株式会社 大建設計 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和	図面名	軸組図（3）	縮尺 1:400(A3) 1:200(A1)	S-32
	設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春		船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(198/224)



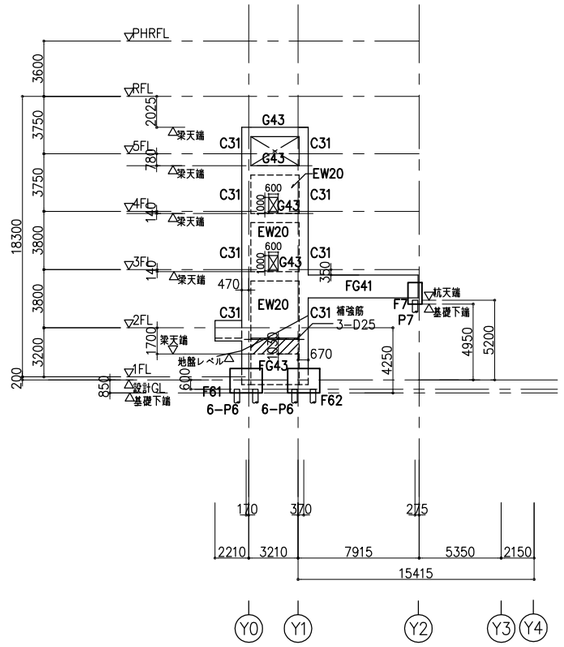
X8通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ▨ はパットレスを示す。
2. ◄ は構造スリットを示す。



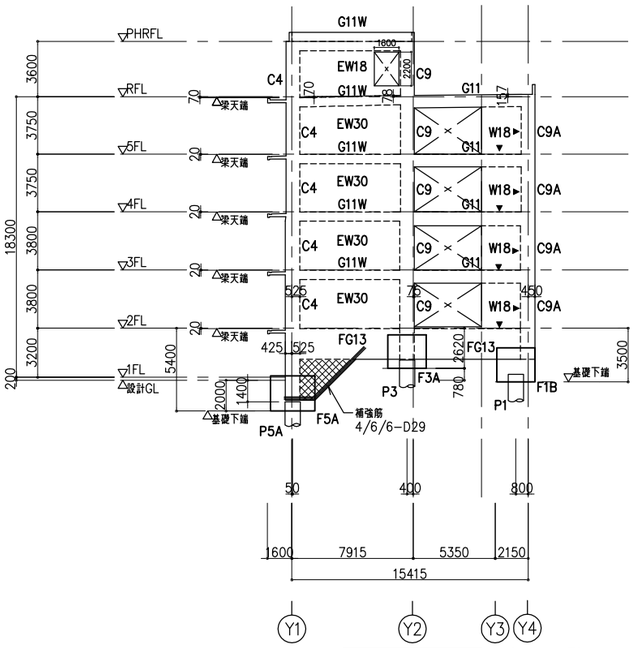
X10通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ▨ はパットレスを示す。
2. ◄ は構造スリットを示す。



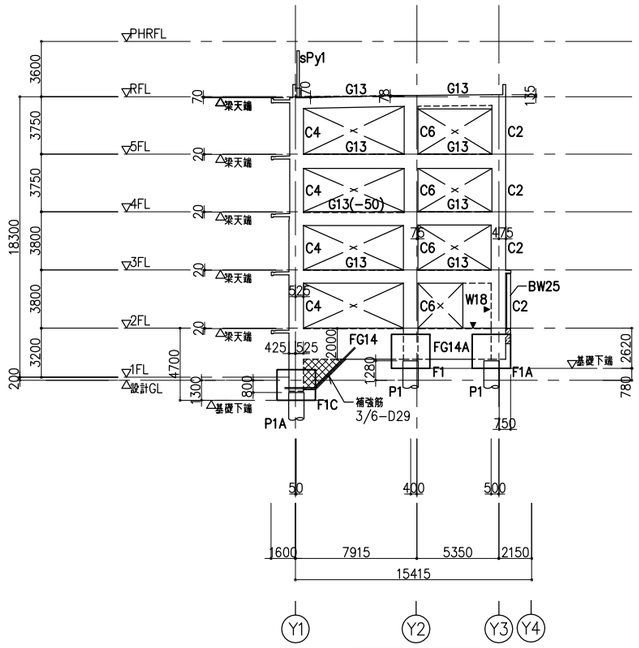
X12通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ▨ は増し打ちを示す。
2. ◄ は構造スリットを示す。



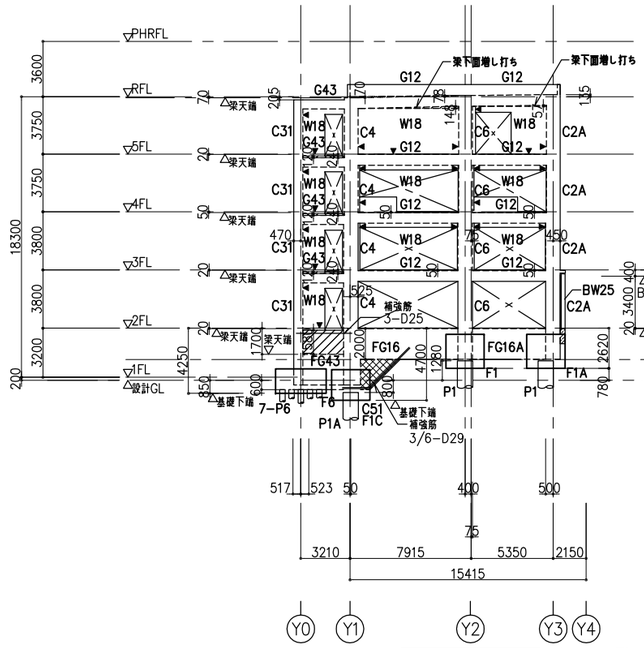
X7通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ▨ はパットレスを示す。
2. ◄ は構造スリットを示す。



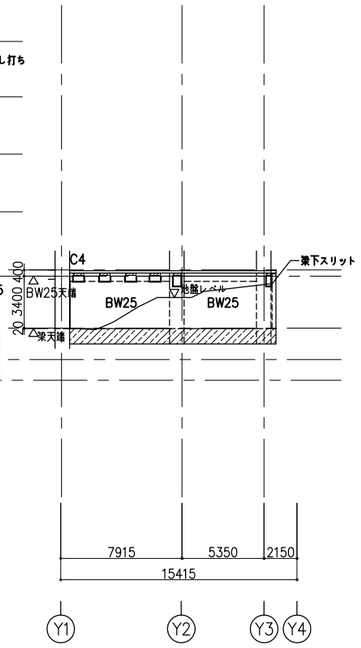
X9通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ▨ はパットレスを示す。
2. ◄ は構造スリットを示す。



X11通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ▨ はパットレスを示す。
2. ◄ は構造スリットを示す。
3. ▨ は増し打ちを示す。

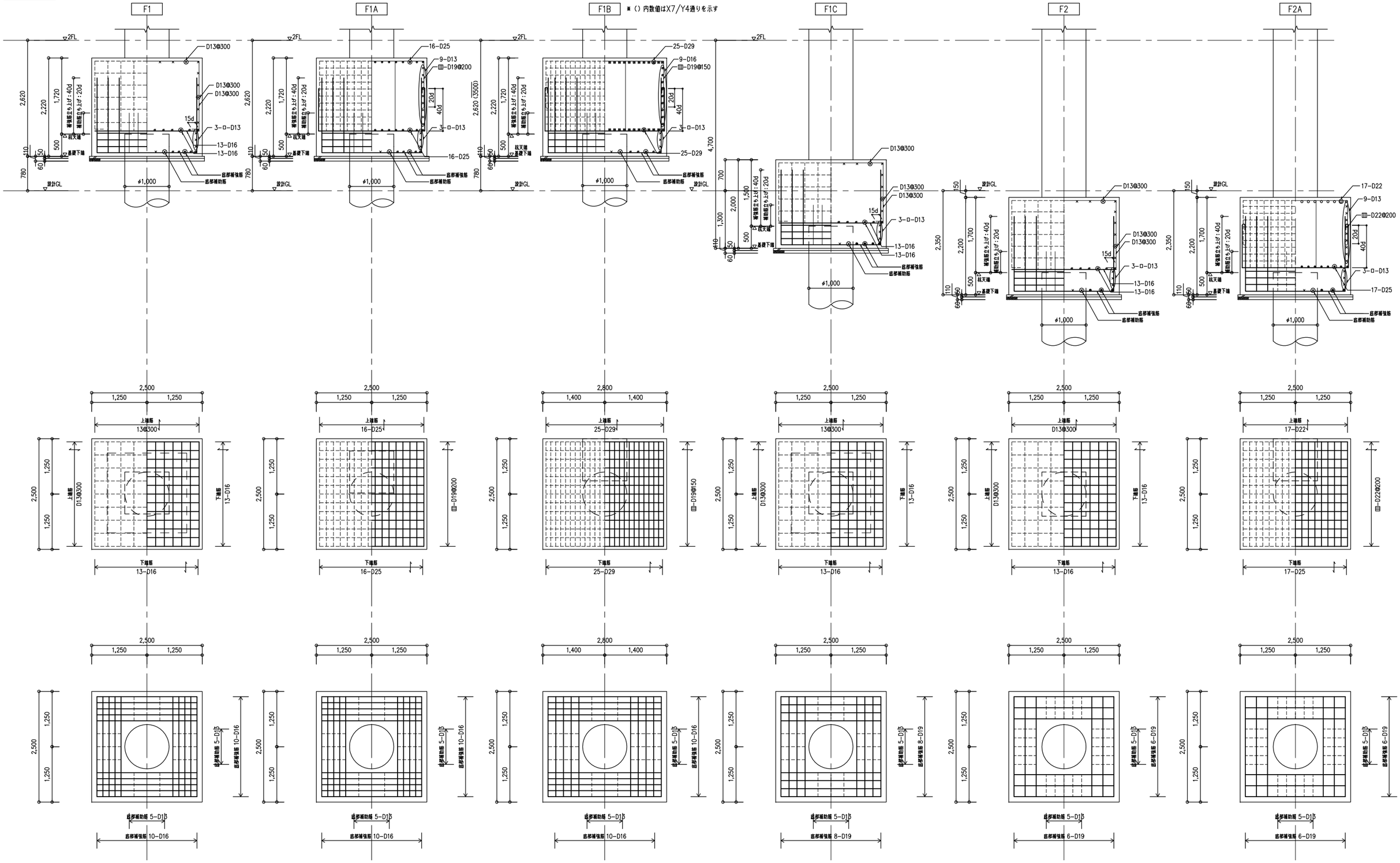


X11通り 側BW25軸組図

特記なき限り、下記による。
1. ▨ は梁側面増し打ちを示す。

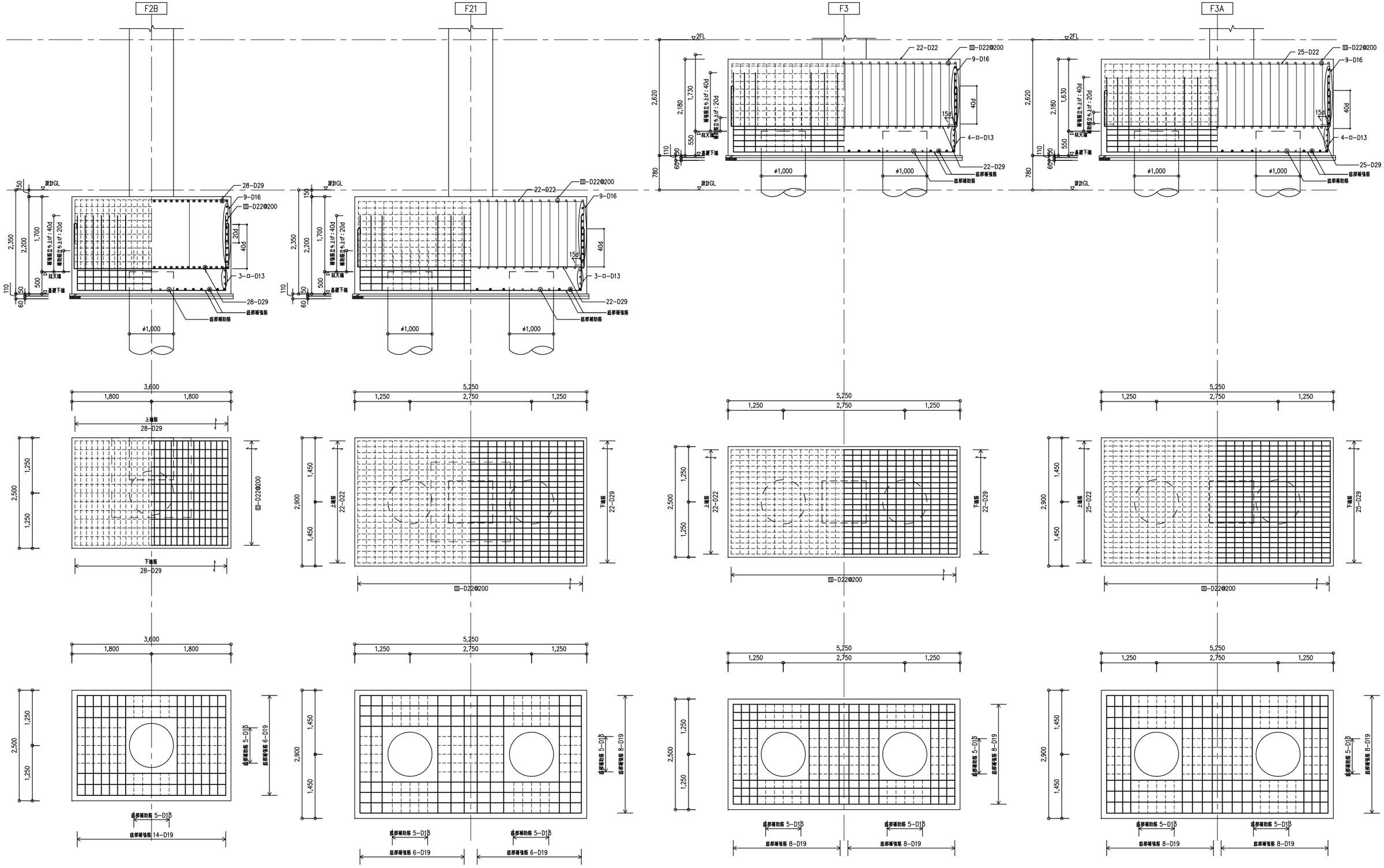
技にこころを 株式会社 大建設計 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和	図面名	軸組図 (4)	縮尺 1:400(A3) 1:200(A1)	S-33
	設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春		船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(199/224)

基礎リスト



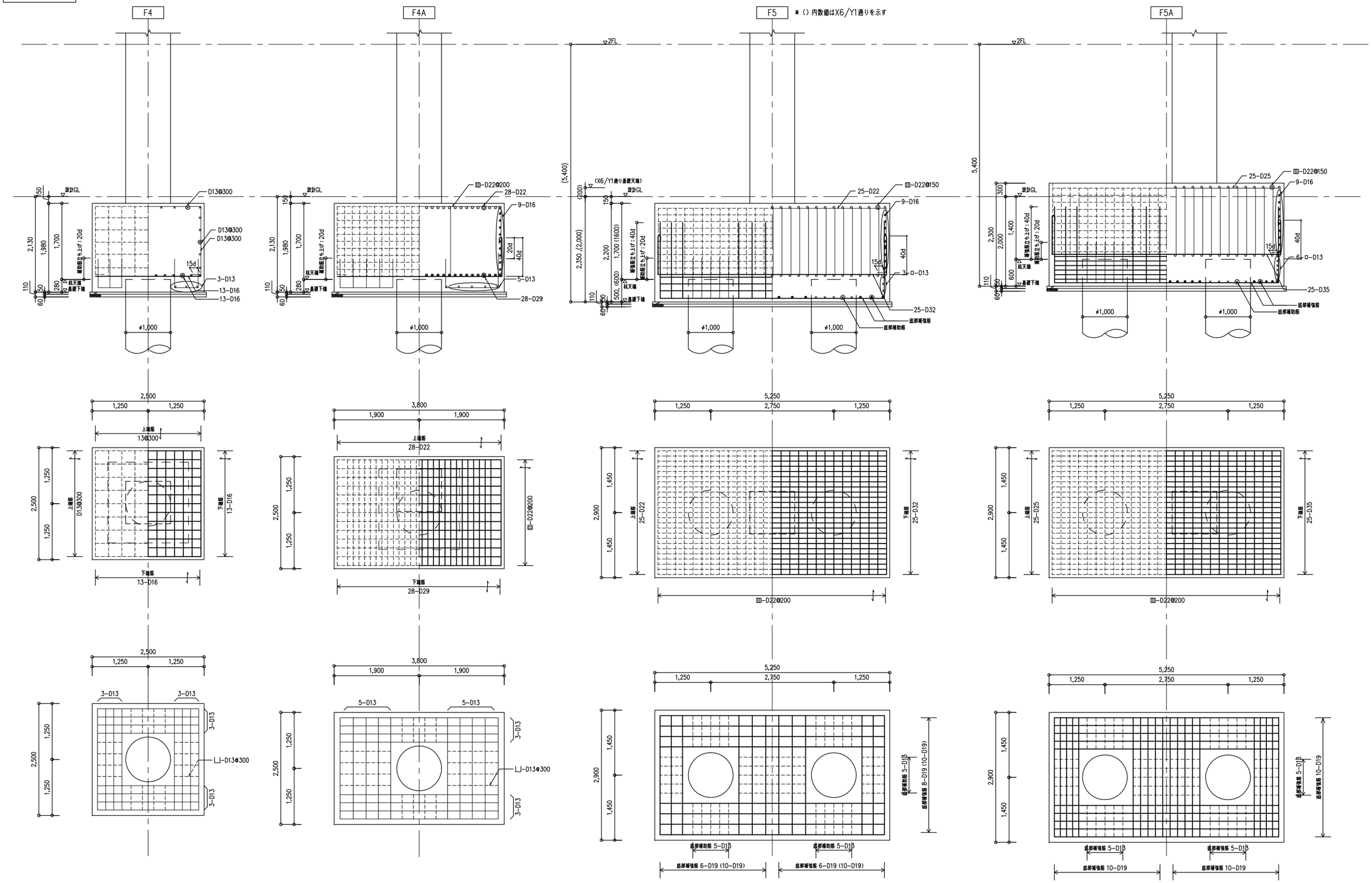
株式会社 大建設計 独にこころを 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘 構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和 設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
		図面名	基礎リスト (1)	縮尺 1:80(A3) 1:40(A1)	S-34
			船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(200/224)

基礎リスト（2）



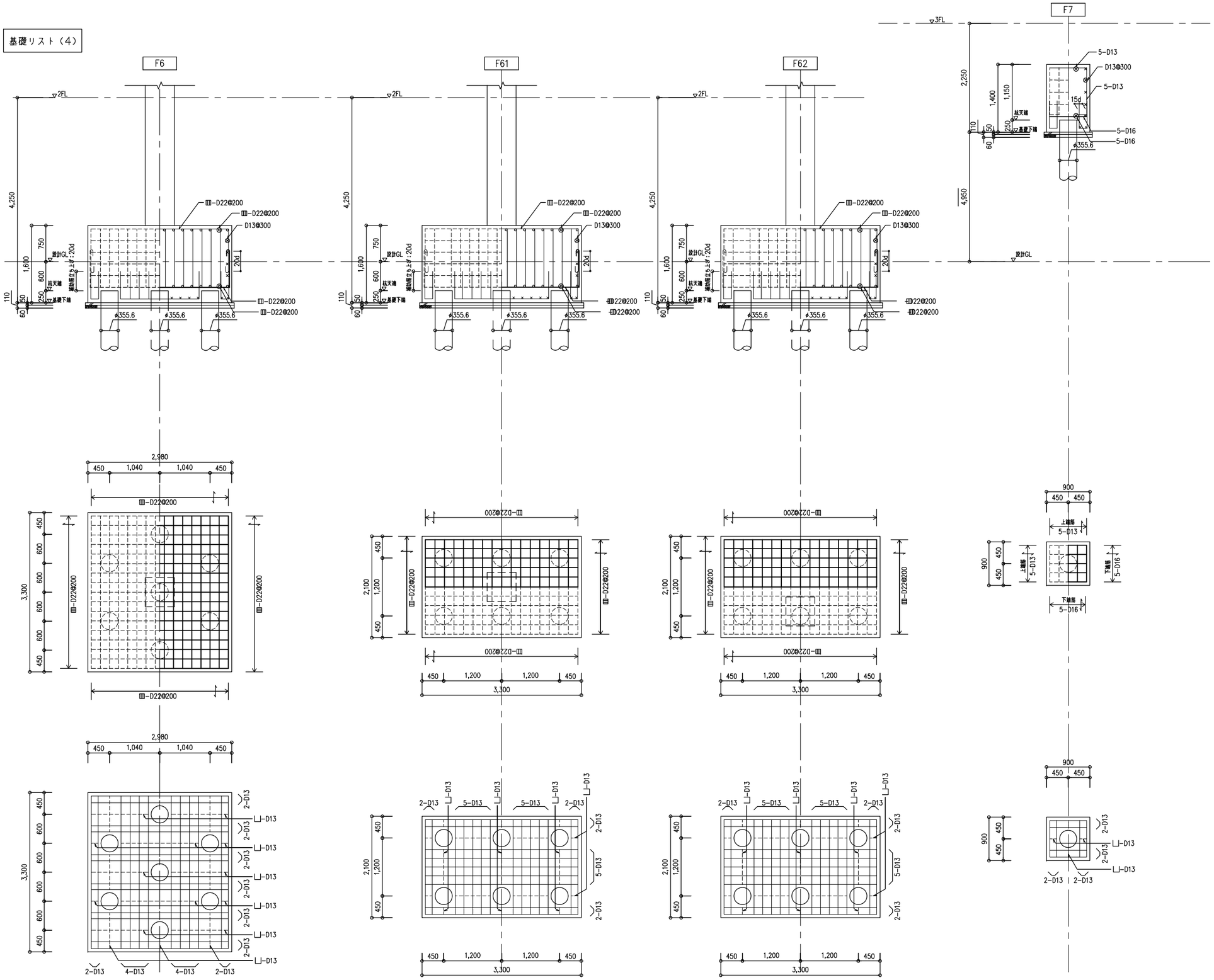
株式会社 大建設計 技にこころを 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘 構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和 設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
		図面名	基礎リスト（2）	縮尺 1:80(A3) 1:40(A1)	S-35
			船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(201/224)

基礎リスト（3）



独にこころを 株式会社 大建設計 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 （第 274708号） 山岡 信弘 構造設計一級建築士（第 6608号） 長坂 典和 設備設計一級建築士（第 753号） 鈴木 光春	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
		図面名	基礎リスト（3）	縮尺 1:80(A3) 1:40(A1)	S-36
			船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(202/224)

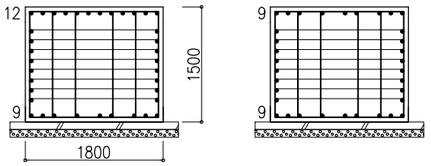
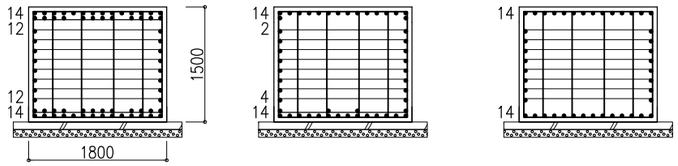
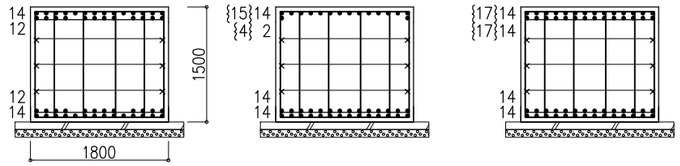
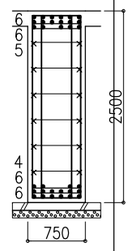
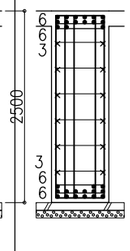
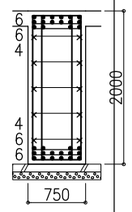
基礎リスト（4）

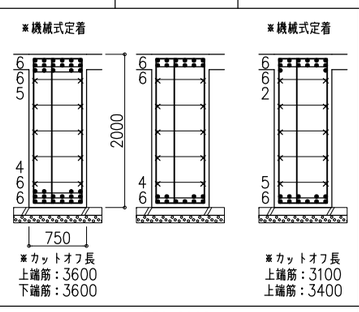
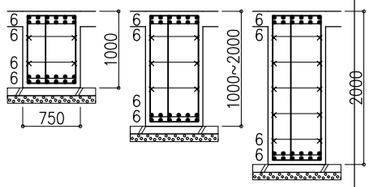
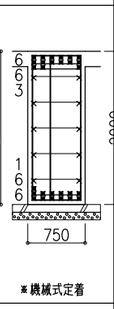
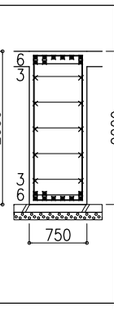
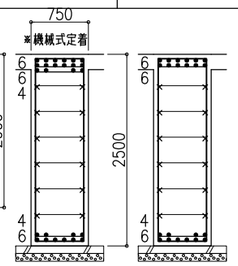
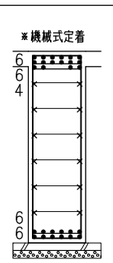
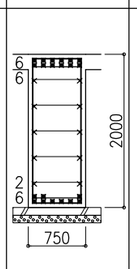
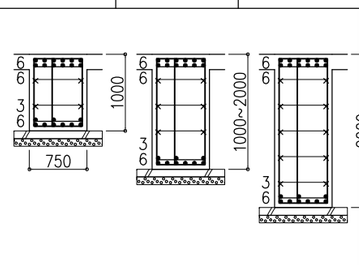
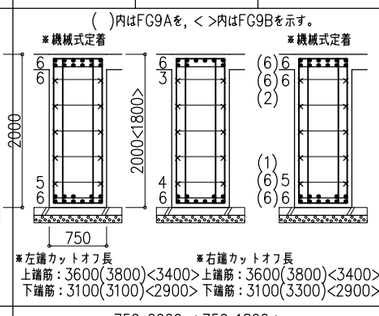


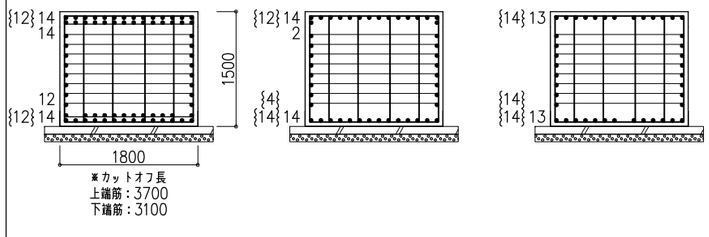
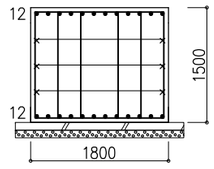
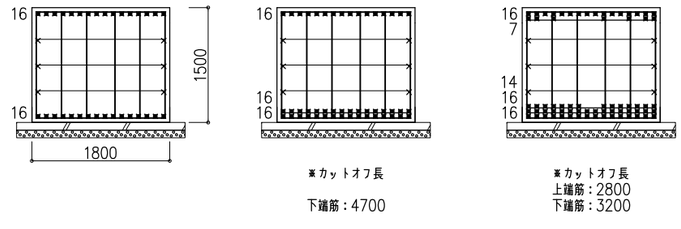
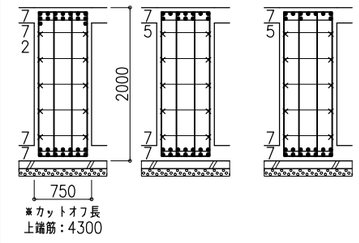
株式会社 大建設計 技にこころを 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘 構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和 設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
		図面名	基礎リスト（4）	縮尺 1:80(A3) 1:40(A1)	S-37
			船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(203/224)

基礎梁リスト1

特記無き限り　1.せん断補強筋のS記号の材料はKSS785とする。

符号	FG1		FG2			FG3 , FG3A			FG4	FG4A	FG4B
位置	両端	中央	左端	中央	右端	左端	中央	右端	全断面	全断面	全断面
断面						{ }内は、FG3Aを示す。 					
BxD	1800x1500		1800x1500			1800x1500			750x2500	750x2500	750x2000
上端筋	12−D32	9−D32	26−D32	16−D32	14−D32	26−D32	16 {19}−D32	28 {34} −D32	17−D32	15−D32	16−D32
下端筋	9−D32	9−D32	26−D32	18−D32	14−D32	26−D32	28−D32	28−D32	16−D32	15−D32	16−D32
肋筋	D16 −▥(6) −@200		D16 −▥(6) −@200			S13 − ▥(6) −@100			D16− ▥−@100	D16−▥(5)−@100	D16− ▥−@100
腹筋	Y1,Y4軸/ X2−X3間：2−D32+4−D13 X3−X4間：12−D32 Y2軸/ X2−X3間：2−D32+4−D13 X3−X4間：16−D32		Y1軸/ X1−X2間：12−D32, Y2軸/ X1−X2間：16−D32, Y4軸/ X1−X2間：12−D32			6−D13			12−D13	12−D13	10−D13

符号	FG5			FG5A			FG6	FG6A	FG7			FG8	FG8A			FG9, FG9A, FG9B		
位置	左端	中央	右端	左端	中央	右端	全断面	全断面	左端	中央	右端	全断面	左端	中央	右端	左端	中央	右端
断面																		
BxD	750x2000			750x1000~2000		750x2000	750x2000	750x2000	750x2500			750x2000	750x1000~2000		750x2000	750x2000 < 750x1800 >		
上端筋	17−D32	12−D32	14−D32	12−D32	12−D32	12−D32	15−D29	9−D29	16−D32	12−D32	16−D32	12−D32	12−D32	12−D32	12−D32	12−D32	9−D32	12(14)−D32
下端筋	16−D32	10−D32	11−D32	12−D32	12−D32	12−D32	13−D29	9−D29	10−D32	10−D32	12−D32	8−D32	9−D32	9−D32	9−D32	11−D32	10−D32	11(13)−D32
肋筋	S13− ▥−@200			S13− ▥−@100			S13− ▥−@150	D13− □ −@150	D13− □ −@150			D13− □ −@150	S13− ▥−@100			D13− ▥ −@150<@125>		
腹筋	10−D13			4~10−D13			10−D13	10−D13	14−D13			10−D13	4~10−D13			10−D13		

符号	FG11, FG11A			FG12	FG12A			FG13		
位置	Y1、Y4端	中央	Y2端	全断面	Y1、Y4端	中央	Y2端	Y1,Y4端	中央	Y2端
断面	{ }内は、FG11Aを示す。 									
BxD	1800x1500			1800x1500	1800x1500			750x2000		
上端筋	28{12} −D32	16{12} −D32	13{14} −D32	12−D32	16−D35	16−D35	23−D35	16−D32	12−D32	12−D32
下端筋	26{12} −D32	14{18} −D32	13{28} −D32	12−D32	16−D35	32−D35	46−D35	14−D32	14−D32	14−D32
肋筋	D16 −▥(6) −@200 {D16− ▥ −@200}			D16 −▥(6) −@200	D16 −▥(6) −@200			S13− ▥−@150		
腹筋	16−D32 {6−D13}			16−D32	6−D13			10−D13		

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	基礎梁リスト（1）	縮尺 1:80(A3) 1:40(A1)	S-38
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(204/224)

基礎梁リスト2

符号	FG14			FG14A	FG15			FG15A	FG16			FG16A	FG31（使用箇所：3階）			FG32	FG41（使用箇所：3階）		FG43
位置	Y1端	中央	Y2端	全断面	Y1端	中央	Y2端	全断面	Y1端	中央	Y2端	全断面	左端	中央	右端	全断面	端部	中央	全断面
断面	※機械式定着		※機械式定着	※機械式定着	※機械式定着		※機械式定着	※機械式定着	※機械式定着		※機械式定着	※機械式定着			※カットオフ長 上端筋：2600 下端筋：2300	※機械式定着	※カットオフ長 上端筋：2500		※機械式定着
B x D	750x2000			750x2000	750x2000			750x2000	750x2000			750x2000	500x800			600x2000	500x1500		550x2000
上端筋	16−D32	12−D32	12−D32	14−D32	16−D32	12−D32	12−D32	14−D32	14−D32	11−D32	11−D32	14−D32	7−D29	4−D29	8−D29	15−D32	6−D29	4−D29	11−D32
下端筋	14−D32	9−D32	9−D32	9−D32	14−D32	9−D32	9−D32	9−D32	14−D32	11−D32	11−D32	14−D32	6−D29	5−D29	8−D29	15−D32	8−D29	8−D29	10−D32
スターラップ	S13−□−@150			S13−□−@150	S13−□−@150			S13−□−@150	D13−□−@100			D13−□−@100	D13−□−@200			D13−□−@100	D13−ロ−@200		S13−□−@100
腹筋	10−D13			10−D13	10−D13			10−D13	10−D13			10−D13	2−D10			10−D13	8−D13		10−D13

符号	FCG1	FCG2
位置	全断面	全断面
断面		
B x D	500x700	400x700
上端筋	7−D29	4−D29
下端筋	7−D29	4−D29
スターラップ	D13−ロ−@200	D13−ロ−@200
腹筋	2−D10	2−D10

基礎小梁リスト

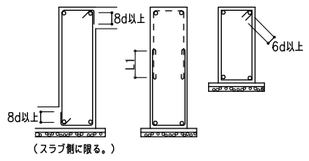
符号			FB2		FB3	FB4			FB5		FB6		FB7		FB8	
位置			両端	中央	全断面	X8,X10端	中央	X9端	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央
断面																
B x D			500x2000		250x1965	250x2000			250x2000		250x2000		400x1500		300x1500	
上端筋			5−D22	5−D22	2−D19	3−D22	2−D22	4−D22	3−D22	2−D22	2−D22	2−D22	6−D22	3−D22	2−D22	2−D22
下端筋			6−D22	10−D22	2−D19	2−D22	4−D22	2−D22	2−D22	3−D22	4−D22	4−D22	3−D22	6−D22	2−D22	2−D22
スターラップ			D13−ロ−@200		D10−ロ−@200	D10−ロ−@200			D10−ロ−@200		D10−ロ−@200		D10−ロ−@150		D10−ロ−@200	
腹筋			10−D10		10−D10	10−D10			10−D10		10−D10		8−D10		8−D10	

符号			FB10	FB11
位置			全断面	全断面
断面				
B x D			700x400	400x600
上端筋			7−D29	5−D22
下端筋			7−D29	4−D22
スターラップ			D13−□−@200	D13−ロ−@200
腹筋			-	2−D10

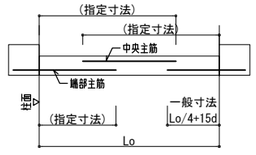
共通事項
（特記なき限り下記による）

1．幅止筋
D10−@1000

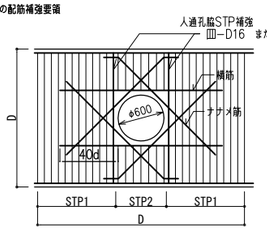
3．STP配筋要領（下記いずれかによる。）

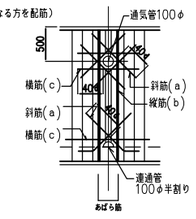


5．主筋カットオフ要領
断面部の（ ）内数値は、主筋カットオフ寸法を示す。



7．人通孔の配筋補強要領

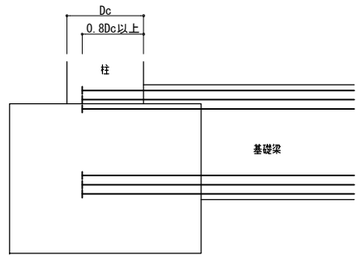




部材名	横筋	ナナメ筋	STP1	STP2（上下）
FG9	2x3−D22	4x3x2−D25	2x6−□−D13	2x7−□−D13
FG13	2x4−D22	4x4x2−D29	2x6−□−S13	2x7−□−S13
FG14A, FG15A	2x4−D22	4x4x2−D29	2x6−□−S13	2x7−□−S13
FB4, FB5, FB6	2x2−D13	4x2−D13	2x6−□−D10	2x7−□−D10

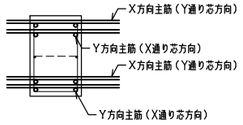
補強筋	配筋
斜筋（a）	4−D13
縦筋（b）	2−母材STPと同径・同数
横筋（c）	2−D13

8．補部機械式定着要領

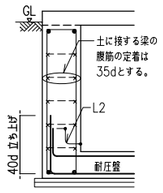


2．鉄筋
D16以下 SD295A 使用
D19以上 SD345 使用
D29以上 SD390使用

4．主筋配置要領



6．外周部配筋補強要領



技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号

一級建築士 （第 274708号） 山岡 信弘
構造設計一級建築士（第 6608号） 長坂 典和
設備設計一級建築士（第 753号） 鈴木 光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	基礎梁リスト（2）	縮尺 1:80(A3) 1:40(A1)	S-39
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(205/224)

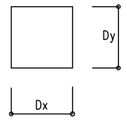
柱リスト

階	符号	C1	C1A	C2	C2A	C3	C4	C5	C5A	C6	C7	C8	C9	C9A	C10	C11	C12	C31
PH	断面						6 / 6 / 900 / 950						6 / 6 / 900 / 1000					
	BxD						950x900						1000x900					
	主筋						20-D29						20-D29					
	帯筋						□-D13@100						□-D13@100					
5	断面	6 / 6 / 900 / 950	6 / 6 / 900 / 950	6 / 6 / 900 / 1000	6 / 6 / 900 / 1000	6 / 6 / 900 / 950	6 / 6 / 900 / 950	6 / 6 / 900 / 1000	6 / 6 / 900 / 1000	7 / 7 / 900 / 1000	6 / 6 / 900 / 1000	6 / 6 / 900 / 1000	6 / 6 / 900 / 1000	6 / 6 / 900 / 1000	6 / 6 / 900 / 1000	6 / 6 / 900 / 1000	6 / 6 / 1000 / 1000	4 / 4 / 600 / 600
	BxD	950x900	950x900	1000x900	1000x900	950x900	950x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x1000	600x600
	主筋	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	24-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	12-D25
	帯筋	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	⊞-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	⊞-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	⊞-D13@100
4	断面	7 / 7 / 900 / 1000	7 / 7 / 900 / 1000	7 / 7 / 900 / 1000	7 / 7 / 900 / 1000	7 / 7 / 900 / 1000	7 / 7 / 900 / 1000	7 / 7 / 900 / 1000	7 / 6 / 900 / 1000	7 / 7 / 900 / 1000	7 / 7 / 900 / 1000	7 / 7 / 900 / 1000	7 / 7 / 900 / 1000	7 / 7 / 900 / 1000	6 / 6 / 900 / 1000	7 / 6 / 900 / 1000	6 / 6 / 1000 / 1000	4 / 4 / 600 / 600
	BxD	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x900	1000x1000	600x600
	主筋	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	22-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	20-D29	22-D29	20-D29	12-D25
	帯筋	□-D13@100	□-D13@100	⊟-D13@100	⊟-D13@100	□-D13@100	⊟-D13@100	⊟-D13@100	⊟-D13@100	⊟-D13@100	⊟-D13@100	⊟-D13@100	⊟-D13@100	⊟-D16@100	⊟-D13@100	⊟-D16@100	⊟-D13@100	□-D13@100
3	断面	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	6 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 1000 / 1000	4 / 4 / 600 / 600
	BxD	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x1000	600x600
	主筋	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	22-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	12-D25
	帯筋	⊟-D13@100	⊟-D13@100	⊟-D13@100	⊟-D13@100	⊟-D13@100	⊟-S13@100	⊟-D16@100	⊟-D16@100	⊟-D13@100	⊟-S13@100	⊟-D13@100	⊟-S13@100	⊟-S13@100	⊟-D16@100	⊟-D16@100	⊟-D16@100	⊟-D13@100
2	断面	7 / 7 / 950 / 1000	9 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	6 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 950 / 1000	7 / 7 / 1000 / 1000	4 / 4 / 600 / 600
	BxD	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x950	1000x100	600x600
	主筋	24-D29	28-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	22-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	12-D25
	帯筋	⊟-S13@100	⊟-S13@100	⊟-S13@100	⊟-S13@100	⊟-D13@100	⊟-S13@100	⊟-S13@100	⊞-S13@100	⊞-S13@100	⊟-D13@100	⊟-S13@100	⊟-S13@100	⊟-S13@100	⊞-D13@100	⊟-S13@100	⊞-D13@100	⊟-S13@100
1	断面	7 / 7 / 1000 / 1000	9 / 7 / 1100 / 1100			7 / 7 / 1000 / 1000		7 / 7 / 1000 / 1000	6 / 7 / 1000 / 1100		7 / 7 / 1000 / 1000				7 / 7 / 1000 / 1000	7 / 7 / 1000 / 1100	7 / 7 / 1000 / 1000	
	BxD	1000x1000	1100x1100			1000x1000		1000x1000	1100x1000		1000x1000				1000x1000	1100x1000	1000x1000	
	主筋	24-D29	28-D29			24-D29		24-D29	22-D29		24-D29				24-D29	24-D29	24-D29	
	帯筋	⊟-S13@100	▤(X:7,Y:2)-S16@65			⊞-S13@100		▤(X:6,Y:2)-S13@100	▤(X:6,Y:2)-S16@80		⊞-S13@100				⊞-S13@100	▤(X:6,Y:2)-S16@80	⊞-S13@100	

符号	C50	C51	C52
断面	12 / 12 / 1800 / 1800	7 / 7 / 1100 / 1000	7 / 7 / 1100 / 1000
BxD	1800x1800	1000x1100	1000x1100
主筋	44-D29	24-D29	24-D29
帯筋	▦-D13@100	⊞-S13@100	⊞-S13@100

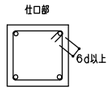
共通事項　（特記無き限り下記による）

1. Dx X Dy



柱脚・柱頭は同断面とする。

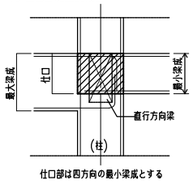
2. HOOP配筋要領　仕口部フープは、⊞-D13@100とする。
帯筋は溶接閉鎖型（センター評価）とする。



3. 材料

鉄筋　D16以下　SD295A 使用
D19以上　SD345 使用
D29以上　SD390 使用

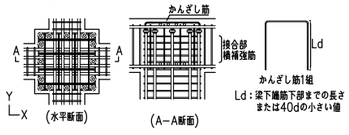
4. 仕口部範囲要領



仕口部は四方向の最小梁成とする

5. 柱頭は機械式定着とする。

機械式定着部かんざし筋要領



6. せん断補強筋のS記号の材料はMK785とする。

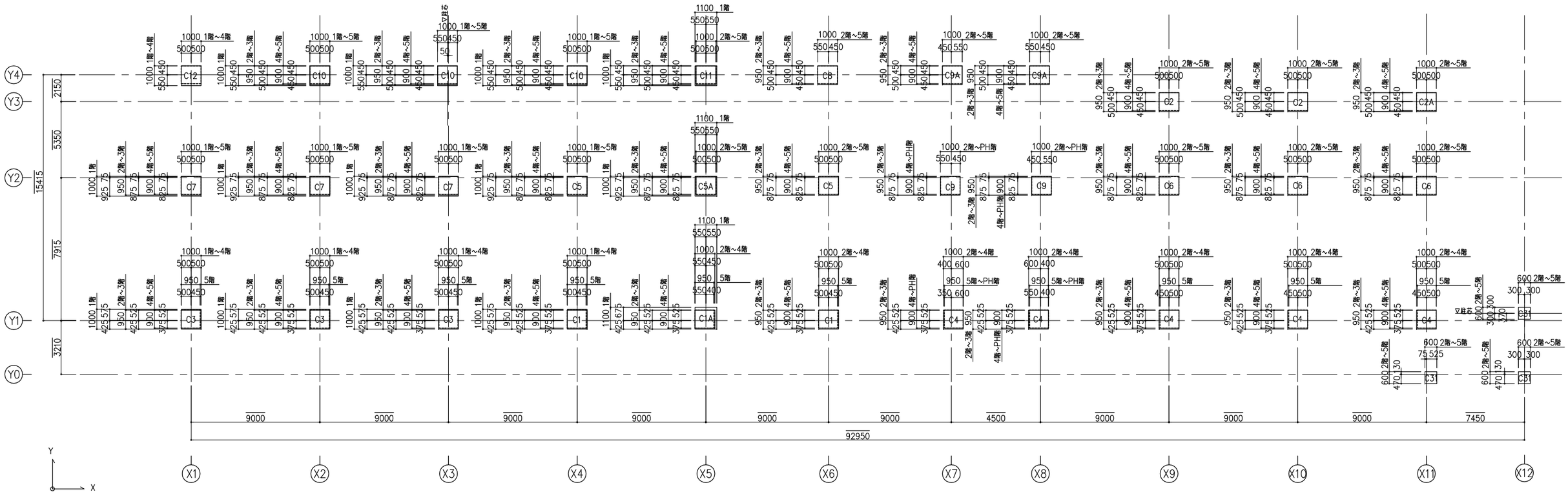
かんざし筋リスト

柱符号	階	配筋 方向	配筋 径	配筋 組数
C1/C1A/C2/C3 C5/C5A/C6/C7 C8/C9A/C11	5	X/Y共	D16	6
C4/C9	PH	X/Y共	D16	6
	5		D16	6
C10	5	X/Y共	D16	6
	4		D16	6
C31	4	X/Y共	D16	3

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	柱リスト	縮尺 1:80(A3) 1:40(A1)	S-40
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(206/224)

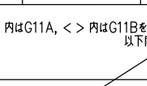
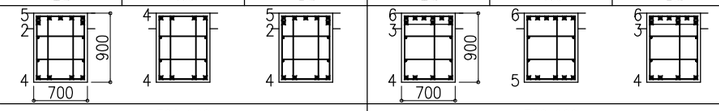
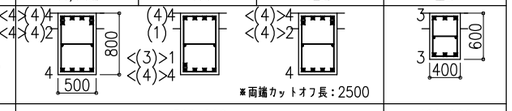
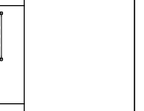
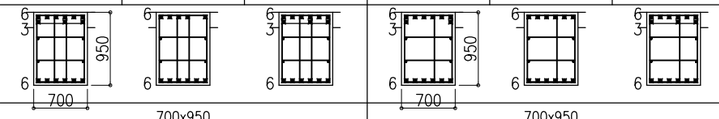
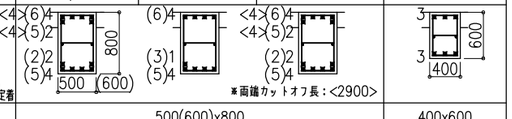
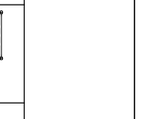
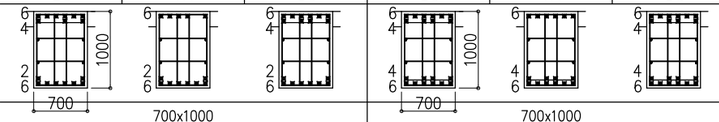
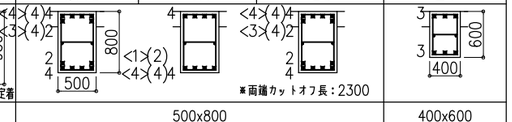
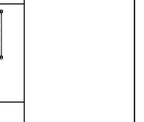
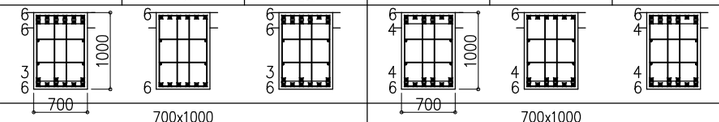
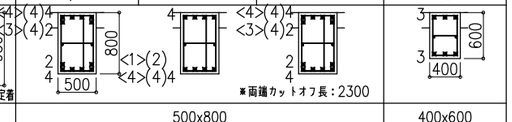
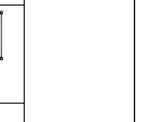
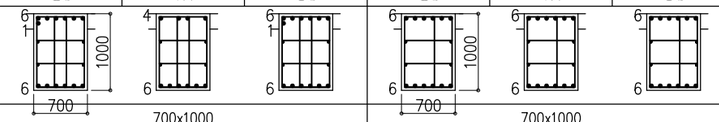
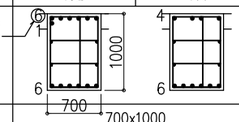
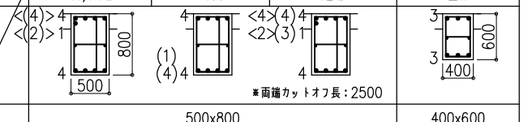
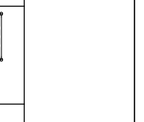


柱芯線図

特記なき限り、下記による。
柱芯＝通り芯

株式会社 大建設計 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和	図面名	柱芯線図	縮尺 1:200(A3) 1:100(A1)	S-40A
	設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春		船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(207/224)

大梁リスト（1）

階	符号	G1			G2			G3, G3A			G4		G5		G6	G11, G11A, G11B			G11W
PHRFL	位置	左端	中央	右端	左端	中央	右端	左端	中央	右端	両端	中央	両端	中央	全断	Y1,Y4端	中央	Y2端	全断
	断面							( )内は、G3Aを示す。以下同じ。								() 内はG11A, < > 内はG11Bを示す。以下同じ。			
	B x D														400x700				400x600
	上端筋														4-D25				3-D29
	下端筋														4-D25				3-D29
	スターラップ														D13-ロ-@200				D13-ロ-@200
	腹筋														2-D10				2-D10
RFL	位置	左端	中央	右端	左端	中央	右端	左端	中央	右端	両端	中央	両端	中央	全断	Y1,Y4端	中央	Y2端	全断
	断面														※機械式定着	 ※両端カットオフ長：2500			
	B x D	700x900			700x900			500x800			700x900		700x900		500x700	500x800			400x600
	上端筋	7-D29	4-D29	7-D29	9-D29	6-D29	9-D29	6(4) -D29	4(7) -D29	6(8) -D29	8-D29	4-D29	8-D29	6-D29	4-D29	6(8)<8> -D29	4(5) -D29	6<(8)> -D29	3-D29
	下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	5-D29	4-D29	4-D29	4(6) -D29	4-D29	4-D29	4-D29	6-D29	6-D29	4-D29	4-D29	5<(7)> -D29	4-D29	3-D29
	スターラップ	D13-[□]-@100			D13-[□]-@200			D13-ロ-@200 (D13-[□]-@150)			D13-[□]-@200		D13-[□]-@200		D13-[□]-@100	D13-ロ<([□])>-@200			D13-ロ-@200
	腹筋	4-D10			4-D10			2-D10			4-D10		4-D10		2-D10	2-D10			2-D10
5FL	位置	左端	中央	右端	左端	中央	右端	左端	中央	右端	両端	中央	両端	中央	全断	Y1,Y4端	中央	Y2端	全断
	断面														※機械式定者	 ※両端カットオフ長：<2900>			
	B x D	700x950			700x950			500x950			700x950		700x950		500x950	500(600)x800			400x600
	上端筋	9-D29	6-D29	9-D29	9-D29	6-D29	9-D29	7(4) -D29	4-D29	7-D29	8-D29	4-D29	8-D29	6-D29	5-D29	6(11)<8> -D29	4(6) -D29	6(11)<8> -D29	3-D29
	下端筋	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6(4) -D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	6-D29	5-D29	6(7) -D29	5(8) -D29	6(7) -D29	3-D29
	スターラップ	D13-[□]-@100			D13-[□]-@200			D13-[□]-@200			D13-[□]-@200		D13-[□]-@200		D13-[□]-@100	D13-ロ-@200 (D13-[□]-@100)			D13-ロ-@200
	腹筋	4-D10 ※Y4通りX2-X4間のみ6-D10とする（柱内L2定着とする）			4-D10			4-D10 ※Y3通りX9-X10間のみ6-D10とする（柱内L2定着とする）			4-D10		4-D10		4-D10	2-D10			2-D10
4FL	位置	左端	中央	右端	左端	中央	右端	左端	中央	右端	両端	中央	両端	中央	全断	Y1,Y4端	中央	Y2端	全断
	断面														※機械式定者	 ※両端カットオフ長：2300			
	B x D	700x1000			700x1000			700x950			700x1000		700x1000		700x950	500x800			400x600
	上端筋	10-D29	6-D29	10-D29	10-D29	6-D29	10-D29	10(6) -D29	6-D29	10-D29	9-D29	6-D29	9-D29	6-D29	9-D29	6(8)<7> -D29	4-D29	6(8)<7> -D29	3-D29
	下端筋	8-D29	8-D29	8-D29	10-D29	10-D29	10-D29	10(6) -D29	6-D29	10-D29	8-D29	8-D29	8-D29	6-D29	9-D29	6-D29	4(6)<5> -D29	6-D29	3-D29
	スターラップ	D13-[□]-@100			D13-[□]-@200			D13-[□]-@100			D13-[□]-@200		D13-[□]-@200		S13-[□]-@100	D13-ロ-@200 (D13-[□]-@150)			D13-ロ-@200
	腹筋	4-D10 ※Y4通りX2-X4間のみ6-D10とする（柱内L2定着とする）			4-D10			4-D10 ※Y3通りX9-X10間のみ6-D10とする（柱内L2定着とする）			4-D10		4-D10		4-D10	2-D10			2-D10
3FL	位置	左端	中央	右端	左端	中央	右端	左端	中央	右端	両端	中央	両端	中央	全断	Y1,Y4端	中央	Y2端	全断
	断面														※機械式定者	 ※両端カットオフ長：2300			
	B x D	700x1000			700x1000			700x950			700x1000		700x1000		700x950	500x800			400x600
	上端筋	12-D29	6-D29	12-D29	10-D29	6-D29	10-D29	10(6) -D29	6-D29	10-D29	10-D29	8-D29	10-D29	6-D29	10-D29	6(8)<7> -D29	4-D29	6(8)<7> -D29	3-D29
	下端筋	9-D29	6-D29	9-D29	10-D29	10-D29	10-D29	10(6) -D29	6-D29	10-D29	8-D29	8-D29	8-D29	8-D29	10-D29	6-D29	4(6)<5> -D29	6-D29	3-D29
	スターラップ	D13-[□]-@100			D13-[□]-@200			D13-[□]-@200			D13-[□]-@200		D13-[□]-@200		S13-[□]-@100	D13-[□<ロ>]-@200(@150)			D13-ロ-@200
	腹筋	4-D10 ※Y4通りX2-X4間のみ6-D10とする（柱内L2定着とする）			4-D10			4-D10			4-D10		4-D10		4-D10	2-D10			2-D10
2FL	位置	左端	中央	右端	左端	中央	右端				両端	中央				Y1,Y4端	中央	Y2端	全断
	断面									※カットオフ長 2700						 ※両端カットオフ長：2500			
	B x D	700x1000			700x1000						700x1000					500x800			400x600
	上端筋	7-D32	4-D32	7-D32	6-D32	6-D32	6-D32				7-D32	4-D32				5<(6)> -D32	4-D32	5(7)<6> -D32	3-D32
	下端筋	6-D32	6-D32	6-D32	6-D32	6-D32	6-D32				6-D32	6-D32				4-D32	4(5) -D32	4-D32	3-D32
	スターラップ	D13-[□]-@200			D13-[□]-@200						D13-[□]-@200					D13-[□]-@200 (D13-[□]-@150)<D13-ロ-●200>			D13-ロ-@200
	腹筋	4-D10			4-D10						4-D10					2-D10			2-D10

株式会社 大建設計 技にこころを 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘 構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和 設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
		図面名	大梁リスト（1）	縮尺 1:80(A3) 1:40(A1)	S-41
			船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(208/224)

大梁リスト（2）

階	符号	G12			G13			G14		G15		G32			G32A			G43
PHRFL	位置	Y1,Y4端	中央	Y2端	Y1,Y3端	中央	Y2端	両端	中央	両端	中央							
	断面																	
	BxD																	
	上端筋																	
	下端筋																	
	スターラップ																	
	腹筋																	
RFL	位置	Y1,Y4端	中央	Y2端	Y1,Y3端	中央	Y2端	両端	中央	両端	中央	左端	中央	右端	左端	中央	右端	全断面
	断面	4 1 4 700 500	4 4	4 3 4 ※両端カットオフ長：2000	4 1 4 700 500	4 4	4 4	4 1 1 4 800 500	4 4	5 4 4 5 950 600	4 5 ※両端カットオフ長：2300	3 3 600 400 ※機械式定着	3 3	3 1 3 ※機械式定着	3 1 3 600 400 ※機械式定着	3 1 3	3 1 3 ※機械式定着	3 3 600 450 ※機械式定着
	BxD	500x700			500x700			500x800		600x950		400x600			400x600			450x600
	上端筋	5-D29	4-D29	7-D29	4-D29			5-D29	4-D29	9-D29	4-D29	3-D25	3-D25	4-D25	4-D29	4-D29	4-D29	3-D29
	下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29			5-D29	4-D29	9-D29	5-D29	3-D25	3-D25	3-D25	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29
	スターラップ	D13-□-@200			D13-ロ-@200			D13-ロ-@200		D13-□-@200		D13-ロ-@200			D13-□-@100			D13-□-@100
	腹筋	2-D10			2-D10			2-D10		4-D10		2-D10			2-D10			2-D10
5FL	位置	Y1,Y4端	中央	Y2端	Y1,Y3端	中央	Y2端	両端	中央	両端	中央	左端	中央	右端	左端	中央	右端	全断面
	断面	4 3 3 4 700 500	4 4	4 3 3 4	4 1 1 4 700 500	4 4	4 2 4	4 3 3 4 800 500	4 4	5 3 2 5 950 600	4 5	3 3 600 400 ※機械式定着	3 3	3 3 ※機械式定着	3 1 3 600 400 ※機械式定着	3 3	3 1 3 ※機械式定着	3 3 600 400 ※機械式定着
	BxD	500x700			500x700			500x800		600x950		400x600			400x600			400x600
	上端筋	7-D29	4-D29	7-D29	5-D29	4-D29	6-D29	7-D29	4-D29	8-D29	4-D29	3-D29	3-D29	3-D29	4-D29	3-D29	4-D29	3-D29
	下端筋	7-D29	4-D29	7-D29	5-D29	4-D29	4-D29	7-D29	4-D29	7-D29	5-D29	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29
	スターラップ	D13-□-@100			D13-□-@100			D13-□-@100		D13-□-@100		D13-ロ-@200			D13-ロ-@200			D13-□-@100
	腹筋	2-D10			2-D10			2-D10		4-D10		2-D10			2-D10			2-D10
4FL	位置	Y1,Y4端	中央	Y2端	Y1,Y3端	中央	Y2端	両端	中央	両端	中央	左端	中央	右端	左端	中央	右端	全断面
	断面	4 3 3 4 700 500	4 2 4	4 3 3 4	4 3 3 4 700 500	4 4	4 3 3 4	4 3 3 4 800 500	4 4 ※両端カットオフ長：1700	5 3 2 5 950 600	4 5	3 3 600 400 ※機械式定着	3 3	3 1 3 ※機械式定着	3 3 750 400 ※機械式定着	3 3	3 3 ※機械式定着	3 3 600 400 ※機械式定着
	BxD	500x700			500x700			500x800		600x950		400x600			400x750			400x600
	上端筋	7-D29	4-D29	7-D29	7-D29	4-D29	7-D29	7-D29	4-D29	8-D29	4-D29	3-D29	3-D29	4-D29	6-D29	3-D29	3-D29	3-D29
	下端筋	7-D29	6-D29	7-D29	7-D29	4-D29	7-D29	7-D29	4-D29	7-D29	5-D29	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29
	スターラップ	D13-□-@100			D13-□-@100			S13-□-@100		D13-□-@100		D13-ロ-@200			D13-□-@100			D13-□-@100
	腹筋	2-D10			2-D10			2-D10		4-D10		2-D10			2-D10			2-D10
3FL	位置	Y1,Y4端	中央	Y2端	Y1,Y3端	中央	Y2端	両端	中央	両端	中央	左端	中央	右端	左端	中央	右端	全断面
	断面	4 4 3 4 700 500	4 2 4	4 4 3 4	4 3 3 4 700 500	4 4	4 3 3 4	4 3 3 4 800 500	4 4	5 3 5 950 600	4 5 ※両端カットオフ長：2200	3 1 3 600 400 ※機械式定着	3 3	3 1 3 ※機械式定着	3 2 3 600 400 ※機械式定着	3 3	3 1 3 ※機械式定着	3 1 3 600 400 ※機械式定着
	BxD	500x700			500x700			500x800		600x950		400x600			400x600			400x600
	上端筋	8-D29	6-D29	8-D29	7-D29	4-D29	7-D29	7-D29	4-D29	8-D29	4-D29	4-D29	3-D29	4-D29	5-D29	3-D29	4-D29	4-D29
	下端筋	7-D29	4-D29	7-D29	7-D29	4-D29	7-D29	7-D29	4-D29	5-D29	5-D29	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29
	スターラップ	D16-□-@100			D13-□-@100			D13-□-@100		D13-□-@200		D13-ロ-@200			D13-□-@200			D13-□-@100
	腹筋	2-D10			2-D10			2-D10		4-D10		2-D10			2-D10			2-D10
2FL	位置	Y1,Y4端	中央	Y2端														
	断面	4 4 700 500	4 4	4 4														
	BxD	500x700																
	上端筋	4-D32																
	下端筋	4-D32																
	スターラップ	D13-□-@200																
	腹筋	2-D10																

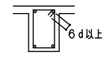
符号	CG1
位置	全断面
断面	4 4 4 750 500
BxD	500x750
上端筋	8-D29
下端筋	4-D29
スターラップ	D13-□-@150
腹筋	2-D10

符号	CG2
位置	全断面
断面	4 4 4 850 500
BxD	500x850
上端筋	8-D29
下端筋	4-D29
スターラップ	D13-□-@200
腹筋	2-D10

共通事項（特記なき限り下記による）

1. BxD

2. STP配筋要領



3. 幅止筋

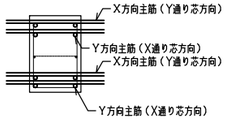
D10-@1000

4. 材料

鉄筋　D16以下　SD295A 使用
　　D19以上　SD345 使用
　　D29以上　SD390使用

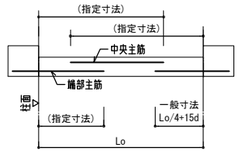
高強度せん断補強筋
　S記号の材料はKSS785とする。

5. 主筋配置要領



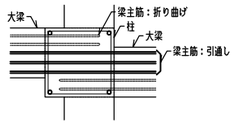
6. 主筋カットオフ要領

断面部の（ ）内数値は、
主筋カットオフ寸法を示す。

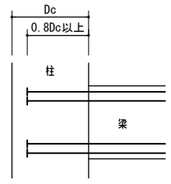


7. 梁配置が平面上でずれる場合。

・可能な限り、梁主筋を引き通す事。



8. 端部機械式定着要領



株式会社 大建設計 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
	構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和	図面名	大梁リスト（2）	縮尺 1:80(A3) 1:40(A1)	S-42
	設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春		船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(209/224)

小梁リスト

符号	B0	B1,B1A ()内数値は、B1Aを示す。			B2			B3			B4			B5	B6		B6A		
位置	中央	連続端	中央	他端	連続端	中央	他端	連続端	中央	他端	連続端	中央	他端	全断面	両端	中央	両端	中央	
断面	2 / 2	4/4 / 4	3 / 4(4/4)	3 / 3	4/1 / 3	3 / 3	3 / 3	4/1 / 3	3 / 4	3 / 3	4/2 / 3	3 / 4	3 / 3	3 / 3	4 / 4	4 / 4/4	4 / 4	4 / 4/4	
B x D	250x450	400x750			350x700			350x700			350x700			300x650	400x750		400x800		
上端筋	2-D19	8-D22	3-D22	3-D22	5-D19	3-D19	3-D19	5-D19	3-D19	3-D19	6-D19	3-D19	3-D19	3-D19	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	
下端筋	2-D19	4-D22	4(8)-D22	3-D22	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	4-D19	3-D19	3-D19	4-D19	3-D19	3-D19	4-D22	8-D22	4-D22	8-D22	
スターラップ	D10-ロ-@200	D10-ロ-@150			D10-ロ-@200			D10-ロ-@200			D10-ロ-@200			D10-ロ-@200	D10-ロ-@150		D13-ロ-@150		
腹筋	-	2-D10			2-D10			2-D10			2-D10			2-D10	2-D10		2-D10		

符号	B6B		B6C		B7		B8		B9		B10			B11	B12	B13	B14			
位置	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	連続端	中央	他端	全断面	全断面	全断面	連続端	中央	他端	
断面	5/2 / 5 / 450 / 800	5 / 5/5	4 / 4/2 / 400 / 800	4 / 4/4	3 / 3	3 / 4/2	3 / 3	3 / 3/2	4/2 / 3	3 / 4/1	5/2 / 5	5 / 5/3	5 / 5	3 / 3 / 350 / 600	3 / 3 / 350 / 600	2 / 2 / 250 / 450	3/2 / 3	3 / 3/2	3 / 3	
B x D	450x800		400x800		350x700		300x650		400x750		500x900			350x600	350x600	250x450	400x600			
上端筋	7-D25	5-D25	4-D25	4-D25	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	6-D22	3-D22	7-D22	5-D22	5-D22	3-D25	3-D25	2-D19	5-D22	3-D22	3-D22	
下端筋	5-D25	10-D25	6-D25	8-D25	3-D19	6-D19	3-D19	5-D19	3-D22	5-D22	5-D22	8-D22	5-D22	3-D25	3-D25	2-D19	3-D22	5-D22	3-D22	
スターラップ	D13-ロ-@150		D10-ロ-@150		D10-ロ-@200		D10-ロ-@200		D10-ロ-@150		D13-□-@200			D10-ロ-@200	D10-ロ-@200	D10-ロ-@200	D10-ロ-@150			
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10		4-D10			2-D10	2-D10	2-D10	2-D10			

スラブリスト

符号	スラブ厚	位置	短辺方向(主方筋) 端部	短辺方向(主方筋) 中央	長辺方向(配方筋) 端部	長辺方向(配方筋) 中央	備考
S1	150	上端筋	D10D13@200	←	D10@200	←	1階は、一方向版とする。
		下端筋	D10@200	←	D10@200	←	
S3	150	上端筋	D13@200	←	D10@150	←	
		下端筋	D10D13@200	←	D10@150	←	
S5	150	上端筋	D13@200	←	D13@200	←	
		下端筋	D10D13@200	←	D10D13@200	←	
S6	180	上端筋	D13@150	←	D10D13@200	←	一方向版
		下端筋	D10D13@150	←	D10D13@200	←	
S7	180	上端筋	D13@200	←	D10D13@200	←	
		下端筋	D10D13@200	←	D10D13@200	←	
S8,S1A	200	上端筋	D13@100	←	D10D13@200	←	
		下端筋	D13@100	←	D10D13@200	←	

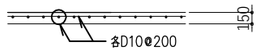
片持ちスラブリスト

符号	スラブ厚 元端	スラブ厚 先端	位置	短辺方向(主方筋) 端部	短辺方向(主方筋) 中央	長辺方向(配方筋) 端部	長辺方向(配方筋) 中央	備考
CS1	180	180	上端筋	D10D13@200	←	D10@200	←	CS1Aは先端側にS-27
(CS1A)	(200)	(200)	下端筋	D10@200	←	D10@200	←	記載の補強筋を配置する。
CS2	220	180	上端筋	D10D13@150	←	D10@200	←	CS2Aは先端側にS-25~27
(CS2A)	(240)	(200)	下端筋	D10@150	←	D10@200	←	記載の補強筋を配置する。
CS3	220	180	上端筋	D10D13@200	←	D10@200	←	
			下端筋	D10@200	←	D10@200	←	
CS5	250	200	上端筋	D13@200	←	D10@200	←	
			下端筋	D10@200	←	D10@200	←	
CS6	300	200	上端筋	D13@150	←	D10@200	←	
			下端筋	D10@150	←	D10@200	←	

耐圧版リスト

符号	スラブ厚	位置	短辺方向(主方筋) 端部	短辺方向(主方筋) 中央	長辺方向(配方筋) 端部	長辺方向(配方筋) 中央	備考
FS1	250	上端筋	D13D16@150	←	D13@150	←	
		下端筋	D13@150	←	D13@150	←	
FS4	250	上端筋	D16@150	←	D13D16@200	←	
		下端筋	D13@150	←	D13@200	←	

土間コンクリート配筋図

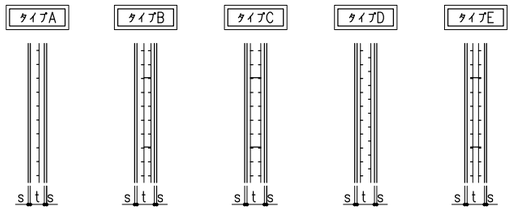


壁リスト

(注) EW表示は耐力壁、W表示は非耐力壁、BWは土圧壁を示す。

採用タイプ

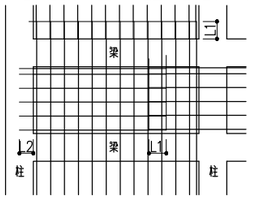
縦断面



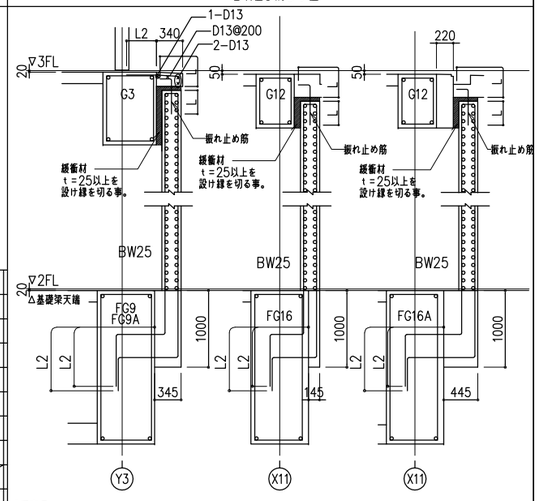
符号	W15,(W15B)	W18	W20,KW20	EW18	EW20	EW25	EW30	EW35	BW25
タイプ	D(B,C,E)	B,C,E	B,C,E	B,C,E	B,C,E	B,C,E	B,C,E	B,C,E	C
壁厚 t	150	180	200	180	200	250	300	350	250
かぶり厚さ 屋外	40	40	40	40	40	40	40	40	40
かぶり厚さ 屋内	40	40	40	40	40	40	40	40	40
縦筋	D13@150ダブルドリ	D13@150ダブル	D16@100ダブル	D13@150ダブル	D19@200ダブル	D19@150ダブル	D19@100ダブル	D22@150ダブル	D22@100
横筋	D13@150ダブルドリ	D13@150ダブル	D13@200ダブル	D13@100ダブル	D19@200ダブル	D19@150ダブル	D19@100ダブル	D22@100ダブル	D22@100
幅止め筋	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D10@1,000	D22@100
開口補強 縦筋				2-D16	2-D16	2-D16	4-D16	4-D16	
開口補強 横筋				2-D16	2-D16	2-D16	4-D22	4-D22	
開口補強 斜筋				2-D13	2-D16	2-D16	4-D19	4-D19	

壁筋納まり図(壁筋の定着及び継手長さ)

継手長さはL1、定着長さはL2とし、位置は下図を基本とする。



BW25納まり図



共通事項
1. 振れ止め筋は、D13@400とする。
2. 振れ止め筋 L寸法は、250mmとする。
3. 振れ止め筋のスリット部は防錆塗装とする。

東空中歩廊 鉄骨部材リスト

特記なき限り下記による。
1. 鉄骨材質: HTBは 高力ボルトS10T を示す。

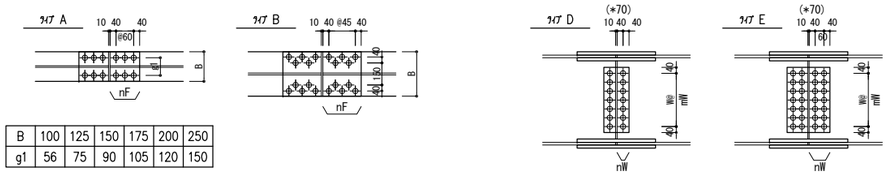
符号	部材	材質	接合部	備考
EP20W	H-200×200×8×12	SN400B	GPL-9, H.T.B. 3-M20	
EG1	H-294×200×8×12	SN400B	継ぎ手リストによる	4階は亜鉛メッキ部材
EB25	H-250×125×6×9	SN400B	GPL-6, H.T.B. 3-M16	4階は亜鉛メッキ部材
EV1	φ139.8×4.0	STK400	GPL-12, H.T.B. 4-M22	亜鉛メッキ部材、高力ボルトはF8T
EV2	L-75×75×12	SN400B	GPL-9, H.T.B. 4-M20	
EHV3	L-90×90×10	SN400B	GPL-9, H.T.B. 4-M20	亜鉛メッキ部材
EHB1	H-100×100×6×8	SN400B	GPL-9, H.T.B. 2-M16	横使い
EDS1	QL99-50-1.0			普通コンクリート山上80mm

東空中歩廊 剛接合継手リスト

特記なき限り下記とする。
1. 鋼材 主材と同材質 2. ボルト材質 F10T

部材			フランジ材 外F.PL	フランジ材 内F.PL	ウェブ材					備考
	タイプ	H.T.B(nF)			タイプ	mW x nW	H.T.B	W@	W.PL	
H-294×200× 8×12	A	3-M20	PL- 9x200x410	2PL- 9x80x410	D	3x1	3-M20	60	2PL- 9x200x170	
H-294×200× 8×12	A	3-M20	PL- 9x200x410	2PL- 9x80x410	E	3x2	6-M20	60	2PL- 9x200x290	亜鉛メッキ部材継手, ボルトF8T
H-200×200× 8×12	A	2-M20	PL- 9x200x290	2PL- 9x80x290	D	2x1	2-M20	60	2PL- 6x140x230	

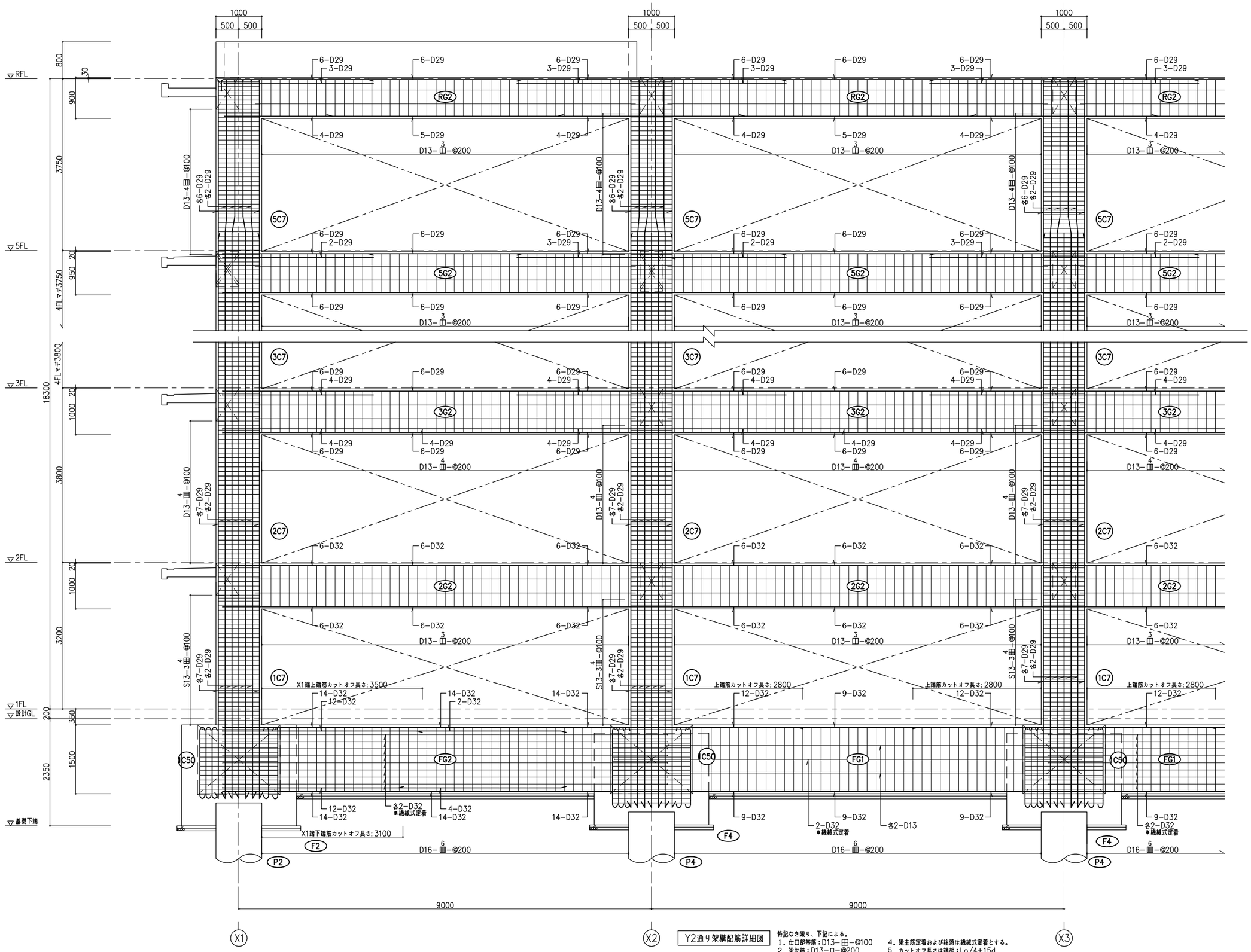
フランジ及び、ウェブ厚に1mm以上差のある場合は、フィラプレート併用のこと。



B	100	125	150	175	200	250
g1	56	75	90	105	120	150

株式会社 大建設計
一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号
一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘
構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和
設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春

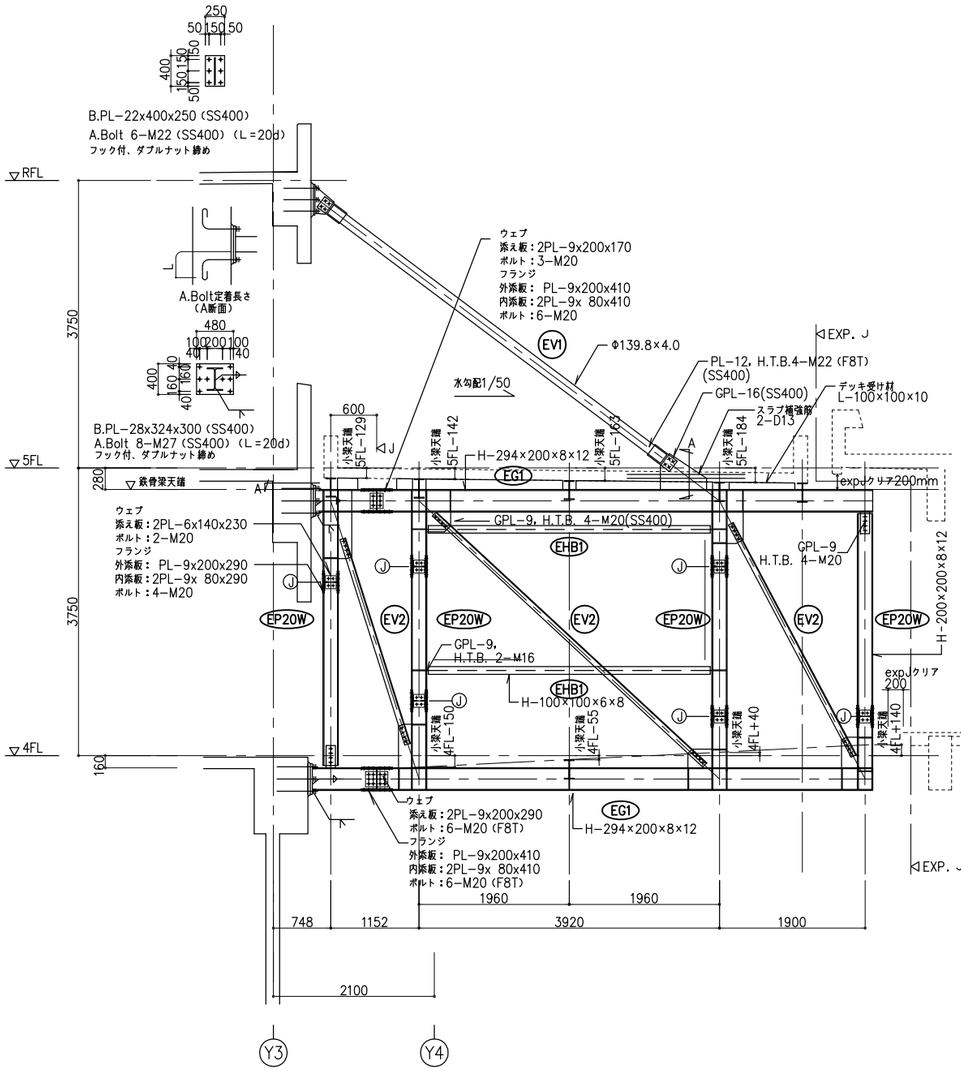
工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	小梁、壁、スラブ、鉄骨部材リスト	縮尺 1:80(A3) 1:40(A1)	S-43
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(210/224)



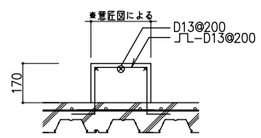
Y2通り架構配筋詳細図

特記なき限り、下記による。
1. 仕口部帯筋：D13-田-@100
2. 梁肋筋：D13-ロ-@200
3. 梁腹筋：各2-D10
4. 梁主筋定着および柱頭は機械式定着とする。
5. カットオフ長さは端部：Lo/4+15d
中央：Lo/4+20d

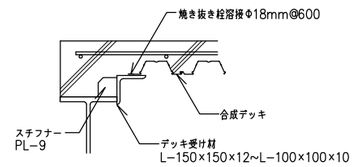
株式会社 大建設計 技にこころを 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘 構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和 設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
		図面名	架構配筋詳細図	縮尺 1:80(A3) 1:40(A1)	S-44
			船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(211/224)



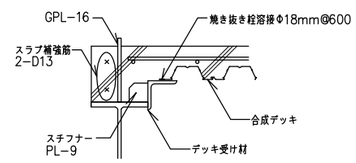
東空中歩廊　手摺基礎配筋要領



東空中歩廊　床面を嵩上げする場合の受け要領



東空中歩廊　スラブ補強配筋詳細図



A矢視図

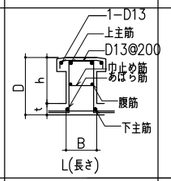
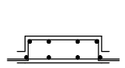
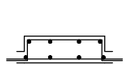
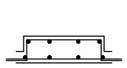
東空中歩廊　鉄骨架構詳細図

特記なき限り、下記による。
1．鉄骨材質：SN400B
　継手の鉄骨材質は母材と同材質とする。
2．ボルト：F10T
3．G.PLの振止めPLはPL−9とする。
4．◁J は、鉄骨継手位置を示す。

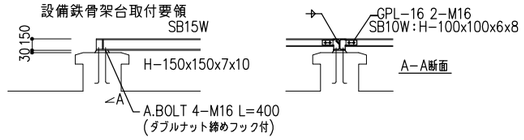
株式会社 大建設計 技にこころを 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　(第 274708号)　山岡　信弘 構造設計一級建築士(第 6608号)　長坂　典和 設備設計一級建築士(第 753号)　鈴木　光春	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
		図面名	東空中歩廊　鉄骨架構詳細図	縮尺 1:80(A3) 1:40(A1)	S-45
			船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(212/224)

雑詳細

設備基礎リスト

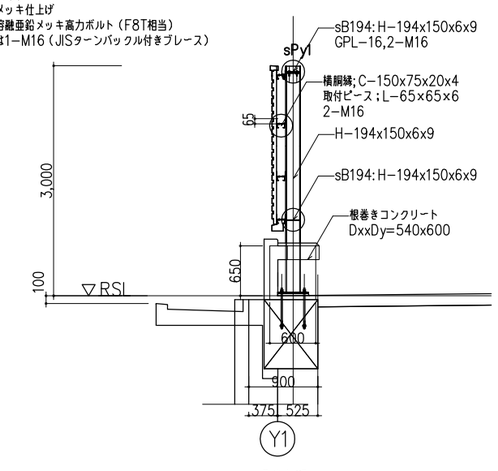
種　類	設備基礎2	設備基礎1	機械基礎1	機械基礎2	機械基礎3	機械基礎4
位　置	屋上	屋上	1F機械室	1F機械室	1F機械室	1F外部
断　面						
B×D(h)L	400x750(600)1000	400x750(600)1000	500x650(500)1400	1000x350(200)2000	1050x350(200)1600	700x350(200)300
上主筋	2−D19	2−D19	2−D19	4−D13	4−D13	4−D13
下主筋	2−D19	2−D19	2−D19	4−D13	4−D13	4−D13
あばら筋	D13−⊓−@200	D13−⊓−@100	D13−⊓−@200	D13−⊓−@200	D13−⊓−@200	D13−⊓−@200
腹　筋	2−D13	2−D13	2−D13	−	−	−

設備鉄骨架台取付要領

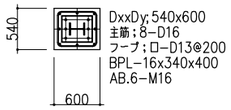


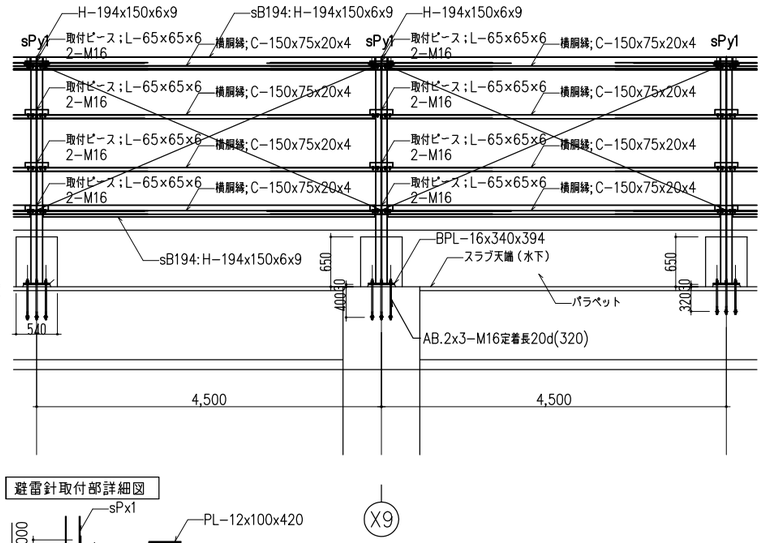
目隠しルーバー鉄骨

特記なき限り以下とする。
1) 鋼材はSS400
2) 溶融亜鉛メッキ仕上げ
3) ボルトは溶融亜鉛メッキ高力ボルト（F8T相当）
4) ブレースは1−M16（JISターンバックル付きブレース）

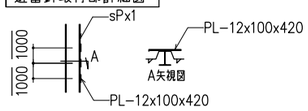


根巻き部



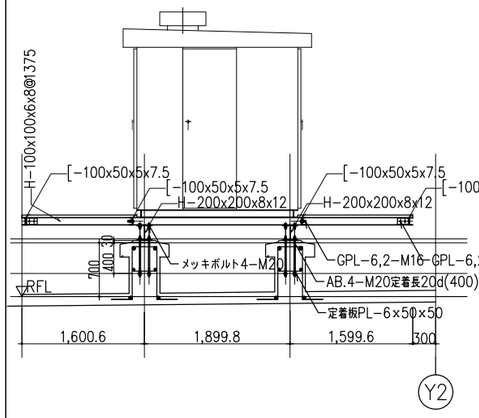


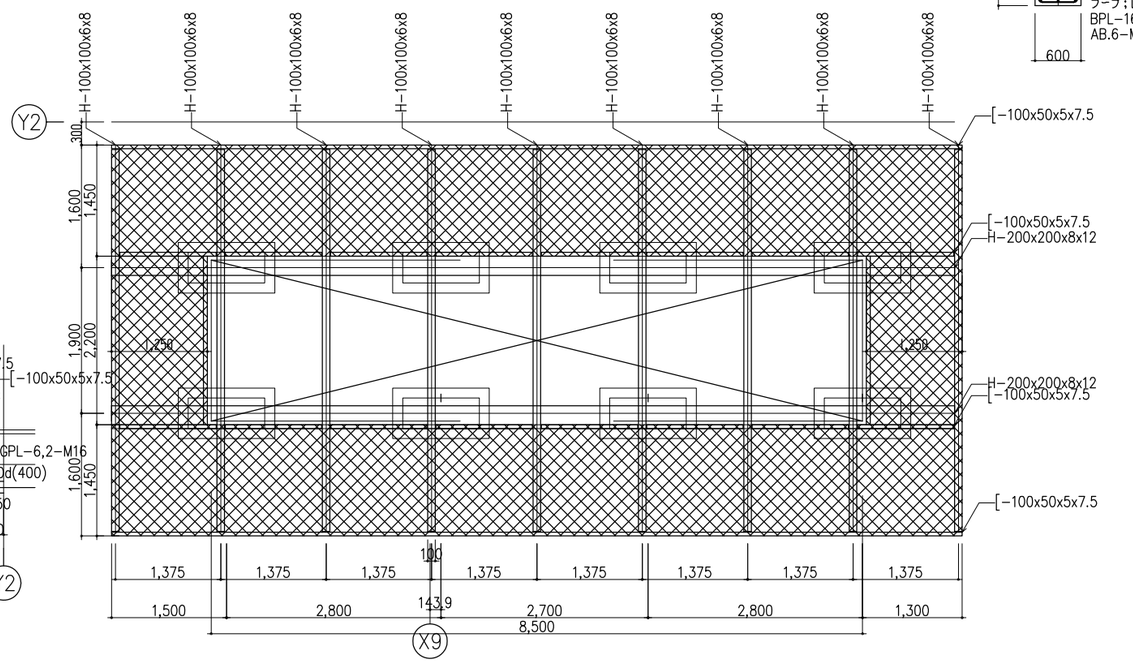
避雷針取付部詳細図



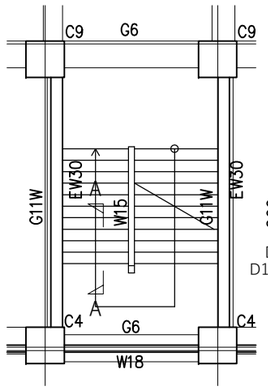
キュービクル架台

特記なき限り以下とする。
1) 鋼材はSS400
2) 溶融亜鉛メッキ仕上げ
3) ボルトは溶融亜鉛メッキ高力ボルト（F8T相当）

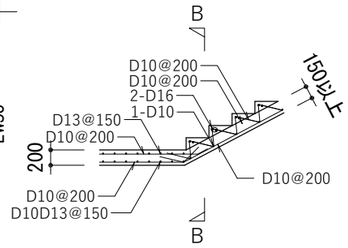




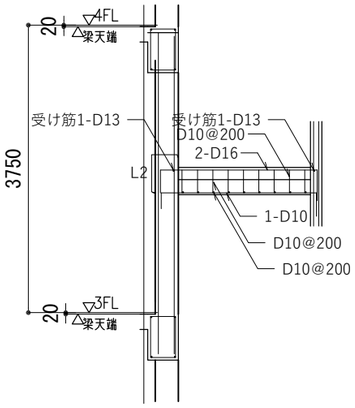
新校舎棟　RC中央階段配筋図



階段伏せ図　1：60

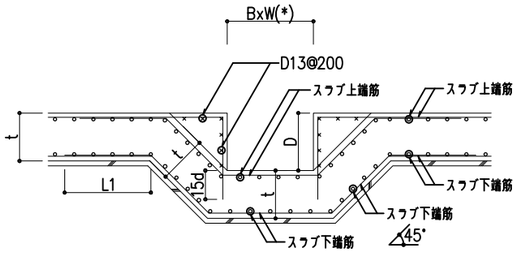


A 矢視図　1：30

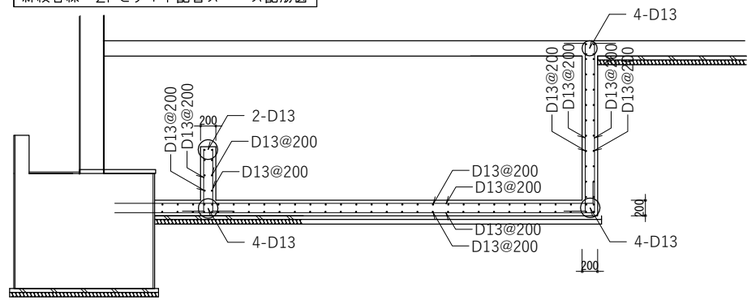


B 矢視図　1：30

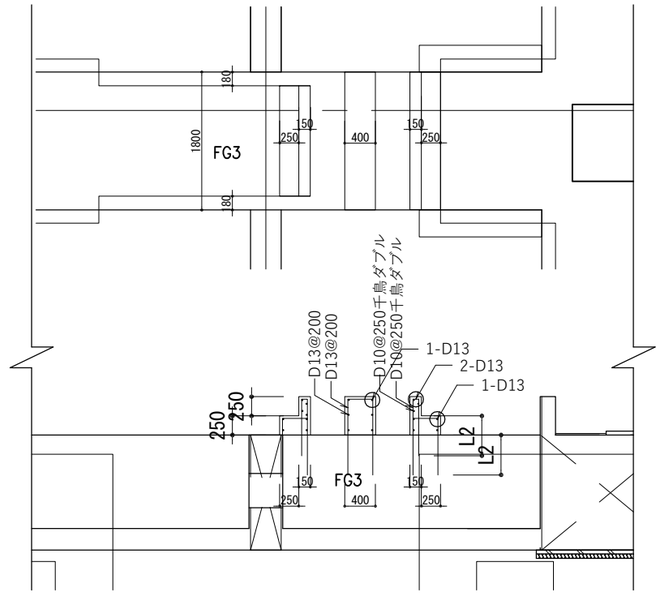
新校舎棟　釜場配筋図



新校舎棟　2Fピット下配管スペース配筋図

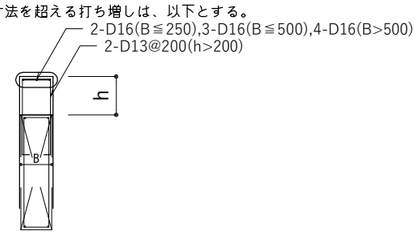


新校舎棟　雨水貯留槽周り渡り板基礎配筋図

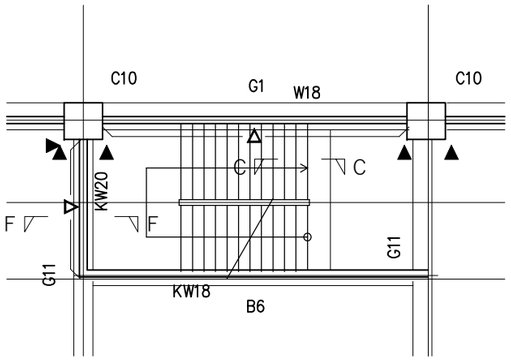


新校舎棟　梁上打ち増し要領図

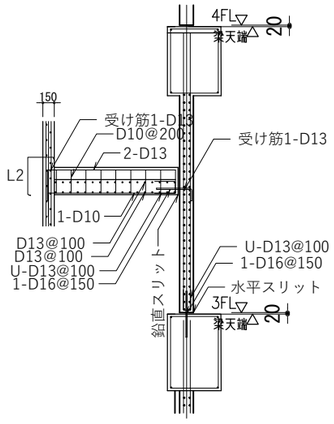
規準図の寸法を超える打ち増しは、以下とする。



新校舎棟　RC西階段配筋図

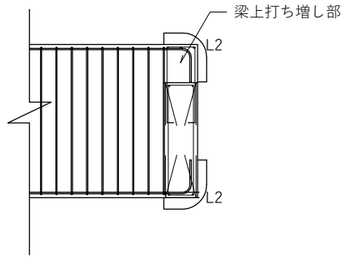


階段伏せ図　1：60

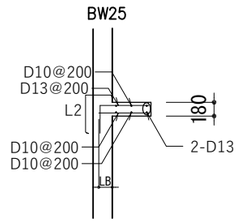


D 矢視図　1：30

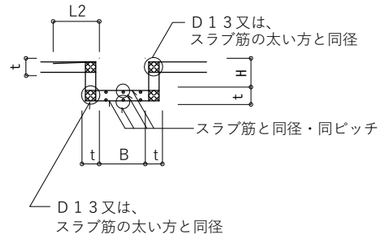
新校舎棟　梁上打ち増し部小梁定着要領図



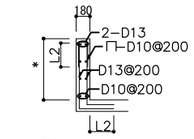
新校舎棟　升受けスラブ配筋図



側溝配筋要領図

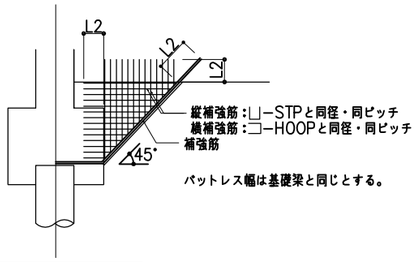


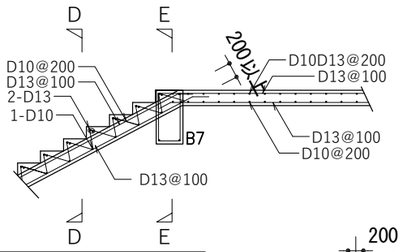
新校舎棟　パラペット配筋要領図



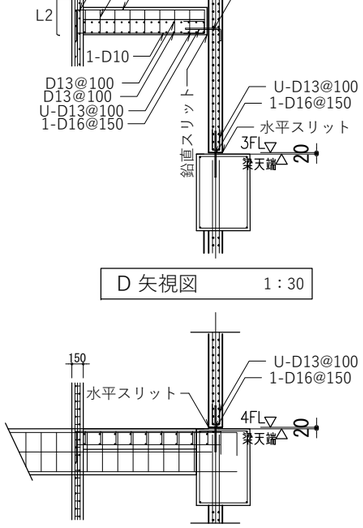
＊寸法は意匠図による

バットレス配筋要領

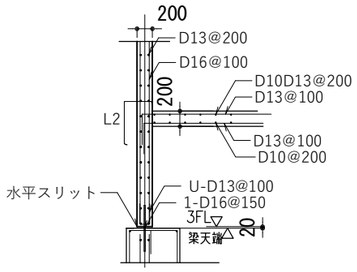




C 矢視図　1：30



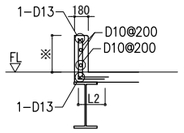
E 矢視図　1：30



F 矢視図　1：30

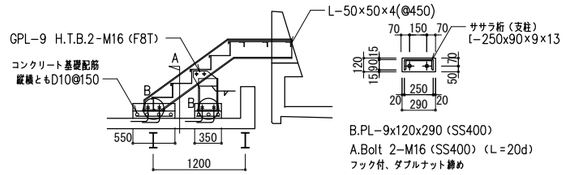
空中歩廊　パラペット配筋要領図

・＊表示寸法は意匠図による

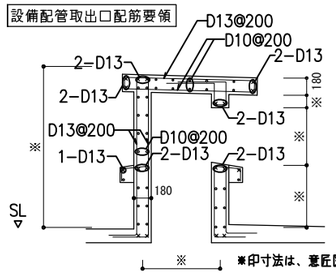


空中歩廊　屋上点検用階段 取付要領

・＊表示寸法は意匠図による



設備配管取出口配筋要領

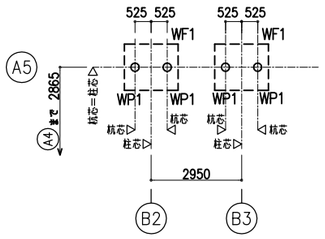


＊印寸法は、意匠図による

株式会社 大建設計
技にこころを
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

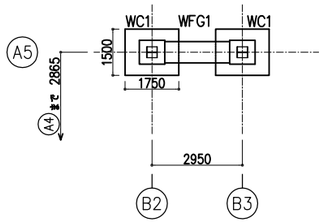
一級建築士　(第 274708号)　山岡　信弘
構造設計一級建築士(第 6608号)　長坂　典和
設備設計一級建築士(第 753号)　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	雑詳細図（2）	縮尺 1:80(A3) 1:40(A1)	S-47
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(214/224)



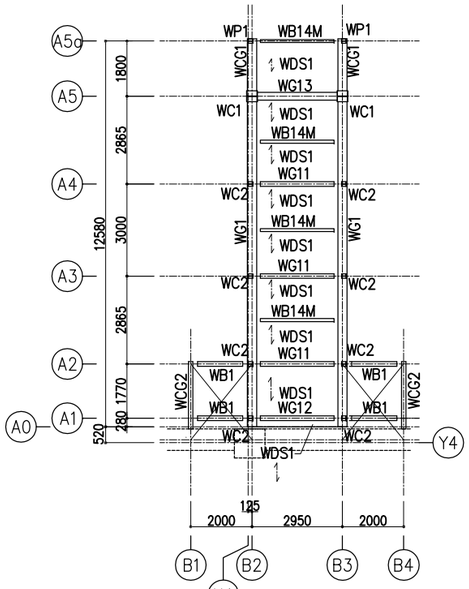
杭伏図

特記なき限り、下記による。
1. 基礎下端レベルは、GL−2600
2. 杭天端レベルは、GL−2400
3. 杭種：鋼管杭
4. 支持層：GL−9.14m以深の砂質層



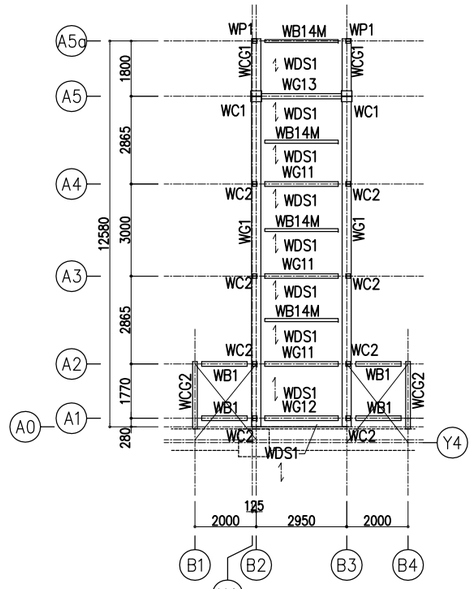
1階　床伏図

特記なき限り、下記による。
1. 基礎梁下端レベルは、GL−2300
2.



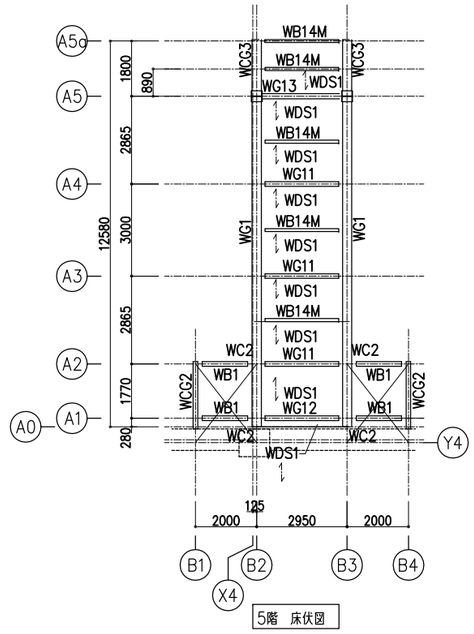
3階　床伏図

特記なき限り、下記による。
1. スラブ天端位置は、新校舎躯側FL−20、既存建物側FL+450
2. 大梁天端位置は、新校舎躯側FL−150、既存建物側FL+320
3. ←→は、デッキ方向を示す。
4. 柱芯＝通芯とする。
5. 水平ブレースの符号は、WHV1とする。



4階　床伏図

特記なき限り、下記による。
1. スラブ天端位置は、新校舎躯側FL−20、既存建物側FL+280
2. 大梁天端位置は、新校舎躯側FL−150、既存建物側FL+150
3. ←→は、デッキ方向を示す。
4. 柱芯＝通芯とする。
5. 水平ブレースの符号は、WHV1とする。



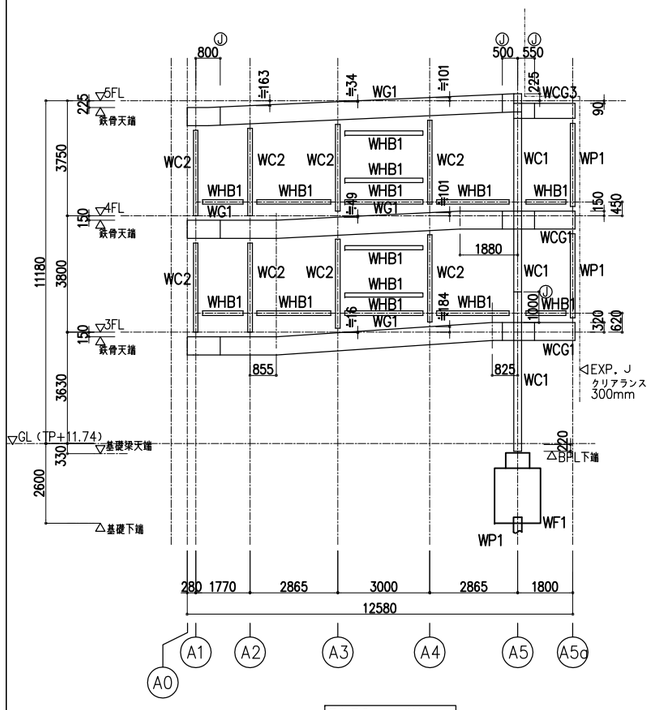
5階　床伏図

特記なき限り、下記による。
1. スラブ天端位置は、新校舎躯側FL−95、既存建物側FL+355
2. 大梁天端位置は、新校舎躯側FL−225、既存建物側FL−10
3. ←→は、デッキ方向を示す。
4. 柱芯＝通芯とする。
5. 水平ブレースの符号は、WHV1とする。

Y
X

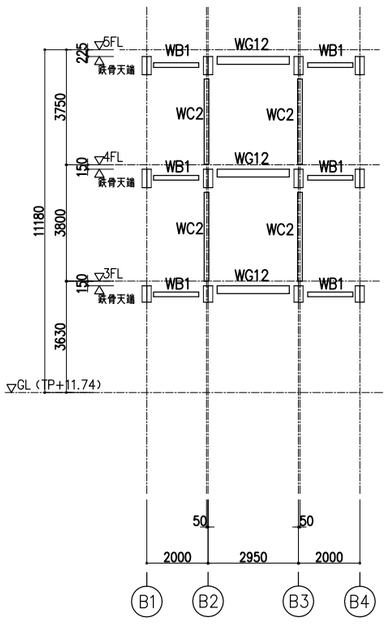
杭リスト　特記なき限り、継手は、溶接継手とする。

杭仕様		工法：スクリューパイルEAZET同等工法						合計：4本	
符号	記号	杭頭深度 (mm)	杭先端深度 (mm)	杭長 (mm)	杭種 上杭	杭種 下杭 杭本体部	杭種 下杭 先端羽	セット数	長期許容支持力 (kN)
WP1	◯	GL−2400	GL−9,140	7,000	φ267.4−t8.0 [SEAH590]STKT590 (1.0m)	φ267.4−t8.0 STK490 (6.0m)	φ750−t32.0 SM490A (−)	4	463



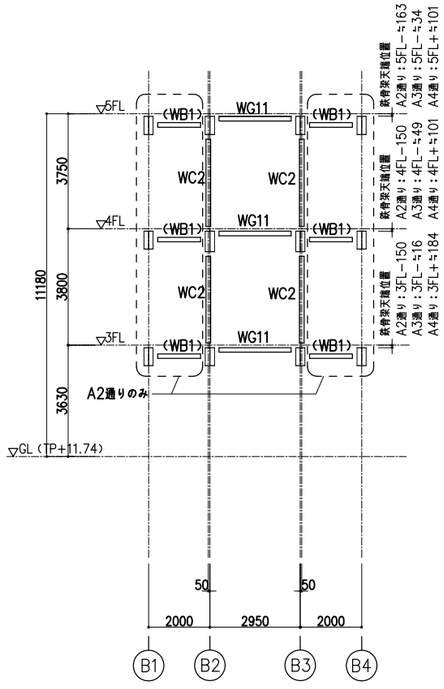
B1,B2通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1.
2.



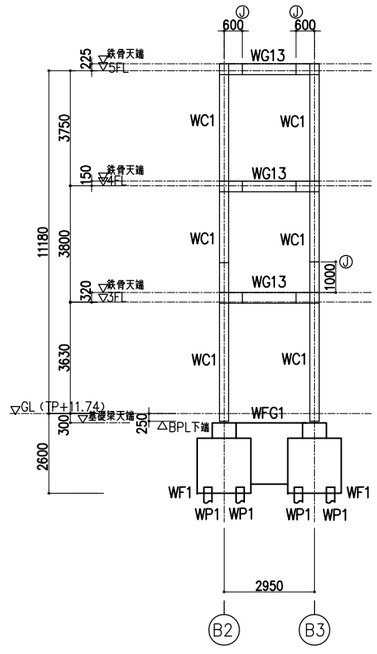
A1通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. WB1の鉄骨天端レベルは、各階鉄骨梁天端より−200とする。
2.



A2,A3,A4通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1. （ ）内は、A2通りの符号を示す。
2. WB1の鉄骨天端レベルは、各階鉄骨梁天端より−200とする。

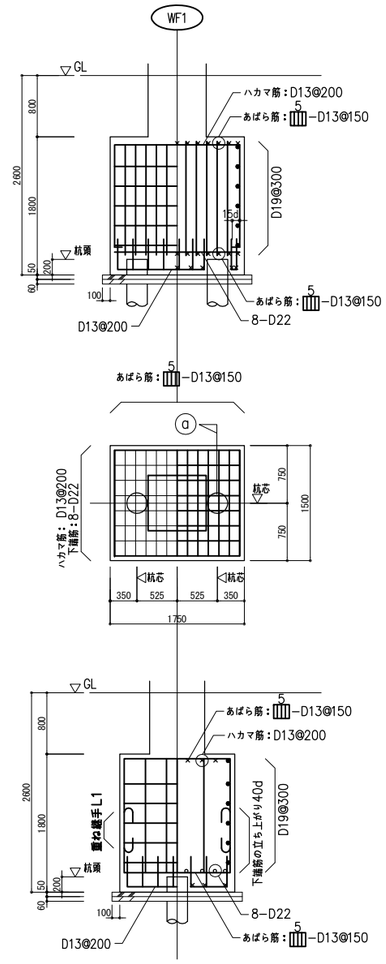


A5通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1.
2.

株式会社 大建設計 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事			図面番号
	構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和	図面名	西空中歩廊　各階伏図　軸組図	縮尺	1:200(A3) 1:100(A1)	S-48
	設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春	船橋市建設局建築部建築課		令和7年度		(215/224)

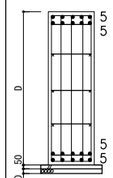
基礎リスト 1:40



a 矢視図

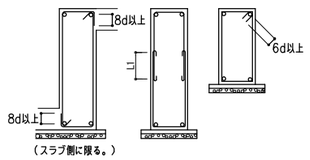
基礎梁リスト 1:40

特記なき限り下記とする。
1. 鉄筋 D10~D16(SD295),D29~(SD390)
2. 幅止め筋 D10-@1,000
3. コンクリート設計基準強度 Fc30
4. S13の材質 MK785 同等以上

符号	WFG1		
位置	全断		
断面			
B x D	700x2000		
上端筋	5/5-D29		
下端筋	5/5-D29		
肋筋	S13-@150		
腹筋	6-D10		

（特記なき限り下記による）

1．STP配筋要領（下記いずれかによる。）



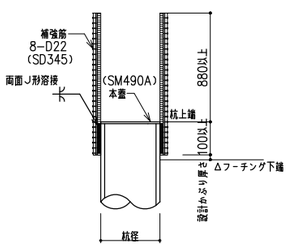
柱リスト 1:40

特記なき限り下記とする。
1. 鉄筋 D10~D16(SD295),D19~D25(SD345)
2. 幅止め筋 D10-@1,000
3. コンクリート設計基準強度 Fc30
4. 3階の部材は亜鉛メッキとする。

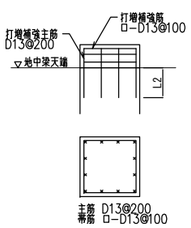
		WC1	WC2
4~5階		H-300x300x10x15x13（SN490B）	H-150x150x 7x10x 8（SN400B）
3階		H-300x300x10x15x13（SN490B）	
柱脚	柱脚記号	HH3031（ISベース同等品）	
	柱脚部		
	アンカーボルト	4-M36	
	ベースプレート	510x470x40（SN490B）	
	礎柱配筋		
	柱形断面	760x720	
	コンクリート強度	Fc30	
	柱主筋	14-D22	
	帯筋	D13@150	
接合部		剛接合継ぎ手リストによる	GPL-9，H.T.B.3-M16
有効細長比		λx = 30.3，λy = 52.5	λx = 59.4，λy = 100.8

杭頭補強詳細

全ての基礎で杭頭補強筋の配筋を行う。



基礎柱増打詳細図



大梁リスト

特記なき限り下記とする。
1. 鋼材 SN400B
2. 3階の部材は亜鉛メッキとする。

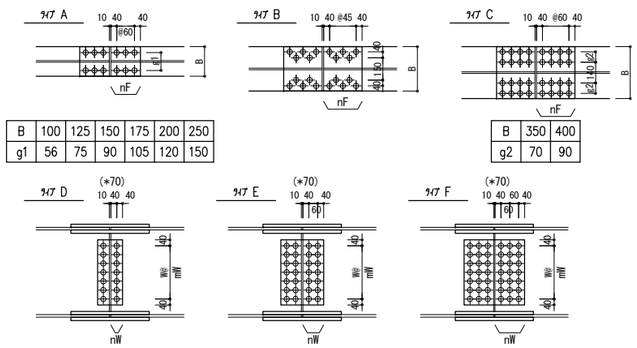
	WG1	WG11	WG12	WG13
5F	H - 588x300x12x20	H - 250x125x 6x 9	H - 250x125x 6x 9	H - 340x250x 9x14
4F	H - 588x300x12x20	H - 250x125x 6x 9	H - 250x125x 6x 9	H - 340x250x 9x14
3F	H - 588x300x12x20	H - 250x125x 6x 9	H - 250x125x 6x 9	H - 340x250x 9x14
備考		端部ピン接合	端部ピン接合	

剛接合継手リスト

特記なき限り下記とする。
1. 鋼材 主材と同材質
2. ボルト材質 F10T

部材			フランジ材		ウェブ材					備考
	ﾀｲﾌﾟ	H.T.B(nF)	外F.PL	内F.PL	ﾀｲﾌﾟ	mW x nW	H.T.B	W@	W.PL	
H-588x300x12x20	B	5x2-M20	PL-12x300x530	2PL-16x110x530	E	4x2	8-M20	120	2PL- 9x440x290	
H-340x250x 9x14	A	4x2-M20	PL-12x250x530	2PL-12x100x530	E	3x2	6-M20	60	2PL- 9x200x290	
H-588x300x12x20	B	6x2-M20	PL-12x300x620	2PL-16x110x620	E	5x2	10-M20	90	2PL- 9x440x290	亜鉛メッキ部材継手，ボルトF8T
H-340x250x 9x14	A	4x2-M20	PL- 9x250x530	2PL- 9x100x530	E	3x2	6-M20	60	2PL- 9x200x290	亜鉛メッキ部材継手，ボルトF8T

フランジ及び、ウェブ厚に1mm以上差のある場合は、フィラプレート併用のこと。



B	100	125	150	175	200	250
g1	56	75	90	105	120	150

B	350	400
g2	70	90

小梁・その他リスト

特記なき限り下記とする。
1. 鋼材 SS400
2. ボルト材質 F10T（亜鉛メッキ部材はF8T）

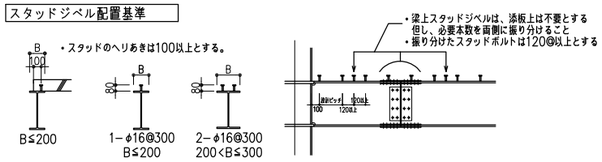
部材	断面	接合部	備考
WB14M	H - 148x100x 6x 9	GPL-9，H.T.B.2-M16	3階は亜鉛メッキ部材
WB1	H - 244x175x 7x11	GPL-12，H.T.B.6-M22	亜鉛メッキ部材
WCG1	H - 588x300x12x20	剛接合継ぎ手リストによる	SN400B，3階は亜鉛メッキ部材
WCG2	H - 588x300x12x20	剛接合継ぎ手リストによる	SN400B，亜鉛メッキ部材
WCG3	H - 488x300x11x18	剛接合継ぎ手リストによる	SN400B
WHV1	L - 100x100x13	GPL-12，H.T.B.8-M20	亜鉛メッキ部材
WP1	H - 150x150x 7x10	GPL- 9，H.T.B.3-M16	
WHB1	H - 150x150x 7x10	GPL- 9，H.T.B.3-M16	横使い

スラブリスト

特記なき限り下記とする。
1. 鉄筋 D10~D16(SD295)
2. コンクリート設計基準強度 Fc30

符号	厚さ（mm）	位置	短辺方向（主筋）	長辺方向（配力筋）
WDS1	山上80	QL99-50-1.2（QLデッキ同等品）	ひび割れ防止筋：D10-150x150	

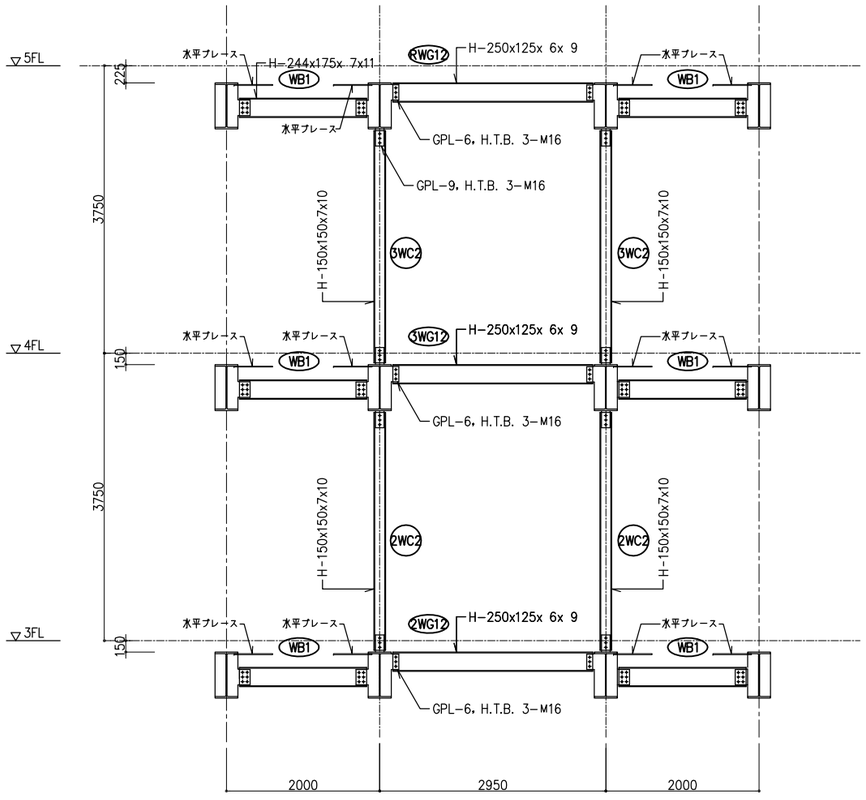
スタッドジベル配置基準



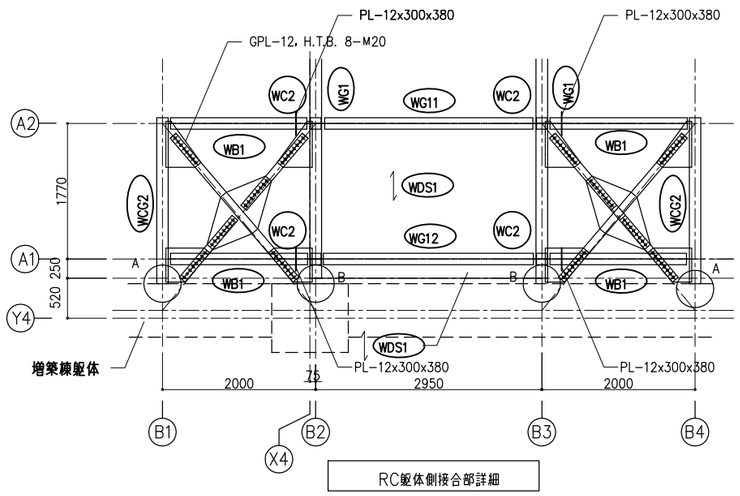
株式会社 大建設計
技にこころを
一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号

一級建築士 （第 274708号） 山岡 信弘
構造設計一級建築士（第 6608号） 長坂 典和
設備設計一級建築士（第 753号） 鈴木 光春

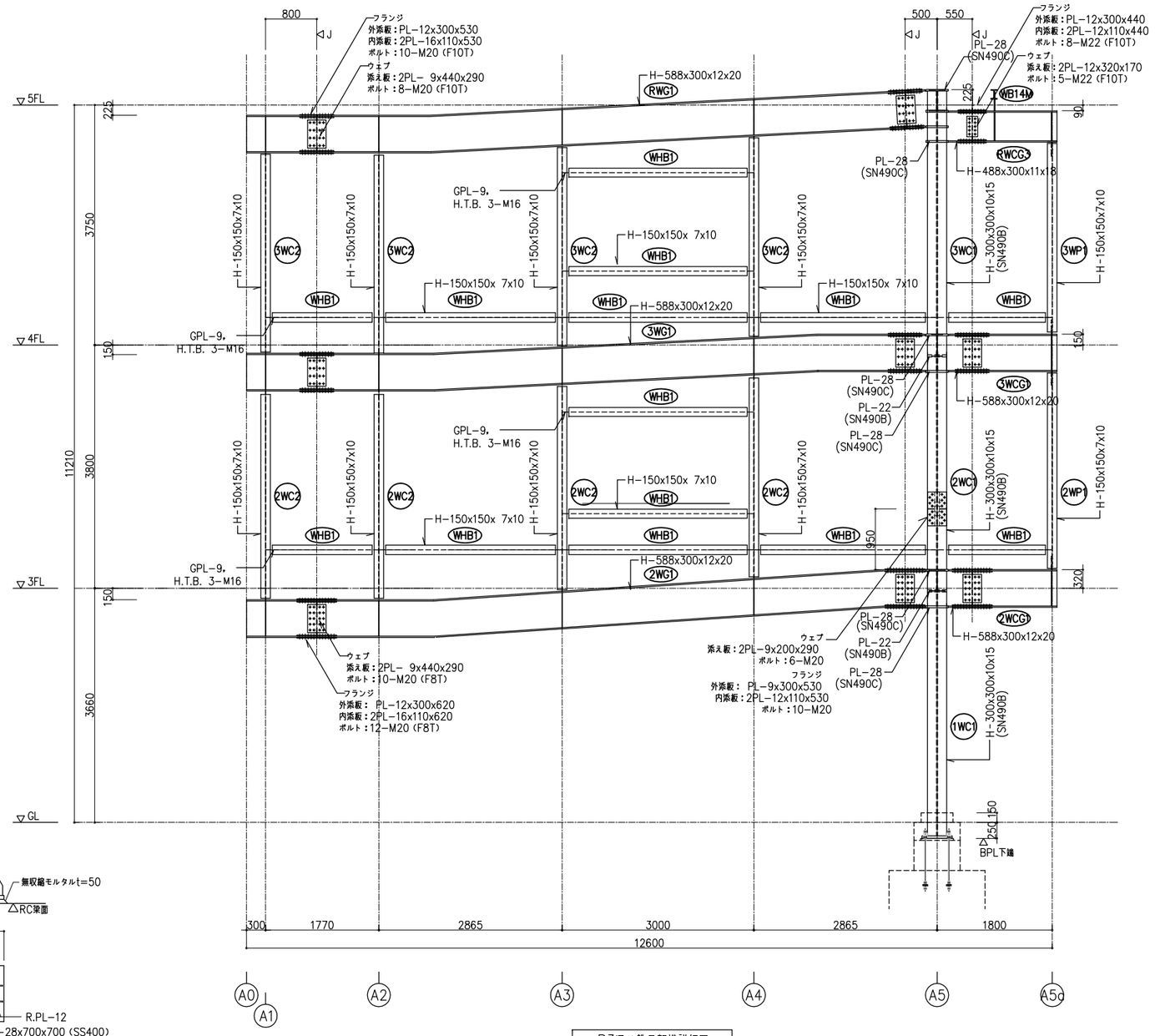
工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	西空中歩廊 各部材リスト	縮尺 1:80(A3) 1:40(A1)	S-49
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(216/224)



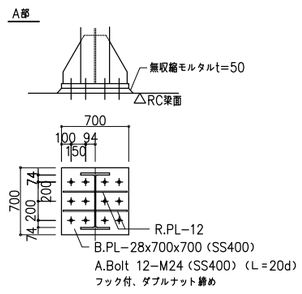
A1通り鉄骨架構詳細図

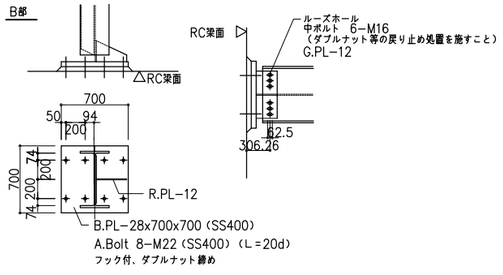


RC躯体側接合部詳細



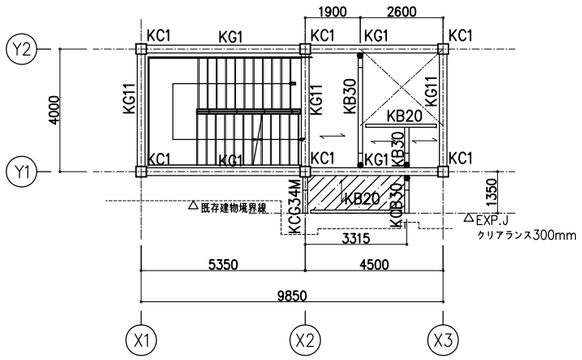
B3通り鉄骨架構詳細図





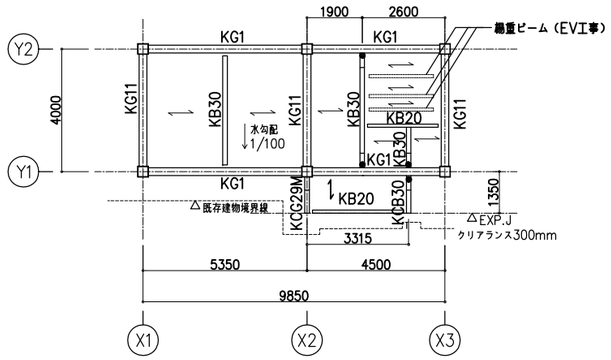
特記なき限り、下記による。
1. 鉄骨材質：SN400B
   継手の鉄骨材質は母材と同材質とする。
2. G.PLの嵌止めPLはPL-9とする。
3. |◁J は、鉄骨継手位置を示す。

株式会社 大建設計 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事			図面番号
	構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和	図面名	西空中歩廊 鉄骨架構詳細図	縮尺	1:80(A3) 1:40(A1)	S-50
	設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春		船橋市建設局建築部建築課		令和7年度	(217/224)



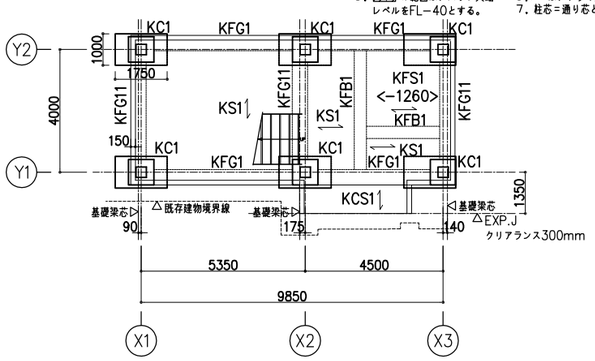
2階　床伏図

特記なき限り、下記による。
1．スラブ符号は、KDS1
2．スラブ天端位置は、FL−30
3．▨ の範囲は、スラブ天端レベルをFL−40とする。
4．大梁天端位置は、FL−160
5．● は、剛接合を示す。
6．←→は、デッキ方向を示す。
7．柱芯＝通り芯とする。



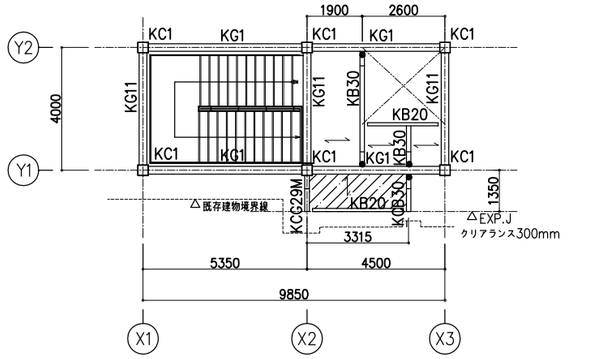
R階　床伏図

特記なき限り、下記による。
1．スラブ符号は、KDS1
2．スラブ天端位置は、FL−30
3．▨ の範囲は、スラブ天端レベルをFL−40とする。
4．大梁天端位置は、FL−160
5．● は、剛接合を示す。
6．←→は、デッキ方向を示す。
7．柱芯＝通り芯とする。



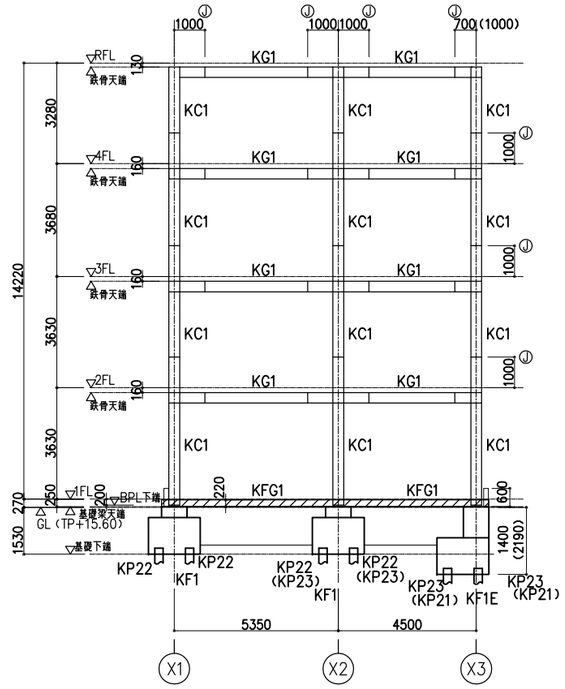
1階　床伏図

特記なき限り、下記による。
1．1FL＝設計GL＋270
2．＜ ＞は、1FLからのｽﾀｯﾌﾟ天端を示す。
3．　は、スラブ主筋方向を示す。
4．柱芯＝通り芯とする。
5．梁天端レベルは、1FL−250とする。
6．スラブ天端レベルは、1FL−30とする。



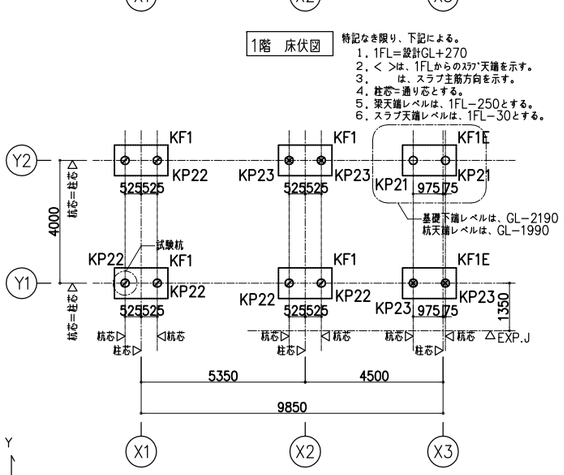
4階　床伏図

特記なき限り、下記による。
1．スラブ符号は、KDS1
2．スラブ天端位置は、FL−30
3．▨ の範囲は、スラブ天端レベルをFL−40とする。
4．大梁天端位置は、FL−160
5．● は、剛接合を示す。
6．←→は、デッキ方向を示す。
7．柱芯＝通り芯とする。



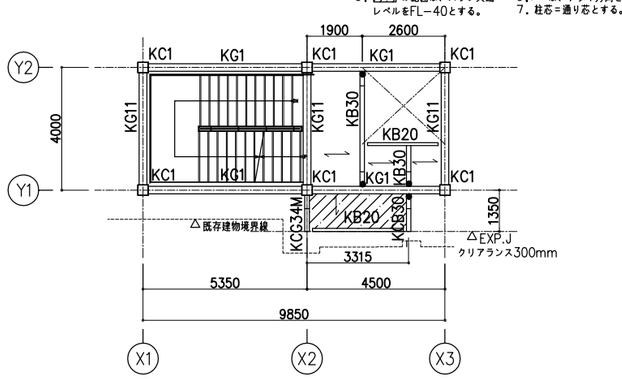
Y1,Y2通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1．（）内は、Y2通りの符号を示す。
2．▨ は、増し打ちを示す。



杭伏図

特記なき限り、下記による。
1．基礎下端レベルは、GL−1530
2．杭天端レベルは、GL−1330
3．杭種：鋼管杭
4．支持層：GL−12.86m以深の砂質層

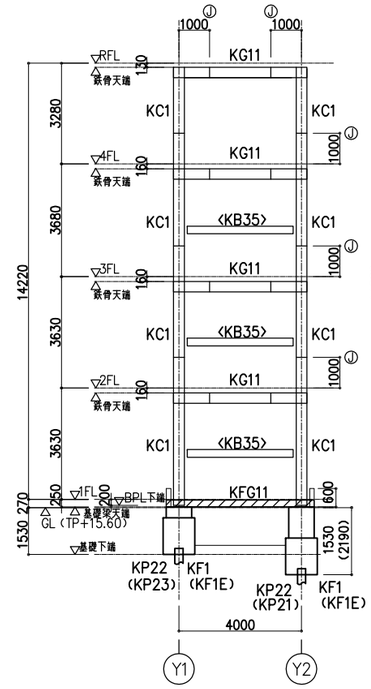


3階　床伏図

特記なき限り、下記による。
1．スラブ符号は、KDS1
2．スラブ天端位置は、FL−30
3．▨ の範囲は、スラブ天端レベルをFL−40とする。
4．大梁天端位置は、FL−160
5．● は、剛接合を示す。
6．←→は、デッキ方向を示す。
7．柱芯＝通り芯とする。

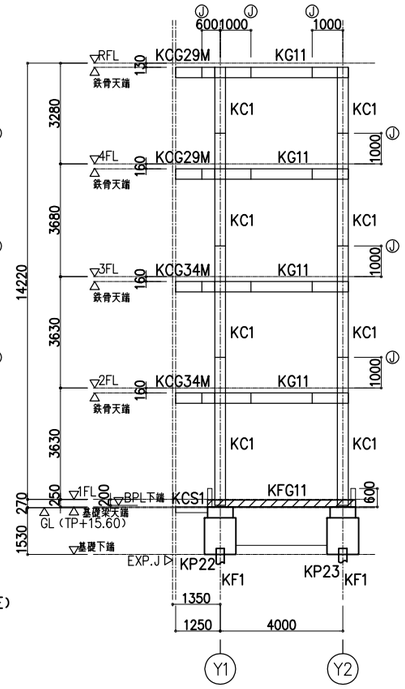
杭リスト　特記なき限り、継手は、溶接継手とする。

杭仕様		工法：スクリューパイルEAZET回等工法							合計：12本
符号	記号	杭頭深度 (mm)	杭先端深度 (mm)	杭長 (mm)	杭種 上杭	杭種 下杭 杭本体部	杭種 下杭 先端羽	セット数	長期許容支持力 (kN)
KP21	○	GL−1990	GL−12,990	11,000	ø267.4−t8.0 STK490 (5.0m)	ø267.4−t8.0 STK490 (6.0m)	ø750−t32.0 SM490A (−)	2	618
KP22	⊘	GL−1330	GL−13,330	12,000	ø267.4−t8.0 STK490 (6.0m)	ø267.4−t8.0 STK490 (6.0m)	ø750−t32.0 SM490A (−)	6	618
KP23	⊗	GL−1330	GL−13,330	12,000	ø267.4−t8.0 STK490 (6.0m)	ø267.4−t8.0 STK490 (6.0m)	ø650−t28.0 SM490A (−)	4	464



X1,X3通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1．（）内は、X3通りの符号を示す。
2．<>内は、X1通りの符号を示す。
3．▨ は、増し打ちを示す。



X2通り　軸組図

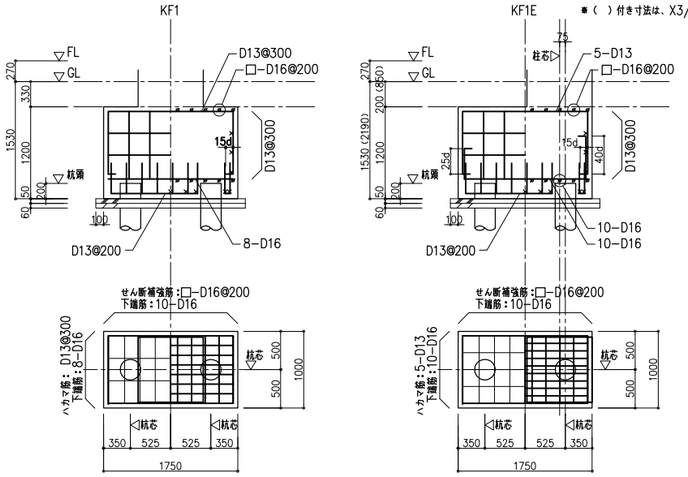
特記なき限り、下記による。
1．▨ は、増し打ちを示す。

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	階段棟　各階伏図　軸組図	縮尺 1:200 (A3) 1:100 (A1)	S-51
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(218/224)

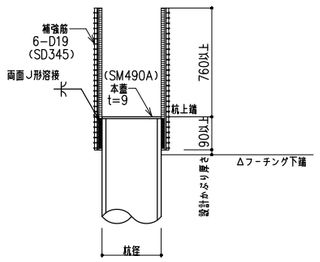
基礎リスト 1:40



＊（ ）付き寸法は、X3/Y2の基礎を示す。

杭頭補強詳細

全ての基礎で杭頭補強筋の配筋を行う。



大梁リスト

特記なき限り下記とする。
1. 鋼材 SN400B

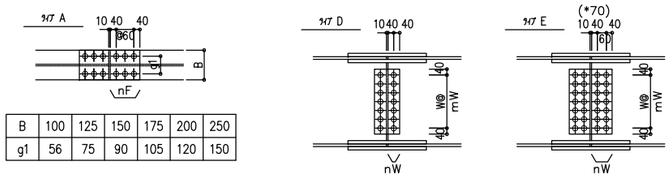
	KG1	KG11
RF	H − 294x200x 8x12	H − 294x200x 8x12
4F	H − 294x200x 8x12	H − 294x200x 8x12
3F	H − 340x250x 9x14	H − 340x250x 9x14
2F	H − 340x250x 9x14	H − 340x250x 9x14

剛接合継手リスト

特記なき限り 鋼材は主材と同材質とする。

部材	フランジ材				ウェブ材					備考
	ﾀｲﾌﾟ	H.T.B(nF)	外F.PL	内F.PL	ﾀｲﾌﾟ	mW x nW	H.T.B	W@	W.PL	
H−294×200×8×12	A	6−M20	PL− 9x200x410	2PL− 9x 80x410	D	3x1	3−M20	60	2PL− 9x200x170	
H−340×250×9×14	A	8−M20	PL− 12x250x530	2PL− 12x 100x530	E	3x2	6−M20	60	2PL− 9x200x290	

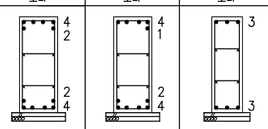
フランジ及び、ウェブ厚に1mm以上差のある場合は、フィラプレート併用のこと。



B	100	125	150	175	200	250
g1	56	75	90	105	120	150

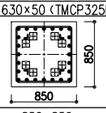
基礎梁リスト 1:40

特記なき限り下記とする。
1. 鉄筋 D10~D16(SD295),D19~D25(SD345)
2. 幅止め筋 D10−@1,000
3. コンクリート設計基準強度 Fc30

符号	KFG1	KFG11	KFB1	
位置	全断	全断	全断	
断面				
B x D	500x1250	500x1250	350x1250	
上端筋	4/2−D25	4/1−D25	3−D19	
下端筋	4/2−D25	4/2−D25	3−D19	
肋筋	D13−ロ−@150	D13−ロ−@150	D10−ロ−@200	
腹筋	4−D10	4−D10	4−D10	

柱リスト 1:40

特記なき限り下記とする。
1. 鉄筋 D10~D16(SD295),D19~D25(SD345)
2. 幅止め筋 D10−@1,000
3. コンクリート設計基準強度 Fc30

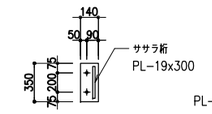
		KC1
1~4階		ロ−350x350x12 (BCR295)
柱脚	柱脚記号	SP353 (ISベース同等品)
	柱脚部	
	アンカーボルト	8−M48 8−M48
	ベースプレート	630×630×50 (TMCP325B)
	礎柱配筋	
	柱形断面	850×850
	コンクリート強度	Fc30
	柱主筋	24−D25
	帯筋	D13@100

小梁・その他リスト

特記なき限り下記とする。
1. 鋼材 SS400
2. 高力ボルト F10T

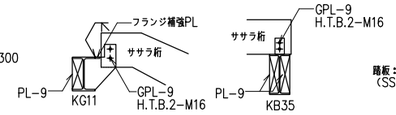
部材	断面	接合部	備考
KB20	H − 200x100x5.5x8	GPL−6, H.T.B.2−M16	
KB30	H − 300x150x6.5x9	GPL−9, H.T.B.3−M20	
KCB30	H − 300x150x6.5x9		
KB35	H − 350x175x 7x11	GPL−9, H.T.B.4−M20	
KCG34M	H − 340x250x 9x14	剛接合継ぎ手リストによる	SN400B
KCG29M	H − 294x200x 8x12	剛接合継ぎ手リストによる	SN400B
ササラ桁	PL−19×300	GPL−9, H.T.B.2−M16	

ササラ桁脚部



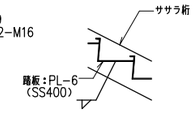
B.PL−16x140x350 (SS400)
A.Bolt 2−M16 (SS400) (L=20d)
フック付、ダブルナット締め

ササラ桁端部接合部



フランジ補強PL厚は、梁フランジ厚以上とする。

踏板詳細図



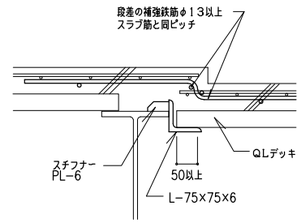
スラブリスト

特記なき限り下記とする。
1. 鉄筋 D10~D16(SD295)
2. コンクリート設計基準強度 Fc30

符号	厚さ（mm）	位置	短辺方向（主筋）	長辺方向（配力筋）
KS1	150	上端筋	D10,D13@200	D10@200
		下端筋	D10,D13@200	D10@200
KCS1	180	上端筋	D10,D13@200	D10@200
		下端筋	D10@200	D10@200
KFS1	250	上端筋	D13@200	D13@200
		下端筋	D13@200	D13@200
KDS1	山上80	QL99−50−1.2 (QLデッキ同等品)	ひび割れ防止筋：D10−150x150	

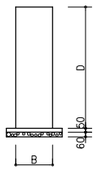
デッキ合成スラブ段差要領図

小型の受けアングルを梁フランジ面に溶接する。



（特記なき限り下記による）

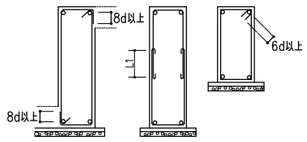
1. B×D



2. 幅止筋
D10−@1000

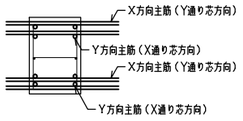
3. 鉄筋
D16以下 SD295A 使用
D19以上 SD345 使用
D29以上 SD390使用

4. STP配筋要領（下記いずれかによる。）



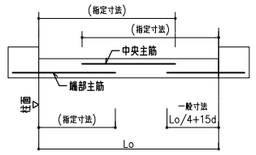
（スラブ側に限る。）

5. 主筋配置要領

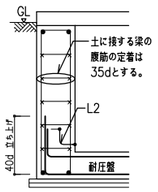


6. 主筋カットオフ要領

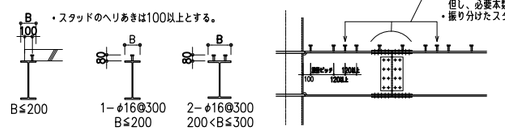
断面部の（ ）内数値は、主筋カットオフ寸法を示す。



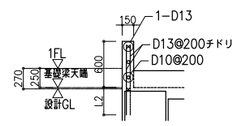
7. 外周部配筋補強要領



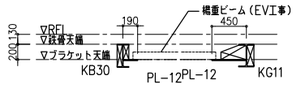
スタッドジベル配置基準



腰壁配筋要領図

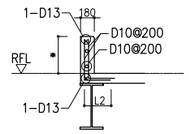


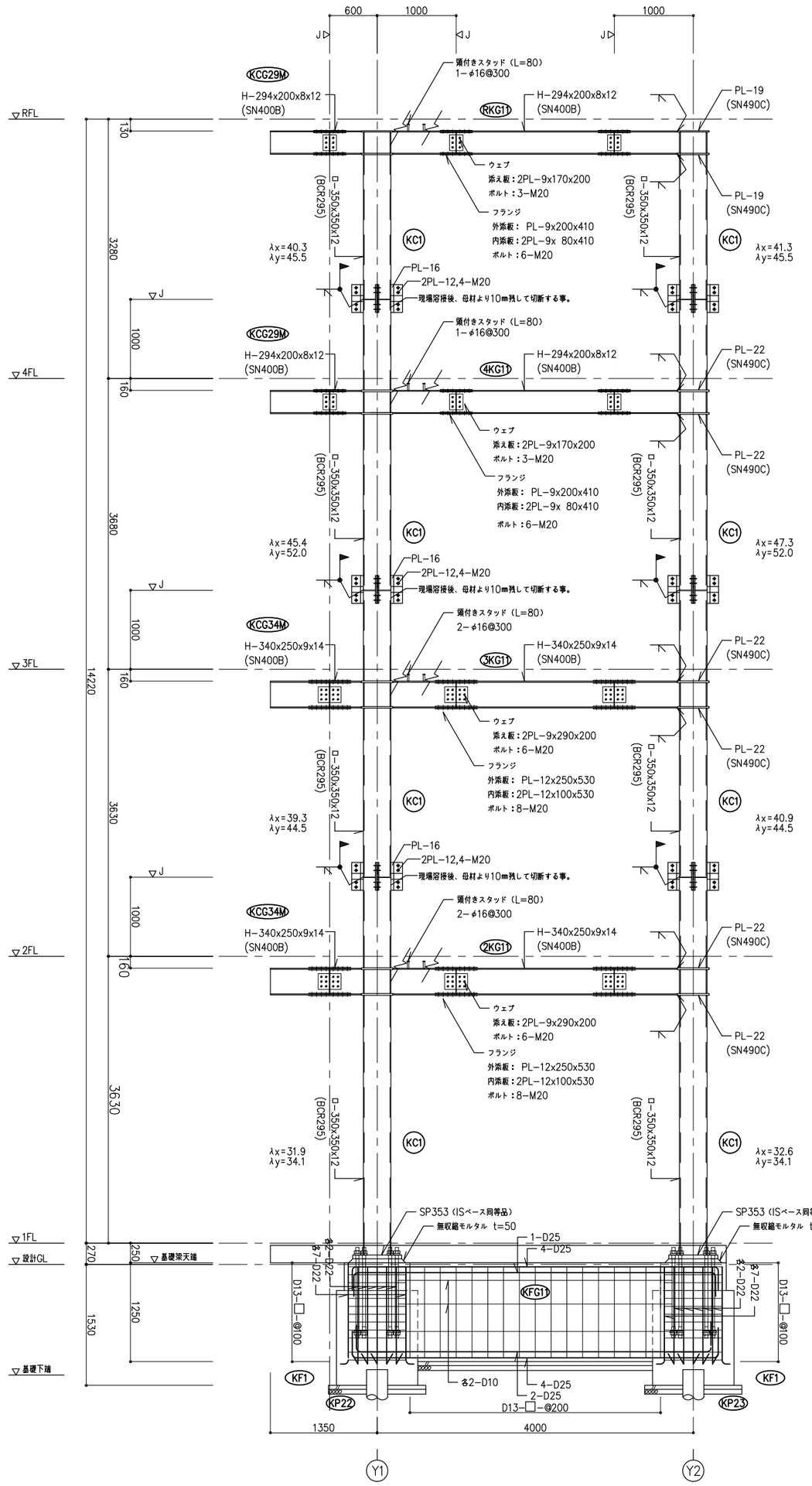
梁重ビームブラケット詳細図



パラペット配筋要領図

・※表示寸法は意匠図による

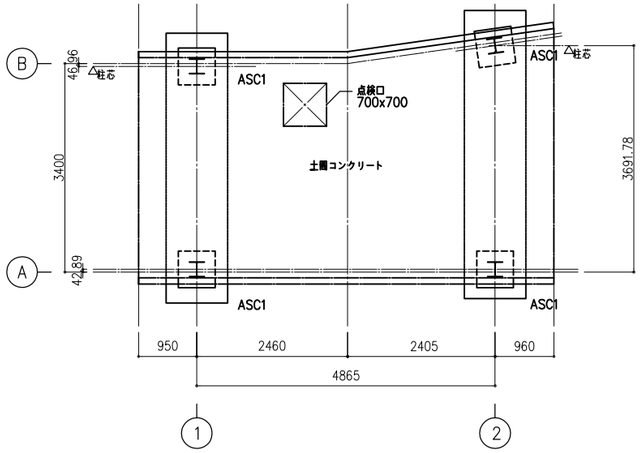




X2通り鉄骨架構詳細図

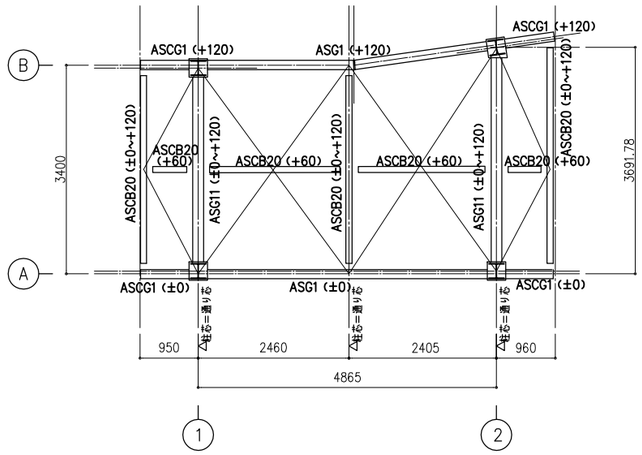
特記なき限り、下記による。
1．継手の鉄骨材質は母材と同材質とする。
2．仕口部PLは、柱梁フランジ厚の2サイズUP、または、フランジ板厚+6mm以上、かつ柱の板厚以上とする。
3．G.PLの裏止めPLはPL-9とする。
4．⊠J は、鉄骨継手位置を示す。

株式会社 大建設計 一級建築士事務所 東京都知事登録 第942号	一級建築士 (第 274708号) 山岡 信弘 構造設計一級建築士(第 6608号) 長坂 典和 設備設計一級建築士(第 753号) 鈴木 光春	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事
		図面名	階段棟 鉄骨架構詳細図
			船橋市建設局建築部建築課
		縮尺	1:60(A3) 1:30(A1)
		年月	令和7年度
		図面番号	S-53 (220/224)



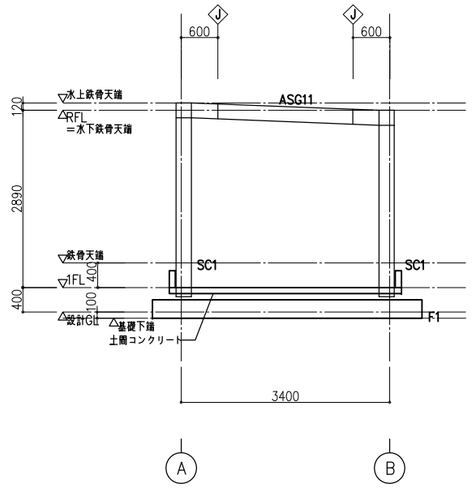
1階床伏図

特記なき限り、下記による。
1．スラブ天端=FL−3.0

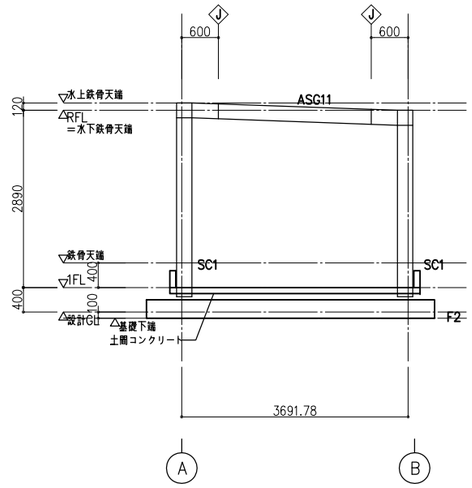


屋根伏図

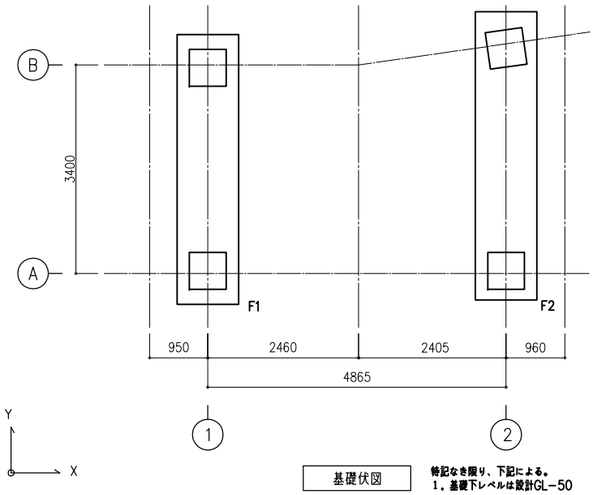
特記なき限り、下記による。
1．（）内数値は、RFLからの梁天端レベルを示す。
2．水平ブレースの符号は、AHV1



1通り　軸組図

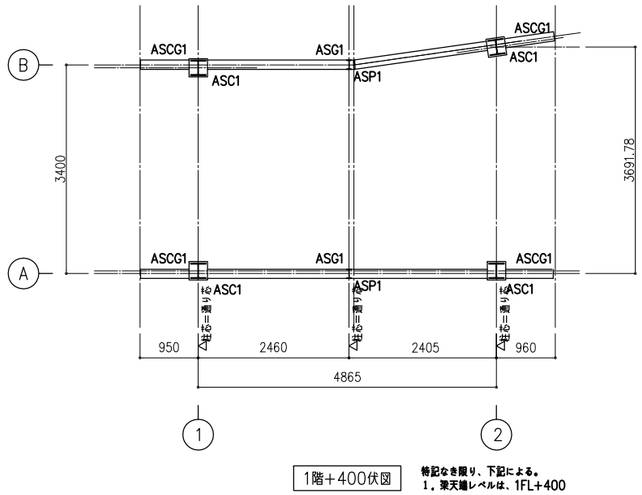


2通り　軸組図



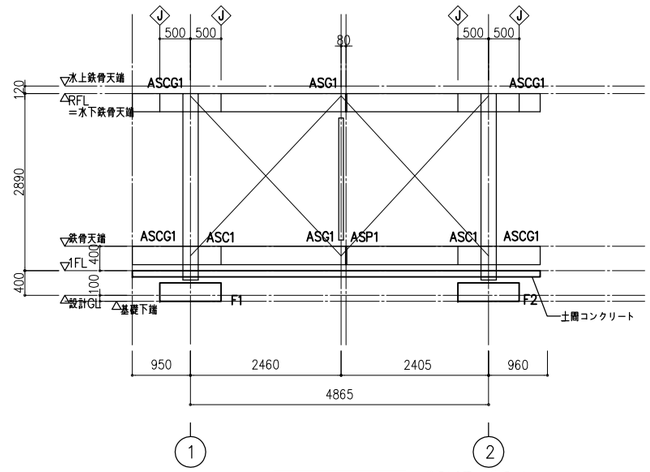
基礎伏図

特記なき限り、下記による。
1．基礎下レベルは設計GL−50



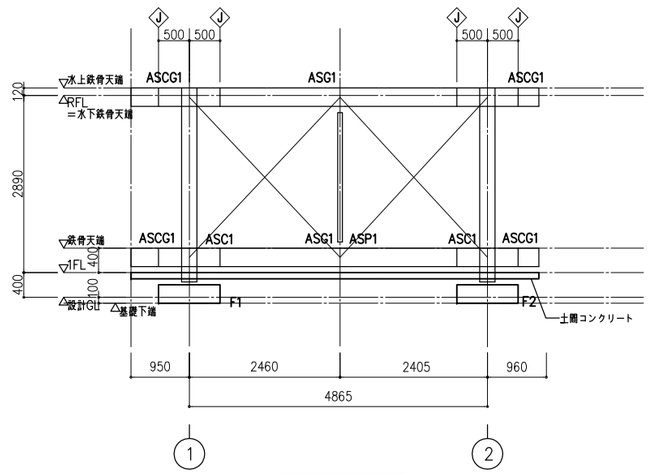
1階+400伏図

特記なき限り、下記による。
1．梁天端レベルは、1FL+400



B通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1．鉛直ブレース符号は、AV1

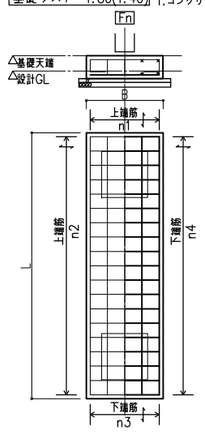


A通り　軸組図

特記なき限り、下記による。
1．鉛直ブレース符号は、AV1

基礎リスト　1:80(1:40)

特記無き限り、
1.コンクリート強度は、Fc30とする。



符号	BxLxD	n1 / n3	n2 / n4
F1	1000x4400x300	5−D13	22−D13
		5−D16	22−D16
F2	1000x4700x300	5−D13	24−D13
		5−D16	24−D16

柱リスト　1:80(1:40)

		ASC1
1階		H−250x250x 9x14
柱脚	アンカーボルト	4−M20
	ベースプレート	350x350x19
	礎柱配筋	500 / 500
	柱形断面	500x500
	コンクリート強度	Fc30
	柱主筋	8−D16
	帯筋	D13@100

特記無き限り、
1.鋼材はSS400
2.溶融亜鉛メッキとする

大梁リスト

特記無き限り、
1.鋼材はSS400
2.溶融亜鉛メッキとする
3.高力ボルト：F8T
（溶融亜鉛メッキ高力ボルト）

符号		サイズ	高力ボルト径	フランジ			ウェブ		
				ボルト本数	外添板	内添板	ボルト本数	添板	ピッチ
RF	ASG1	H−300x150x6.5x9	M16	6	9x150x410	9x60x410	6	6x260x290	60
	ASG11	H−244x175x 7x11	M16	6	9x175x410	9x70x410	6	9x140x410	60
1F	ASG1	H−300x150x6.5x9	M16	6	9x150x410	9x60x410	6	6x260x290	60
	ASG11								

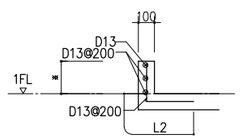
小梁・その他リスト

特記無き限り、
1.鋼材はSS400
2.溶融亜鉛メッキとする
3.高力ボルト：F8T
（溶融亜鉛メッキ高力ボルト）

ASB20 H − 200x100x5.5x8	
AV1	1−M16 （TB付き）
AHV1	1−M16 （TB付き）

スラブリスト

符号	厚さ	配筋
土間コンクリート	100	ϕ6@100x100



立ち上がり壁　配筋要領図

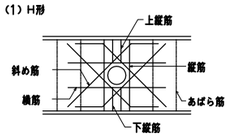
株式会社　大建設計　東京事務所
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号
一級建築士登録　第281068号　長坂　典和
構造一級建築士登録　第　6608号　長坂　典和

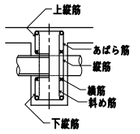
工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	新渡り廊下　床伏図、軸組図、部材リスト	縮尺 1:100(A3) 1:50(A1)	S-54
	船橋市建築局建築部建築課	令和7年度	(221/224)

梁貫通孔の補強

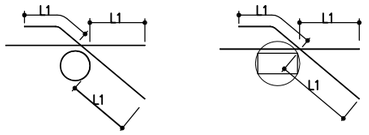
1. 梁貫通孔補強筋の名称などは下図による。

（1）H形





2. 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
3. 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より1/3D（Dは梁せい）の範囲には設けてはならない。
4. 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。
5. 孔が並列する場合の中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする。
6. 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
7. 補強筋は主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、下図による。

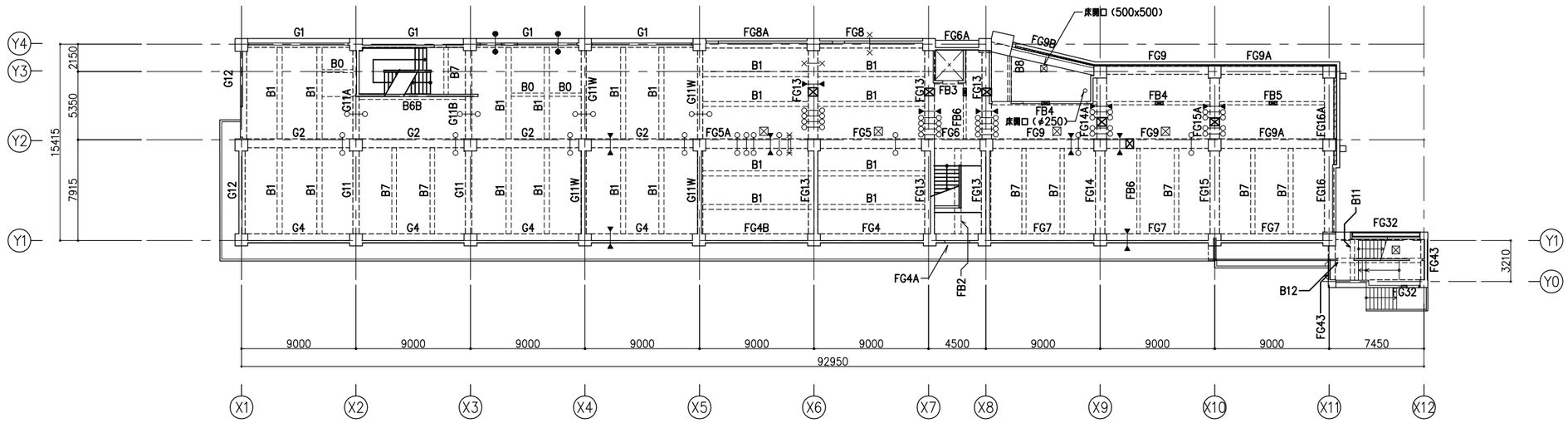


8. 孔の径が梁せいの1/10以下かつ150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
9. 溶接金網の余長は１格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
10. 溶接金網に付けるリング筋は、溶接金網は　箇所以上溶接する。
11. 溶接金網の割付始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
12. 梁貫通孔は、応力が小さい箇所に設けること。
13. 補強形式は次表による。

H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				
H8	4-4-D22				

（注）　――― は、一般部分のあばら筋を示す。

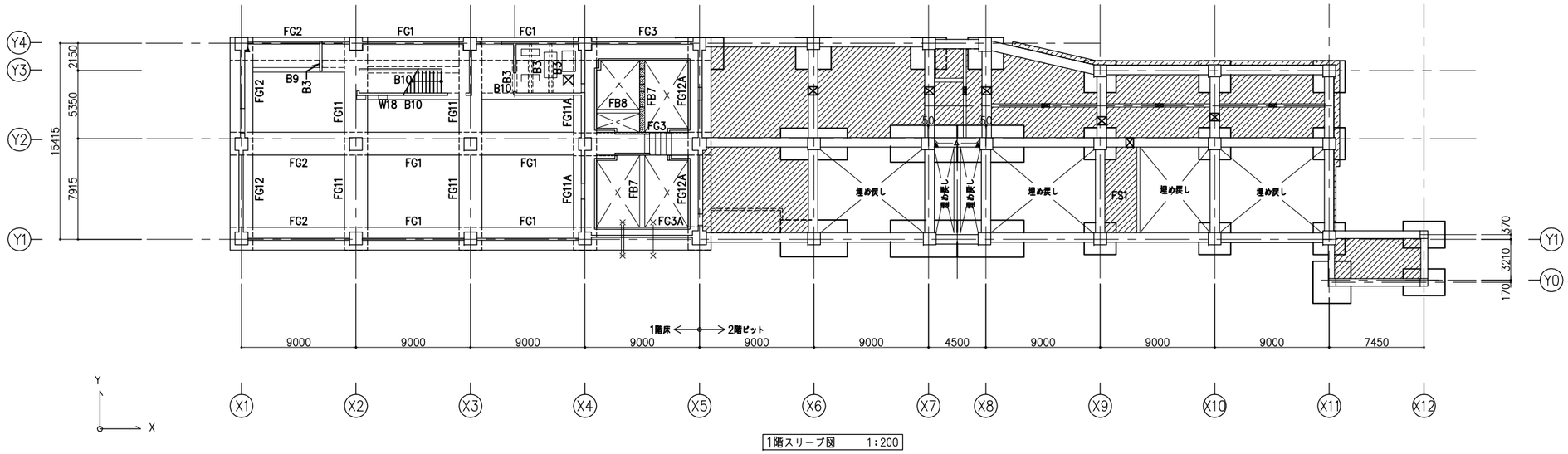


2階スリーブ図　1:200

・ スリーブ凡例

径	100	150	250	300	400
凡　例	○―○	▶―◀	●―●	×═══×	×―×

・ スリーブ位置は施工図により決定する。
・ ⊠ 印は、人通口600φを示す。
・ ⊠ 印は、床開口(600x600)を示す。



1階スリーブ図　1:200

・ スリーブ凡例

径	300	400
凡　例	×═══×	×―×

・ スリーブ位置は施工図により決定する。

梁貫通孔補強リスト

RFL

梁符号	スリーブ径	箇所数	補強種別	備考
G1	250φ	1	H5	
	300φ	7	H6	
G2	50φ	32	-	
	100φ	10	H2	
G3	200φ	1	H4	
	250φ	8	H5	
G4	150φ	12	H3	
	250φ	24	H5	
G5	150φ	6	H3	
	250φ	12	H5	
G11	100φ	13	H2	
	250φ	3	H5	
G13	100φ	1	H2	
G15	100φ	3	H3	

5FL

梁符号	スリーブ径	箇所数	補強種別	備考
G1	200φ	5	H4	
	250φ	1	H5	
	300φ	9	H6	
G2	50φ	20	-	
	100φ	12	H2	
	250φ	1	H5	
G3	150φ	4	H3	
	250φ	3	H6	
G4	150φ	12	H3	
	250φ	24	H5	
G5	150φ	4	H3	
	250φ	6	H5	
G11	100φ	6	H3	
	200φ	1	H5	
	250φ	3	H5	
G11A	100φ	1	H3	
G12	200φ	4	H6	
G13	100φ	5	H3	
	150φ	1	H3	
G14	100φ	5	H3	
G15	100φ	5	H3	

4FL

梁符号	スリーブ径	箇所数	補強種別	備考
G1	200φ	4	H5	
	250φ	1	H5	
	300φ	7	H6	
G2	50φ	24	-	
	100φ	8	H2	
G3	250φ	5	H6	
G4	150φ	12	H3	
	250φ	24	H6	
G5	150φ	2	H3	
	200φ	2	H5	
G11	100φ	7	H3	
	200φ	1	H5	
	250φ	3	H6	
G13	250φ	1	H6	
G15	100φ	2	H3	

3FL

梁符号	スリーブ径	箇所数	補強種別	備考
G1	200φ	4	H4	
	250φ	1	H5	
	300φ	7	H6	
G2	50φ	28	-	
	100φ	10	H2	
G4	150φ	12	H4	
	250φ	24	H5	
G5	150φ	6	H4	
	250φ	12	H5	
G11	100φ	7	H3	
	250φ	3	H6	
G12	100φ	3	H3	
	150φ	1	H3	
G13	100φ	3	H3	
	150φ	1	H3	
	200φ	2	H4	
G14	150φ	2	H4	
G15	100φ	2	H3	

2FL

梁符号	スリーブ径	箇所数	補強種別	備考
G1	250φ	2	H5	
G2	100φ	4	H2	
	150φ	1	H3	
G4	150φ	1	H3	
G11	100φ	2	H3	
G11W	100φ	2	H2	
FG5	100φ	5	H3	
	150φ	1	H4	
	300φ	1	H6	
FG7	150φ	1	H3	
FG8	400φ	1	H6	
FG9	100φ	2	H2	
	150φ	2	H3	
FG13	100φ	12	H2	
	150φ	3	H3	
	400φ	1	H7	
FG14	100φ	4	H2	
	150φ	1	H3	
FG15	100φ	4	H2	
	150φ	1	H3	

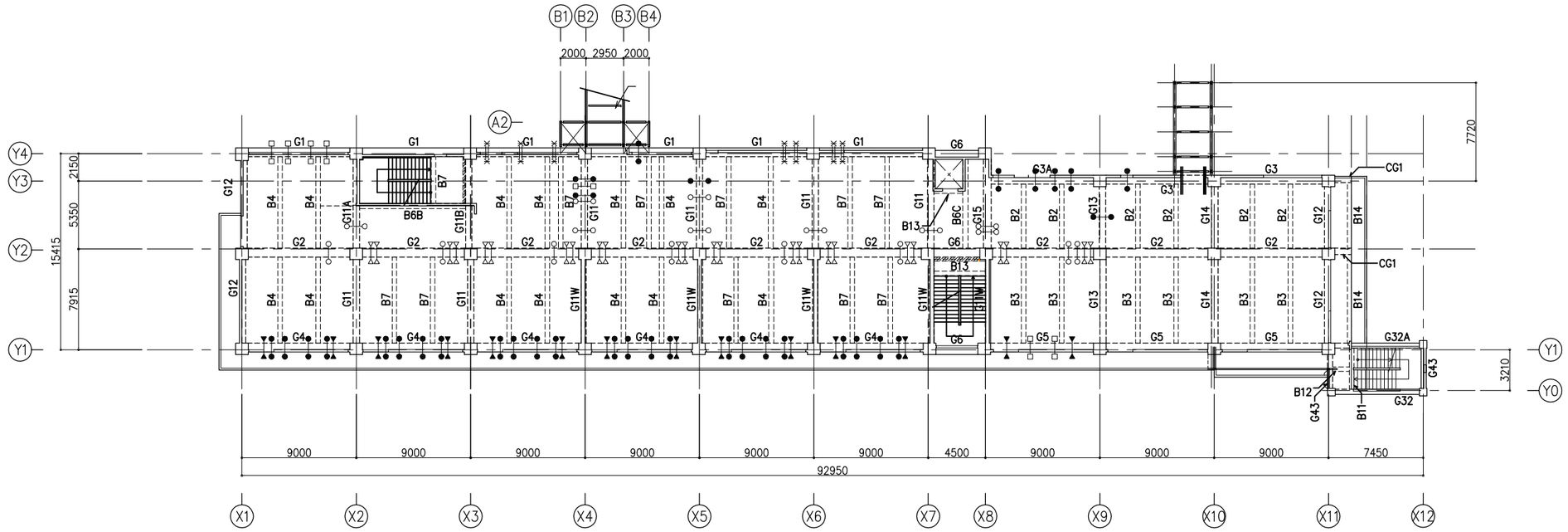
1FL

梁符号	スリーブ径	箇所数	補強種別	備考
FG3	300φ	1	H8	
	400φ	1	H9	

技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

一級建築士　（第 274708号）　山岡　信弘
構造設計一級建築士（第 6608号）　長坂　典和
設備設計一級建築士（第 753号）　鈴木　光春

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	スリーブ図（1）	縮尺 1:400(A3) 1:200(A1)	S-101
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(222/224)

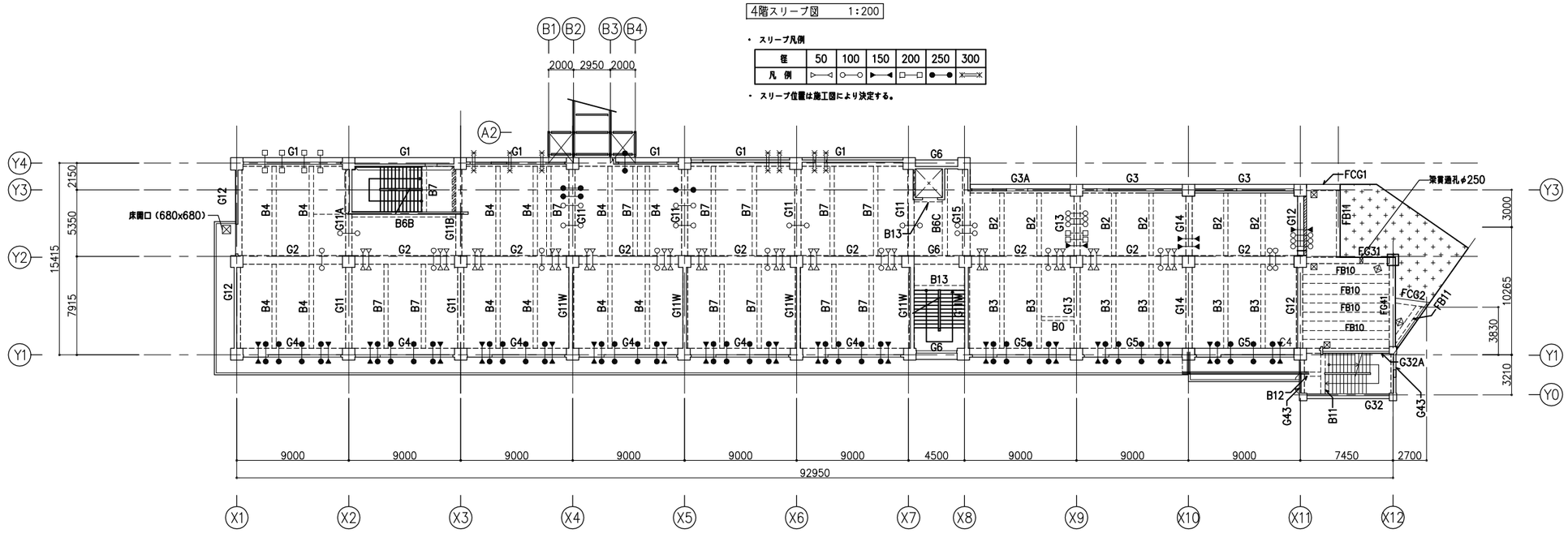


4階スリーブ図　1:200

・ スリーブ凡例

径	50	100	150	200	250	300
凡 例	▷—◁	○—○	▶—◀	□—□	●—●	✕—✕

・ スリーブ位置は施工図により決定する。



3階スリーブ図　1:200

・ スリーブ凡例

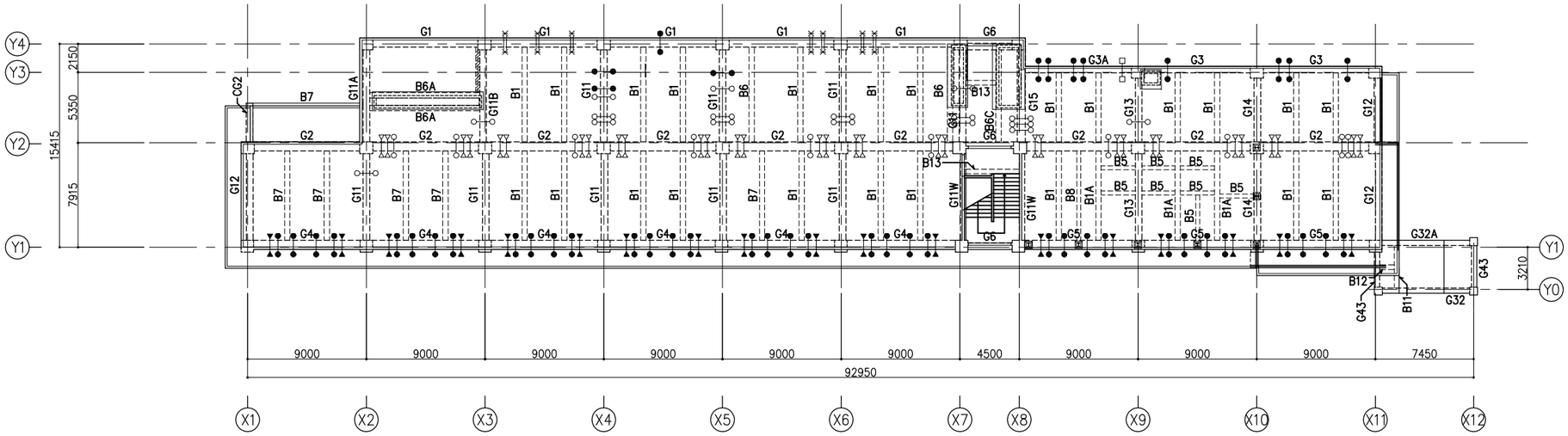
径	50	100	150	200	250	300
凡 例	▷—◁	○—○	▶—◀	□—□	●—●	✕—✕

・ スリーブ位置は施工図により決定する。
・ ⊠ 印は、床開口（500x500）を示す。

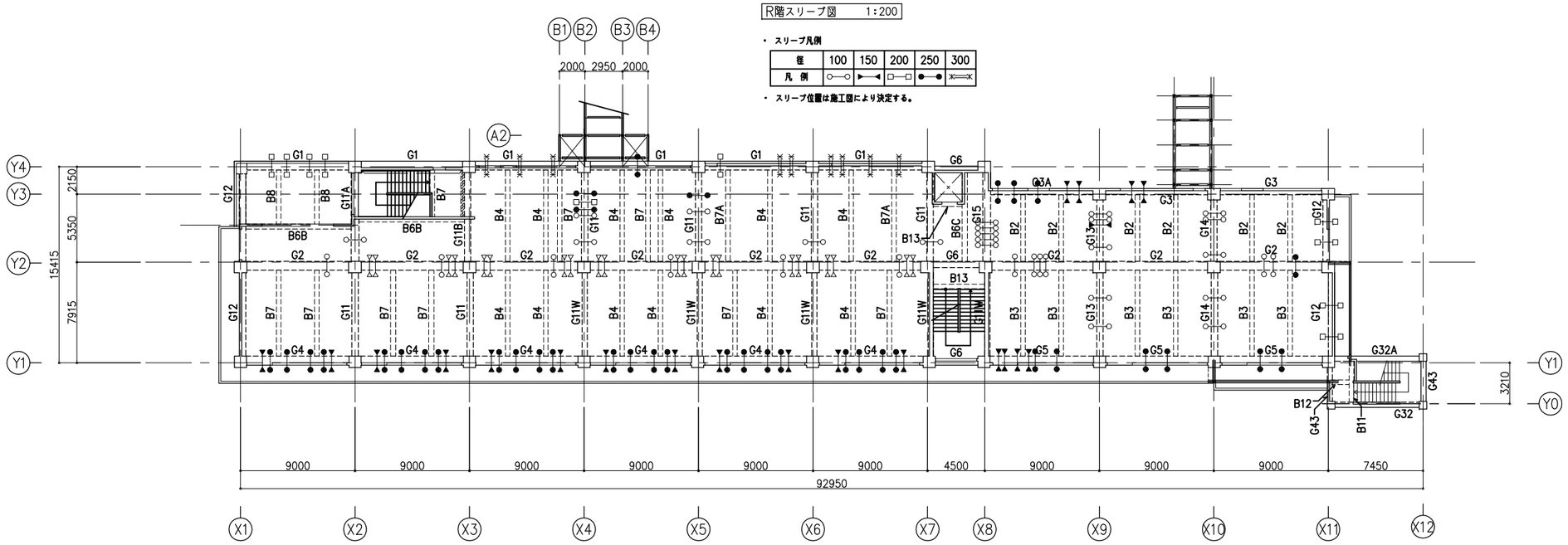
技にこころを
株式会社 大建設計
一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号

一級建築士	（第 274708号）	山岡　信弘	
構造設計一級建築士	（第 6608号）	長坂　典和	
設備設計一級建築士	（第 753号）	鈴木　光春	

工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事		図面番号
図面名	スリーブ図（2）	縮尺 1:400(A3) 1:200(A1)	S-102
	船橋市建設局建築部建築課	令和7年度	(223/224)



R階スリーブ図　1:200



・ スリーブ凡例

径	100	150	200	250	300
凡 例	○—○	▶—◀	□—□	●—●	×—×

・ スリーブ位置は施工図により決定する。

5階スリーブ図　1:200

・ スリーブ凡例

径	50	100	150	200	250	300
凡 例	▷—◁	○—○	▶—◀	□—□	●—●	×—×

・ スリーブ位置は施工図により決定する。

技にこころを 株式会社 大建設計 一級建築士事務所　東京都知事登録　第942号	一級建築士　(第 274708号)　山岡　信弘	工事名	船橋市立海神中学校校舎建替工事			図面番号
	構造設計一級建築士(第 6608号)　長坂　典和	図面名	スリーブ図 (3)	縮尺	1:400(A3) 1:200(A1)	S-103
	設備設計一級建築士(第 753号)　鈴木　光春		船橋市建設局建築部建築課		令和7年度	(224/224)